

## 基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	学部の学科の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホウジン タクシヨクダイガク 学校法人 拓殖大学									
フリガナ大学の名称	タクシヨクダイガク 拓殖大学 (Takushoku University)									
大学本部の位置	東京都文京区小日向3丁目4番14号									
大学の目的	本学は、教育基本法の精神に基づき、学校教育法第83条の規定により、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、人格を陶冶することを以て目的とする。									
新設学部等の目的	外国語学部国際日本語学科においては、日本の言語、文化、社会への深い理解のうえに、優れた発信型の語学力と異文化コミュニケーション能力を有し、また、グローバルな視野と教養、実践力を身につけた、国内外の幅広い分野で活躍できる人材を育てることを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	外国語学部 【The Faculty of Foreign Languages】 国際日本語学科 【The Department of Global Japanese Language】	4年	50人	-年次人	200人	学士(日本語)  【Bachelor of Arts in Japanese Language】	年月 第年次 平成32年4月 第1年次	東京都八王子市館町 815番地1		
	計	4	50	-	200					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	平成31年3月 収容定員の変更に係る学則変更認可申請 外国語学部 国際日本語学科[定員増] (50)(平成32年4月) 英米語学科[定員増] (30)(平成32年4月) 国際学部 国際学科[定員増] (50)(平成32年4月)									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
	外国語学部 国際日本語学科	112科目	112科目	1科目	225科目	126単位				
教員組	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
	新設分	外国語学部 国際日本語学科		教授	准教授	講師	助教	計	助手	人
		人	人	人	人	人	人	人	人	人
		4	3	0	0	7	0	88		
	(6)	(1)	(0)	(0)	(7)	(0)	(53)			
計	4	3	0	0	7	0	-			
(6)	(1)	(0)	(0)	(7)	(0)	(-)				
既組	商学部 経営学科		12	13	0	1	26	0	259	
	(12)	(13)	(0)	(1)	(26)	(0)	(259)			
	商学部 国際ビジネス学科		7	5	0	0	12	0	255	
	(7)	(5)	(0)	(0)	(12)	(0)	(255)			
商学部 会計学科		6	3	0	1	10	0	251		
(6)	(3)	(0)	(1)	(10)	(0)	(251)				
政経学部 法律政治学科		15	9	0	1	25	0	255		
(15)	(9)	(0)	(1)	(25)	(0)	(255)				

概 要 の 設 織	政経学部 経済学科	20 (20)	8 (8)	0 (0)	1 (1)	29 (29)	0 (0)	247 (247)
	外国語学部 英米語学科	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	173 (173)
	外国語学部 中国語学科	5 (5)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	166 (166)
	外国語学部 スペイン語学科	8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	170 (170)
	工学部 機械システム工学科	7 (7)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	117 (117)
	工学部 電子システム工学科	9 (9)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	120 (120)
	工学部 情報工学科	10 (10)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	123 (123)
	工学部 デザイン学科	8 (8)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	14 (14)	0 (0)	120 (120)
	国際学部 国際学科	29 (29)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	35 (35)	0 (0)	124 (124)
	計	145 (145)	59 (59)	0 (0)	10 (10)	214 (214)	0 (0)	— (—)
合計	149 (151)	62 (60)	0 (0)	10 (10)	221 (221)	0 (0)	— (—)	
教員 以外 の 職 員 の 概 要	職 種	専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員	169 人 (169)		93 人 (93)		262 人 (262)		
	技 術 職 員	4 (4)		6 (6)		10 (10)		
	図 書 館 専 門 職 員	5 (5)		38 (38)		43 (43)		
	そ の 他 の 職 員	0 (0)		5 (5)		5 (5)		
計	178 (178)		142 (142)		320 (320)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地	288,125.87㎡	0㎡	0㎡		288,125.87㎡		
	運 動 場 用 地	83,157.90㎡	0㎡	0㎡		83,157.90㎡		
	小 計	371,283.77㎡	0㎡	0㎡		371,283.77㎡		
	そ の 他	845,945.67㎡	0㎡	0㎡		845,945.67㎡		
合 計	1,217,229.44㎡	0㎡	0㎡		1,217,229.44㎡			
校 舎	専 用	105,999.94㎡ (105,999.94㎡)	0㎡ ( 0 ㎡)	共用する他の 学校等の専用 0㎡ ( 0 ㎡)		計 105,999.94㎡ (105,999.94㎡)		
	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
教室等	203室	28室	50室	18室 (補助職員 4人)	15室 (補助職員 6人)			
専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	外国語学部 国際日本語学科			7 室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体の共用分 図書 103,471[6,894] (82,947[5,786]) 学術雑誌 604[120] (604[120]) 電子ジャーナル 11,393[11,311] (11,393[11,311]) 視聴覚資料 7,962 (7,142)
	外国語学部 国際日本語学科	26,706[12,786] (23,982[11,682])	327[179] (327[179])	8,491[8,491] (8,491[8,491])	0 (0)	1,589 (1,589)	0 (0)	
	計	26,706[12,786] (23,982[11,682])	327[179] (327[179])	8,491[8,491] (8,491[8,491])	0 (0)	1,589 (1,589)	0 (0)	

図書館		面積	閲覧座席数		収納可能冊数					
		11,161.53 m <sup>2</sup>	1,149		1,273,000					
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要						大学全体	
		9,272.24m <sup>2</sup>	トレーニング室							
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	届出学科全体 ※図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。
		教員1人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	—千円	—千円	
		共同研究費等		14,000千円	14,000千円	14,000千円	14,000千円	—千円	—千円	
		図書購入費	487千円	926千円	1,820千円	2,672千円	3,495千円	—千円	—千円	
	設備購入費	18,417千円	702千円	1,351千円	1,959千円	2,540千円	—千円	—千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,365千円	1,161千円	1,161千円	1,161千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入等の事業活動収入を以て充当する。							
大学の名称		拓殖大学								
既設大学等の状況	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	【学部】									
	商学部						1.04			
	経営学科	4	380	—	1,520	学士(商学)	1.03	昭和24年度	東京都文京区小日向3丁目4番14号	
	国際ビジネス学科	4	150	—	600	学士(商学)	1.05	昭和24年度		
	会計学科	4	70	—	280	学士(商学)	1.08	平成19年度		
	政経学部						1.04			
	法律政治学科	4	230	—	920	学士(法律政治学)	1.06	昭和24年度	東京都文京区小日向3丁目4番14号	
	経済学科	4	450	—	1,800	学士(経済学)	1.03	昭和24年度		
	外国語学部						1.08			
	英米語学科	4	100	—	400	学士(英米語)	1.08	昭和52年度	東京都八王子市館町815番地1	
	中国語学科	4	50	—	200	学士(中国語)	1.06	昭和52年度		
	スペイン語学科	4	50	—	200	学士(スペイン語)	1.09	昭和52年度		
	工学部						1.02			
	機械システム工学科	4	80	—	320	学士(工学)	0.99	昭和62年度	東京都八王子市館町815番地1	
	電子システム工学科	4	80	—	320	学士(工学)	0.97	昭和62年度		
	情報工学科	4	80	—	320	学士(工学)	1.05	昭和62年度		
	デザイン学科	4	80	—	320	学士(工学)	1.07	昭和62年度		
	国際学部						1.04			
	国際学科	4	300	—	1,200	学士(国際開発)	1.04	平成19年度	東京都八王子市館町815番地1	
	【大学院】									
	経済学研究科									
	国際経済専攻									
	(博士前期課程)	2	30	—	60	修士(経済学)	0.93	昭和26年度	東京都文京区小日向3丁目4番14号	
	(博士後期課程)	3	5	—	15	博士(経済学)	0.33	昭和45年度		
	商学研究科									
	商学専攻									
	(博士前期課程)	2	30	—	60	修士(商学)	0.68	昭和26年度	東京都文京区小日向3丁目4番14号	
	(博士後期課程)	3	5	—	15	博士(商学)	0.13	昭和45年度		
	工学研究科									
	機械・電子システム工学専攻									

(博士前期課程)	2	18	—	36	修士(工学)	0.80	平成26年度	東京都八王子市館町 815番地1
(博士後期課程)	3	6	—	18	博士(工学)	0.22	平成28年度	
情報・デザイン工学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士(工学)	0.21	平成26年度	
(博士後期課程)	3	6	—	18	博士(工学)	0.10	平成28年度	
言語教育研究科 英語教育学専攻 (博士前期課程)	2	8	—	16	修士(言語教育学)	0.93	平成9年度	東京都文京区小日向 3丁目4番14号
日本語教育学専攻 (博士前期課程)	2	8	—	16	修士(言語教育学)	1.56	平成9年度	
言語教育学専攻 (博士後期課程)	3	5	—	15	博士(言語教育学)	0.73	平成11年度	
国際協力学研究科 国際開発専攻 (博士前期課程)	2	20	—	40	修士(国際開発)	1.12	平成16年度	東京都文京区小日向 3丁目4番14号
(博士後期課程)	3	3	—	9	博士(国際開発)	0.99	平成18年度	
安全保障専攻 (博士前期課程)	2	15	—	30	修士(安全保障)	0.53	平成16年度	
(博士後期課程)	3	2	—	6	博士(安全保障)	1.33	平成18年度	東京都文京区小日向 3丁目4番14号
地方政治行政研究科 地方政治行政専攻 (修士課程)	2	15	—	30	修士(政治行政)	0.26	平成21年度	
大 学 の 名 称	拓殖大学北海道短期大学							
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍		
農学ビジネス学科	2	150	—	300	短期大学士 (農学)	1.08	平成26年度	北海道深川市深川町 メム4558番地1
保育学科	2	80	—	160	短期大学士 (保育学)	0.66	昭和55年度	
附属施設の概要	<p>名 称:日本語教育研究所</p> <p>目 的:日本語に関する調査研究、教材開発・刊行物の発行、研究会 ・シンポジウム・公開講座(日本語教師養成講座)等の開催</p> <p>所 在 地:東京都文京区小日向3丁目4番14号</p> <p>設置年月:平成19年4月</p> <p>規 模 等:使用面積22.00㎡</p>							

## 教育課程等の概要

(外国語学部 国際日本語学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
A系列 (人間について考える)	哲学A(哲学すること)	1・2・3・4前	2			○									兼1	オムニバス
	哲学B(現代の哲学)	1・2・3・4後	2			○									兼1	
	心理学(認識と行動のメカニズム)	1・2・3・4後	2			○									兼1	
	宗教学(宗教と人生)	1・2・3・4後	2			○									兼1	
	講座「言語と文化」	1・2・3・4前	2			○									兼3	
	外国文学A(英語圏の文学)	1・2・3・4前	2			○									兼1	
	外国文学B(ヨーロッパの文学)	1・2・3・4前	2			○									兼1	
	美術	1・2・3・4前・後	2			○									兼1	
	映像文化論	1・2・3・4前	2			○									兼1	
	身体トレーニング理論	1・2・3・4後	2			○									兼1	
	スポーツの歴史と社会	1・2・3・4後	2			○									兼1	
	生涯スポーツ基礎演習	1・2・3・4前・後	1				○								兼3	
	トレーニング基礎演習	1・2・3・4前・後	1				○								兼3	
小計(13科目)		—	0	24	0	—			0	0	0	0	0	0	兼14	—
B系列 (社会について考える)	日本史(近代日本の歴史)	1・2・3・4後	2			○									兼1	
	近代社会の思想史	1・2・3・4後	2			○									兼1	
	社会学(個人と社会)	1・2・3・4前	2			○									兼1	
	法学A(国家と憲法)	1・2・3・4前	2			○									兼1	
	法学B(生活の中の法)	1・2・3・4後	2			○									兼1	
	流通論(流通とマーケティング)	1・2・3・4後	2			○									兼1	
	情報化社会とマスメディア	1・2・3・4前	2			○									兼1	
小計(7科目)		—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	0	兼6	—
C系列 (自然と環境について考える)	自然界のしくみ	1・2・3・4後	2			○									兼1	
	自然認識の歴史	1・2・3・4前	2			○									兼1	
	生態学(環境と生態系)	1・2・3・4後	2			○									兼1	
	天文学A(太陽系のしくみ)	1・2・3・4前	2			○									兼1	
	天文学B(宇宙のしくみ)	1・2・3・4後	2			○									兼1	
	地球科学A(地球の構造と歴史)	1・2・3・4前	2			○									兼1	
	地球科学B(地球環境の変動)	1・2・3・4後	2			○									兼1	
小計(7科目)		—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	0	兼4	—
D系列 (コミュニケーション能力を高める)	文章表現の基礎	1・2・3・4前・後	2			○			1						兼2	
	口頭表現の技法	1・2・3・4前・後	2			○									兼1	
	ビジネス文の書き方	1・2・3・4前	2			○									兼1	
	レポートの書き方	1・2・3・4前・後	2			○			1						兼1	
	プレゼンテーションと交渉	1・2・3・4前	2			○									兼1	
小計(5科目)		—	0	10	0	—			1	0	0	0	0	0	兼4	—
E系列 (学際)	職業と人生	1・2・3・4前	2			○									兼1	
	防災と安全	1・2・3・4後	2			○									兼1	
	小計(2科目)		—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	兼2	
専門基礎	日本語学概論	1前・後	2			○			2							
	日本語教育概論	1後・2前	2			○				1						
	国際日本語論	2後	2			○				1						
	日本語史	2前	2			○			1							
	小計(4科目)		—	8	0	0	—			2	2	0	0	0	0	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教		助手			
必修科目	ゼミナール等	初年次教育ゼミナール	1前	2				○			2	1					
		日本語相互学習Ⅰ	2前	2				○			2						
		日本語相互学習Ⅱ	2後	2				○		2							
		3年ゼミナール	3通	4				○		3	3						
		4年ゼミナール	4通	4				○		3	3						
		小計(5科目)	-	14	0	0		-		3	3	0	0	0	0	0	-
卒業論文	卒業論文	卒業論文	4通	4				○		3	3						
		小計(1科目)	-	4	0	0		-		3	3	0	0	0	0	0	-
専門科目	選択科目Ⅰ (留学生)	アカデミック日本語Ⅰ(留学生)	1前		1			○									兼1
		アカデミック日本語Ⅱ(留学生)	1後		1			○			1						兼1
		日本語リテラシーⅠA(留学生)	1前		1			○		1							兼1
		日本語リテラシーⅠB(留学生)	1前		1			○			1						兼1
		日本語リテラシーⅡA(留学生)	1後		1			○		1							兼1
		日本語リテラシーⅡB(留学生)	1後		1			○			1						兼1
		日本語リテラシーⅢA(留学生)	2前		1			○									兼2
		日本語リテラシーⅢB(留学生)	2前		1			○									兼1
		日本語リテラシーⅣA(留学生)	2後		1			○									兼2
		日本語リテラシーⅣB(留学生)	2後		1			○									兼1
		日本語コミュニケーションⅠA(留学生)	1前		1			○			1						兼1
		日本語コミュニケーションⅠB(留学生)	1前		1			○				1					兼2
		日本語コミュニケーションⅡA(留学生)	1後		1			○				1					兼1
		日本語コミュニケーションⅡB(留学生)	1後		1			○									兼2
		日本語コミュニケーションⅢA(留学生)	2前		1			○									兼2
		日本語コミュニケーションⅢB(留学生)	2前		1			○									兼1
		日本語コミュニケーションⅣA(留学生)	2後		1			○									兼2
		日本語コミュニケーションⅣB(留学生)	2後		1			○									兼1
		日本語ファウンデーションⅠ(留学生)	1前		1			○									兼1
		日本語ファウンデーションⅡ(留学生)	1後		1			○									兼1
		専門日本語[観光](留学生)	3前		2			○									兼1
		専門日本語[メディア](留学生)	3後		2			○									兼1
		小計(22科目)	-	0	24	0		-		1	3	0	0	0	0	兼6	-
選択科目Ⅰ (共通)	日本語文法研究Ⅰ	1前		2			○									兼1	
	日本語文法研究Ⅱ	1後		2			○									兼1	
	日本語文法研究Ⅲ	2前		2			○									兼1	
	日本語文法研究Ⅳ	2後		2			○									兼1	
	日本語文章表現Ⅰ	2前		2				○								兼1	
	日本語文章表現Ⅱ	2後		2				○								兼1	
		小計(6科目)	-	0	12	0		-		0	0	0	0	0	0	兼3	-
選択科目Ⅱ (共通)	日本語表現基礎	2前		2			○			1							
	日本語表現演習	2後		2				○		1							
	日本語文化基礎	3前		2			○			1							
	日本語文化演習	3後		2				○		1							
	日本語プレゼンテーション基礎	3前		2				○								兼1	
	日本語プレゼンテーション演習	3後		2				○								兼1	
	小計(6科目)	-	0	12	0		-		2	0	0	0	0	0	兼1	-	
選択科目Ⅲ (共通)	教育日本語総合Ⅰ	2前		2				○								兼1	
	教育日本語総合Ⅱ	2後		2				○								兼1	
	教育日本語総合Ⅲ	3前		2				○		1							
	ビジネス日本語総合Ⅰ	2後		2				○								兼1	
	ビジネス日本語総合Ⅱ	3前		2				○								兼1	
		小計(5科目)	-	0	10	0		-		0	1	0	0	0	0	兼1	-
	日本語教授法Ⅰ	1・2前		2			○			1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目 選択科目Ⅱ	日本語教育	日本語教授法Ⅱ	1・2後	2		○				1						兼1	
		日本語音声学	1・2前	2		○											
		日本語表記論	1・2後	2		○				1							
		日本語教育教材論	1・2後	2		○					1						
		日本語語彙論	1・2前	2		○											兼1
		日本語教育評価法	1・2後	2		○				1							
		日本語研究史	3・4後	2		○											兼1
		世界の日本語教育事情	3前	2		○				1							
		日本語意味論	3前	2		○											兼1
		日本事情教育	3前	2		○											兼1
		日本語教育実習	3後	1					○								兼1
		日本語の談話	3後	2			○				1						
		言語習得論	3後	2			○										兼1
		日本語特殊研究	3後	2			○										兼1
		小計(15科目)	-	0	29	0	-	-	-	3	2	0	0	0	0	0	兼7
	日本語・日本文化	日本語・日本人論	1・2前	2		○					1						
		日本の民俗と思想	1・2後	2		○											兼1
		日本の生活と芸能	3・4後	2		○											兼1
		社会の中の日本語	3・4前	2		○											兼1
		現代日本語事情	1・2後	2		○											兼1
		クールジャパン論	1・2前	2		○											兼1
		ポップカルチャー論	1・2後	2		○											兼1
		異文化間理解	1・2後	2		○											兼1
		日本近代文学	1・2後	2		○				1							
		日本文学概論	3・4前	2		○				1							
		日本古典文学Ⅰ	3・4前	2		○											兼1
		日本古典文学Ⅱ	3・4後	2		○											兼1
		日本古典文法Ⅰ	1前	2		○				1							
		日本古典文法Ⅱ	1後	2		○				1							
		漢文学概論Ⅰ	3・4前	2		○											兼1
		漢文学概論Ⅱ	3・4後	2		○											兼1
		翻訳・通訳概論(日英)	3・4前	2		○											兼1
		翻訳・通訳概論(日中)	3・4後	2		○											兼1
書道	3・4前・後	2				○									兼1		
小計(19科目)	-	0	38	0	-	-	-	2	1	0	0	0	0	0	兼11	-	
国際関係	異文化間コミュニケーション入門	2前	2		○											兼1	
	中国事情	2前	2		○											兼1	
	現代ラテンアメリカ事情Ⅰ	2前	2		○											兼1	
	現代ラテンアメリカ事情Ⅱ	2後	2		○											兼1	
	国際コミュニケーション論	3前	2		○											兼1	
	国際ビジネス交渉論	3後	2		○											兼1	
	国際社会学	1後	2		○											兼1	
	東南アジア	1前	2		○											兼1	
	南アジア	1後	2		○											兼1	
小計(9科目)	-	0	18	0	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	兼6	-	
	初級英語①Ⅰ	1前	1				○									兼4	
	初級英語①Ⅱ	1後	1				○									兼4	
	初級英語②Ⅰ	1前	1				○									兼3	
	初級英語②Ⅱ	1後	1				○									兼3	
	中級英語①Ⅰ	2前	1				○									兼4	
	中級英語①Ⅱ	2後	1				○									兼4	
	中級英語②Ⅰ	2前	1				○									兼3	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門科目 選択科目Ⅲ 外国語	中級英語②Ⅱ	2後		1				○								兼3		
	初級中国語①Ⅰ	1前		1				○								兼1		
	初級中国語①Ⅱ	1後		1				○								兼1		
	初級中国語②Ⅰ	1前		1				○								兼1		
	初級中国語②Ⅱ	1後		1				○								兼1		
	中級中国語①Ⅰ	2前		1				○								兼1		
	中級中国語①Ⅱ	2後		1				○								兼1		
	中級中国語②Ⅰ	2前		1				○								兼1		
	中級中国語②Ⅱ	2後		1				○								兼1		
	初級スペイン語①Ⅰ	1前		1				○								兼1		
	初級スペイン語①Ⅱ	1後		1				○								兼1		
	初級スペイン語②Ⅰ	1前		1				○								兼1		
	初級スペイン語②Ⅱ	1後		1				○								兼1		
	中級スペイン語①Ⅰ	2前		1				○								兼1		
	中級スペイン語①Ⅱ	2後		1				○								兼1		
	中級スペイン語②Ⅰ	2前		1				○								兼1		
	中級スペイン語②Ⅱ	2後		1				○								兼1		
	初級フランス語①Ⅰ	1前		1				○								兼1		
	初級フランス語①Ⅱ	1後		1				○								兼1		
	初級フランス語②Ⅰ	1前		1				○								兼1		
	初級フランス語②Ⅱ	1後		1				○								兼1		
	中級フランス語①Ⅰ	2前		1				○								兼1		
	中級フランス語①Ⅱ	2後		1				○								兼1		
	中級フランス語②Ⅰ	2前		1				○								兼1		
	中級フランス語②Ⅱ	2後		1				○								兼1		
	初級ドイツ語①Ⅰ	1前		1				○								兼1		
	初級ドイツ語①Ⅱ	1後		1				○								兼1		
	初級ドイツ語②Ⅰ	1前		1				○								兼1		
	初級ドイツ語②Ⅱ	1後		1				○								兼1		
	中級ドイツ語①Ⅰ	2前		1				○								兼1		
	中級ドイツ語①Ⅱ	2後		1				○								兼1		
	中級ドイツ語②Ⅰ	2前		1				○								兼1		
	中級ドイツ語②Ⅱ	2後		1				○								兼1		
	初級韓国語①Ⅰ	1前		1				○								兼1		
	初級韓国語①Ⅱ	1後		1				○								兼1		
	初級韓国語②Ⅰ	1前		1				○								兼1		
	初級韓国語②Ⅱ	1後		1				○								兼1		
	中級韓国語①Ⅰ	2前		1				○								兼1		
	中級韓国語①Ⅱ	2後		1				○								兼1		
	中級韓国語②Ⅰ	2前		1				○								兼1		
	中級韓国語②Ⅱ	2後		1				○								兼1		
	小計(48科目)		—	0	48	0			—		0	0	0	0	0	0	兼20	—
	自由科目	スキル	情報スキルⅠ	1前		2			○								兼2	
			情報スキルⅡ	1後		2			○								兼2	
			小計(2科目)	—	0	4	0			—		0	0	0	0	0	兼2	—
		言語学	言語学概論Ⅰ	2前		2			○								兼1	
			言語学概論Ⅱ	2後		2			○								兼1	
			小計(2科目)	—	0	4	0			—		0	0	0	0	0	兼1	—
キャリア支援		キャリアガイダンス	1後		2			○			2					兼1	オムニバス	
		職業能力基礎(SPI)言語	2後		2			○								兼2		
		職業能力基礎(SPI)非言語	2前		2			○								兼2		
		小計(3科目)	—	0	6	0			—		2	0	0	0	0	兼3	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
ビジネス	観光ビジネス論Ⅰ	2前		2		○									兼1	
	観光ビジネス論Ⅱ	2後		2		○									兼1	
	小計(2科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	0	兼1	—
英語	英語会話Ⅰ	1前		1			○								兼1	
	英語会話Ⅱ	1後		1			○								兼1	
	資格英語A	1前		2		○									兼1	
	資格英語B	1後		2		○									兼1	
	資格英語C	1前・後		2		○									兼1	
	英語会話Ⅲ	2前		1			○								兼1	
	英語会話Ⅳ	2後		1			○								兼1	
	英語ポキャブラリーⅠ	3・4前		1			○								兼1	
	英語ポキャブラリーⅡ	3・4後		1			○								兼1	
	マスメディア英語Ⅰ	2前		2		○									兼1	
	マスメディア英語Ⅱ	2後		2		○									兼1	
	映画英語Ⅰ	2前		2		○									兼1	
	映画英語Ⅱ	2後		2		○									兼1	
	インターネット英語Ⅰ	2前		2		○									兼1	
	インターネット英語Ⅱ	2後		2		○									兼1	
小計(15科目)	—	0	24	0	—			0	0	0	0	0	0	兼6	—	
副専攻科目 中国語	コミュニケーション中国語講読Ⅰ	2前		1			○								兼1	
	コミュニケーション中国語講読Ⅱ	2後		1			○								兼1	
	コミュニケーション中国語作文Ⅰ	2前		1			○								兼1	
	コミュニケーション中国語作文Ⅱ	2後		1			○								兼1	
	ビジネス中国語講読Ⅰ	2前		1			○								兼1	
	ビジネス中国語講読Ⅱ	2後		1			○								兼1	
	ビジネス中国語会話Ⅰ	2前		1			○								兼1	
	ビジネス中国語会話Ⅱ	2後		1			○								兼1	
	観光中国語Ⅰ	2前		2		○									兼1	
	観光中国語Ⅱ	2後		2		○									兼1	
	時事中国語Ⅰ	2前		2		○									兼1	
	時事中国語Ⅱ	2後		2		○									兼1	
	資格中国語Ⅰ	1後		2		○									兼1	
	資格中国語Ⅱ	2前		2		○									兼1	
	中国文学概論	2前		2		○									兼1	
小計(15科目)	—	0	22	0	—			0	0	0	0	0	0	兼6	—	
スペイン語	西語文化講座Ⅰ	1前		1			○								兼1	
	西語文化講座Ⅱ	1後		1			○								兼1	
	スペイン語相互学習Ⅰ	1前		2			○								兼2	
	スペイン語相互学習Ⅱ	1後		2			○								兼2	
	スペイン語ワークショップⅠ	2前		2			○								兼1	
	スペイン語ワークショップⅡ	2後		2			○								兼1	
	映画スペイン語Ⅰ	2前		2		○									兼1	
	映画スペイン語Ⅱ	2後		2		○									兼1	
	日西語対照研究Ⅰ	2前		2		○									兼1	
	日西語対照研究Ⅱ	2後		2		○									兼1	
	スペイン語文化概論Ⅰ	2前		2		○									兼1	
	スペイン語文化概論Ⅱ	2後		2		○									兼1	
小計(12科目)	—	0	22	0	—			0	0	0	0	0	0	兼4	—	
合計(225科目)		—	26	343	0	—			4	3	0	0	0	0	兼88	—
学位又は称号		学士(日本語)			学位又は学科の分野			文学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等										

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態		専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	
教養教育科目から14単位、専門科目の必修科目から26単位、選択科目Ⅰから20単位、選択科目Ⅱから44単位、選択科目Ⅲから8単位、自由科目から14単位以上を修得し、合計126単位以上修得すること。なお、副専攻を選択する場合は、選択科目Ⅱの卒業所要単位が44単位から32単位に変更となり、副専攻科目12単位を修得すること。 [履修科目の登録の上限:44単位以下(年間)、ただし、各学期25単位を超えないこと]						1学年の学期区分		2学期					
						1学期の授業期間		15週					
						1時限の授業時間		90分					

## 教育課程等の概要

(外国語学部 英米語学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
A系列 人間について考える	哲学A	1・2・3・4前		2		○									兼1	オムニバス
	哲学B	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	倫理学A	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	倫理学B	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	論理学A	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	論理学B	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	心理学A	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	心理学B	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	宗教学	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	講座「言語と文化」	1・2・3・4前		2		○			1	1					兼1	
	日本文学A	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	日本文学B	1・2・3・4前・後		2		○			1						兼1	
	外国文学A	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
	外国文学B	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	美術	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
	音楽	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
	映像文化論	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	人文地理学	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	健康科学A	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	健康科学B	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	健康科学C	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	武道論	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	身体のトレーニング理論	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	スポーツの心理学	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	スポーツの歴史と社会	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	講座「スポーツと人間」	1・2・3・4前		2		○									兼11	
	生涯スポーツ基礎演習	1・2・3・4前・後		1				○							兼9	
	トレーニング基礎演習	1・2・3・4前・後		1				○							兼9	
	生涯スポーツ応用演習A	1・2・3・4前・後		1				○							兼4	
	生涯スポーツ応用演習B	1・2・3・4前・後		1				○							兼3	
小計(30科目)		—	0	56	0	—			2	1	0	0	0	兼40	—	
B系列 社会について考える	日本史A	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	日本史B	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	東洋史A	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	東洋史B	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	西洋史	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	西洋文化史	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	考古学	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	文化人類学	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	近代社会の思想史	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	社会学	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	法学A	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	法学B	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	政治学A	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	政治学B	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	現代の国際関係	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	経済学	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	流通論	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	安全と危機管理	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	情報化社会とマスメディア	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	ジェンダー論	1・2・3・4後		2		○									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養教育科目	家族とコミュニティ ボランティア論	1・2・3・4後 1・2・3・4前		2 2		○ ○									兼1 兼1		
	小計(22科目)	—	0	44	0	—		0	0	0	0	0	0	0	兼20	—	
	(自然と環境について考える) C系列	自然界のしくみ	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		自然認識の歴史	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		数学	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		生物学の基礎	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		生態学	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		自然地理学	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		環境科学	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		天文学A	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		天文学B	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		地球科学A	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		地球科学B	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		技術史・技術論	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		統計学	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		講座「科学・技術と人間」	1・2・3・4前		2		○									兼7	オムニバス
	小計(14科目)	—	0	28	0	—		0	0	0	0	0	0	0	兼15	—	
	シ(コミュニケーション能力を高める) D系列	文章表現の基礎	1・2・3・4前・後		2		○			1						兼2	
		口頭表現の技法	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
ビジネス文の書き方		1・2・3・4後		2		○									兼1		
レポートの書き方		1・2・3・4前・後		2		○									兼2		
プレゼンテーションと交渉		1・2・3・4前		2		○									兼1		
小計(5科目)	—	0	10	0	—		1	0	0	0	0	0	0	兼4	—		
(学際) E系列	講座「世界の中の日本」	1・2・3・4後		2		○									兼15	オムニバス	
	職業と人生	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	歴史の中の拓殖大学	1・2・3・4前		2		○									兼4	オムニバス	
	防災と安全	1・2・3・4後		2		○									兼1		
小計(4科目)	—	0	8	0	—		0	0	0	0	0	0	0	兼21	—		
専門科目	必修英語	Speak & Write I	1前	3			○								兼6		
		Speak & Write II	1後	3			○								兼6		
		Listen & Read I	1前・後	2				○		4	2				兼4		
		Listen & Read II	1前・後	2				○		4	2				兼3		
		英文法	1通	2				○		1	2				兼2		
		Speak & Write III	2前	3				○							兼8		
		Speak & Write IV	2後	3				○							兼7		
		Listen & Read III	2前	2				○		4	3				兼2		
		Listen & Read IV	2後	2				○		4	3				兼2		
		Reading Skills A	3前	1				○			1				兼4		
		Reading Skills B	3後	1				○		1					兼4		
		Writing Skills A	3前	1				○		2					兼3		
		Writing Skills B	3後	1				○		1	1				兼4		
		Speaking Skills	3前・後	2				○								兼3	
	小計(14科目)	—	28	0	0	—		6	3	0	0	0	0	0	兼17	—	
	ナーゼミ	3年ゼミナール	3通	4				○		8	3					兼1	
		4年ゼミナール	4通	4				○		8	3					兼1	
		小計(2科目)	—	8	0	0	—		8	3	0	0	0	0	兼1	—	
	選択英語A	英語ワークショップA	1前	4				○								兼2	
		英語ワークショップB	1後	4				○								兼3	
		英語ワークショップC	2前	4				○								兼3	
		英語ワークショップD	2後	4				○								兼3	
		英語ワークショップE	3・4前・後	4				○								兼2	
資格英語A		1・2・3・4前	2				○								兼2		
資格英語B		1・2・3・4後	2				○								兼2		
資格英語C		1・2・3・4前・後	2				○								兼1		
小計(8科目)	—	0	26	0	—		0	0	0	0	0	0	0	兼9	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
選択科目Ⅰ	英語ポキャブラリーⅠ	1前		1			○								兼1	
	英語ポキャブラリーⅡ	1後		1			○								兼1	
	英文法演習Ⅰ	1前		1			○								兼1	
	英文法演習Ⅱ	1後		1			○								兼1	
	マスメディア英語Ⅰ	2前		2			○								兼2	
	マスメディア英語Ⅱ	2後		2			○								兼2	
	ディスカッションⅠ	2前		2			○								兼3	
	ディスカッションⅡ	2後		2			○								兼3	
	映画英語Ⅰ	2前		2			○								兼2	
	映画英語Ⅱ	2後		2			○								兼2	
	インターネット英語Ⅰ	2前		2			○								兼2	
	インターネット英語Ⅱ	2後		2			○								兼2	
	プレゼンテーションⅠ	3・4前		2			○								兼1	
	プレゼンテーションⅡ	3・4後		2			○								兼1	
	ディベートⅠ	3・4前		2			○								兼1	
	ディベートⅡ	3・4後		2			○								兼1	
小計(16科目)		—	0	28	0		—		0	0	0	0	0	0	兼11	—
英語学・英語教育	英語音声学	1通		4			○			2						
	児童英語基礎演習	1後		2				○							兼1	
	英語学入門	2前		2			○				1					
	英語学研究A	3・4前		2			○			1						
	英語学研究B	3・4後		2			○				1					
	英語学研究C	3・4前		2			○								兼1	
	英語学研究D	3・4後		2			○								兼1	
	英語教育入門	2後		2			○								兼1	
	小学校英語教育入門	2後		2			○								兼1	
	英語教育研究A	3・4前		2			○				1					
	英語教育研究B	3・4後		2			○				1					
	英語教育研究C	3・4後		2			○			1						
	英語教育研究D	3・4前		2			○								兼1	
小計(13科目)		—	0	28	0		—		4	2	0	0	0	0	兼3	—
英語コミュニケーション	異文化間コミュニケーション入門	2前・後		2			○			1						
	コミュニケーション研究A	3・4前		2			○			1						
	コミュニケーション研究B	3・4後		2			○			1						
	コミュニケーション研究C	3・4前		2			○								兼1	
	コミュニケーション研究D	3・4後		2			○								兼1	
	ビジネス英語入門	2前・後		4			○			1						
	ビジネス英語研究A	3・4前		2			○			1					兼1	
	ビジネス英語研究B	3・4後		2			○			1					兼1	
	ビジネス英語研究C	3・4前		2			○								兼1	
	ビジネス英語研究D	3・4後		2			○								兼1	
小計(10科目)		—	0	22	0		—		2	0	0	0	0	0	兼3	—
通訳・翻訳・地域研究	イギリス研究入門	2前・後		2			○								兼1	
	アメリカ研究入門	2前		2			○			1						
	英語圏研究A	3・4後		2			○								兼1	
	英語圏研究B	3・4前		2			○								兼1	
	英語圏研究C	3・4前		2			○								兼1	
	英語圏研究D	3・4前		2			○								兼1	
	英語文学入門A	2前		2			○								兼1	
	英語文学入門B	2後		2			○								兼1	
	英米文学研究A	3・4前		2			○								兼1	
	英米文学研究B	3・4後		2			○								兼1	
	英米文学研究C	3・4前		2			○								兼1	
	英米文学研究D	3・4後		2			○								兼1	
	観光英語	2後		2			○								兼1	
	通訳英語Ⅰ	3・4前		2			○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目 選択必修科目 外国語	通訳英語Ⅱ	3・4後		2		○									兼1	
	翻訳英語Ⅰ	3・4前		2		○									兼1	
	翻訳英語Ⅱ	3・4後		2		○									兼1	
	小計(17科目)	—	0	34	0	—			1	0	0	0	0		兼10	—
	海外語学 研修等	海外語学研修	1前・後		4			○		1						
	小計(1科目)	—	0	4	0	—			1	0	0	0	0		0	—
	論文等 卒業	卒業論文	4通		4			○		8	3					兼1
	卒業研究	4通		2			○		8	3						兼1
	小計(2科目)	—	0	6	0	—			8	3	0	0	0		兼1	—
	初級中国語①Ⅰ	1前		1			○									兼2
	初級中国語①Ⅱ	1後		1			○									兼2
	初級中国語②Ⅰ	1前		1			○									兼2
	初級中国語②Ⅱ	1後		1			○									兼2
	中級中国語①Ⅰ	2前		1			○									兼2
	中級中国語①Ⅱ	2後		1			○									兼2
	中級中国語②Ⅰ	2前		1			○									兼2
	中級中国語②Ⅱ	2後		1			○									兼2
	初級スペイン語①Ⅰ	1前		1			○									兼2
	初級スペイン語①Ⅱ	1後		1			○									兼2
	初級スペイン語②Ⅰ	1前		1			○									兼2
	初級スペイン語②Ⅱ	1後		1			○									兼2
	中級スペイン語①Ⅰ	2前		1			○									兼2
	中級スペイン語①Ⅱ	2後		1			○									兼2
	中級スペイン語②Ⅰ	2前		1			○									兼2
	中級スペイン語②Ⅱ	2後		1			○									兼2
	初級フランス語①Ⅰ	1前		1			○									兼1
	初級フランス語①Ⅱ	1後		1			○									兼1
	初級フランス語②Ⅰ	1前		1			○									兼1
	初級フランス語②Ⅱ	1後		1			○									兼1
	中級フランス語①Ⅰ	2前		1			○									兼1
	中級フランス語①Ⅱ	2後		1			○									兼1
	中級フランス語②Ⅰ	2前		1			○									兼1
	中級フランス語②Ⅱ	2後		1			○									兼1
初級ドイツ語①Ⅰ	1前		1			○									兼1	
初級ドイツ語①Ⅱ	1後		1			○									兼1	
初級ドイツ語②Ⅰ	1前		1			○									兼1	
初級ドイツ語②Ⅱ	1後		1			○									兼1	
中級ドイツ語①Ⅰ	2前		1			○									兼1	
中級ドイツ語①Ⅱ	2後		1			○									兼1	
中級ドイツ語②Ⅰ	2前		1			○									兼1	
中級ドイツ語②Ⅱ	2後		1			○									兼1	
初級韓国語①Ⅰ	1前		1			○									兼1	
初級韓国語①Ⅱ	1後		1			○									兼1	
初級韓国語②Ⅰ	1前		1			○									兼1	
初級韓国語②Ⅱ	1後		1			○									兼1	
中級韓国語①Ⅰ	2前		1			○									兼1	
中級韓国語①Ⅱ	2後		1			○									兼1	
中級韓国語②Ⅰ	2前		1			○									兼1	
中級韓国語②Ⅱ	2後		1			○									兼1	
初級日本語①Ⅰ	1前		1			○									兼3	
初級日本語①Ⅱ	1後		1			○									兼2	
初級日本語②Ⅰ	1前		1			○									兼1	
初級日本語②Ⅱ	1後		1			○									兼1	
中級日本語①Ⅰ	2前		1			○									兼3	
中級日本語①Ⅱ	2後		1			○									兼3	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	中級日本語②Ⅰ	2前		1			○								兼3	
	中級日本語②Ⅱ	2後		1			○								兼3	
	小計(48科目)	—	0	48	0		—		0	0	0	0	0		兼26	—
自由科目	情報スキル	情報スキルⅠ	1前	2			○								兼3	
	情報スキルⅡ	1後	2			○									兼3	
	小計(2科目)	—	4	0	0		—		0	0	0	0	0		兼3	—
	言語学	言語学概論Ⅰ	2前	2			○								兼1	
	言語学概論Ⅱ	2後	2			○									兼1	
	一般音声学Ⅰ	2前	2			○									兼1	
	一般音声学Ⅱ	2後	2			○									兼1	
	小計(4科目)	—	0	8	0		—		0	0	0	0	0		兼2	—
	キャリア支援	キャリアガイダンス	1後	2			○		1	1					兼5	オムニバス
	職業能力基礎(SPI)言語	2後	2			○									兼2	
	職業能力基礎(SPI)非言語	2前	2			○									兼2	
	ビジネス実務研修Ⅰ	1前・後	2				○								兼1	
	ビジネス実務研修Ⅱ	1前・後	2				○								兼1	
	小計(5科目)	—	0	10	0		—		1	1	0	0	0		兼8	—
	ビジネス	観光ビジネス論Ⅰ	2前	2			○								兼1	
	観光ビジネス論Ⅱ	2後	2			○									兼1	
	エアライン・ビジネス論	2前	2			○			1						兼2	
	小計(3科目)	—	0	6	0		—		1	0	0	0	0		兼3	—
専門科目	副専攻科目	中国語	中国語会話Ⅰ	2前	1			○							兼1	
		中国語会話Ⅱ	2後	1			○								兼1	
		コミュニケーション中国語講読Ⅰ	2前	1			○								兼1	
		コミュニケーション中国語講読Ⅱ	2後	1			○								兼1	
		コミュニケーション中国語会話Ⅰ	2前	1			○								兼1	
		コミュニケーション中国語会話Ⅱ	2後	1			○								兼1	
		コミュニケーション中国語作文Ⅰ	2前	1			○								兼1	
		コミュニケーション中国語作文Ⅱ	2後	1			○								兼1	
		ビジネス中国語講読Ⅰ	2前	1			○								兼1	
		ビジネス中国語講読Ⅱ	2後	1			○								兼1	
		ビジネス中国語会話Ⅰ	2前	1			○								兼1	
		ビジネス中国語会話Ⅱ	2後	1			○								兼1	
		観光中国語Ⅰ	2前	2			○								兼1	
		観光中国語Ⅱ	2後	2			○								兼1	
		総合中国語Ⅰ	3前	2			○								兼1	
		総合中国語Ⅱ	3後	2			○								兼1	
		時事中国語Ⅰ	2前	2			○								兼1	
		時事中国語Ⅱ	2後	2			○								兼1	
		資格中国語Ⅰ	1後	2			○								兼1	
		資格中国語Ⅱ	1前	2			○								兼1	
		映画中国語	2後	2			○								兼1	
		コミュニケーション入門Ⅰ	2前	2			○								兼1	
		コミュニケーション入門Ⅱ	2後	2			○								兼1	
		海外語学研修(中国語圏)	2前・後	4				○								兼1
小計(24科目)	—	0	38	0		—		0	0	0	0	0		兼9	—	
スペイン語	西語文化講座Ⅰ	1前	1				○							兼2		
	西語文化講座Ⅱ	1後	1				○							兼2		
	初級ワークショップⅠ	1前	2				○							兼1		
	初級ワークショップⅡ	1後	2				○							兼1		
	スペイン語相互学習Ⅰ	1前	2				○							兼2		
	スペイン語相互学習Ⅱ	1後	2				○							兼2		
	中級ワークショップⅠ	2前	2				○							兼1		
	中級ワークショップⅡ	2後	2				○							兼1		
	映画スペイン語Ⅰ	2前	2			○								兼1		
	映画スペイン語Ⅱ	2後	2			○								兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	日西語対照研究Ⅰ	2前		2		○									兼1
	日西語対照研究Ⅱ	2後		2		○									兼1
	現代スペイン事情Ⅰ	2前		2		○									兼1
	現代スペイン事情Ⅱ	2後		2		○									兼1
	スペイン語文化概論Ⅰ	2前		2		○									兼1
	スペイン語文化概論Ⅱ	2後		2		○									兼1
	海外語学研修(スペイン語圏)	2前・後		4			○								兼1
	小計(17科目)	—	0	34	0				0	0	0	0	0	0	兼7
合計(261科目)		—	40	438	0				9	3	0	0	0	0	兼173
学位又は称号		学士(英米語)			学位又は学科の分野			文学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
教養教育科目から16単位、専門科目の必修科目から36単位、選択科目Ⅰから28単位、選択科目Ⅱから24単位、選択必修科目(外国語)から8単位、自由科目から14単位以上を修得し、合計126単位以上修得すること。なお、副専攻を選択する場合は、教養教育科目の卒業所要単位が16単位から10単位、選択科目Ⅰの卒業所要単位が28単位から24単位、選択科目Ⅱの卒業所要単位が24単位から22単位に変更となり、副専攻科目12単位を修得すること。 [履修科目の登録の上限:44単位以下(年間)、ただし、各学期25単位を超えないこと]							1学年の学期区分			2学期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

## 教育課程等の概要

(外国語学部 中国語学科 教養教育科目)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
(人間について考える) A系列	哲学A	1・2・3・4前		2		○										兼1	オムニバス
	哲学B	1・2・3・4後		2		○										兼1	
	倫理学A	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	倫理学B	1・2・3・4後		2		○										兼1	
	論理学A	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	論理学B	1・2・3・4後		2		○										兼1	
	心理学A	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	心理学B	1・2・3・4後		2		○										兼1	
	宗教学	1・2・3・4後		2		○										兼1	
	講座「言語と文化」	1・2・3・4前		2		○										兼3	
	日本文学A	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	日本文学B	1・2・3・4前・後		2		○										兼1	
	外国文学A	1・2・3・4前・後		2		○										兼1	
	外国文学B	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	美術	1・2・3・4前・後		2		○										兼1	
	音楽	1・2・3・4前・後		2		○										兼1	
	映像文化論	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	人文地理学	1・2・3・4後		2		○										兼1	
	健康科学A	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	健康科学B	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	健康科学C	1・2・3・4後		2		○										兼1	
	武道論	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	身体トレーニング理論	1・2・3・4後		2		○										兼1	
	スポーツの心理学	1・2・3・4後		2		○										兼1	
	スポーツの歴史と社会	1・2・3・4後		2		○										兼1	
	講座「スポーツと人間」	1・2・3・4前		2		○										兼11	
	生涯スポーツ基礎演習	1・2・3・4前・後		1			○									兼9	
	トレーニング基礎演習	1・2・3・4前・後		1			○	○								兼9	
	生涯スポーツ応用演習A	1・2・3・4前・後		1			○	○								兼4	
	生涯スポーツ応用演習B	1・2・3・4前・後		1			○	○								兼3	
小計(30科目)	—	—	0	56	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼43	—	
(社会について考える) B系列	日本史A	1・2・3・4後		2		○										兼1	オムニバス
	日本史B	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	東洋史A	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	東洋史B	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	西洋史	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	西洋文化史	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	考古学	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	文化人類学	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	近代社会の思想史	1・2・3・4後		2		○										兼1	
	社会学	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	法学A	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	法学B	1・2・3・4後		2		○										兼1	
	政治学A	1・2・3・4後		2		○										兼1	
	政治学B	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	現代の国際関係	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	経済学	1・2・3・4後		2		○										兼1	
	流通論	1・2・3・4後		2		○										兼1	
	安全と危機管理	1・2・3・4前		2		○										兼1	
	情報化社会とマスメディア	1・2・3・4後		2		○										兼1	
	ジェンダー論	1・2・3・4後		2		○										兼1	
	家族とコミュニティ	1・2・3・4後		2		○										兼1	
	ボランティア論	1・2・3・4前		2		○										兼1	
小計(22科目)	—	—	0	44	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼20	—	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養教育科目	（自然と環境について考える） C系列	自然界のしくみ		2		○									兼1		
		自然認識の歴史	1・2・3・4前	2		○										兼1	
		数学	1・2・3・4前	2		○										兼1	
		生物学の基礎	1・2・3・4前	2		○										兼1	
		生態学	1・2・3・4後	2		○										兼1	
		自然地理学	1・2・3・4後	2		○										兼1	
		環境科学	1・2・3・4後	2		○										兼1	
		天文学A	1・2・3・4前	2		○										兼1	
		天文学B	1・2・3・4後	2		○										兼1	
		地球科学A	1・2・3・4前	2		○										兼1	
		地球科学B	1・2・3・4後	2		○										兼1	
		技術史・技術論	1・2・3・4前	2		○										兼1	
		統計学	1・2・3・4後	2		○										兼1	
		講座「科学・技術と人間」	1・2・3・4前	2		○										兼7	オムニバス
小計(14科目)	—	0	28	0	—			0	0	0	0	0	0	兼15	—		
シ（コミュニケーション能力を高める） D系列	文章表現の基礎	1・2・3・4前・後		2		○									兼3		
	口頭表現の技法	1・2・3・4前・後		2		○									兼1		
	ビジネス文の書き方	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	レポートの書き方	1・2・3・4前・後		2		○									兼2		
	プレゼンテーションと交渉	1・2・3・4前		2		○									兼1		
小計(5科目)	—	0	10	0	—			0	0	0	0	0	0	兼5	—		
（学際） E系列	講座「世界の中の日本」	1・2・3・4後		2		○									兼15	オムニバス	
	職業と人生	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	歴史の中の拓殖大学	1・2・3・4前		2		○									兼4	オムニバス	
	防災と安全	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	小計(4科目)	—	0	8	0	—			0	0	0	0	0	0	兼21	—	

## 教育課程等の概要

(外国語学部 中国語学科 中国語コミュニケーションコース専門科目)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	中国語A	総合中国語A	1通	8				○		2	1					兼3	
		総合中国語B	1通	4				○		3						兼1	
		総合中国語C	1通	4				○		1						兼3	
		総合中国語D	2通	2				○		1						兼2	
		総合中国語E	2通	2				○		2						兼1	
		総合中国語F	2通	2				○								兼2	
		総合中国語G	2通	4				○								兼3	
		講読演習	3通	2				○								兼1	
		作文演習	3通	2				○								兼2	
		表現演習A	3通	2				○								兼2	
		表現演習B	4通	2				○								兼2	
	小計(11科目)	—	34	0	0		—		4	1	0	0	0		兼11	—	
	必修科目	ナゼミ	3年ゼミナール	3通	4				○	5	1						
			4年ゼミナール	4通	4				○	5	1						
		小計(2科目)	—	8	0	0		—	5	1	0	0	0		0	—	
コース科目	中国歴史入門	1前	2				○								兼1		
	中国語学概論	2前	2				○		1								
	コミュニケーション中国語講読Ⅰ	2前	1					○	1								
	コミュニケーション中国語講読Ⅱ	2後	1					○	1								
	コミュニケーション中国語会話Ⅰ	2前	1					○	1								
	コミュニケーション中国語会話Ⅱ	2後	1					○	1								
	コミュニケーション中国語作文Ⅰ	2前	1					○							兼1		
	コミュニケーション中国語作文Ⅱ	2後	1					○							兼1		
	コミュニケーション中国語講読Ⅲ	3・4前	1					○							兼1		
	コミュニケーション中国語会話Ⅲ	3・4前	1					○							兼1		
	コミュニケーション中国語作文Ⅲ	3・4前	1					○							兼1		
コミュニケーション中国語作文Ⅳ	3・4後	1					○							兼1			
小計(12科目)	—	14	0	0		—		2	0	0	0	0		兼4	—		
選択科目Ⅰ	中国語B	広東語Ⅰ	2・3・4前		2			○								兼1	
		広東語Ⅱ	2・3・4後		2			○								兼1	
		台湾語Ⅰ	2・3・4前		2			○								兼1	
		台湾語Ⅱ	2・3・4後		2			○								兼1	
		時事中国語Ⅰ	2・3・4前		2			○			1						
		時事中国語Ⅱ	2・3・4後		2			○			1						
		観光中国語Ⅰ	2・3・4前		2			○		1							
		観光中国語Ⅱ	2・3・4後		2			○		1							
		映画中国語	2・3・4後		2			○								兼1	
		中国語翻訳法Ⅰ	2・3・4前		2			○		1							
		中国語翻訳法Ⅱ	2・3・4後		2			○		1							
	中国語通訳法Ⅰ	2・3・4前		2			○								兼1		
	中国語通訳法Ⅱ	2・3・4後		2			○								兼1		
	資格中国語Ⅰ	1・2・3・4後		2			○			1							
	資格中国語Ⅱ	1・2・3・4前		2			○			1							
小計(15科目)	—	0	30	0		—		1	1	0	0	0		兼3	—		
ビジネス中国語	ビジネス中国語講読Ⅰ	2前		1			○		1								
	ビジネス中国語講読Ⅱ	2後		1			○		1								
	ビジネス中国語会話Ⅰ	2前		1			○								兼1		
	ビジネス中国語会話Ⅱ	2後		1			○								兼1		
	商業文書Ⅰ	2前		1			○								兼1		
	商業文書Ⅱ	2後		1			○								兼1		
	ビジネス中国語講読Ⅲ	3・4前		1			○								兼1		
	ビジネス中国語会話Ⅲ	3・4前		1			○		1								
商業文書Ⅲ	3・4前		1			○								兼1			
商業文書Ⅳ	3・4後		1			○								兼1			
小計(10科目)	—	0	10	0		—		1	0	0	0	0		兼3	—		



## 教育課程等の概要

(外国語学部 中国語学科 中国語ビジネスコース専門科目)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
必修科目	中国語A	総合中国語A	1通	8				○		2	1					兼3
		総合中国語B	1通	4				○		3						兼1
		総合中国語C	1通	4				○		1						兼3
		総合中国語D	2通	2				○		1						兼2
		総合中国語E	2通	2				○		2						兼1
		総合中国語F	2通	2				○								兼2
		総合中国語G	2通	4				○								兼3
		講読演習	3通	2				○								兼1
		作文演習	3通	2				○								兼2
		表現演習A	3通	2				○								兼2
		表現演習B	4通	2				○								兼2
	小計(11科目)	—	34	0	0		—		4	1	0	0	0		兼11	—
	ナゼミ	3年ゼミナール	3通	4				○		5	1					
		4年ゼミナール	4通	4				○		5	1					
		小計(2科目)	—	8	0	0		—		5	1	0	0	0		0
コース科目	中国歴史入門	1前	2			○									兼1	
	中国ビジネス概論	2前	2			○			1							
	ビジネス中国語講読Ⅰ	2前	1				○		1							
	ビジネス中国語講読Ⅱ	2後	1				○		1							
	ビジネス中国語会話Ⅰ	2前	1				○								兼1	
	ビジネス中国語会話Ⅱ	2後	1				○								兼1	
	商業文書Ⅰ	2前	1				○								兼1	
	商業文書Ⅱ	2後	1				○								兼1	
	ビジネス中国語講読Ⅲ	3・4前	1				○								兼1	
	ビジネス中国語会話Ⅲ	3・4前	1				○		1							
	商業文書Ⅲ	3・4前	1				○								兼1	
商業文書Ⅳ	3・4後	1				○								兼1		
小計(12科目)	—	14	0	0		—		1	0	0	0	0		兼4	—	
専門科目	中国語B	広東語Ⅰ	2・3・4前		2		○									兼1
		広東語Ⅱ	2・3・4後		2		○									兼1
		台湾語Ⅰ	2・3・4前		2		○									兼1
		台湾語Ⅱ	2・3・4後		2		○									兼1
		時事中国語Ⅰ	2・3・4前		2		○				1					
		時事中国語Ⅱ	2・3・4後		2		○				1					
		観光中国語Ⅰ	2・3・4前		2		○			1						
		観光中国語Ⅱ	2・3・4後		2		○			1						
		映画中国語	2・3・4後		2		○									兼1
		中国語翻訳法Ⅰ	2・3・4前		2		○			1						
		中国語翻訳法Ⅱ	2・3・4後		2		○			1						
		中国語通訳法Ⅰ	2・3・4前		2		○									兼1
		中国語通訳法Ⅱ	2・3・4後		2		○									兼1
		資格中国語Ⅰ	1・2・3・4後		2		○				1					
		資格中国語Ⅱ	1・2・3・4前		2		○				1					
小計(15科目)	—	0	30	0		—		1	1	0	0	0		兼3	—	
選択科目Ⅰ	コミュニケーション中国語	コミュニケーション中国語講読Ⅰ	2前		1		○		1							
		コミュニケーション中国語講読Ⅱ	2後		1		○		1							
		コミュニケーション中国語会話Ⅰ	2前		1		○		1							
		コミュニケーション中国語会話Ⅱ	2後		1		○		1							
		コミュニケーション中国語作文Ⅰ	2前		1		○								兼1	
		コミュニケーション中国語作文Ⅱ	2後		1		○								兼1	
		コミュニケーション中国語講読Ⅲ	3・4前		1		○								兼1	
		コミュニケーション中国語会話Ⅲ	3・4前		1		○								兼1	
		コミュニケーション中国語作文Ⅲ	3・4前		1		○								兼1	
		コミュニケーション中国語作文Ⅳ	3・4後		1		○								兼1	
小計(10科目)	—	0	10	0		—		2	0	0	0	0		兼3	—	
+	中国語学	中国語学概論	2・3・4前		2		○		1							
		中国文学概論	2・3・4前		2		○		1							
		コミュニケーション入門Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
		コミュニケーション入門Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	中国語学・文学	日中対照言語研究Ⅰ	2・3・4前	2		○										兼1	
		日中対照言語研究Ⅱ	2・3・4後	2		○										兼1	
		中国語学研究Ⅰ	2・3・4前	2		○			1								
		中国語学研究Ⅱ	2・3・4後	2		○										兼1	
		中国文学研究Ⅰ	2・3・4前	2		○			1								
		中国文学研究Ⅱ	2・3・4後	2		○			1								
		中国語スピーチ	2・3・4前	2		○										兼1	
		コミュニケーション研究	2・3・4後	2		○										兼1	
	小計(12科目)	—	0	24	0	—	—	—	2	0	0	0	0	0	0	兼3	—
	中国 社会・ 経済	中国文化入門	1後	2		○			1								
		中国事情Ⅰ	1前	2		○										兼1	
		中国事情Ⅱ	2・3・4前	2		○										兼1	
		日中異文化交流	2・3・4後	2		○			1								
		中国文化研究Ⅰ	2・3・4前	2		○			1								
		中国文化研究Ⅱ	2・3・4後	2		○			1								
		中国史Ⅰ	2・3・4前	2		○										兼1	
		中国史Ⅱ	2・3・4後	2		○										兼1	
		中国経済論Ⅰ	2・3・4前	2		○										兼1	
		中国経済論Ⅱ	2・3・4後	2		○										兼1	
		ビジネス中国語講読演習	2・3・4後	2		○										兼1	
ビジネス中国語会話演習		2・3・4後	2		○			1							兼1		
小計(12科目)	—	0	24	0	—	—	—	2	0	0	0	0	0	0	兼3	—	
海外 語学 研修 等	海外語学研修	1前・後	4			○		1									
	海外インターンシップA	2・3・4前・後	2			○		1									
	海外インターンシップB	2・3・4前・後	2			○		1									
小計(3科目)	—	0	8	0	—	—	—	2	0	0	0	0	0	0	0	—	
論文 卒業 等	卒業論文	4通	4			○		5	1								
	卒業研究	4通	2			○		5	1								
小計(2科目)	—	0	6	0	—	—	—	5	1	0	0	0	0	0	0	—	

## 教育課程等の概要

(外国語学部 中国語学科 外国語科目)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
専門科目 選 択 必 修 科 目  外 国 語	初級英語① I	1前		1			○									兼4
	初級英語① II	1後		1			○									兼4
	初級英語② I	1前		1			○									兼4
	初級英語② II	1後		1			○									兼4
	中級英語① I	2前		1			○									兼4
	中級英語① II	2後		1			○									兼4
	中級英語② I	2前		1			○									兼4
	中級英語② II	2後		1			○									兼4
	初級スペイン語① I	1前		1			○									兼2
	初級スペイン語① II	1後		1			○									兼2
	初級スペイン語② I	1前		1			○									兼2
	初級スペイン語② II	1後		1			○									兼2
	中級スペイン語① I	2前		1			○									兼2
	中級スペイン語① II	2後		1			○									兼2
	中級スペイン語② I	2前		1			○									兼2
	中級スペイン語② II	2後		1			○									兼2
	初級フランス語① I	1前		1			○									兼1
	初級フランス語① II	1後		1			○									兼1
	初級フランス語② I	1前		1			○									兼1
	初級フランス語② II	1後		1			○									兼1
	中級フランス語① I	2前		1			○									兼1
	中級フランス語① II	2後		1			○									兼1
	中級フランス語② I	2前		1			○									兼1
	中級フランス語② II	2後		1			○									兼1
	初級ドイツ語① I	1前		1			○									兼1
	初級ドイツ語① II	1後		1			○									兼1
	初級ドイツ語② I	1前		1			○									兼1
	初級ドイツ語② II	1後		1			○									兼1
	中級ドイツ語① I	2前		1			○									兼1
	中級ドイツ語① II	2後		1			○									兼1
	中級ドイツ語② I	2前		1			○									兼1
	中級ドイツ語② II	2後		1			○									兼1
	初級韓国語① I	1前		1			○									兼1
	初級韓国語① II	1後		1			○									兼1
	初級韓国語② I	1前		1			○									兼1
	初級韓国語② II	1後		1			○									兼1
	中級韓国語① I	2前		1			○									兼1
	中級韓国語① II	2後		1			○									兼1
	中級韓国語② I	2前		1			○									兼1
	中級韓国語② II	2後		1			○									兼1
	初級日本語① I	1前		1			○									兼3
	初級日本語① II	1後		1			○									兼2
	初級日本語② I	1前		1			○									兼1
	初級日本語② II	1後		1			○									兼1
	中級日本語① I	2前		1			○									兼3
	中級日本語① II	2後		1			○									兼3
	中級日本語② I	2前		1			○									兼3
	中級日本語② II	2後		1			○									兼3
小計(48科目)		—	0	48	0		—		0	0	0	0	0		兼27	—

## 教育課程等の概要

(外国語学部 中国語学科 自由科目)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考						
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手							
自由科目	スキ 情報	情報スキル I		1	前	2				○							兼3			
		情報スキル II		1	後	2				○							兼3			
		小計(2科目)		—			4	0	0		—		0	0	0	0	0	兼3	—	
	言語学	言語学概論 I		2	前		2			○			1							
		言語学概論 II		2	後		2			○			1							
		一般音声学 I		2	前		2			○								兼1		
		一般音声学 II		2	後		2			○								兼1		
		小計(4科目)		—			0	8	0		—		1	0	0	0	0	0	兼1	—
	外国語会話	英語会話 I		1	前		1			○									兼1	
		英語会話 II		1	後		1			○									兼1	
		英語会話 III		2・3・4	前		1			○									兼1	
		英語会話 IV		2・3・4	後		1			○									兼1	
		小計(4科目)		—			0	4	0		—		0	0	0	0	0	0	兼2	—
	キャリア支援	キャリアガイダンス		1	後		2			○			1						兼6	オムニバス
		職業能力基礎(SPI)言語		2	後		2			○									兼2	
		職業能力基礎(SPI)非言語		2	前		2			○									兼2	
		ビジネス実務研修 I		1	前・後		2				○			1						
		ビジネス実務研修 II		1	前・後		2				○			1						
		小計(5科目)		—			0	10	0		—		1	1	0	0	0	0	兼8	—
	ビジネス	観光ビジネス論 I		2	前		2			○									兼1	
観光ビジネス論 II			2	後		2			○									兼1		
エアライン・ビジネス論			2	前		2			○									兼3		
小計(3科目)			—			0	6	0		—		0	0	0	0	0	0	兼4	—	

## 教育課程等の概要

(外国語学部 中国語学科 副専攻科目)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専攻科目 副専攻科目	英語	英語会話Ⅰ		1			○									兼1	
		英語会話Ⅱ	1後	1			○									兼1	
		資格英語A	1前	2			○									兼2	
		資格英語B	1後	2			○									兼2	
		資格英語C	1前・後	2			○									兼1	
		英語会話Ⅲ	2前	1				○								兼1	
		英語会話Ⅳ	2後	1				○								兼1	
		英語ボキャブラリーⅠ	3前	1				○								兼1	
		英語ボキャブラリーⅡ	3後	1				○								兼1	
		マスメディア英語Ⅰ	2前	2				○								兼2	
		マスメディア英語Ⅱ	2後	2				○								兼2	
		映画英語Ⅰ	2前	2				○								兼2	
		映画英語Ⅱ	2後	2				○								兼2	
		インターネット英語Ⅰ	2前	2				○								兼2	
		インターネット英語Ⅱ	2後	2				○								兼2	
		英文法演習Ⅰ	3前	1					○							兼1	
		英文法演習Ⅱ	3後	1					○							兼1	
		海外語学研修(英語圏)	2前・後	4					○							兼1	
	小計(18科目)	—	—	0	30	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼12	—
	スペイン語	西語文化講座Ⅰ	1前		1			○								兼2	
		西語文化講座Ⅱ	1後		1			○								兼2	
		初級ワークショップⅠ	1前		2			○								兼1	
		初級ワークショップⅡ	1後		2			○								兼1	
		スペイン語相互学習Ⅰ	1前		2			○								兼2	
		スペイン語相互学習Ⅱ	1後		2			○								兼2	
		中級ワークショップⅠ	2前		2			○								兼1	
		中級ワークショップⅡ	2後		2			○								兼1	
		映画スペイン語Ⅰ	2前		2			○								兼1	
		映画スペイン語Ⅱ	2後		2			○								兼1	
		日西語対照研究Ⅰ	2前		2			○								兼1	
		日西語対照研究Ⅱ	2後		2			○								兼1	
		現代スペイン事情Ⅰ	2前		2			○								兼1	
		現代スペイン事情Ⅱ	2後		2			○								兼1	
		スペイン語文化概論Ⅰ	2前		2			○								兼1	
スペイン語文化概論Ⅱ		2後		2			○								兼1		
海外語学研修(スペイン語圏)		2前・後	4					○							兼1		
小計(17科目)	—	—	0	34	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼7	—	
合計(334科目)			—	116	490	0	—	—	6	2	0	0	0	0	兼166	—	
学位又は称号		学士(中国語)		学位又は学科の分野			文学関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等											
教養教育科目から16単位、専門科目の必修科目から56単位、選択科目Ⅰから12単位、 選択科目Ⅱから20単位、選択必修科目(外国語)から8単位、自由科目から14単位以上を 修得し、合計126単位以上修得すること。なお、副専攻を選択する場合は、教養教育科目 の卒業所要単位が16単位から10単位、選択科目Ⅰの卒業所要単位が12単位から8単 位、選択科目Ⅱの卒業所要単位が20単位から18単位に変更となり、副専攻科目12単位 を修得すること。 [履修科目の登録の上限:44単位以下(年間)、ただし、各学期25単位を超えないこと]						1学年の学期区分		2学期									
						1学期の授業期間		15週									
						1時限の授業時間		90分									

## 教育課程等の概要

(外国語学部 スペイン語学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目  (人間について考える) A系列	哲学A	1・2・3・4前		2		○									兼1	オムニバス
	哲学B	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	倫理学A	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	倫理学B	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	論理学A	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	論理学B	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	心理学A	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	心理学B	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	宗教学	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	講座「言語と文化」	1・2・3・4前		2		○			1						兼2	
	日本文学A	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	日本文学B	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
	外国文学A	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
	外国文学B	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	美術	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
	音楽	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
	映像文化論	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	人文地理学	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	健康科学A	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	健康科学B	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	健康科学C	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	武道論	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	身体トレーニング理論	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	スポーツの心理学	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	スポーツの歴史と社会	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	講座「スポーツと人間」	1・2・3・4前		2		○									兼11	
	生涯スポーツ基礎演習	1・2・3・4前・後		1			○								兼9	
	トレーニング基礎演習	1・2・3・4前・後		1			○								兼9	
	生涯スポーツ応用演習A	1・2・3・4前・後		1			○								兼4	
	生涯スポーツ応用演習B	1・2・3・4前・後		1			○								兼3	
小計(30科目)	—	—	0	56	0	—	—	—	1	0	0	0	0	兼42	—	
(社会について考える) B系列	日本史A	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	日本史B	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	東洋史A	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	東洋史B	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	西洋史	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	西洋文化史	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	考古学	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	文化人類学	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	近代社会の思想史	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	社会学	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	法学A	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	法学B	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	政治学A	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	政治学B	1・2・3・4前		2		○									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	(社会について考える) B系列	現代の国際関係	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		経済学	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		流通論	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		安全と危機管理	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		情報化社会とマスメディア	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		ジェンダー論	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		家族とコミュニティ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		ボランティア論	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	小計(22科目)	—	0	44	0	—			0	0	0	0	0	0	兼20	—
	(自然と環境について考える) C系列	自然界のしくみ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		自然認識の歴史	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		数学	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		生物学の基礎	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		生態学	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		自然地理学	1・2・3・4後		2		○								兼1	
環境科学		1・2・3・4後		2		○								兼1		
天文学A		1・2・3・4前		2		○								兼1		
天文学B		1・2・3・4後		2		○								兼1		
地球科学A		1・2・3・4前		2		○								兼1		
地球科学B		1・2・3・4後		2		○								兼1		
技術史・技術論		1・2・3・4前		2		○								兼1		
統計学		1・2・3・4後		2		○								兼1		
講座「科学・技術と人間」	1・2・3・4前		2		○								兼7	オムニバス		
小計(14科目)	—	0	28	0	—			0	0	0	0	0	0	兼15	—	
(コミュニケーション能力を高める) D系列	文章表現の基礎	1・2・3・4前・後		2		○								兼3		
	口頭表現の技法	1・2・3・4前・後		2		○								兼1		
	ビジネス文の書き方	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	レポートの書き方	1・2・3・4前・後		2		○								兼2		
	プレゼンテーションと交渉	1・2・3・4前		2		○								兼1		
小計(5科目)	—	0	10	0	—			0	0	0	0	0	0	兼5	—	
(学際) E系列	講座「世界の中の日本」	1・2・3・4後		2		○								兼15	オムニバス	
	職業と人生	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	歴史の中の拓殖大学	1・2・3・4前		2		○								兼4	オムニバス	
	防災と安全	1・2・3・4後		2		○								兼1		
小計(4科目)	—	0	8	0	—			0	0	0	0	0	0	兼21	—	
専門科目	必修科目 スペイン語A	初級文法① I	1前	1			○							兼2		
		初級文法① II	1後	1			○							兼2		
		初級文法② I	1前	1			○			2				兼1		
		初級文法② II	1後	1			○			2				兼1		
		初級会話① I	1前	1			○							兼4		
		初級会話① II	1後	1			○							兼4		
		初級会話② I	1前	1			○							兼4		
		初級会話② II	1後	1			○							兼4		
		初級語彙① I	1前	1			○			2						
		初級語彙① II	1後	1			○			2						
		初級語彙② I	1前	1			○			2						
		初級語彙② II	1後	1			○			2						
		西語文化講座 I	1前	1			○								兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門科目	必修科目 スペイン語A	西語文化講座Ⅱ	1後	1				○								兼2		
		中級文法Ⅰ	2前	1				○		1								
		中級文法Ⅱ	2後	1				○		1								
		中級作文Ⅰ	2前	1				○									兼2	
		中級作文Ⅱ	2後	1				○									兼2	
		中級講読①Ⅰ	2前	1				○		1								
		中級講読①Ⅱ	2後	1				○		1								
		中級講読②Ⅰ	2前	1				○									兼1	
		中級講読②Ⅱ	2後	1				○									兼1	
		中級会話①Ⅰ	2前	1				○									兼4	
		中級会話①Ⅱ	2後	1				○									兼4	
		中級会話②Ⅰ	2前	1				○									兼4	
		中級会話②Ⅱ	2後	1				○									兼4	
		中級会話③Ⅰ	2前	1				○									兼4	
		中級会話③Ⅱ	2後	1				○									兼4	
		上級総合演習Ⅰ	3前	1				○		1								
		上級総合演習Ⅱ	3後	1				○		1								
		上級作文演習Ⅰ	3前	1				○		1							兼1	
		上級作文演習Ⅱ	3後	1				○		1							兼1	
		上級講読演習Ⅰ	3前	1				○									兼2	
		上級講読演習Ⅱ	3後	1				○									兼2	
		上級表現演習①Ⅰ	3前	1				○									兼4	
		上級表現演習①Ⅱ	3後	1				○									兼4	
		上級表現演習②Ⅰ	3前	1				○									兼4	
	上級表現演習②Ⅱ	3後	1				○									兼4		
	上級表現演習③Ⅰ	3前	1				○									兼4		
	上級表現演習③Ⅱ	3後	1				○									兼4		
	総合表現演習①Ⅰ	4前	1				○									兼2		
	総合表現演習①Ⅱ	4後	1				○									兼2		
	総合表現演習②Ⅰ	4前	1				○									兼2		
	総合表現演習②Ⅱ	4後	1				○									兼2		
	小計(44科目)	—	—	44	0	0	—	—	—	6	0	0	0	0	0	兼13	—	
	ゼミナール	3年ゼミナール	3通	4				○		6								
		4年ゼミナール	4通	4				○		6								
		小計(2科目)	—	—	8	0	0	—	—	6	0	0	0	0	0	0	—	—
	選択科目Ⅰ	スペイン語B	初級ワークショップⅠ	1前		2			○								兼1	
			初級ワークショップⅡ	1後		2			○								兼1	
			スペイン語相互学習Ⅰ	1前		2			○		2							
			スペイン語相互学習Ⅱ	1後		2			○		2							
			日本紹介スペイン語Ⅰ	1後		2			○								兼1	
			日本紹介スペイン語Ⅱ	2前		2			○								兼1	
			中級ワークショップⅠ	2前		2			○								兼1	
			中級ワークショップⅡ	2後		2			○								兼1	
			報道スペイン語Ⅰ	2前		2		○			1							
報道スペイン語Ⅱ			2後		2		○			1								
商業スペイン語Ⅰ			2前		2		○			1								
商業スペイン語Ⅱ			2後		2		○			1								
上級ワークショップⅠ			2前		2			○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	選択科目Ⅰ スペイン語B	上級ワークショップⅡ		2			○								兼1		
		スペイン語通訳法Ⅰ	2前	2			○								兼1		
		スペイン語通訳法Ⅱ	2後	2			○								兼1		
		映画スペイン語Ⅰ	2前	2			○			1							
		映画スペイン語Ⅱ	2後	2			○			1							
		スペイン語相互学習Ⅲ	2前	2				○		2							
		スペイン語相互学習Ⅳ	2後	2				○		2							
		スペイン語相互学習Ⅴ	3前	2				○		2							
		スペイン語相互学習Ⅵ	3後	2				○		2							
		資格スペイン語Ⅰ	2後	2				○		1							
		資格スペイン語Ⅱ	2後	2				○		1							
	小計(24科目)	—	0	48	0		—		4	0	0	0	0	0	兼5	—	
	選択科目Ⅱ	スペイン語コミュニケーション	スペイン語学概論Ⅰ	2前	2			○			1						
			スペイン語学概論Ⅱ	2後	2			○			1						
			スペイン語音声学・音韻論Ⅰ	2前	2			○								兼1	
			スペイン語音声学・音韻論Ⅱ	2後	2			○								兼1	
			スペイン語史概論Ⅰ	2前	2			○			1						
			スペイン語史概論Ⅱ	2後	2			○			1						
			日西語対照研究Ⅰ	2前	2			○								兼1	
			日西語対照研究Ⅱ	2後	2			○								兼1	
			ラテン語入門	2前	2			○								兼1	
			アメリカスペイン語研究Ⅰ	2前	2			○								兼1	
			アメリカスペイン語研究Ⅱ	2後	2			○								兼1	
			スペイン語学特殊研究Ⅰ	2前	2			○								兼1	
スペイン語学特殊研究Ⅱ			2後	2			○								兼1		
スペイン語学特殊研究Ⅲ			2前	2			○								兼1		
スペイン語学特殊研究Ⅳ	2後		2			○								兼1			
小計(15科目)	—	0	30	0		—		2	0	0	0	0	0	兼6	—		
選択科目Ⅱ	スペイン語圏文学	スペイン文学概論Ⅰ	2前	2			○			1							
		スペイン文学概論Ⅱ	2後	2			○			1							
		スペイン文学特殊研究Ⅰ	2前	2			○								兼1		
		スペイン文学特殊研究Ⅱ	2後	2			○								兼1		
		イスマノアメリカ文学概論Ⅰ	2前	2			○			1							
		イスマノアメリカ文学概論Ⅱ	2後	2			○			1							
		イスマノアメリカ文学特殊研究Ⅰ	2前	2			○			1							
		イスマノアメリカ文学特殊研究Ⅱ	2後	2			○			1							
		スペイン史Ⅰ	2前	2			○								兼1		
		スペイン史Ⅱ	2後	2			○								兼1		
		現代スペイン事情Ⅰ	2前	2			○								兼1		
		現代スペイン事情Ⅱ	2後	2			○								兼1		
		イスマノアメリカ史Ⅰ	2前	2			○								兼1		
		イスマノアメリカ史Ⅱ	2後	2			○								兼1		
		現代ラテンアメリカ事情Ⅰ	2前	2			○								兼1		
		現代ラテンアメリカ事情Ⅱ	2後	2			○								兼1		
		スペイン語文化特殊研究Ⅰ	2前	2			○								兼1		
		スペイン語文化特殊研究Ⅱ	2後	2			○								兼1		
		スペイン語文化特殊研究Ⅲ	2前	2			○								兼1		
スペイン語文化特殊研究Ⅳ	2後	2			○								兼1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
選択科目Ⅱ	スペイン語文化概論Ⅰ	2前		2		○									兼1		
	スペイン語文化概論Ⅱ	2後		2		○									兼1		
	小計(22科目)	—	0	44	0	—			1	0	0	0	0		兼6	—	
	海外語学研修	1前・後		4			○		1								
	小計(1科目)	—	0	4	0	—			1	0	0	0	0		0	—	
	卒業論文	4通		4			○		6								
	卒業研究	4通		2			○		6								
	小計(2科目)	—	0	6	0	—			6	0	0	0	0		0	—	
	専門科目 選択必修科目	外国語	初級英語①Ⅰ	1前		1			○								兼4
			初級英語①Ⅱ	1後		1			○								兼4
			初級英語②Ⅰ	1前		1			○								兼4
			初級英語②Ⅱ	1後		1			○								兼4
			中級英語①Ⅰ	2前		1			○								兼4
			中級英語①Ⅱ	2後		1			○								兼4
			中級英語②Ⅰ	2前		1			○								兼4
中級英語②Ⅱ			2後		1			○								兼4	
初級中国語①Ⅰ			1前		1			○								兼2	
初級中国語①Ⅱ			1後		1			○								兼2	
初級中国語②Ⅰ			1前		1			○								兼2	
初級中国語②Ⅱ			1後		1			○								兼2	
中級中国語①Ⅰ			2前		1			○								兼2	
中級中国語①Ⅱ			2後		1			○								兼2	
中級中国語②Ⅰ			2前		1			○								兼2	
中級中国語②Ⅱ			2後		1			○								兼2	
初級フランス語①Ⅰ			1前		1			○								兼1	
初級フランス語①Ⅱ			1後		1			○								兼1	
初級フランス語②Ⅰ			1前		1			○								兼1	
初級フランス語②Ⅱ			1後		1			○								兼1	
中級フランス語①Ⅰ			2前		1			○								兼1	
中級フランス語①Ⅱ			2後		1			○								兼1	
中級フランス語②Ⅰ			2前		1			○								兼1	
中級フランス語②Ⅱ			2後		1			○								兼1	
初級ドイツ語①Ⅰ			1前		1			○								兼1	
初級ドイツ語①Ⅱ			1後		1			○								兼1	
初級ドイツ語②Ⅰ			1前		1			○								兼1	
初級ドイツ語②Ⅱ			1後		1			○								兼1	
中級ドイツ語①Ⅰ			2前		1			○								兼1	
中級ドイツ語①Ⅱ			2後		1			○								兼1	
中級ドイツ語②Ⅰ			2前		1			○								兼1	
中級ドイツ語②Ⅱ			2後		1			○								兼1	
初級韓国語①Ⅰ			1前		1			○								兼1	
初級韓国語①Ⅱ	1後		1			○								兼1			
初級韓国語②Ⅰ	1前		1			○								兼1			
初級韓国語②Ⅱ	1後		1			○								兼1			
中級韓国語①Ⅰ	2前		1			○								兼1			
中級韓国語①Ⅱ	2後		1			○								兼1			
中級韓国語②Ⅰ	2前		1			○								兼1			
中級韓国語②Ⅱ	2後		1			○								兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	外国語	初級日本語①Ⅰ		1				○							兼3		
		初級日本語①Ⅱ	1後	1				○							兼2		
		初級日本語②Ⅰ	1前	1				○							兼1		
		初級日本語②Ⅱ	1後	1				○							兼1		
		中級日本語①Ⅰ	2前	1				○							兼3		
		中級日本語①Ⅱ	2後	1				○							兼3		
		中級日本語②Ⅰ	2前	1				○							兼3		
		中級日本語②Ⅱ	2後	1				○							兼3		
		小計(48科目)	—	0	48	0			—		0	0	0	0	0	0	兼30
自由科目	情報	情報スキルⅠ	1前	2				○				1				兼2	
		情報スキルⅡ	1後	2				○				1				兼2	
		小計(2科目)	—	4	0	0			—		0	1	0	0	0	0	兼2
	言語学	言語学概論Ⅰ	2前		2			○								兼1	
		言語学概論Ⅱ	2後		2			○								兼1	
		一般音声学Ⅰ	2前		2			○			1						
		一般音声学Ⅱ	2後		2			○			1						
		小計(4科目)	—	0	8	0			—		1	0	0	0	0	0	兼1
	外国語会話	英語会話Ⅰ	1前		1				○							兼1	
		英語会話Ⅱ	1後		1				○							兼1	
		英語会話Ⅲ	2前		1				○							兼1	
		英語会話Ⅳ	2後		1				○							兼1	
		小計(4科目)	—	0	4	0			—		0	0	0	0	0	0	兼2
	キャリア支援	キャリアガイダンス	1後		2			○			1					兼6	オムニバス
		職業能力基礎(SPI)言語	2後		2			○								兼2	
		職業能力基礎(SPI)非言語	2前		2			○								兼2	
		ビジネス実務研修Ⅰ	1前・後		2				○							兼1	
		ビジネス実務研修Ⅱ	1前・後		2				○							兼1	
		小計(5科目)	—	0	10	0			—		1	0	0	0	0	0	兼9
	ビジネス	観光ビジネス論Ⅰ	2前		2			○								兼1	
		観光ビジネス論Ⅱ	2後		2			○								兼1	
		エアライン・ビジネス論	2前		2			○								兼3	
		小計(3科目)	—	0	6	0			—		0	0	0	0	0	0	兼4
	専門科目	副専攻科目 英語	英語会話Ⅰ	1前	1				○							兼1	
英語会話Ⅱ			1後	1				○							兼1		
資格英語A			1前	2			○								兼2		
資格英語B			1後	2			○								兼2		
資格英語C			1前・後	2			○								兼1		
英語会話Ⅲ			2前	1				○							兼1		
英語会話Ⅳ			2後	1				○							兼1		
英語ボキャブラリーⅠ			3・4前	1				○							兼1		
英語ボキャブラリーⅡ			3・4後	1				○							兼1		
マスメディア英語Ⅰ			2前	2			○								兼2		
マスメディア英語Ⅱ			2後	2			○								兼2		
映画英語Ⅰ			2前	2			○								兼2		
映画英語Ⅱ			2後	2			○								兼2		
インターネット英語Ⅰ			2前	2			○								兼2		
インターネット英語Ⅱ			2後	2			○								兼2		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目 副専攻科目 中国語	英文法演習Ⅰ	3・4前		1			○								兼1	
	英文法演習Ⅱ	3・4後		1			○								兼1	
	海外語学研修(英語圏)	2前・後		4			○								兼1	
	小計(18科目)	—	0	30	0	—			0	0	0	0	0	0	兼12	—
	中国語会話Ⅰ	2前		1			○								兼1	
	中国語会話Ⅱ	2後		1			○								兼1	
	コミュニケーション中国語講読Ⅰ	2前		1			○								兼1	
	コミュニケーション中国語講読Ⅱ	2後		1			○								兼1	
	コミュニケーション中国語会話Ⅰ	2前		1			○								兼1	
	コミュニケーション中国語会話Ⅱ	2後		1			○								兼1	
	コミュニケーション中国語作文Ⅰ	2前		1			○								兼1	
	コミュニケーション中国語作文Ⅱ	2後		1			○								兼1	
	ビジネス中国語講読Ⅰ	2前		1			○								兼1	
	ビジネス中国語講読Ⅱ	2後		1			○								兼1	
	ビジネス中国語会話Ⅰ	2前		1			○								兼1	
	ビジネス中国語会話Ⅱ	2後		1			○								兼1	
	観光中国語Ⅰ	2前		2		○									兼1	
	観光中国語Ⅱ	2後		2		○									兼1	
	総合中国語Ⅰ	3前		2		○									兼1	
	総合中国語Ⅱ	3後		2		○									兼1	
	時事中国語Ⅰ	2前		2		○									兼1	
	時事中国語Ⅱ	2後		2		○									兼1	
	資格中国語Ⅰ	1後		2		○									兼1	
	資格中国語Ⅱ	1前		2		○									兼1	
映画中国語	2後		2		○									兼1		
コミュニケーション入門Ⅰ	2前		2		○									兼1		
コミュニケーション入門Ⅱ	2後		2		○									兼1		
海外語学研修(中国語圏)	2前・後		4			○								兼1		
小計(24科目)	—	0	38	0	—			0	0	0	0	0	0	兼9	—	
合計(293科目)		—	56	422	0	—		8	1	0	0	0	0	兼170	—	
学位又は称号		学士(スペイン語)			学位又は学科の分野			文学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
教養教育科目から16単位、専門科目の必修科目から52単位、選択科目Ⅰ及び選択科目Ⅱから36単位、選択必修科目(外国語)から8単位、自由科目から14単位以上を修得し、合計126単位以上修得すること。なお、副専攻を選択する場合は、教養教育科目の卒業所要単位が16単位から10単位、選択科目Ⅰ及びⅡの卒業所要単位が36単位から30単位に変更となり、副専攻科目12単位を修得すること。 [履修科目の登録の上限:44単位以下(年間)、ただし、各学期25単位を超えないこと]							1学年の学期区分		2学期							
							1学期の授業期間		15週							
							1時限の授業時間		90分							

# 授 業 科 目 の 概 要

(外国語学部 国際日本語学科)

科 目 区 分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(人間について考える) A系列	哲学A (哲学すること)	古代と中世の哲学を歴史的にたどることで哲学的思考の源泉に触れる。哲学がなぜ生まれたのかを理解してもらい、その歴史的展開の一端を辿ることを授業の目的とする。授業計画は以下のとおりである。①導入、②神話から哲学へ、③自然哲学者、④フュニスからノモスへ、⑤知恵の教師 ソフィスト、⑥「哲学者」の登場、⑦イデア論 最初の哲学説、⑧イデア論批判から形相質料説へ、⑨コスモポリタンの世界 ヘレニズム、⑩ヘブライズム、⑪イエス ユダヤ教改革 旧約から新約へ、⑫パウロ 教義の確立、⑬教父哲学 古代から中世へ、⑭中世スコラ哲学、⑮総括	
	哲学B (現代の哲学)	近現代の哲学の動向を歴史的にたどる。できるだけ哲学の生の文章に触れることを授業の目的とする。哲学の現在の姿を理解することを授業の到達目標とする。授業の計画は以下のとおりである。①導入: 中世から近代へ、②宗教改革、③宗教戦争とモラリストたち、④近代哲学の確立、⑤カント、⑥ヘーゲル、⑦実存主義: キルケゴール、⑧実存主義: ヤスパース、⑨現代思想: 精神分析学、フロイト、⑩構造主義、⑪プラグマティズム、⑫問題練習1、⑬問題練習2、⑭総括: 今後の哲学は?、⑮将来のために	
	心理学 (認識と行動のメカニズム)	心理学とは我々の日常経験についての科学である。観察可能な行動こそがその対象であり、環境や身体との関わりで心の問題を考える。本講義では基礎心理学の領域を中心に実験・デモンストレーションを交えて論じていく。授業の到達目標は以下の3点とする。①心理学の各トピックについての知識を科学的な事実に基づき説明できる。②心についての様々な考え方を個体と環境との関係という観点から説明できる。③心理学の様々な方法を実証科学的観点から理解実践できる。	
	宗教学 (宗教と人生)	本授業の目的は、歴史の大きな流れの中で宗教の位置を理解し、その意義を適切に判断できるようにするために、今日までの宗教に関する知識を修得することとする。宗教とは何かという問いを出発点にして、釈尊、大乘仏教、中世日本の仏教、禅、慈悲、宗教と自然、現代と宗教というようなトピックを扱っていく。授業の到達目標は、宗教を批判的な視点から説明できるようにすること。また現代の人間社会において、お互いを人格として尊重する共生の在り方の基礎を示すことができるようになることとする。	
	講座「言語と文化」	(概要) 講座「言語と文化」は大学での勉学と切り離せない、『ことば』に関わるテーマを扱う講座である。複数の教員が担当する各回を継続して受講することにより言語と文化をめぐる様々な現象を多角的に捉え、理解する態度を身につける。また、分野の異なる諸領域に関する知識と広い視野を持つ学生を養成することも目標の一つであるので、講師の議論を正確に理解するだけでなく、自ら問題を提起して、独自の考えを展開する心構えが要求される。さらに受講者には各講師の講義を聴いて詳細なノートを取ることを必要とする。 (オムニバス方式/全15回)担当講師が各回完結形式でことばに対する興味を喚起する。専門分野のゲストスピーカーの話を変えつつ、魅力的な言語・文化研究の世界にいざなう。  (21 安富雄平/4回) 受講ガイダンスに引き続き、語形成と形態論、言語生活と文化、日英語比較談義、言語と音声などを主題にして、言語文化に対する言語学的アプローチの数々を紹介する。  (23 大野英樹/5回) 言語学の既存概念を覆す様々な事象を紹介し、進化と文化に言語がいかに関わっているか、言語学の深淵を探る。  (12 塩崎 智/5回) 国際人とは何か、バイリンガル環境、拓殖大学と外国語などのテーマで「自分-日本-世界」の繋がりを考える。  (21 安富雄平/1回) 言語の科学的研究に向けてというテーマで一連の講義を締めくくる。	オムニバス方式
	外国文学A (英語圏の文学)	アメリカおよびカナダの文学作品を読み、文学作品の基本的な読み方を学ぶとともに、文学作品を通じて北米二大国の文化・社会のあり方についての理解を深めることを目的とする。日本文化との異同についても適宜留意する。英語で書かれた文学作品を読むことで、英文読解力を養いつつ、同時にその鑑賞眼と批評眼を養うこと、読後の感想を自分なりに言語化できるようになることも大きな目標とする。作品の背景にあるアメリカ及びカナダの社会・文化の様相を探るとともに、北米文学の基本的背景知識についても適宜学ぶ。	
外国文学B (ヨーロッパの文学)	あなたが「文学」に抱く(たぶん)重く暗いイメージはどこから来たのだろうか。その「文学的なもの」のイメージは、主に近代ヨーロッパの有名な作品に由来するものなので、そのコアな部分に実際に触れることを授業の目標とする。社会人の教養としての「文学」を、心の引き出しに入れること。ヨーロッパ近代文学の展開について基本的な理解を得ると共に、作品を実際に読解してその面白さや不思議さについて他人に説明できるようにすることが授業の到達目標である。		

科 目 区 分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	美術	この講義は、日本と西洋の美術史の基礎的な知識を身につけ、それぞれの特徴の時代的な移り変わりを理解することを目的としている。美術の背景にある、歴史、文学、哲学、宗教、科学などさまざまな分野にも目を配りながら、美術における様々な主題、表現技法、色彩、かたちをめぐる各時代、各地域の想像力と工夫を学ぶ。実物の作品を鑑賞することも重視する。美術を高尙で難しいものとして敬遠せず、身近に感じて親しむ感覚を持てることを授業の到達目標とする。	
	映像文化論	現代社会では、映像やそれをめぐる技術・制度・実践が日常生活に深く入り込んでいる。映像文化を理解することは、私たちの「日常」や「経験」をラディカルに問い直すことにつながる。この授業では講義形式により、このことを踏まえながら、映像文化が日常生活をどのように変えたのかについて歴史的な視座から考えていく。なお、講義では、100年以上前の映画からインターネット上の動画に至るまで、多種多様な映像資料を紹介しながら進める。以上の授業をとおして、過去と現在の映像文化を立体的に捉えることで、社会をより深く理解するための視座を身につけることを到達目標とする。	
	身体のトレーニング理論	身体のトレーニング理論では、スポーツトレーニングの基礎知識を理解していく中で、競技選手が最高のパフォーマンスを発揮するために必要なトレーニング方法を、メンタル面、体力面、食事面などの側面から学修していく。メンタルタフネスの診断と評価、身体のしくみと働きについての理解と応用、コンディショニング・トレーニングの進め方とその応用、スポーツと栄養の理解と応用、スポーツ障害と応急措置の方法について修得することを目標とする。	
	スポーツの歴史と社会	スポーツが生まれ成長発展した歴史的背景と共に、スポーツの存在意義や、その現状、抱えている問題点等について講義する。スポーツの持つエンターテイメント性、つまりスポーツの持つ光の部分と、それに対する影の部分をも理解し、スポーツそのものを愛せるように導きたい。授業の到達目標は、スポーツは人間社会の文化として存在していることを知り、それを他人に説明することができること、ならびに、スポーツは時代を大きく反映していることを知り、それを他人に説明することができることとする。	
	生涯スポーツ基礎演習	スポーツ種目の練習およびゲームの実施による活動から、健康と体力の保持増進を得ることを目的とする。授業の到達目標は、選択したスポーツ種目を身につけて行く過程において、様々な体力をつけること。また、仲間とコミュニケーションを取り友情を育むこと。チームのために協力し、自己犠牲の精神を養うこと。選択したスポーツ種目の考え方やルールを知り、基礎技術を修得すること。第三者に対し、そのスポーツ種目を教えることができることとする。	
	トレーニング基礎演習	日常生活の中で歩行による運動量を確保し、体力向上に必要なプログラムを作成する能力を育てる。作成したプログラムにより、学生生活はもとより生涯にわたる身体活動の実践で、生活習慣病・メタボリック症候群等を予防する。授業は、歩行運動による運動量の確保に重点を置き、一週間当たり23エクササイズ以上の歩行運動を実施する。運動習慣の重要性を学び、実践によって身につける。毎日の生活に意識的に歩行運動を取り入れること。また、出来る限り歩数計を購入し常時携帯し、自身の週間歩行運動量を測定・記録していくこと。	
	日本史 (近代日本の歴史)	幕末からアジア・太平洋戦争に至る日本の近代化の様子と日本社会にもたらした変容について考察する。市井の人々(子供、女性を含む)や、移民先、植民地など「外地」に生きた「日本国民」にも言及する。授業の到達目標は以下の3点である。①近代化がもたらした社会の変容を説明できるようにする。②近代日本史とは、一國史(国境内で展開された歴史)ではなく世界史の一部であることを説明できるようにする。③女性、子ども、来日外国人などに焦点を当てて、現代と近代との継続性、断絶面を説明できるようにする。	
	近代社会の思想史	今日のわれわれの社会が抱える「公と私との対立」という問題に様々な場面で直面している。この授業では講義形式により、現代社会が抱えるさまざまな困難を、大きな歴史的流れのなかで把握しながら、それを克服する糸口を見いだすことを目指す。なお、講義では、イギリス17・18世紀の思想家が公と私との対立という問題を巡って展開した人間・社会・科学観に学びながら、今日われわれが直面している当の問題を検討する。まず、F・ベーコンの科学の方法から始め、①近代社会とは何か、②T・ホブズの家社会論、③J・ロックの経験的認識論と統治論などを考察しながら講義を進める。以上の授業をとおして、過去をふり振り返りながら、現在や未来を見つめる眼を養うという、歴史を学ぶことの意義を知ることが、その到達目標である。	
	社会学 (個人と社会)	日常生活にあつて「個人と社会」は、どのように関わり、どんなメカニズムで「ものの考え方や行動の仕方」を身につけ、個性を形成していくのか。また、「人間関係」や「働くこと」の意味について考える。日々の何気ない行動を振り返る中で、「自分」を社会的な枠組みの中に位置づけて理解するとともに、他者との関わりをもつ意義や、個人と社会の具体的な結びつきとしての「職業」がどのような意味を持っているのか、「個人と社会」が具体的に実践的に関わる「働くこと」について議論できるようになることを到達目標とする。	
	法学A (国家と憲法)	憲法とは国家存立の基本的な条件を定めた根本法である。憲法が定める国の統治権、根本的な機関、作用などについて基礎的な知識を得る。さらに、法の支配とは何か。国家とは何か。といった問題を考えることを通して、日常の事例から法や国家のあるべき姿＝社会正義についての基本的な考え方を修得するとともに、民主主義の基本原理であり、憲法が定める国民民主権を機能させるための、国民としての基礎知識を修得する。特に議会の意味、機能、なぜ民主主義なのかを理解することを到達目標とする。	

教養教育科目  
(社会) B  
系  
列  
考  
え  
ス

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
C	法学B (生活の中の法)	この授業では、講義形式により、2010年にNHKで放送され、文庫本に収録されたハーバード大学の講義「ハーバード白熱教室」を教材として、日常生活に密接に関連する法律について学ぶ。同教材の概要をまとめたレジュメを解説しながら授業を進め、具体例について質疑を多く行う。以上の授業をとおり、①正義とは何かを意識し、②守るべき法と変えるべき法の区別ができ、③社会生活を営む上で必要とされる基本的な法的知識を修得し、④法的知識の解釈や法的思考を身につけること、を目標とする。	
	流通論 (流通とマーケティング)	生産と消費を架橋するものが流通で、商品を生産者から消費者へ効率よくかつ効果的に流通させる社会的仕組みである流通機能を理解する。また、マーケティングは、その概念、機能、構造や環境等を射程に入れた内容を体得する。流通は生産と消費を架橋し、商品の社会的移転を円滑にするという重要な役割を理解することができる。また、マーケティングの基礎理論を使い、企業・組織の基本的マーケティング諸活動を認識し、説明することができることを到達目標とする。	
	情報化社会とマスメディア	情報化がマスメディアにもたらす影響は単にマスメディアの問題に留まらず、日々を生きる我々ひとりひとりにとって大きな影響力を持つようになった。この授業では講義形式により、情報技術の歴史と最新技術を学び、そこからマスメディアが我々にどのような影響をもたらしてきたかを考察する。なお、講義では、情報化以前と以後の社会のメディアを対象として、まず、情報化社会とマスメディアとは何かから始め、①マスメディアと権力及び動員、②インターネットとアーキテクチャ、③メディアの現実などを考察しながら講義を進める。以上の授業をとおり、本講義は情報化がマスメディアにもたらした影響の分析とそれを理解することを目的とする。	
C系列 (自然と環境について考える)	自然界のしくみ	自然界には、大きくは測りしれない大宇宙から、小さくは顕微鏡でも見られない微粒子の世界までさまざまな階層が存在している。この授業の目的は、こうした自然があらゆる複雑さと巧妙さ、調和の美しさを理解することが授業の目的である。授業の到達目標は、大宇宙から微細な粒子の世界までさまざまな自然の階層が示す諸事象に関して、また、地球上の多様な変化や多種の存在に関して、そのしくみや特徴を、自分の言葉できちんと説明できるようになることである。	
	自然認識の歴史	人類は、その英知と器用さを武器にして、自然を一つひとつ説き明かし、社会を劇的に発展させてきた。この授業の目的は、社会発展の基礎の一つになっている自然の認識を歴史を介して理解し、あたりまえのように感じている自然の知識がどのような条件・経過をたどって現在のようになったか、再認識してもらうことである。授業の到達目標は、自然認識の歴史を社会発展とのかかわりで理解し、人類の自然認識の特徴および自然認識のしかたから人はどうあるべきかについて、自分の言葉で説明できるようになることである。	
	生態学 (環境と生態系)	文科系の学生にも必要な教養の範囲で、生物の進化、生態学、文化生態学の基礎を習熟する。地球45億年の歴史の流れを把握した上で、人間社会の文化的多様性がなぜ発生したのかを知り、人類の環境への適応と文化の進化についての理解を深める。到達目標は、地球45億年の主なイベントを理解する。生物の進化のメカニズム、人間社会の文化の進化のメカニズムを、「環境への適応」をキーワードとして統一的に把握できるようになること。「環境への適応」という考え方をベースに、今後の人類が進む方向性を展望できるようになることとする。	
	天文学A (太陽系のしくみ)	太陽系のしくみを学ぶことで、地球がいかに特別な惑星であることを知る。太陽系を構成する惑星の特徴を順番に学んでいく。さらにその他の惑星や小惑星などについても学ぶ太陽系の全体像をつかむ。人類は宇宙の中の恵まれた環境のもとで生まれたかを知ることで、自分自身と他人という存在や自然環境の問題に関心を持つことを目的とする。この授業をとおり、自然科学と技術に対し興味関心を持ち、宇宙や天体などをはじめとする身のまわりの様々な現象について、自然科学的に見たり考えたりする態度を持つことを到達目標とする。	
	天文学B (宇宙のしくみ)	宇宙の環境は厳しい。飛び交う放射線、灼熱と極低温の世界である。地球に生命が存在するのはただただ偶然である。宇宙に関する最先端の知見をベースにして、宇宙の始まりとその成長発展を知り、地球に知的生命体である人間が誕生出来た理由を探索する。授業の到達目標は、宇宙及び科学技術に関する知識の蓄積により、新聞の科学記事やテレビの科学番組に興味関心を持ちながら理解して視聴出来るようになること。社会人になっても自然科学に対して関心をいだき続けられることとする。	
	地球科学A (地球の構造と歴史)	生命にとってかけがえのない地球を理解するためには、地球内部の構造と人類の生活舞台である地球表層の地質学的変遷について学ばなければならない。この授業では、地球誕生からの歴史と環境変遷がどのような方法で調べられてきたのかを修得することを目的とする。地球で起こる様々な自然現象を衛星画像や各種文献の紹介を通じて学ぶ。受講生が持った関心テーマの理解を深めるために、受講生に講義に関連した施設の見学と聞き取り調査レポートの作成を義務付ける。これを通じて自らの切り口で「地球の構造と歴史」を関係付けて説明できるようにすることが目標である。	
	地球科学B (地球環境の変動)	私たちが生活する南北3000kmに及ぶ日本列島の成り立ちから始まり、四季折々の美しい自然がどのように彩られてきたのか、そこに暮らす人と動植物・山・川・海・大気と衣食住(社会的共通資本など)の関わりを視野に入れた多様な視点で、地域の理解を深めることを目的とする。自分自身や家族の暮らしがどのような自然環境の下で育まれ成立してきたのか現状を認識すること、自身が将来生活するであろう場所においても、地域の自然を理解して問題の解決に取り組める基本姿勢が身に付けられることを到達目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(コミュニケーションD系) 能力を高める	文章表現の基礎	大学生として必要とされる文章表現の(基礎力)を育成することを目的とする。書き言葉によるコミュニケーションでは、書き手すなわち情報の発信者にすべての責任があるのであって、伝えたいことがうまく伝わらないという事態が生じた場合、読み手すなわち情報の受信者にはなんの責任もない、と考えることがこの授業での学修の出発点である。半期の授業の前半では、目的に応じた実用的な文書を書く力を身につける。後半では自分が考えたり、調べたりした事柄を、読み手の誰もが理解できるように記述する能力を身につけることを目標とする。	
	口頭表現の技法	現代の社会人にとって、プレゼンテーションや会議などの場面で話す機会は大変に多い。この授業では、日本語の特徴や話し方のコツなどを知り、自分の考えや思いを堂々と話せるようになることを目指す。また、社会に出た時に役立つ、敬語などについても学ぶ。自分の考えや思いをきちんと伝えることができる、正しい敬語が使える、この2つが大きな目標である。授業を受けているうちに、人前で話すことに抵抗がなくなり、自分の話し方に自信が持てるようになる。	
	ビジネス文の書き方	自分が会社や役所などに勤務している状況を想像して、さまざまな状況に応じた文書の作成を練習することを通し、これから将来に向けて、ビジネス文書と自分との「関わり方」を確立することを目指す。授業の到達目標は「ビジネス文書」というジャンルの意義と機能を理解し、ビジネス文書に用いられる言葉や表現様式を適切に使用できるようにする。状況ごとにどのような表現がふさわしいのか、自分で創意工夫できるようになることである。	
	レポートの書き方	大学生として必要とされる文章表現の(応用力)を育成することを目的とする。具体的には、大学生や社会人に必要とされるA4サイズ2、3枚程度のレポートを書く力を身につけることを目指す。半期の授業の前半は「情報」を書きこぶことで的確に伝えるためにはどのような工夫が必要か、ということ意識して、「情報」の選択法、分類法、配列法、展開法、そして文章化の方法を学ぶ。後半は「情報」、すなわち述べたいことの「種」を蒔き、育て、鍛える方法を学ぶことによって、書き言葉を使った議論ができるような文章力を身につけることを目標とする。	
	プレゼンテーションと交渉	プレゼンテーション並びに交渉を通じて、自己の意見や要求を他者に明確に伝えること、他者の意見や要求を理解すること、そして他者を説得することにより、自らと相手のチャンスを共に切り開いてゆくことを学ぶ。授業の到達目標は、プレゼンテーションと交渉に関する基礎的な知識と考え方を踏まえた上で、「人を説得する」には何が必要かを意識しながら、適切なコミュニケーションを用いて、交渉並びに提案型のプレゼンテーションが実施できることとする。	
(学E系) 実際	職業と人生	変化が激しい現実社会の動きを理解した上で、大学卒業後に「どのような人生を歩みたいか」を考え、職業観や働き方を踏まえたキャリアデザインが描けることが重要となっている。この授業では講義形式により、まず、キャリアデザインの必要性から始め、①キャリア・アンカーの仕事、②ロールモデルの必要性、③コミュニケーション能力は何か、④AIと職業、⑤業界・企業選択のやり方などを考察しながら講義を進める。以上の授業をとおして、①自己の課題を発見し、学生生活を通じて身につけていく能力・スキルを分析できること、②キャリアを取り巻く外部環境の現状と課題について説明することができること、さらに、③現実社会に即した視点・観点で自身のキャリアをデザインし、具体的な行動計画を立案することができることなどを到達目標とする。	
	防災と安全	日本人は災害から逃れることができない。近年は「災害は忘れたころにやってくる」という時代から「災害は忘れる前にやってくる」時代に入っている。本授業は防災・減災・知災・備災について知ることが目的である。到達目標は以下の3点である。①災害に対して、日常的な備えを行うとともに、状況に応じて安全を確保するための行動ができる。②災害発生時及び事後に、進んで他の人々や集団、地域の安全に役立つことができる。③自然災害の発生メカニズム、地域の自然環境、災害や防災についての基礎事項を理解する。	
専門	日本語学概論	本授業では、日本語に見られるさまざまな現象を取り上げて、日本語とはどのような言語なのかについて考えていく。日本語学について概観し、特に日本語の構造に関わる諸分野、すなわち、音韻・音声(分節音、プロソディーなど)、文字・表記(文字体系、漢字仮名交じり文など)、語彙(意味、語構成、語種など)、文法(文のしくみ、品詞、形態、文法カテゴリーなど)、および待遇表現(敬語など)における基礎的な事項を学ぶとともに、日本語に見られる諸現象について分析する方法を、具体例を通して学ぶ。以上の授業をとおして、日本語とはどのような言語なのかをテーマとし、日本語の諸現象について説明ができるようになること、および、日本語の構造について分析ができるようになることを到達目標とする。	
	日本語教育概論	日本語を母語としない学修者に対し、どのように日本語を教えるかを、文法、語彙、文字、音声だけでなく、社会言語学的見地や学習者のニーズ・特性など様々な観点から考察し、日本語のしくみや特徴を再認識すると同時に日本語教育への理解を深めることを目的とする。授業では講義形式を中心とするが、さまざまな活動を通して自らの日本語使用の現状や日本語能力を振り返る機会とすることで、日本語教育において必要な視点や考え方を身につけることを目指す。以上の授業をとおして、自分自身の力で学習者のニーズや特性に合わせた教授法を選び、教材を作成することのできる、自律した日本語教員の基礎となる考え方を身につけることを目標とする。	

科 目 区 分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
必修科目	基礎	国際日本語論	国際的な言語というと、多くの場合大言語と称される言語が目され、とりわけ英語の国際語としての勢力は揺るぎないものがある。本講義では、まず「国際語」の歴史的な推移を振り返り、その存立背景と果たしてきた役割について検討を加える。その上で、日本語が現在までに、世界の中でどのように受容されてきたのか、日本語は国際語と呼ぶに足る言語なのかなど、日本語母語話者、学習者にとって重要な問を中心に、日本語が国際語として確立される過程を検証し、その実像を客観的に把握するとともに、国際日本語の将来像についても考察していく。	
		日本語史	本授業では、日本語の歴史を概観し、古い日本語がどのように変遷して、現代日本語ができあがってきたのかについて見ていく。特に、古典文法(文語文法)の基となった古代語文法体系の成立(に至る経緯)やその後の変遷(口語文法の基になった文法体系への変容)、歴史的仮名遣いの基となった「五十音図」に見られる古代語音韻体系の成立(に至る経緯)やその後の変遷(現代仮名遣いの基になった音韻体系への変容)を中心に、文字・表記や語彙などの変遷も含め、各時代の日本語の特徴を、文献資料を基に探っていく。以上の授業をおして、本授業は、日本語の歴史、特に音韻・語彙・文法・表記等の変遷をテーマとし、古典日本語がどのように変遷して現代日本語が成立したかについて説明ができるようになることを到達目標とする。	
	初年次教育ゼミナール	学修への取り組みについて演習形式で指導する。カリキュラムについての理解を深め、自身の関心のあり方に沿った科目選択、コース選択、ゼミ選択ができるようになることを目指す。少人数クラス編成を活かし、上記テーマについての課題発見・討議・解決型の能動的学習活動を多く行うことにより、学修への主体的、能動的な取り組み姿勢を身につける。また、日本人学生、留学生混成集団における異文化間交流を通じ相互理解の難しさを体験し、異文化に向き合うことを主体的、能動的に考える姿勢を身につける。		
	日本語相互学習Ⅰ	留学生は、日本語を使用し日本人と交流する中で、日本語とその使用についてさまざまな疑問を抱き、困惑する。この授業では、日本人学生と留学生からなる少人数のグループに分かれ、そうした疑問の中からいくつかを選び討議を行いながらともに考えていくアクティブラーニング活動を中心とする。その過程で各自がこれまでに学んできた日本語についての知識を活用することにより、より深い日本語理解を目指す。また、必要な情報を聞き出す、説明したり、疑問に答えたりするなど今後の学修に役立つスキルも同時に学ぶ。さらに、検討結果をポスターやプレゼンテーション用資料にまとめ発表する機会をもつ。		
	日本語相互学習Ⅱ	日本人学生と留学生からなる少人数のグループに分かれ、それぞれが独自に「八王子における留生活活用事業」などのテーマを設定し、それを実現するため計画づくりを行うプロジェクト・ベース・ラーニング型の演習である。企画実現に必要な課題を見つけ、それを解決するために調査し、話し合う活動を通じ、日本語の運用能力と同時に、対人コミュニケーション能力の向上を目指す。なお、質の高い企画ができたならば、グループとして自治体等学外の参加型企画事業への応募も目指させる。		
	3年ゼミナール	指導教員が掲げるゼミのメインテーマと自身の関心を照らしあわせ所属ゼミを選択する。3年ゼミナールでは、メインテーマについて、指導教員の指導のもと全員で協働しながら調査、考察、発表、討論する活動を行う。これにより、卒業論文のための調査、研究の手法を身につける。同時に、卒論につながる個人研究のテーマの追求も行う。これも全員・グループ討論の中でテーマを絞り込んでいく。ゼミナールは、所属学生が協働してつくり上げる学修の場である。健全な人間関係を構築しながら、各自の役割、責任を明確にし、協働できる社会的人間としての人格形成も目指す。		
	4年ゼミナール	4年ゼミナールでは、これまでの専門領域についての学修成果と3年ゼミナールで培った調査・研究手法を活かし、個人研究テーマの解決に向けて研究する。各自が調査した成果を定期的にゼミナールで発表し、指導教員やゼミ生と討論を行うことにより、研究テーマについての理解を深めていくと同時に、プレゼンテーション能力を磨く。また、他ゼミナールの討論会の設定など、協働の範囲をより広くし、積極的に協働に参画する姿勢をはじめとする社会性の向上も目指す。		
	卒業論文	卒業論文は、3年・4年ゼミナールで各自が行ってきた個人研究を論文の形式で表す。国際日本語学科の学生にとっては、専門領域の学修の中で深めてきた日本語教育、あるいは日本語・日本文化についての知識、考察を示すと同時に、日本語表現のエキスパートとして磨いてきた明瞭かつ豊かな表現を示す集大成である。執筆に際しては、ゼミナールの指導教員の指導のもと作成した年次執筆計画に沿って主体的かつ能動的に調査研究を進めると同時に、4年ゼミでの発表、討論を通して考察を深め、最終的に論旨に一貫性のある卒業論文(学士論文)を完成させる。		
	卒業論文	アカデミック日本語Ⅰ(留学生)	大学で科目を履修する際には、授業を聴く、ノートを取る、教科書やプリントを読む、資料・文献を調べる、口頭発表をする、レポートを書くといった学習スキルが必要とされる。アカデミック日本語Ⅰでは、実際の日本語による講義を事例として用い、聴きとった内容を提示される資料や図表と組み合わせ、効果的にノートにまとめるといった受容的スキルの向上を演習形式の中で目指す。また、国際日本語学科の必修科目をはじめとする主要科目でよく使われる語彙についての理解も深めていく。	
		アカデミック日本語Ⅱ(留学生)	アカデミック日本語Ⅰで目指した受容的な学習スキルの向上を引き続き行うとともに、口頭発表をする、レポートを書くなど、日本語による表出的な学習スキルの向上を目指す。そのために、実際に学生が提出したレポートや発表時の映像をサンプルとして用い、良い点、悪い点を確認し、特に、問題点についてはそれを改善する方法を考える。このような活動を通じ、より良い表出の形式についての理解を深め、自身のレポート作成、発表の際に活かせるようにする。	

科 目 区 分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 日 本 語 I (留 学 生)	日本語リテラシーⅠA (留学生)	新聞記事などの情報伝達型の文章を読み、事実の相互の関連を正しく把握する読み方のほか、自分の関心・目的に合わせて必要な情報を速く正確に読み取るスキミング能力を養い、多読、速読ができるようになることを目指す。また、文章の要点をとりまとめて理解するスキミング能力を高める練習を行なう。これらにより、読んだ文章の内容の要約を、レポート中の引用として使う、あるいは自分の意見主張の根拠として活用するなどの、発信を意識した読み方ができるようになることを目指す。	
	日本語リテラシーⅠB (留学生)	この授業では、情報伝達を主な目的とする文章を書くために必要な文法的知識や文章構成の技法を学ぶ。読んだ文章の内容を客観的に要約することも含め、意見陳述の基盤となる根拠事実を正確に叙述できるようになることを目指す。同時に、手紙、依頼文、レポートなど、その目的と内容によって形式や文体を変えて書くことが求められる日本語のあり方と文体の差異についても学び、公的/私的などのTPOに応じた語彙や表現など、適切な文体の選択への意識向上と能力向上を目指す。	
	日本語リテラシーⅡA (留学生)	新聞の社説や評論文など、筆者の主張が含まれる文章を中心に読み、筆者の主張を正しく読み取るとともに、展開される根拠と主張の関連を把握する読み方を学ぶ。そのために、根拠、主張それ自身の妥当性のみならず、関連づけの妥当性についても判断を下しながら読む分析的かつ批判的な読み方を行なう。これらの読み方により、読んだ文章の中に課題を発見することができるようになることを目指す。また、自分で文章を書く際のモデルとなる文章展開のあり方を身につけることを目指す。	
	日本語リテラシーⅡB (留学生)	自分の考えを他者に誤解なく、そして明快に伝えるための文章を作成する方法を身につける。「わかりやすい」文章とするためには、思いつきで文を書き連ねていくのではなく、手順が必要である。この授業では、まず何を書きたいかというアイデアのマッピングからはじまり、アウトラインの作成、そして素材や資料の収集を経て、最終的に文章を書くにいたる一連の手順による文書作成を学ぶ。また、説得力のある文章に共通する要素を検討し、自身の文章作成において活用できる手法を学ぶ。	
	日本語リテラシーⅢA (留学生)	この授業では、卒業論文にもつながるような構成と内容的妥当性を有するレポートの書き方を学ぶ。序論・本論・結びという基本となる全体構成、そして一つ一つの論拠の内部構成など、各部分がどのような構成上の目的を持って書かれているのかを学ぶ。以上の授業をとおして、みずからもそのような構成でレポートをまとめられるようになることを目指す。また、資料の引用、提示のしかたなど、レポートを信頼できるものとするためのルールについても学ぶ。	
	日本語リテラシーⅢB (留学生)	この授業では、自省的に文章を読むことを通して読みの理解を深めることを目指す。通常人が文章を読む際に無意識に行っている、グローバル、あるいはローカルな「自問」を意識しながら文章を読むことにより、内容の正確な理解のみならず、筆者の意図する論理の構成のあり方やほころびにも目を向けていくことができる。また、このような読み方をすることで、いわゆる読解問題の作成者の考え方にも気づくことができ、さまざまな読解問題への解答能力の向上もあわせて目指す。	
	日本語リテラシーⅣA (留学生)	この授業では、各種雑誌に掲載されている論文を読み、「日本語リテラシーⅢA」で習得したレポートの構成のあり方についての知見が論文を読んでいく上でも有用であることを体験していく。図表を多用した比較的平易なものからはじめ、抽象的な概念や仮定などにもとづく難易度の高いものまで数種類の論文を読んでいく。自分がレポートを書く際のモデルとすることができるよう、構成分析を行うとともに、それら論文内容を自分のレポートに引用することを想定した練習も行い、レポート作成能力の向上を目指す。	
	日本語リテラシーⅣB (留学生)	この授業では、日常的に各種の文章を読みこなしていく読解力を身につけるために、重要語句、重要文型の把握はもちろん、文章全体における類似性・反意性などに着目しながら、文の流れをつかむ練習を通し、文脈を追い、文意や文章全体の趣旨または筆者の意図を的確に捉える能力向上を目指す。あわせて、グローバル、あるいはローカルな「自問」を意識しながら読む練習も行い、これにより日本語能力試験などの読解問題への解答力の向上も目指す。	
	日本語 コミュニケーションⅠA (留学生)	この授業では、主として会話参加者としての話す力の向上を目的とする。インフォーマルな場における個人的あるいは一般的な興味に関する話題について話す際に、良好かつ円滑な人間関係が保てるよう、あいづちや問い方、ターンの受け渡しのほか、非言語要素も含む様々なコミュニケーションスキルを学び、また、実践していく。同時に、話し言葉と書き言葉の違いや、敬語の用法についての理解を深め、それらを意識することで場面や相手にふさわしいスタイルで発話できるようになることを目指す。	
	日本語 コミュニケーションⅠB (留学生)	この授業では、主として「聴く」力の向上を目指す。正確に聴き取り理解することはもちろん、それをあとで利用、あるいは他者に伝達することができるように、聞き取ったことを分かりやすくノートに残せるようになることを目指す。この「ⅠB」では、事実関係中心のニュースから解説型のものまでを見ながら重要部分をメモとして書き残し、そのメモをもとに他者に内容を簡潔に報告する練習を繰り返し行い、ノート・テイキング技術の基本を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目 I	日本語コミュニケーションⅡA (留学生)	この授業は、主として対話参与者としての話す力の向上を目的とする。「日本語コミュニケーションⅠA」で学んだ円滑な人間関係に寄与するコミュニケーションスキルのブラッシュアップとともに、依頼、拒否、助言、弁明など、より相手の気持をおもんばかる必要がある交渉場面を想定した練習などを通じ、トラブルの回避・解消、さらには信頼醸成のためのコミュニケーションスキルの獲得を目指す。また、敬語についても、より積極的かつ正確な使用ができるように練習を行う。	
	日本語コミュニケーションⅡB (留学生)	この授業では、主として「聴く」力の向上を目指す。、正確に聴き取り理解することはもちろん、それをあとで利用、あるいは他者に伝達することができるように、聞き取ったことを分かりやすくノートに残せるようになることを目指す。この「ⅡB」では、ドキュメンタリーやMOOCなどで公開されている講義映像を素材とし、視聴しながらノートを書き残すとともに、のちに概要を他者に報告する練習を通じ、ノート・テイキング技術の向上を目指す。また、報告の様態も、プレゼンテーションを意識したものとしていく。	
	日本語コミュニケーションⅢA (留学生)	この授業では、アカデミックな場、あるいはフォーマルな場での発表能力の向上を目指す。所定の場面と求められる発表内容にあわせたスピーチの構成のしかた、伝える順序や伝えるためのメディアの利用のしかた、さらに、発表にふさわしい表現のスタイルを身につける。また、発表者のほかに、発表の場にいる司会者、聞き手などの他の役についても、その役割や場面にふさわしい目的とスタイルを意識した発話や、質問などができるようになることを目指す。	
	日本語コミュニケーションⅢB (留学生)	社会的なニュースなどの具体的な話題について、詳細な説明、描写ができ、また、相手に配慮しながら人間関係を損なうことなく、説得力を持った意見を述べる、あるいは、説得、助言ができるようになることを目指す。授業では、時事ニュースを話題に取り上げ、自身の言葉で叙述・伝達する、意見や感想を述べる、他者の意見や感想を聞く、取りまとめるといった一連のやり取りを繰り返し練習する。また、練習の際に仮想役割を導入することで待遇表現についての理解も深める。	
	日本語コミュニケーションⅣA (留学生)	この授業では、様々なテーマを論題として討議・討論する能力の向上を目指す。テーマに含まれる論点の指摘、自分からの意見の提示、相手の意見への同意・反論、対立の仲裁・まとめ、別の論点への転換、討論全体のまとめなど、討論の際に次々に現れる役回りのそれぞれについて学ぶ。討論番組などで討論参加者の役回りや表現スタイルを確認しつつ、自らが討論参加者としてふさわしい表現スタイルで発言できるようになることを目指す。	
	日本語コミュニケーションⅣB (留学生)	「共生」などの抽象的概念について、詳細な説明、描写ができ、また、話し相手のみならず、内容に関与するすべての者に配慮し、人間関係を損なうことなく、説得力を持った意見を述べる、あるいは、説得、助言ができるようになることを目指す。授業では、「多文化共生」などのテーマについて、演繹的に、あるいは帰納的に理解をすすめる話し合いの練習を行う。また、対談などの映像を参考に、相互の考えの差異がどのように表現され、調整されていくかについても理解を深め、実践できるようになることを目指す。	
	日本語ファウンデーションⅠ (留学生)	日本語ファウンデーションⅠでは、中級前期までの語彙、文法を確認し、それらを正確に理解し、正しく、かつ適切に使えるようになることを目指す。いくつかのテーマについての文章、音声素材を材料とし、それらについて理解し、自分自身の考え・意見を表現するために必要な語彙・文型を学ぶ中で、読む・聞く・書く・話すための日本語の基礎を積み上げる。さらに、正しく聞き取り、聞き取りやすく話すために、単音から単語レベルでの聴音、発音の基礎指導も徹底する。	
	日本語ファウンデーションⅡ (留学生)	日本語ファウンデーションⅡでは、中級後期の学習項目として位置づけられる日本語の語彙、文法を確認し、それらを正確に理解し、正しく、かつ適切に使えるようになることを目指す。いくつかのテーマについての文章、音声素材を材料とし、それらについて理解し、自分自身の考え・意見を表現するために必要な語彙・文型を学ぶ中で、読む・聞く・書く・話すための日本語の基礎を拡充する。さらに、正しく聞き取り、聞き取りやすく話すための、単語～文レベルでの聴音、発音の基礎指導を続ける。	
	専門日本語[観光] (留学生)	この科目の対象者は、将来、日本および母国における観光産業に従事し、日本語による通訳や翻訳業務を担うことを想定する。まず、観光学に関する基礎的な文献から高度な専門書に見られる専門語彙および表現について学ぶ。また、受講者それぞれの母国における代表的な観光資源を紹介するための日本語による口頭表現形式と書記形式について学ぶ。よって、日本における観光産業のみならず、母国における観光産業(地理・歴史的知識を含む)についても自ら学ぶ姿勢が求められる。	
	専門日本語[メディア] (留学生)	この科目の対象者は、将来、主にメディア業界に就職を希望する留学生を想定しているが、メディアに対し興味・関心があり、メディアを日常的に利用している人であれば、誰でも対象となる。内容としては、まず、過去から現在に至る日本の新聞、週刊誌、テレビなどのニュース報道を対象に、メディアで多用される日本語表現についての知識を身につける。また、政治・経済・文化・社会等のメディア報道に頻繁に用いられる語彙について学修する。	

科 目 区 分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択日本語Ⅰ（共通）	日本語文法研究Ⅰ	本講義では、日本語の文法形態(単語・品詞・活用等)に関する基礎的な知識を身につけることを目指す。まず、文法単位・文法形態に関して、いわゆる学校文法と日本語教育文法における基本的な考え方・整理の仕方を概観する。ついで、助詞について、その意味・用法の分類・整理を行う。その際、日本語学習者の誤用例の分析も取り入れ、学習上の留意点にも触れる。また、指示詞、助数詞などの他、日本語の形容詞の特殊性についても考察する。以上の授業をとおして、学校文法と日本語教育文法の特徴を捉えるとともに、日本語の文法形態に関する基礎的な知識を習得すること、また、日本語学習者の誤用が特に多い格助詞についての理解を深めることを到達目標とする。	
	日本語文法研究Ⅱ	本講義では、「日本語文法研究Ⅰ」を踏まえ、日本語教育の視点から動詞・動詞文に関する基礎的な知識を身につけることを目指す。まず動詞の分類(自動詞・他動詞等)、動詞の文法力カテゴリー(ヴォイス・アスペクト・テンス・モダリティ)や待遇表現などを概観し、ついで動詞文を中心に日本語初級文法について考えを深めていく。また、日本語学習者の誤用例の分析を通して、これらの項目の学習上の注意点もおさえる。以上の授業をとおして、日本語教育の視点から動詞の様々な機能を理解し、主に動詞・動詞文に関する基礎的な知識を身につけること、並びに、日本語学習者の誤用しやすい文法事項に関する理解を深めることを目的とする。	
	日本語文法研究Ⅲ	日本語の文の構成について、「主体+動作・状態」という意味面から見る立場、「主題+述部」という情報面から見る立場等、いくつかの立場があるが、意味面・情報面から見る立場双方を考察し、具体例の分析を行うことによって、日本語の文の基本的な構造について明らかにしていく。また、文を拡大する成分とも言うべき、連体成分・連用成分についても扱う。さらには、教育の現場において、このような文の構成についての知見をどのように生かすことができるのかを考察する。以上の授業をとおして、本科目は、日本語の文の組み立てをテーマに、文の各成分を意味面・情報面からどのように位置づけることができるかを分析・考察し、日本語の文の構成についての知見を身に付けることを到達目標とする。	
	日本語文法研究Ⅳ	文の成分間の関係には、相互依存的なもの、従属関係があるもの等、異質な種類のものが存在することを理解した上で、そのような関係の背景となる、動詞と名詞の格形式との関係、名詞・動詞の語義の特徴等、文法形式および語義・語彙体系という視点から具体例を分析し、文の組み立てにおける文法的要素、語彙的要素の相互関係を考察する。さらには、このような文法と語彙の相互関係という知見を、実際の教育においてどのように応用できるかを考察する。以上の授業をとおして、本科目は、日本語の文の成分間の関係をテーマとし、成分間の関係が文法形式・語義の特徴等の相互関係によって成り立つことを分析・考察することによって、文の構成における、文法的要素、語彙的要素についての知見を身に付けることを目標とする。	
	日本語文章表現Ⅰ	相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと、論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えをまとめること、対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くことなどの表現活動に取り組むことによって、日本語による文章表現の基礎的な力を身につける。具体的には、文章や図表などを出典を明示して引用して、説明したり意見を述べたりするためのレポート、身のまわりの出来事に取材したコラム、情景や心情の描写を取り入れた随筆や詩歌、相手や目的に応じた語句を用いた手紙や通知などを書く活動に取り組む。以上の授業をとおして、目的に応じた様々な文章を書くための基礎力を身につけることを目標とする。	
	日本語文章表現Ⅱ	主張や感動などが効果的に伝わるように、論理の構成や描写の仕方などを工夫して書くこと、目的や場に応じて、言葉遣いや文体など表現に工夫して効果的に書くことなどの表現活動に取り組むことによって、日本語による文章表現の応用力を身につける。具体的には、様々な考え方ができる事柄について、幅広い情報を基に自分の考えをまとめたレポート、関心を持った事柄について調査したことを整理した解説や論文、話題や題材などについて調べてまとめたことや考えたことを伝えるための資料、詩歌や小説などの作品を作り、作品集を編集する活動などに取り組む。以上の授業をとおして、目的に応じた様々な文章を書くための応用力を身につけることを目標とする。	
	日本語表現基礎	言いたいことをどのような表現を用いて表すかによって人の人間性まで判断されることがある。この授業では、今後、社会に出た時に信頼するにたる人物であると認めてもらえる表現方法を口頭、文章それぞれにおいて身につけることを目指す。そのために、まず豊かな言語表現を可能とする語彙、文体などの拡充を図る。特に、公私の場面により使い分けがされることの多い、和語と漢語、さらには外来語の対応について学ぶ。また、口頭表現と文章表現における語彙、文体選択の特徴も学ぶ。以上の授業をとおして、本科目は、言語四技能のうち「書く」「話す」に特化した日本語表現をテーマにしている。「日本語表現基礎」では、主に、易から難へと授業を進めていき、「書く」「話す」の基礎的な項目を身につけることを到達目標とする。	
	日本語表現演習	「書く」ことに関しては、内容面の充実を図り、書く動作から完成された実践的な文章を書くことを目標として掲げる。また、「話す」ことは学内外の弁論大会やスピーチコンテスト出場を目指し、聴衆の共感を得るにたる内容の選択、表現方法を身につけることを目的とする。発表内容の組み立てから非言語要素の導入方法など試しながら授業を進めていく。以上の授業をとおして、本授業は、言語四技能のうちの「書く」「話す」に特化した日本語表現をテーマに、易から難へと授業を進めていき、「書く」「話す」際の実践的な項目を身につけることを到達目標とする。	

科 目 区 分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	専 門 日 本 語 Ⅱ ( 共 通 )	日本語文化基礎	同じ内容でも相手、場面などによって表現スタイルは、かわる。この授業では、場面に最適な表現スタイルを選択し、使用できるようになることを目指す。また、表現スタイルは表現者の母語や背景とする文化によっても、「最適」とするスタイルは異なり、それが誤解の原因となることもある。同じ内容を日本語母語話者と外国語母語話者が表現しようとしたときに、それぞれがどのような表現スタイルを選択するかを検討し、日本語母語話者を相手とした時に、より「自然な」日本語表現を身につける。また、方言や若者言葉など、特定の社会集団の固有の日本語についても触れる。	
		日本語文化演習	日本人の思考形式や文化的特徴は日本語の表現の選択や発話スタイルにどのような形で表れているかについて検討する。明示的な言説を避ける高コンテクストな会話スタイル、相手が否定的な選択をせずに済むようにする気配り型の発話など、日本語話者によく見られる会話スタイルは多くある。これらの発話スタイルがなぜ起こるのかを事例を使いながら分析・考察する。また、語用論的な視点から、日本語母語話者が発話において選択した語彙や表現に、どのような「言外の意」を含ませているかについても事例を分析する。グループワークを多く行うので受講者の積極的な参加を求める。	
		日本語プレゼンテーション基礎	自分の考えや意見を他人に説明し、理解してもらうためにはさまざまな工夫が必要となる。この授業では、「ふるさと紹介」など情報伝達型のプレゼンテーションの練習を通して、聞き手に過不足なく情報を伝えられるプレゼンテーションを行なう基礎を身につける。そのために、聞き手の関心に合わせて伝達情報を取捨選択し、わかりやすく関連づけて情報を並べていく方法を学ぶ。また、パワーポイントを用いた、写真・動画を始めたとした視覚による訴えかけの手法も学ぶ。	
		日本語プレゼンテーション演習	意思決定(提案)型のプレゼンテーションにおいて、説得力のあるプレゼンテーションを行なうための基礎を身につける。そのために、論旨と主張を明確に伝えるために必要な要素を分析する。そして、それらを聞き手の関心に合わせて効果的に並べる構成の作り方、また具体的な事例の選定についての考え方と、それを実際に示す手法を学ぶ。また、そのように構成したプレゼンテーション内容をもととして、独立してそれだけを見てもなおわかりやすいレジュメが作れるようになることも目指す。	
	専 門 日 本 語 Ⅲ ( 共 通 )	教育日本語総合Ⅰ	本授業では、日本語教師として必要な、日本語とその使用に関わるさまざまな事象についての知識を総合的に学ぶことを目指す。日本語教育に携わるにあたって必要とされる基礎的な知識・能力を、「①社会・文化・地域」「②言語と社会」「③言語と心理」「④言語と教育」「⑤言語一般」の五つの区分にまとめた上で、各区分について学ぶべき基礎知識を概観し、それぞれより深く学ぶためのスタートとする。なお、これらの知識の確認は日本語教育能力検定試験の受験希望者にも有用である。	
		教育日本語総合Ⅱ	本授業は、「教育日本語総合Ⅰ」で概観した五区分のうち、社会・文化・地域、言語と社会、言語一般の三区分についてさらに細かいテーマ分けをし、それぞれのテーマについていくつかのキーワードを取り上げていく。これらのキーワードによってテーマを理解するだけでなく、他者に説明できるようになることを目指す。同時に、日本語教育の現場で、これらの知識がどのように活かされるかにも言及し、実践的な知識の獲得を目指す。なお、これらの知識を確認しておくことは、日本語教育能力検定試験の受験希望者にとっても有用である。	
		教育日本語総合Ⅲ	本授業は、「教育日本語総合Ⅰ」で概観した五区分のうち、言語と心理、言語と教育の二区分についてさらに細かいテーマ分けをし、それぞれのテーマについていくつかのキーワードを取り上げていく。これらのキーワードによってテーマを理解するだけでなく、他者に説明できるようになることを目指す。同時に、日本語教育の現場で、これらの知識がどのように活かされるかにも言及し、実践的な知識の獲得を目指す。なお、これらの知識を確認しておくことは、日本語教育能力検定試験の受験希望者にとっても有用である。	
		ビジネス日本語総合Ⅰ	ビジネス現場で求められる日本語コミュニケーション能力の向上を目指し、ビジネスの中でよく使用される語彙の強化を図ると同時に、メール、ファックスなどさまざまな定形書式に慣れる。また、顧客を対象とした敬語を使用した話のスタイルにも慣れる。さらに、言語運用の点では、言語による情報処理のうち、情報の特定・比較・配列といった基本的な運用能力をはかるための練習を行う。留学生にとっては、日本での就業上有利となるビジネス日本語能力試験J1+認定(600点以上)を目指す出発点ともなる。	
		ビジネス日本語総合Ⅱ	ビジネスの現場で用いられる日本語の用法に慣れることを目的とする。また、専門やバックグラウンドが違う相手にわかりやすく説明したり、相手に不明点を確かめたりしながらプロジェクトを推進していくためのコミュニケーション力を高める。さらに、言語運用の点では、言語による情報処理能力のうち、情報の組み立て・総合といったより高度な運用能力を測るための練習を多く行う。留学生にとっては、日本での就業上有利となるビジネス日本語能力試験J1+認定(600点以上)を目指す上でも必須の日本語能力となる。	
		日本語教授法Ⅰ	本講義は、外国語教育として外国人に対してどのように日本語を教えていくのか、その理論と方法について考え、実際に授業を行っていく上で役立つ、基本的かつ実践的な知識を身につけることを目的としている。日本語教育の現場でもっともよく使われている「直接法」をはじめとするさまざまな外国語教授法を取り上げ、その理論的背景について理解するとともに、日本語教育における事例とその効果、課題などについて論じていく。現在につながる日本語教育の教授法の変遷についての理解も深める。	

科 目 区 分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
日 本 語 教 育	日本語教授法Ⅱ	現在、外国人に対する日本語教育は、日本人教師が行う場合、一般的に「直接法」という教授法が取られている。本講義では、日本語教育における直接法の歴史、および、直接法を成り立たせる理論的背景について論じる。また、問答法をはじめとするさまざまな直接法の技術を、実際の授業にそった形で実践的に学んでいく。直接法による教授法により、異なる母語話者の集まるクラスでも、また世界中のどの地域へ行っても日本語が教えられるようになることを目指す。	
	日本語音声学	本講義では、日本語音声の特徴を他言語と比較対照しながら考察し、日本語の音韻体系および音声学の基礎を学ぶとともに、その音声的特徴をIPA(国際音声字母)を用いてどのように表記するのかを学ぶ。さらに、音声分析ソフトやさまざまな機器の操作法についても学び、それらを用いて日本語を音響学的に観察することで、音声が多面的に知覚される現象であることを体験する。これらを通じて、正しい日本語の聴取・発声が行える、あるいはそのための指導ができるようになることを目指す。	
	日本語表記論	本講義は、日本語の文字表記の概要について学びながら、言語と文字との関係はどのようなものか、文字表記を言語教育や言語学習でどのように扱うべきかについて、考えを深めることを目的とする。現代日本語の文字表記に関する基礎知識や、日本語教育における日本語の文字表記の扱いに関する基礎知識を身につけることを目指す。授業では、現代日本語の表記の基準である、「常用漢字表」「現代仮名遣い」「送り仮名の付け方」「外来語の表記」「ローマ字のつづり方」を中心に見ていく。	
	日本語教育教材論	本講義は、日本語教育教材の概要を把握し、学習者と学習の場に適合する教材および指導法とは何かを理解することを目的とする。まず日本語教育における教材の役割を概観してから、初級レベルの総合教材とスキル別の教材を取り上げ、各教材がどのようなシラバスに基づいて構成されているか、また、練習などの教室活動のための工夫がどのようになされているかなどについて見ていく。さらにコースデザインと教材の関係を理解し、教材を評価する基礎も身につける。	
	日本語語彙論	本講義では、語彙とは何かについて考えることを手始めに、まず、語の分類として、使い方による分類や出自による分類などを概観する。語彙の体系としては、親族語彙と色彩語彙、オノマトペ(擬音語・擬態語)などを考えていく。また、意味とは何かについても考える。語の意味関係と意味の体系については類義語、反義語などを中心に解説する。以上の内容を通して、語と語彙、語の意味についての基本的な知識を体系的な形で修得できるようにする。そして、日本語の語彙に対する理解を深めることによって、日本語を豊かに使いこなせるようになることを到達目標とする。	
	日本語教育評価法	教育における評価は、学習の結果を示すだけでなく、学習者の修得状況を知り、改善の手がかりを得るため、さらには教授法の状況確認と改善のためにも重要な役割をはたす。この講義では、語学教育における評価の意味と役割の多面性を確認した上で、学習・教育にとって有用な情報を得るための評価方法について学ぶ。また、学習測定の主要な手段であるテストについても、「よいテスト」の定義と判定方法、そして実際のテスト作成の手順を学ぶ。これらを通じ、学習状況をより正しく判断し、学習の質向上につながる評価ができるようになることを目指す。	
	日本語研究史	日本語はどのように関心もたれ研究されてきたのか。日本人が自ら日本語を自覚し研究していった歴史は長く、その視点も時代ごとに大きく異なる。本講義では、その関心と成果の跡をたどっていく。まず、日本語を対象とする研究が古代から現代に至るまで、どのようになされてきたのかを確認する。古代は漢字や仏典との出会いにより、中世は歌学の発展により、近世は古典研究により、近代は西歐言語学により、それぞれ大きく研究が進展してきた。その興味深い過程をたどることで、現代日本語への視点を持つことを目指す。	
	世界の日本語教育事情	本講義は、現場サイドから国内外の日本語教育をとらえ、日本語教師の立場で日本語教育事情を理解することを目指す。まず、日本ならびに世界各地で行われている日本語教育を概観する。とりわけ、日本語学習者の分布・日本語教育機関・日本語教員・日本語教員養成機関・日本語教授法などに注目していく。同時に、その部分から見える世界各地の日本語教育の特徴を知り、その課題について論じる。海外の日本語教育の現場にたったことのある教員に登壇してもらい、実情を聴く機会も設ける。また、戦前、戦後、現代とつながる日本語教育史の流れの特徴にも触れていく。さらに、日本語教師の資質についても言及し、日本語教師としての将来の自分の姿について考える一助とする。	
	日本語意味論	本講義では、意味論とはどのような立場(理論)や観点で行われ、どのような知見が見られるかを概観し、具体例を検討しながら意味論の基礎を修得することを目指す。「語」の成立、意味と指示物、単義語と多義語、語と語彙体系、プロトタイプと意味の拡張、語の文法的特徴、コケーション、意味とコンテキスト、コーパス、国語辞典などを取り上げる。これらの学修を通じて、意味分析や語彙教育に必要な概念や方法などを身につけることを目指す。	
	日本事情教育	日本で学ぶ留学生が日本社会を理解し、適応するために、科目として「日本事情」を学ぶことは意味がある。この講義では、まず今日的な異文化間教育としての日本事情教育の役割を確認する。その上で、過去から現在にいたる日本事情教育が扱ってきたさまざまな項目について、取り扱う意味、取り扱い方などを検討していく。また、いくつかの項目については、実際の日本事情の授業を想定した授業展開も考えてみる。この講義を通して、単なる日本紹介にとどまらない、日本理解につながる日本事情教育の視点と方法を身につけることを目指す。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
日本語・ 日本文化	日本語教育実習	知識として学んだ日本語教授法をどのように使い分けて授業を組み立てていくかを学び、実践的な教授法を身につけることを目的とする。初級段階における指導準備と実習を体験することにより、日本語の授業に必要な知識(教案作成・教材準備・教室活動など)を身に付け、効果的な授業ができるようになることを目指す。まず、学習項目にあわせて教案を作成し、それについて教員と面談を行う。再度教案を修正し、教材等を準備する。その上で、実習を行い、他の実習生からの意見も聞きながら、次回への改善点について話し合う。	
	日本語の談話	本講義では、「社会言語学」「会話分析」「認知言語学」といった分野の基礎的な知識を学び、それを人との円滑なコミュニケーションや言語教育に生かすことを目標としている。日本語の談話の特別な要素とは何か。言語と認知能力はどのような関係にあるか。人間はどのようにコミュニケーションしているのか。日本にはどのような言語変種があり、それはどのように変化してきたかなどについて、ディスカッションしながら皆で考えていく。	
	言語習得論	本講義では、第二言語修得に関する基本事項や代表的な理論を概観する。また、第一言語(母語)修得に関する理論を紹介しながら、第二言語修得の特徴を明らかにする。具体的には、学習者独自の言語体系である「中間言語」は、どのように作られ、どう変化していくのかを見る。さらに、学修者の第一言語(母語)は第二言語修得にどう影響するか、言語修得に及ぼす個人差の影響、言語修得過程における認知の役割などについても考察する。最後に、第二言語修得研究での知見をどう効果的に言語学療法・教授法に応用していくかについて学ぶ。	
	日本語特殊研究	本講義では、コミュニケーション能力を構成する諸要素とその発達について学ぶ。コミュニケーション能力の発達を、認知的な側面や社会文化的な側面などから多面的に理解できるようにすることを目標の一つとする。さらに助詞や接続表現などの文法形式、オノマトペやことわざなどの言語事項だけでなく、方略的能力や語用論的能力にも焦点をあてて、日本語コミュニケーションにおける談話データの基本的な分析方法を理解できるようになることも目標としている。	
	日本語・日本人論	日本語は、日本文化を構成する一つの要素であるとともに、その文化を外在化させる媒体としての重要な役割を果たしている。本講義ではまず、日本語が日本文化と共同する際のこうした二重性を把握し、言語と文化の関係を探る日本語文化論の視点について考える。さらに、日本文化を担う体现者としての日本人の存在についても考える。日本人とはどのような特性を持つ個人の集合なのかという点について、内外から発信される日本人観や日本人像を通時的に考察することも含め、日本文化論のもう一つの課題である「日本人論」について検討を進めるのが、本講義のもう一方の柱となる。	
	日本の民俗と思想	日本には前近代から続くさまざまな年中行事や人生儀礼がある。また、冠婚葬祭は変化を見せつつも、前近代からの伝統が息づいている。この講義では、行事や儀礼の背後にある思想を、カミ、天、祭りなどのテーマとして提示し、その概念を明らかにするとともに、具体的な現れ方とその変遷をさまざまな行事や儀礼に見ていく。これにより、日本の民俗を思想の視点からとらえ、日本人が何をどのように感じ、考えてきたかについて理解することを目指す。	
	日本の生活と芸能	民俗の基盤は信仰と生活であり、それを背景とするこの両者はともに、長い歴史と人々の生活のなかで農耕などの生業とも関わりながら育まれてきた、いわば日本の歴史と文化の縮図である。この講義では、時代を超えて伝えられていく(伝承性)と、さまざまな影響のもと形成される(重層性)を中心に民俗学の視点から、日本人の年中行事(正月・盆・節供など)、人生儀礼(誕生・結婚・葬儀など)、さらに、また、衣食住や芸能など幅広い民俗を取り上げる。なぜ文化が生まれ、伝えられ、変化し、それでも守られてきたのか、文化の存在意義と価値を知り、その個別的な中にある普遍性を見る目を育てる。	
	社会の中の日本語	日本語といっても、人によって、あるいはその所属集団によってさまざまなバリエーションを持つ。本講義では、現実社会における日本語の多様な使用状況を概観していく。まず、使用されている日本語がいかに多様であるかを、世代差や地域差、性差、などで確認し、差を生み出す要因について検討する。また、滞日外国人、あるいは海外の外国人日本語学習者も、日本語のバリエーションを増やす新しい社会集団としてとらえ、国際社会における日本語のあり方についても、考察する。これらを通じ、日本語のバリエーションへの理解を深め、差異に寛容な国際人となることを目指す。	
	現代日本語事情	この講義では、規範的な文法からの逸脱や外来語の大量の生成、現代表記の多様性、新語や流行語の発生、若者言葉など、21世紀の日本語の状況について、多様な言語資料に当たってその実態と本質を探っていく。日常生活の中での日本語について、書く・読む・聞く・話すなど様々な場面を意識することによって、日本語がささやかながらも変化を重ねていることを認識できるようにする。以上の内容を通して、現代日本語の文法・表記・語彙等に関する事情を理解することによって、より日本語に対する理解を深めることを到達目標とする。	
	クールジャパン論	本講義は、「クールジャパン」とは何か、どのような取り組みがなされ、どのような方向に進んでいくのかその可能性について探る。外国人がクールだと感じる「日本的なもの」を対象に考察し、「日本」を客観的な立場で捉え直し、現代日本文化の独自性・普遍性について考察する。具体的には、ポップカルチャー・現代アート、和食、日本製品・テクノロジー、武道・芸能などの目に見える文化から、「おもてなし」などの目に見えない文化まで、日本の多様な側面が国際的に評価される現象について捉え、自分自身の「クールジャパン」を発見していくことを目指す。	

科 目 区 分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選 択 科 目 Ⅱ	ポップカルチャー論	この講義では、日本語学習者の関心の高い、日本のポップカルチャー(サブカルチャー)の現状とその波及性について、考察する。主要ジャンルとしてマンガ・アニメ・ゲーム・ポップ・ファッション・キャラクターグッズ・ドラマなどを扱う。また、日本のポップカルチャー隆盛に至る過程を歴史的な文脈で捉え直し、現代日本文化論としての理論的基礎を学ぶ。その上で、メディア産業・アートなどとの関わりについて検討し、日本のポップカルチャーが世界の人々に与える影響について考えていく。	
	異文化間理解	グローバリゼーションが進む現代社会では、国家間のみならず国内日常生活においても、異文化との接触・交流が頻繁に発生する。「異文化間理解」とは何か。他文化との異なりを認めることから、当たり前と思っていた内なる自文化に私たちは気づく。この講義では、「異文化間理解」を異文化コミュニケーション論と現状の事例研究の両面から学び、日本における「多文化共生社会」の可能性を探る。講義における積極的なディスカッションと考察、発表を通して、異文化への理解と共感を体得し、実践に活かすことを目標とする。	
	日本近代文学	近代文学の成立期における「ことばの問題」を、坪内逍遙と二葉亭四迷の作品を読むことによって押さえる。その後、近代文学の作品を「恋愛」「自然」「メディア」「異界」「近代化」といったテーマに分けて読んでいく。日本近代文学の作品を読むことを通して、日本の近代化の過程で生じた様々な問題について理解を深めることを目指す。以上の授業をとおして、日本の近代文学を読む楽しさを体験すると同時に、近代という時代の社会や文化の特質について理解を深める。	
	日本文学概論	日本文学の特徴として、繊細な季節感、無常観と鎮魂、諸外国の文学や思想の摂取などが言われている。これらすべてを踏まえた上で、日本文学の作品を選びすぐて読むことを通して、日本文学が何を描き出してきたかを、古代、中世、近世そして近代という時代別に概観する。以上の授業をとおして、1300年以上にわたる長い伝統を持つ日本文学の流れをたどるとともに、それぞれの時代の日本人の人間、社会、自然に対する考え方やとらえ方の特徴を学ぶ。	
	日本古典文学Ⅰ	上代と中古の代表的な古典文学作品を取り上げて読む。古典文学に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。古典文学を読んで、内容を構成や展開に即して的確にとらえる。古典文学を読んで、人間、社会、自然などに対する日本人の思想や感情を理解する。古典文学の作品間の影響関係に留意する。古典文学の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。以上の授業をとおして、日本の古典文学を読む能力を養うとともに、上代と中古の古典文学についての理解や関心を深めることを目標とする。	
	日本古典文学Ⅱ	この授業では、中世と近世の代表的な古典文学作品を取り上げて読む。古典文学作品に表れた思想や感情を読み取り、日本人の人間観、社会観、自然観などについて考察する。中世と近世の古典特有の表現を読み味わったり、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解したりする。さらに中世と近世という時代が、古典文学の作品に与えた影響を理解する。以上の授業をとおして、日本の古典文学を読む能力を養うとともに、中世と近世の古典文学に対する理解を深めることを目標とする。	
	日本古典文法Ⅰ	この授業では、古典文法に関する基礎的な知識を確認し、さらに発展させていく。「日本古典文法Ⅰ」では、歴史的仮名遣い、単語と品詞分類から始めて、各品詞について見ていくが、品詞の中でも、自立語(動詞・形容詞・形容動詞・名詞・代名詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞)と、付属語のうちの助動詞について学んでいく。特に用言(動詞・形容詞・形容動詞)の活用と、助動詞の意味・活用・接続について、やや詳しく見ていく。以上の授業をとおして、本授業は、古典文法(文語文法)のうち、単語や文節の構造に関わる(形態論的な)部分、特に用言の活用や助動詞を主なテーマとし、単語の文法的な体系や文節の基礎的な構造をとらえられるようになることを到達目標とする。	
	日本古典文法Ⅱ	この授業では、古典文法に関する基礎的な知識を確認し、さらに発展させていく。「日本古典文法Ⅱ」では、「日本古典文法Ⅰ」で学んだ知識(品詞の種類、用言の活用や助動詞の意味・活用・接続に関する知識)を踏まえ、文の構造に関わる要素である助詞や、文の語彙・文法的意味に関わる表現形式である敬語のほか、特殊な構造の文(引用・はさみこみ・倒置と省略・格関係と修飾成分)について学んでいく。以上の授業をとおして、本授業は、古典文法(文語文法)のうち、文の構造に関わる(構文論的な)部分、特に助詞や敬語法を主なテーマとし、文の基礎的な構造をとらえて、文を構造的に解釈ができるようになることを到達目標とする。	
漢文学概論Ⅰ	漢文は、古典中国語で書かれた文章のことであるが、日本では古くから日本語として読み書きされ、日本語の言語文化の源となってきた。本授業では、漢文を日本語として読む方法(漢文訓読)の基礎を理解するとともに、実際に漢文を読みながら、その表現や内容に触れていく。具体的には、漢詩文作品を中心に内容読解について学ぶ。各授業では、「主体的体験学習」「意見交換」「発表」等の時間を設ける。以上の授業をとおして、本科目は、古典(主として漢文)の基本的教養を養成することをテーマに、訓読や漢文法等、「漢文学」の基礎を身に付けることを到達目標とする。		

科 目 区 分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際 関係	漢文学概論Ⅱ	原文(白文)の文法構造を正確に理解しながら、一字一句丁寧に読解していく。具体的には、漢詩文学作品を中心に内容読解について学び、必要な知識を身に付ける。また、各授業では、「漢文資料の調査・研究」等の課題学習を設定し、漢文学についての理解を深めていく。以上の授業をとおして、本科目は、古典(主として漢文)の専門性を高めることをテーマに、漢文読解に必要な基本的漢文法及び訓読法の理解とその習熟を到達目標とする。	
	翻訳・通訳概論 (日英)	急速なグローバル化の進展とともに、異なる言語・文化背景を有する人々の協議の場が増えている。そのような場において、異文化間コミュニケーションスキルの重要性が高まっている。コミュニケーションの担い手である翻訳・通訳者が活躍する場面は、多岐に渡っているが、共通点は、起点言語を正しく理解した上で、その意味を目標言語としての自然さを失わずに表現することである。本講義では、日本人学部生及び非中国語系留学生を対象に、翻訳・通訳理論に基づく講義と、基本技能を踏まえた英日・日英翻訳・通訳の体験学修を行う。	
	翻訳・通訳概論 (日中)	訪日中国人の増加に伴い、日本の魅力を世界に発信するタイプのビジネスチャンスが増えている。そのため、翻訳・通訳のニーズは年々増大している。本講義では、中国人留学生を対象に、翻訳・通訳理論に基づく講義と、中日基本技能を踏まえた翻訳・通訳の体験学修を行う。日本の社会・文化に直接触れることで得られる日本のさまざまな事象についての幅広い知見の獲得と、起点言語(中国語)の原文のイメージを壊さずに、意味を正確に伝えながらも、同時に自然な目標言語(日本語)へと転換する表現力の養成を目指す。	
	書道	古典の臨書等を通して、漢字や仮名の規範的な字形の習得を目指すとともに、中国と日本の書道史を概観する。さらに、実用書道の観点から、規範的な字形と印刷体を比較し、書写された文字と印刷文字の違いやその問題点について確認する。印刷体以外にも横書き等の影響、字形の乱れ(多様化)について取り上げ、文字を書く上で必要な基本的な知識や技能を身につけていく。以上の授業をとおして、漢字や仮名の規範的な字形の習得を目指すとともに、現代の「書道」および書道教育、書写教育について理解を深める。	
	異文化間コミュニケーション入門	文化背景の異なる人々と円滑なコミュニケーションを図るためにどのような方法があるのだろうか。この授業では講義形式により、始めに、①「文化」「コミュニケーション」「異文化間コミュニケーション」とは何かを学び、続いて②言語によるコミュニケーション、③ジェスチャーなど非言語によるコミュニケーション、④カルチャーショックが起こる要因やその対処法、⑤組織内異文化間コミュニケーションなどを、後半では⑥異文化間ではどのような取り組みが必要なのか考えていく。以上の授業をとおして、異文化間コミュニケーションの基礎知識を修得することを到達目標とする。	
	中国事情	中国の歴史、国情を学ぶとともに、ことば(中国語)も学び、それによって中国とそこで生活する人々を理解する「こころ」を養う。本授業では、講義形式により、「なぜ中国事情を学ぶか」から始まり、①中国共産党という巨大組織、②市場経済化と共産党の変容、③政治スローガン「和諧社会」、④多民族統治の困難、⑤少数民族政策の歴史と課題、⑥戸籍制度導入をめぐる歴史、⑦社会的不安定要因としての外来人口、⑧富裕層誕生の逆説、⑨貧富の格差の深刻化などを考察し教授する。以上の授業をとおして①中国の国情について理解のある「知中派」としての基礎を固め、②現代のキーパーソンの生き方について理解を深めるとともに、③中国政治・経済についての基本知識を修得することを到達目標とする。	
	現代ラテンアメリカ事情Ⅰ	本授業は、受講生が、「ラテンアメリカ」の地理的・文化的領域を把握した上で、カリブ海諸国も含めたこの地域の歴史的経緯を踏まえつつ、当地域諸国の政治・経済・社会の現状について学修することにある。本授業では、講義形式により、始めに①ラテンアメリカ地域研究序説から始まり、②自然環境と人口、人種と民族及び階層社会、③政治の伝統及び非民主主義政治体制の系譜、④現代ラテンアメリカ民主主義、⑤国際関係と地域システム、⑥経済の政策路線と開発戦略、⑦第二次大戦後のラテンアメリカ経済、⑧1980年代「失われた十年」、⑨21世紀ラテンアメリカ経済の現状と課題などをテーマとして考察しながら教授する。以上の授業をとおしてラテンアメリカおよびカリブ海諸国の政治・経済・社会の制度・体制・政策と現状について、理解を深めることを到達目標とする。	
	現代ラテンアメリカ事情Ⅱ	本授業は、受講生が、ラテンアメリカおよびカリブ海諸国の政治・経済・社会について、データに基づいて、現状を把握することにある。本授業では、講義形式により、人口、面積、政治体制、経済状況について日本との比較をしながらデータ解説を行ったうえで、ラテンアメリカ諸国及びカリブ海諸国における政治・経済・社会に共通する特徴と地域毎あるいは国毎の特徴について教授する。以上の授業をとおして現代におけるラテンアメリカの事情について理解を深めることを到達目標とする。	
	国際コミュニケーション論	この講義では、様々なコミュニケーション理論の枠組みに依拠して、国際社会で実際に起こりうるコミュニケーション問題を分析する。こうした学びを通じて、コミュニケーション問題を考える際の多様な視点を獲得することを目指す。まず、基本的なコミュニケーション理論と概念を、理解し修得する。次に、さまざまな国際コミュニケーションの事例研究を通じ、これらの枠組みを使って国際コミュニケーションの問題を理解すると同時に、説明できる能力を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際ビジネス交渉論	この講義は、国際ビジネスの交渉技術に関する基礎理論の修得を目的とする。主に貿易取引におけるリスク・マネジメントの観点から、まず、貿易取引に内在するリスクを理解し、次に、そのリスクをミニマイズするための手法を考察し、最後に、それを実現するための交渉方法に関する立案力の涵養を目指す。講義では、実際の国際ビジネスにあたっての貿易代金の決済方法や通過変動への予防的対応の方法と運用についても、ケーススタディーを交えながら取り上げる。	
	国際社会学	グローバル化社会が直面する諸問題を社会学的なテーマとして学んでいく。授業は講義形式により、まず①グローバル社会の成立から始まり、②グローバル化の経済、政治、社会・文化的側面、③アセアンの経済統合と人の移動の事例、④ヨーロッパ移民・難民問題の背景と行く末、⑤日本の近代化、植民地主義、そして海外への移民、⑥移民が直面している社会的問題と社会的権利、⑦貧困の実態を把握し、解決方法などをテーマとして考察し教授する。以上の講義をとおしてグローバル化に関わる概念や解釈の仕方を理解したのち、経済社会のグローバル化、アジアやヨーロッパの地域統合、移民・難民問題、日本の移民問題の諸側面、そして世界の開発問題等について、具体的事例に基づき社会学的に理解できるようになることを到達目標としている。	
	東南アジア	本授業では、東南アジア各国の政治体制、社会を理解した上で、産業、直接投資・貿易などの経済構造や経済政策、各国が抱える課題について理解し、多様な東南アジア各国を、国別に比較し理解を深めるとともに、ASEAN 経済共同体(AEC)などASEANの地域大での取り組みについて理解を深めることを目的とする。本授業では、講義形式により、始めに東南アジアの地理的特性(陸のアジア、海のアジア)や歴史、宗教・人種・民族、経済概観など、東南アジアの全体像について理解したうえで、東南アジア諸国におけるの政治、経済、産業構造及び現状の課題について考察していく。以上の授業をとおして、東南アジアについて、体系的に理解し、自らの言葉で東南アジアについて議論、分析ができる水準に達することを到達目標とする。	
	南アジア	本授業は、今後の成長地域として注目される南アジア地域の全体像を、中国・東南アジア主要国との比較において体系的に理解するとともに、南アジア、東アジア地域で段階的に進展している地域経済統合を理解することを目的とする。本授業は講義形式により、まず、南アジアの地理的条件、宗教・人種・民族、経済概観(人口、経済規模、所得水準等)など、南アジアの全体像について解説を行ったうえで、①南アジア諸国の歴史、政治、経済、産業、外交関係、②アジア主要国との比較、③南アジア・東アジアの地域経済統合との比較などをテーマに考察し教授していく。以上の講義をとおして、南アジアについて、体系的に理解し、自らの言葉で南アジアについて議論、分析ができる水準に到達することを目標とする。	
	初級英語① I	この授業では、英語の基本的な文法を復習しながら、できるだけ多くの英語を読み・聴くことを目的とする。また、最終的な到達目標としては、①比較的難しい英語でも読みこなせるようにすること、②簡単な英語を聴いて理解できるようになること、そして③文化的・社会的な事象に関心を持って接することができることの3点とする。授業では、語彙を増やし、基礎的な文法事項を確認しつつ、様々なトピックについて理解を深めることに繋がる活動に主眼を置く。	
	初級英語① II	前期に学んだ文法的知識を応用し、できるだけ多くの文章を読んでいく。また、英語で書かれた歌詞を読み、エッセイとは違った言葉も理解できるようになることを目指す。この授業の到達目標としては、①短時間で多くの文章を読むことができるようになること、②英語の歌詞を理解できるようになることの2点とする。授業方法は、毎週、教科書のペーパーバックを3~4 ページ読んでいく。さらに、ビートルズのアルバムから1 曲を選び、その歌詞を読んでいく。	
	初級英語② I	この授業は、外国語学部で英語を専攻していない学生のための英語の授業である。英語を学修することによって大学で学ぶ主専攻の言語を別の視点から見直すことができる。前期の学修は主に主語、動詞を始め文型を学ぶことによって文の基本的な構造を理解定着することに主眼を置く。また、簡単な文章を多く読むことにより英文に慣れ親しむことを目的とする。文法事項を中心とした練習問題や読解問題を課すことによって英文のルール、英文の主語と動詞を一つずつに絞る事、動詞の活用形がしっかり作れるようになることを到達目標とする。	
	初級英語② II	この授業では、前期(初級英語② I)に学修したことをさらに発展させ、動詞から準動詞や仮定法などの拡張された表現を学修していく。文法事項を中心とした練習問題を行い、より高度な読解問題を課すことによって英語を理解定着することを目指す。特に、不定詞、動名詞、分詞などの準動詞が動詞とどのように違うのかということをしっかり理解し、実際に使えるように訓練する。更に仮定法や比較などを改めて学修することで理解をより深いものにする。	
	中級英語① I	この授業では、やや難しい英語を読み・聴き、理解できることを目標とする。映画の英語を抽出し、映画の背景や周辺の知識を押さえながら、様々なトピックに対する関心を深めていく。授業の到達目標は、①比較的難しい英語を読み・聴くことができるようになること、②簡単な箇所であれば、字幕なしでも映画を理解できるようになることの2点とする。毎週の授業では、教科書を1Unitずつ読んでいくが、映画をただ観るだけでなく、背後にある文脈について気を配りながら理解していく。	

科 目 分 区	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	中級英語①Ⅱ	この授業では、前期に引きつづき、映画について書かれた文章を読み、できるだけ多くの英語をインプットしていく。授業の到達目標としては、①比較的簡単な箇所であれば、字幕なしでも英語を理解できるようになること、②映画の背景、文脈、登場人物の立場など複数の視点で観ることによって、楽しさや感動に留まらない映画の理解ができるようになることの2点とする。授業では、毎週教科書を1章ずつ読んでいくが、英語の字幕のあるものは字幕を使いながら映画を部分的に観ていく。	
	中級英語②Ⅰ	この授業では、語学に関する基礎的な知識と素養をベースとし、航空業界、旅行業界、宿泊業界など外国語を実践的に活用できる企業への就職をも視野に入れた知識の修得を目指し、且つそれらに関する実務的な英語を学ぶ。観光関連産業で起きているさまざまな現象への理解を深め、またそれに付随した旅行英語の修得をも目指す。授業の到達目標は、観光に関する基本語彙を覚え、そして質問を聞き取れ、情報を発信できるレベルの英語力の修得を目指す。	
	中級英語②Ⅱ	近年、海外に旅行する日本人、また海外から来日する外国人の数は飛躍的に増えており、今後もこの傾向が継続していくと考えられる。そこで本授業では、英語の一般的知識だけではなく、観光実用英語を学修することによって実践的基礎力を養い、また旅行英語の修得をも目指す。中級英語②Ⅰでの基本的な学修を踏まえ、さらに一歩進んだ旅行・観光関連の語彙・表現の修得、実務に直結する英語の掲示やパンフレットの正確な理解や実際の場で使える旅行英語の実践力の修得を到達目標とする。	
	初級中国語①Ⅰ	この授業では、中国語の初歩段階で、発音や言葉のしくみを学び、基本的な中国語に触れることにより、中国語に慣れ親しみ、平易な文が言えるようにするのが目的である。中国語の発音や四声の区別、基礎的な文法を理解し、簡単な日常表現や自己紹介が言えるようにし、語彙を増やしていく。なお知識が定着するように学修した箇所の小テストを行い、習ったことを時々課題として調べて提出してもらい、類別単語帳や中国語表現ノートを配布し、自習ができるようにする。	
	初級中国語①Ⅱ	初級中国語①Ⅰに引き続き、中国語の発音や言葉の仕組みを学ぶ。簡単な日常表現は言語生活の基本となるので、口頭で言えるだけでなく、正しく書けるように練習する。中国語の発音や四声の区別ができるようにし、中国語の文法の仕組みを見通しよく概観する。また中国の文化や生活などについて理解を深め、円滑なコミュニケーションのための基礎知識を養う。中国語によるやや高度な自己紹介ができるように、使用語彙を更に増やしていく。	
	初級中国語②Ⅰ	初級中国語①Ⅰと連携しつつ、二人の教員が同一のテキストを使って授業を行う。本科目では教科書の中国語②Ⅰに割り当てられている各課を演習形式で学修する。中国語学修の初歩の知識を身につけ、中国語の発音や言葉のしくみを学ぶ。中国語の発音や四声の区別は重要であるので繰り返し練習し、中国語の文法を初歩から学修し、簡単な文章が口頭で言えるように、また正しく表記できるように指導する。初級過程における語彙の重要性を認識して、使える単語や表現を増す。	
	初級中国語②Ⅱ	この科目は初級中国語①Ⅱと組になっており、二人の教員が同一のテキストを使って授業を行う。授業は中国語②Ⅱに割り当てられている教科書の各課を演習形式で学修していく。中国語の発音やイントネーション、リズム、メロディーに親しみ、基本的な会話表現と文法を学修し、2年次以降の専門的中国語学習の基礎を作る。口頭ならびに筆記でコミュニケーションができるよう、辞書の使い方も覚える。1,000語程度の中国語基本語彙の獲得を目標にする。テキストの例文を通して文法を学び、さまざまな応答練習、基本7文型を用いた作文とその添削指導も行う。	
	中級中国語①Ⅰ	この授業では、『中国語ははじめの一步』の学修を踏まえ、中級の中国語クラスでは中国語の正確な発音を身につけ、基本的な表現を修得できるようにする。日常の様々な表現はもちろん、変化しつつある中国についても話題にする。各課の本文を覚え、実践の場で使えるようにする。授業は『中国語さらなる一步』の内容にそって進める。授業で扱う語彙(ピンインと発音も含む)をしっかり修得し、各課の基本構文をマスターする。更には、会話文の暗誦ができるレベルまで学ぶ。	
	中級中国語①Ⅱ	この授業では、『中国語さらなる一步』の既習内容を踏まえ、多様な場面に応用できる表現を学んでいく。本文の暗唱を中心に語彙をさらに増やすとともに、より自然な発音で会話ができるように指導する。最初に会話文の単語の理解と状況説明、日本語訳を行い、つづいて朗読の練習を行う。次にテキストの文章を文法的に説明する。テキストの文章を繰り返し口頭練習した後、会話文の暗誦をする。最後に練習問題を解き、その課の総仕上げとする。	
	中級中国語②Ⅰ	初級中国語で学んだ知識をベースとし、中国語の表現力に磨きをかけていく。授業の流れは、最初に会話文の日本語訳を行うが、文法事項や構文に対する理解を固めることを目的とするので、直訳的なパターンを提示し意味を理解すると同時に中国語の言い回しになれるように指導する。更に、各課の文法説明や練習問題についてポイントを押さえ、会話文の関連する部分の暗誦練習を行い、自然に発音することができるように鍛え上げる。以上のプロセスで授業を進め、学期終了時には中国語中級レベルに到達させる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語 選択科目Ⅲ 専門科目	中級中国語②Ⅱ	中級中国語②Ⅰにつづき、口頭表現を重視した授業を展開する。授業の進め方は基本的に前期と同じである。会話体のテキストの朗読と暗誦により、正しい発音で正確な中国語が話せるように訓練する。また、中国語で作文するためには文法の理解が不可欠であるので、テキストの会話に沿った語法、定型表現、レトリックなども学ぶ。日本語から中国語に直す翻訳練習を重ねて、最終的には自分の言葉である程度の内容を表現できるように指導する。	
	初級スペイン語①Ⅰ	スペイン語のメッセージを理解したり、スペイン語圏の人々と簡単なコミュニケーションを行ったりできるようになることとスペイン語圏の文化の理解を目的とする。受講者は入門レベルの文法、基本語彙・表現を修得し、後期に開講される初級スペイン語①Ⅱに進んだ後はスペイン語技能検定入門レベル[6級]に合格できるスペイン語力・文化能力を身につけることを目標とする。授業は初級スペイン語②Ⅰと連携し、総合教材(共通教科書)に沿って会話の練習を行いつつ文法の初歩を説明する。	
	初級スペイン語①Ⅱ	文法の基礎を学び、応用力を身につける。スペイン語圏において場面に応じたコミュニケーションができ、広い視野と知識を持った協働できる人材の育成を目的とする。前期に学修した内容を基礎にして、後期は過去の出来事などについて表現・理解できるようになること、またスペイン語技能検定入門レベル[6級]に合格できるスペイン語力・文化能力を身につけることを目標とする。初級スペイン語②Ⅱと連携しつつ、テキストに沿って会話の練習と文法の説明、スペイン語文化圏の様々なトピックについて学修する。	
	初級スペイン語②Ⅰ	文字、発音など基礎的事項から学び、直説法の各時制や様々な構文等についても学ぶことで初級スペイン語運用能力の獲得を目指す。挨拶や自己紹介、疑問詞を用いた疑問文を修得することで、簡単な日常会話や旅行会話をできるようになること、辞書などを使用して、スペイン語で書かれた簡単な文書を理解できる基礎的な力を身につけることを目標とする。また、スペイン語と英語の知識を相互に補うための方法も実践する。授業では初級スペイン語①Ⅰと共通の教材を用いて、発音の練習や会話文の暗誦、文法事項の説明を行う。	
	初級スペイン語②Ⅱ	初級スペイン語②Ⅰで学んだ知識の定着を図りつつ、より高度な時制、法についての理解を深める。また、徹底的な反復を通じてのコミュニケーション、読解能力も向上させることを目的とする。前期に身につけたスペイン語の運用力をより正確に、よりスムーズに発揮できるようになること、時制、法に関する知識を掘り下げることで、過去のこと、法や時制の異なる様々な、仮定や条件を表現できるようになるように指導する。復習による知識の定着と新たな文法項目について説明と練習ならびにスピーディーな口頭表現の訓練をおこなう。	
	中級スペイン語①Ⅰ	スペイン語のメッセージを理解したり、スペイン語圏の人々と、簡単な会話のやり取りができるようになることを目的とする。スペイン語の運用能力の向上を図ると同時に、スペインやイスパノアメリカなどスペイン語圏の文化について理解をさらに深める。2年修了時には、スペイン語技能検定初級レベル[5級:直説法の全ての時制を学修し、平易な文章の読み書きができる]に合格できるスペイン語力・文化能力を身につけることを目標とする。	
	中級スペイン語①Ⅱ	2年前期までに学修した文法事項の確認をすること、初級文法の学修事項を網羅することが授業の目的である。また、簡単なスペイン語で自分の考えを伝えられるようなスペイン語運用能力、コミュニケーション力をつけることを目的とする。授業の到達目標は、日常生活場面での簡単な会話の力を身につけることに加えて、表現の幅を広げること、まとまった文章を読むことができ、簡単なスペイン語の文章を書けるようにしていくことである。	
	中級スペイン語②Ⅰ	初級スペイン語で学んだことを復習しながら、平易なスペイン語で書かれた文章が読めるようにする。特に、名詞、形容詞、副詞、代名詞、動詞の形など、各項目を丁寧に学修しながら、中級レベルの知識を修得させる。また、基本的なスペイン語の語彙や表現も増やす練習をする。スペイン語でわかりやすく書かれた新聞記事の一部、エッセイ、短編小説などを、自分の力で読めるようになること、スペイン語の辞書や百科事典を使い、わからない語彙について調べ、スペイン語圏の社会や文化についての基礎知識を身につけることを目標とする。	
	中級スペイン語②Ⅱ	中級スペイン語②Ⅰで学んだ知識の定着を目指しつつ、演習を通じ、高度な読解、表現能力を身につける。実際の母語話者の言語使用においては、教科書等では独立して扱われる文法項目が同時に複数用いられる。こうした複雑な母語話者の発話を適切に理解できるようになることを目的とする。授業では、スペイン語で書かれた新聞記事、エッセイ、短編小説などを、辞書などを使いながら自分の力で読めるように指導する。また、これまでの学修した事項を会話、リスニングに応用できるように練習する。	
	初級フランス語①Ⅰ	美しい言語、精密な言語と言われているフランス語の様々な側面を実際に経験し、それによってフランス文化及びヨーロッパ文化を理解するための基本的な素養を形成させる。併せて、日本文化の特殊性と普遍性を考察する批評意識を養う。授業では簡単なフランス語の文章を読み、書くために必要な文法を学修する。目標としては、フランス語検定5級または4級合格に最低限必要な文法事項、3つの冠詞、名詞や形容詞の性と数、疑問文や否定文の作り方、指示形容詞などを学ぶ。	

科 目 分 区	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	初級フランス語①Ⅱ	前期初級フランス語①Ⅰに続いて、外交活動や科学技術の分野でも重要な言語であるフランス語の様々な側面を実際に経験し、それによってフランス文化及びヨーロッパ文化を理解するための基本的な素養を形成する。前期の授業に続いて、初級文法の完成を目指して指導する。授業では既習の文法事項の復習からはじめ、所有形容詞、動詞の現在形の活用、さまざまな疑問副詞、非人称の表現などを学修しフランス語文法の知識を確実なものにする。	
	初級フランス語②Ⅰ	フランス語の基礎を総合的に修得する。やさしく、実用的な会話表現を覚えつつ、そこで機能している言葉の仕組みを理解することで、応用力のある語学力を身につける。フランス語の主として「聞く」、「話す」ために必要とする総合的な基礎力の養成を図る。学期終了時に、実用フランス語技能検定試験(仏検)5級合格レベルの修得を目指す。日常生活に想定される基本的な挨拶、公共輸送機関利用に必要な表現や語彙等をグループワークなどで、着実に身につくよう指導する。	
	初級フランス語②Ⅱ	前期に引き続き、フランス語の基礎を総合的に学修する。簡単なコミュニケーションに役立つ表現を修得しつつ、日本語とは全く異なるシステムを知的に理解できるよう指導する。授業ではグループワークなども適宜取り入れ、実践的なフランス語が学修できるよう配慮する。以上の授業をとおして、フランス語の総合的な基礎力を練成することを到達目標とし、学期終了時に、実用フランス語技能検定試験(仏検)4級合格レベルの修得を目指して指導する。	
	中級フランス語①Ⅰ	国際的にも重要な言語の一つであるフランス語の様々な側面を実際に経験し、それによってフランス文化及びヨーロッパ文化を理解するための基本的な素養を形成する。1年次の初級フランス語①に続いて、フランス語を読み、聞き、話すための基礎を身につけ、日常的フランス語を理解できるようになることを目指す。以上の授業をとおして、具体的には、今年度実施される春季及び秋季フランス語検定(4級または3級)に合格する能力の育成が目標である。	
	中級フランス語①Ⅱ	前期初級フランス語①Ⅰに続いて、美しい言語、精密な言語といわれているフランス語の様々な側面を実際に経験すると同時に初級文法学修の完成を目指す。前期同様、フランス語の読み、聞き、話すための基礎と応用力を身につける事を目指すが、具体的には、今年度秋季/来年度春季フランス語検定(3級または準2級)に合格する能力の育成を目標とし、接続法や条件法、話法の転換、短文と複文の構成などの重要文法事項を学修し語彙や表現の更なる獲得も同時に行う。	
	中級フランス語②Ⅰ	初級フランス語で習ったことを復習しつつ、新たな表現、文法、語彙を身につける。過去や未来のことを表現できるように練習する。フランス語の学修は、英語や日本語を、新たな目でみること、分析的に捉えなおすことを可能にする。またフランス語をフランス文化、ヨーロッパ文化への通路と捕らえ、私たちの常識を見直すきっかけとする。これまでの基礎学修が終わり、フランス語が楽しめる段階になったことを実感させる。後期修了時に、実用フランス語技能検定試験(仏検)3級合格レベルが目標である。	
	中級フランス語②Ⅱ	フランス語の基礎の完成を授業の目的とする。条件法や接続法といった細やかなニュアンスをもたらず表現を身につけて「教科書」は終了し、「作られた」フランス語から「生の」フランス語に移行する。映画、文学作品、インターネット上のテキストなど、さまざまな生きたフランス語に触れつつ、フランス語だけではなく、フランス文化、さらにはヨーロッパの文化に対する理解を深めることによって、フランス語が楽しめる段階に導く。後期修了時に、実用フランス語技能検定試験(仏検)3級合格レベルに到達することが目標である。	
	初級ドイツ語①Ⅰ	この科目は、ドイツ語初級者を対象にして、ドイツ語の文章の組み立て方をこれまで修得した言語(日本語、英語等)と比較しつつ理解し、身につけることを目的とする。いわゆる文法中心の授業であるが、広く言葉の持つ面白さを味わうことも目的のひとつである。「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠CEFR」のレベルA1を目標とする。ポスターやカタログから必要な情報を読み取ることから始め、ごく簡単に短いテキストを理解できるようにし、簡単な葉書やメールを書けるように指導する。	
	初級ドイツ語①Ⅱ	この科目は、初級ドイツ語①Ⅰで学んだことを基礎にして、さらにより長い文章の仕組みや、やや複雑な文章の組み立て方を身につけることを目的とする。文法説明と練習が中心の授業であるが、広く言葉の持つ面白さや表現の違いによる認識の違いについても学修者の興味を喚起する。授業の目標は、ドイツ語技能検定試験4級合格の運用力である。そのために、「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠CEFR」のレベルA1が十分にこなせ、さらに非常によく使われる日常言語もできるように指導する。	
	初級ドイツ語②Ⅰ	この科目は、ドイツ語初級者を対象に開講する。学修者は、発音や読み方に慣れ、会話に必要な基本的表現を身につけることを目的とする。またドイツの地域や人々の暮らしについて受講生の興味を刺激しつつ、「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠CEFR」のレベルA1に向けて指導する。相手がゆっくり話すことを繰り返したり、ごく身近な話題のやり取りをしたりする練習で、運用力を高める。さらに、ドイツ語圏の文化・社会について様々な知識を自ら獲得できるように指導する。	

科 目 分 区	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	初級ドイツ語②Ⅱ	この科目は、初級ドイツ語②Ⅰで学んだことを基礎にして、さらに会話に必要な表現を身につけると同時に、ドイツ語圏の地域や人々の暮らしについての知識もあわせて、ドイツ語圏の言語文化について総合的な知識を得られるよう指導する。到達目標はドイツ語技能検定試験4級合格である。そのために、「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠CEFR」のレベルA1が十分にこなせ、身近な話題や短い社会的やり取りができるように口頭練習を行う。	
	中級ドイツ語①Ⅰ	1年次で学んだ内容を確認・発展させながら、ドイツ語力を中級レベルに引き上げる。さらにドイツ語と、ドイツ語圏の文化に触れることを通じて、日本語だけの空間では出会えない「外の世界」を学ぶ。初級ドイツ語の確認と復習をしながら、ドイツ語の運用力を中級に引き上げることを目的とする。ドイツ語とドイツ語圏の文化に触れることで、各自の視野と世界を広げることとあわせて、「自分で調べる」「自分で考える」姿勢も身につける。	
	中級ドイツ語①Ⅱ	前期の「中級ドイツ語①Ⅰ」のつづきである。1年生で学んだ内容を基礎にしてさらに発展させながら、ドイツ語力をアップする。また、ドイツ語圏の言語文化の学修を通じて、日本語文化圏では出会えない「西洋語の世界」にも触れることを目的とする。授業ではより程度の高いドイツ語の力を身につけることと、ドイツ語とドイツ語圏の文化に積極的に触れることにより、各自の知的世界を拡大する。さらに興味あるテーマについて調べ、考えて自らの糧とする姿勢を身につける。	
	中級ドイツ語②Ⅰ	この科目は、初級ドイツ語を終えた学生を対象とする。学修者は、情報のやり取りに必要な表現や経験や出来事を話せ、身近な話題の要点を聞き取れるようになることを目的とする。またドイツ語圏の地域や人々の暮らしについて知る。「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠CEFR」のレベルA2を目指す。さらに、ごく身近な衣食住の領域から、音楽や文学といった芸術や政治、歴史といった分野まで、ドイツ語圏の文化を理解できるようにする。	
	中級ドイツ語②Ⅱ	この科目は、中級ドイツ語②Ⅰで学んだことを基礎にして、ある程度日常的な会話が流暢にできるようになることを目的とする。また日独交流史に関する基本的な事項を学ぶ。目標はドイツ語技能検定試験3級合格である。そのために、「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠CEFR」のレベルA2を十分にこなせるように指導する。特に、身近な話題なら要点をつかめるよう聞き取りの能力を高める。また日独交流史についての知識も獲得させる。	
	初級韓国語①Ⅰ	外国語である韓国語を学ぶことによって言語の側面はもちろんのこと、韓国の社会と文化についての理解も深めて行くことを目的とする。受講生の漠然とした思い込みや先入観による韓国像から、より具体的にかつ前向きに韓国のことを自分で考えてみる機会に導く。授業では、韓国の文字であるハングルを覚え、簡単な挨拶と日常に使われる簡単な会話も身につける。同時に、基本的な文法を日本語と対照しながら、両言語の相違を探る。	
	初級韓国語①Ⅱ	この授業は韓国語を初めて学ぶ受講者を対象としている。最初は、韓国語の音韻・音節構造などに関する基礎知識や文字の仕組みをしっかりと学修する。その後、統語的側面について、日本語との類似性を生かし、受講生に韓国語の文法知識の修得を促しつつ、韓国の言語文化に対する理解を深める。授業では基本的な文法の学修とともに簡単な会話もできるように語彙を増やしていくことを目的とする。ハングル検定試験5級のレベルまで達するよう指導する。	
	初級韓国語②Ⅰ	韓国語がどのような言語であるか説明をした後、ハングル文字の読み書きがしっかりできるように指導する。子音と母音からなる文字の構造、日本語にはない発音などを単語や音韻規則を通じて学修する。文字の読み書きの理解が以降の学修を大きく左右する鍵となるため、入門段階ではハンガルの読み書きに自信がつくように指導する。授業中や日常会話でよく使う表現の中で短くて簡単な表現を繰り返し練習して韓国語に親しみを感じるようにする。あわせてハングル能力検定5級取得も目指す。	
	初級韓国語②Ⅱ	前期に学修した基本文法、音韻規則を復習しつつ確認する。前期に比べ、文法要素や語彙の量が増えていくので繰り返しの音読を通じて、できるだけたくさんの表現を覚えるように指導する。指示詞、存在詞の学修の後、中級からの会話練習の基本となる「です/ます」形と否定文の言い方を重点的に取り上げる。数詞と疑問詞、基本的な助詞も併せて学修する。また、韓国語も日本語のように固有語と漢語があることを説明し、漢語の学修方法についても触れる。ハングル能力検定5級取得レベルを目標とする。	
	中級韓国語①Ⅰ	この授業は、一年間入門コースをすでにマスターした学生が対象である。授業を通じて入門課程で修得した文法の基礎知識を復習し、さらに深めていく一方、細かい接続詞の使い方などを丹念に学修する。すなわち、基礎を固めながら細かい表現を応用する力を育てることが目的である。授業の目標は、基本的な文法の修得とともにそれを応用してやや複雑な会話が可能になるよう、語彙を増やす。2年目の授業を終えた時点でハングル検定4級の合格を目指すレベルに達するよう指導する。	

科 目 区 分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	中級韓国語①Ⅱ	前期の授業に引き続き、文法と語彙学修を指導する。単なる丸暗記ではなく、自分で用言の活用などをして文章を構成し、きちんとした文章を書くことはもちろん、正しい音声で話すこともできるように指導する。2年間の韓国語の授業を通じて自分一人でもより高いレベルの韓国語の学修ができるような土台を作ることが目標である。予習より復習を重視した指導を展開する。毎週の小テストを通じて前回の学修した内容の理解度を確認する。	
	中級韓国語②Ⅰ	1年で学修した基礎に時間をかけて復習する。過去形を始め、敬語、敬語の過去、希望表現などをたくさん表現の学修を通じて会話の幅を広げる。日本語と異なる文法要素や助詞の使い方も出る段階であるため、その練習はもちろん、1年のとき習っていない音韻規則も学修する。中級からは言語の4機能である「書く、読む、聞く、話す」のバランスをより意識しながら授業を行う。授業の目標は基礎を固めながら細かい表現を応用する力を身につけることである。特に前期は用言の活用が自由にできるようにする。ハングル検定4級を目指す。	
	中級韓国語②Ⅱ	文法要素としては連体形を始め、用言の変則を繰り返し練習し、用言の活用に自信をつける。聞き取りや読む練習においては発音と音韻規則はもちろん、より韓国人に近い発音と滑らかなイントネーションに気を配りながら練習する。様々な場面を想定した日常会話と簡単な歌の練習を織り交ぜ、韓国に行きたい、先生以外の韓国人とも話してみたいという意欲が出るように指導する。言語の4機能の総合的学修を通じて、全体的コミュニケーション能力アップを目指す。ハングル検定4級と一部の学生は3級までも目指せるような実力を身につける。	
情報 スキル	情報スキルⅠ	大学での学修・研究活動において情報機器を道具の一つとして使いこなすため、コンピュータやネットワークについて基礎知識から応用例まで学ぶ。授業は計算機の構成や数値表現、単位、歴史、基本動作、情報モラルなどと、電子メールや簡単なWeb Pageの作成、文書作成・編集などで構成される。また、コンピュータの基礎やネットワークの仕組みなど情報化社会に必要な知識と技量を身につけ、ワードプロセッサによる文書作成では作表や図形・画像・グラフ・装飾などレポートや論文作成のための編集技術を修得する。	
	情報スキルⅡ	大学での学修・研究活動に加え就職活動そして社会人として様々な業務や活動で当たり前のように情報機器を道具の一つとして使いこなすため、より実践的な応用例としてプレゼンテーションツールや表計算ソフトウェアを演習型で学ぶ。レポートや論文作成に必要なデータ集計や分析、簡単なプログラミングなど表計算ソフトウェアの活用を身につけ、そしてそのレポートや論文の発表で活用するプレゼンテーションツールの使い方を学修することにより、専門語学での学修・研究活動に活用できる能力を修得する。	
言 語 学	言語学概論Ⅰ	言語の構造について深い理解を得るために、言語を構成する要素が作り上げている音韻・形態・統語・文章談話などの構造や語彙・意味について、世界のさまざまなタイプの言語の例を通して学ぶことにより、言語の仕組みそのものに対する深い理解を得るとともに、人間の使用する言語というものに対して偏りのない見方ができるようになる。また、言語そのものではないが、それと密接な関係のある文字についても、その伝播と変遷ならびに言語との関わりにおける機能について理解する。	
	言語学概論Ⅱ	言語の使用、変異、歴史的变化について深い理解を得るために、社会における言語の使用を学ぶことにより、言語によるコミュニケーションについての理解を広げる。そして、言語の社会的・地理的変異を知ることにより言語の多様性・連続性を理解する。さらに、言語の歴史的变化を見ることにより、そこに規則性があることを知ると同時に現在の世界の言語の状況を時間の流れにおいて理解する。また、言語と国家との関わりについても学び、世界には日本に見られないさまざまな問題があることを知り、視野を広げる。	
自由 科目  キャリア 支援	キャリアガイダンス	<p>(概要) 1年生を対象とした授業である。大学卒業後の進路や職業選択にむけて、大学で何を学び、大学生活をどう過ごすのか、そしてどのような人生を送りたいのか。このようなことについて考えることをキャリアデザインと呼ぶ。社会で活躍するためには、自立的・主体的に考え行動し、問題や課題に直面したときに自分で対処し解決する力が必要である。この授業は、大学で「学ぶ」として社会で「働く」としての意義と関係性を理解し、大学での学修を終え、社会で働き、生きていくために必要な力を養成することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)各回完結方式で、ゲストスピーカーを適宜招いて①キャリアデザインの基礎を身につける。②大学で「学ぶ」として社会で「働く」としての意義と関係性を理解する。③個人の学習とグループワークを通して、社会で必要な力を身につける、の三点を中心に授業展開する。</p> <p>(1 近藤真宣/5回) 受講のガイダンスに引き続き、キャリアデザインとは、社会を知ることの大切さ、自分を知ることの大切さ、他者とのかかわりなどについて考える。</p> <p>(5 佐野正俊/5回) 初回は文章表現の基礎学修。続いて社会で求められる能力、自分の将来について考え、ドリームマップを作成する。</p> <p>(21 安富雄平/5回) 拓殖大学の歴史、就職活動の流れの概略、大学の4年間を社会でどう活かすかをテーマにヒューマンコミュニケーションの重要性を認識する。最終回はキャリアデザインの振り返りを行う。</p>	オムニバス方式

科 目 区 分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	職業能力基礎 (SPI)言語	就職活動の最初の難関が「就職筆記試験」であることはいまでもない。特に志望者の多い人気企業11,000社以上で使われている「SPI3試験」は、就職活動をするにあたって避けては通ることのできないものとなっている。この授業は年間約180万人が受験するといわれるSPI3試験の非言語分野をテーマとして、基礎力養成から応用までを徹底的に行うものとする。就職活動時の筆記試験で落とされないための基礎的な知識と、問題を解くための解答テクニックを身につけて、時間短縮を図ることを目標とする。同時に、就職試験に関する情報の提供や最新傾向について知ることも目標とする。	
	職業能力基礎 (SPI)非言語	『SPI3試験』は、企業などの新入社員選抜に利用される適性検査のための試験である。この試験は学力や知的活動能力に加え、人柄や適正など多方面にわたるテストによって総合的に人物の性格と能力を測定する。本講座はSPI3試験の非言語分野をテーマとして、問題形式や出題の意図などを分析し、問題演習を通して解法の復習と理解の定着を図るものである。SPI3はある程度以上の解答速度も要求されるので、基礎知識を固め、解答の手法を身につけて、高得点を取れることを目標とする。また、就職活動に不可欠な情報や企業の採用傾向などをデータベースを駆使して自分で取得できることを目指す。	
ビジネス	観光ビジネス論Ⅰ	「観光」は、年間1兆ドルを上回る外貨収入を発生させる産業となっている。授業では、「観光」の基礎的な知識を理解し、日本の気候風土と知恵から創造された文化や技術など「価値」と「誇り」を発信することで、地域経済の活性化に繋がる『観光』本来の意義を学ぶ。また、昨今の価値観の変化による新たなニーズ、観光立国実現のために観光庁が進める訪日外国人増加策、特に戦略的ホスピタリティの導入について理解し、将来を見据えた「サービスの在り方」などの具体策を考えていく。	
	観光ビジネス論Ⅱ	時代と共にますますニーズが高まる多面的な観光を理解する。観光関連事業におけるビジネスプランから、地域ブランド構築のための具体的な活性プランまで、実践に関わる「企画」について考える。また、業界を構築する機能(宿泊・飲食・運輸・製造・旅行代理店)のそれぞれの視点に立って、マーケティング・企画アイデア・経営戦略・メディア戦略等、販売戦略に至る具体的な要素を理解する。さらに、時代に即した、農商工連携、地域連携、産官学連携を視野においた魅力的な商品開発を様々な事例を参考に学ぶ。	
	英語会話Ⅰ	英語が専門ではない学生対象の本授業では、まず、英語を母語とするネイティブ教員との間で、日常の話題について、基本的な英語を使ってある程度スムーズにやり取りができるコミュニケーション能力を身につけることを目指す。そのためにはとにかく英語で話す意欲と勇気が必要である。到達目標としては、教員の話す内容が70%ほどは理解できることと、ネイティブ教員との間に少なくとも3往復ほどの英語での会話が成り立つことの2点とする。	
	英語会話Ⅱ	英語会話Ⅰで、英語のネイティブの話者とのコミュニケーションには慣れてきたはずであるので、この授業では、さらに一歩進んだレベルの話題について、日本人受講生同士で、最低5往復ほどの会話が成り立つことが目標である。英語会話Ⅰよりも使用する英語のボキャブラリーが増え、話題の幅が広がる。ネイティブ教員とも、さらにリラックスした雰囲気の中身のある内容について楽しく会話できるレベルを目指す。CEFRの「日常生活での基本的な表現を理解し、ごく簡単なやりとりができる」というA1レベルに達していることが到達目標である。	
	資格英語A	この授業では、TOEFL-ITP試験に照準を合わせた実践的な英語力(聴く・読む・語彙・文法等の力)の向上を図る。到達目標としては、留学に向けた英語力審査で合格点を取れる英語力を身につけること、TOEFL試験の問題形式に習熟すること、TOEFL対策に必要な幅広いジャンルの「語彙力」を身につけること、留学時の海外での日常生活や学生生活に役立つ表現や語彙を身につけることなどである。実際のTOEFL形式の問題集を解き進めながら、関連する文法事項や語彙・知識をわかりやすくまとめて解説していく。	
	資格英語B	本科目では、資格英語Aで学んだことを踏まえ、さらにTOEIC試験に照準を合わせた実践的な英語力の向上をはかると同時に、TOEICの形式に慣れ、将来にわたってTOEICを自分で継続的に勉強していける力を養っていくことを目指す。TOEICで要求される英語能力を向上させるため、実践的なビジネスシーンや日常での具体的な会話に習熟する。また、TOEICで求められるすばやく的確な「情報判断力」を身につける。さらに、実用的な英語能力の向上に役立つ学修法などに触れる。	
	資格英語C	この授業の目的は、実用英語技能検定試験(英検)に必要なとされる文法と読解力を修得するために有効とおもわれるさまざまな訓練を行い、最終的には学修者の希望する級に合格できるだけの学力を得ることである。到達目標は英検2級および英検準1級の文法力と読解力、そして聴解力を修得し学生たちの希望するレベルに到達する学力を身につけることとする。授業ではそれぞれの練習・課題や問題をつづつ丁寧に解説していく。特に長文に関しては段落ごとに要約を作成してもらるので、事前に内容をしっかりと把握しておく必要がある。	
	英語会話Ⅲ	ディスカッション等において、英語で積極的にコミュニケーションを取れる能力を学修者が身につけることがこの授業の目的である。本科目は、日常生活レベルのテーマについて、自分の意見を表現することに慣れることが目標である。例えば、イギリス人は天気の話から入るのが好きなので、まず天気の話から入る。そこで会話を切らさずに、自分が好きな天気、日本の天気の特徴などについて、自分の意見も、単語や熟語の羅列ではなく、ある程度の語数で構成される文で伝えられるようになることが望ましい。毎授業学生は一つの話題について自らの独自の視点から二つの論点を準備し、短いプレゼンテーションをする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
英語	英語会話Ⅳ	英語会話Ⅲでの学修を踏まえ、ディスカッションやプレゼンテーション等で、英語で積極的にコミュニケーションを取れる能力をさらに伸ばすのが、この授業の目的である。英語会話プログラムの最終段階の授業であるので、日本人が間違えやすい発音、正しい英文法と語彙・表現を意識することが重要である。「日常生活での身近なことからについて、簡単なやりとりができる」というCEFRのA2レベルに達することが目標である。授業では、本文の内容についての小テストで学生の理解度をチェックした後、学生が準備した論点を基にディスカッションをして内容理解を深め、さらにプレゼンテーションをして、発信力を伸ばす。	
	英語ボキャブラリーⅠ	この授業の目的は、日常的な場面や映画、ウェブサイトなどで、大体の意味を把握するための語彙力を身につけることである。また相手を理解するだけでなく、情報を発信するための語彙力をつけ、基本的な国際コミュニケーションを可能にする。到達目標としては、①大学入学までに学んだ3,000語を基本とし、見てわかるだけでなく、その3,000語が実際に使えるようになること、②さらに400-500程度の語彙を増やし、使えるようになること、③ものの形や性質、人物描写、感情表現、映画や小説のストーリーなどについて学んだ語彙を使って話せるようになることの3点である。	
	英語ボキャブラリーⅡ	この授業の目的は、雑誌、新聞、ニュースの概要が英語で理解できるとともに、日本の文化や社会についても情報を発信できるように語彙を増やすことである。さらに高度な国際コミュニケーションを可能にするための語彙力アップを図り、日本語と英語を比較することにより、文化的相違を理解することも目指す。到達目標としては、語彙数4,000語の理解と応用力を目標とし、大学、職場、政治、スポーツ、科学など、さまざまな分野での話題を取り上げ、それについて意見が言える発信力を身につけることである。	
	マスメディア英語Ⅰ	この授業では、毎回英字新聞や英語ニュースを通じて世の中の動きを追っていくと同時に、料理のレシピの読み方から英語の漫画、ニュースや映画・洋楽などの聞き取りにいたるまで、様々な分野・媒体(文字・音声両方)からの正確かつ効率的な情報把握力を無理なく養っていく。授業の到達目標は、マスメディア(英字新聞など)特有の英語や英字新聞の見出しが読めるようになること、世界や日本の情勢・動き(特に、政治・経済・国際情勢など)について基本的な理解を深めることである。	
	マスメディア英語Ⅱ	新聞、テレビ、インターネット等大衆メディア媒体を通じて発信される英語情報に接することにより、社会の様々な事象を学びつつ、語彙や表現等の拡充を図ることを目的とする。授業の到達目標としては、政治、社会、国際問題等を扱った、いわゆる時事英語の読解に加え、文字・音声・映像など様々な媒体の様々な文体の英語に触れ理解できるようになることとする。授業では、映像、新聞媒体、音楽、映画等の大衆メディア媒体に接することにより、聴解力・語彙力の向上を図る。	
	映画英語Ⅰ	英語学修方法の一つに映画鑑賞がある。英語音声の映画を英語字幕、あるいは字幕無しで鑑賞する方法である。この授業では、英語力の強化のみならず、様々な米国社会を背景として制作された映画を鑑賞することにより、米国社会の理解を深めることも目的である。映画をクラスで鑑賞しながら受講生同士でディスカッションを行い、英語表現や米国社会の理解を深められることを求めている。英語力という点では、最終的には英語字幕無しで5割ほど理解できるようになることを目指す。	
	映画英語Ⅱ	映画英語Ⅰで学んだことを踏まえ、映画を活用してさらに英語力の強化を図る。読書と異なり聴覚の集中力が必要とされ、リスニング力が特に鍛えられる。この授業では、現代の米国社会が抱える諸問題を背景として制作された映画を鑑賞することにより、米国の理解をより一層深めることも目的とする。映画をクラスで鑑賞しながら受講生同士でディスカッションを行い、英語表現や米国社会の理解を深められることを求める。英語力という点では、最終的には英語字幕無しで7割ほど理解できるようになることを目指す。	
	インターネット英語Ⅰ	本科目の目的は、①Twitterやホームページなどインターネット上で用いられているインターネット英語独特の語彙・構文に焦点をあててインターネット英語のアウトラインをつかむこと、②インターネットから膨大な現代英語のデータを入手すること、③入手した英文データを整理分類分析する手法およびそのために必要なアプリケーションプログラムを提供することの3点である。また、到達目標としては、多量のインターネット英語に触れることで高度な速読能力を修得すること、インターネットから英文データを入手する方法を学ぶこと、入手したデータを整理し分析する方法を身につけることである。	
	インターネット英語Ⅱ	この授業の目的は、①BBCとCNNなどのニュースサイトから国際問題・ビジネス・テクノロジー・サイエンス・スポーツなど幅広い領域の報道英語を読み聴くこと、②電子図書館から公開データを直接入手し分析すること、③Wikipedia・Wiktionaryのオンライン百科事典・オンライン辞書のデータを入手し分析する手法を学ぶこと、④受講生が興味をもつ分野・領域に絞ってデータを収集し独自のデータベースを作成することの4点とする。到達目標は、BBC、CNNのニュースサイトが提供する情報を読み解き、聞き取れること、ネット上の英語のデータを収集しこれを分析できる能力を身につけることとする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
副専攻科目       中国語	コミュニケーション 中国語講読Ⅰ	講読は書き手のメッセージを能動的に受け取り、解釈してとりいれる技能で、高度な知的言語コミュニケーションの修得に不可欠な要素である。この授業では映像音声視聴と内容理解を経た翻訳の練習に、文法構造の解明と語釈の説明を加えた、学生参加型の形式で実施する。コミュニケーションに必要な語彙・表現と文化的知識を修得する。中国の小学校、アフターファイブ、スター、交通手段、メディア事情などを取り上げた映像を媒体として、授業の進め方映像教材と印刷教材を併用した聴取理解と文法講読の授業である。以上の授業をとおして、中級レベル(中国語検定3級～2級、HSK試験4級～5級合格)の語法のポイントや例文の解釈ができるよう、読解力をつけるよう指導する。	
	コミュニケーション 中国語講読Ⅱ	中国語を読んで理解し、日本語に訳す力は、初習外国語の基礎として重要且つ不可欠な課程であることは言を俟たない。コミュニケーション中国語講読Ⅰに引き続き、母語の言語獲得と大学生相応の知的活動とを融合させた授業を展開する。映像に現れるテキストを文字面だけの理解に止めず、身体のあるゆる感覚を使って総合的に学修し、読解力の基礎を身につける学生参加型の授業である。以上の授業をとおして、言語コミュニケーションにおけるテキストの読解は五感を駆使し様々な知識を参照して発信者のメッセージを再構築していく課程であるところを体験しつつ、検定試験3級～2級合格の実力を磨く。	
	コミュニケーション 中国語作文Ⅰ	近年外国語教育は、言語の五技能(読解・書記・聴解・発話・対話)を均等に伸ばすことを重視している。特に書記(作文)は母語といえども意識的な教育・学修を必要とする技能であるから、教養ある大学生にとっては不可欠なものと考えられる。本科目では、まとまった内容の文章を中国語で書く際に注意すべきルールを意識し、文型学修ならびに、日本語と中国語との発想の違いによる表現法の相違について学修する。一年次に習得した中国語の文法知識を固めながら、さらに応用力を深めるよう授業を展開する。以上の授業をとおして、基本的な日中翻訳能力、応用能力を正確に身につける。	
	コミュニケーション 中国語作文Ⅱ	大学生の知的活動相応しい文章表現の技術は、小中学生の母語による作文とは違い、簡潔で論旨明解、教養ある母語話者を説得できるだけの質と内容が要求される。本科目はコミュニケーション中国語作文Ⅰに引き続き、一年次に習得した中国語の文法知識を確認しつつ、翻訳演習のための文章や基本文型の例文の解釈を通し、練習問題を数多くこなすことによって構文理解から論理的な文章の構築に導く。以上の授業をとおして文章表現の技法を修得し、高度な応用力を身につける。	
	ビジネス 中国語講読Ⅰ	業務上の書式や手紙、メールの類は当たり前として、新聞や雑誌、書籍など書かれた中国語をすばやく読んで正確に内容を理解する力はビジネスの世界においても、不可欠なものとして要求される。本科目では中国に仕事で滞在することを前提として、仕事に必要な様々な文章を正確に理解できる力を養成する。学生は読みの練習、日本語訳の練習を行い、教員が解説と指導をする。対話、日本語訳、応用練習の三部からなり、主本文の翻訳を宿題として課す。以上の授業をとおして、中国に仕事で滞在する場合に必要なとされる、日常生活、個々の職場などで目にする多くの基本的文章を理解できる力を養成する。	
	ビジネス 中国語講読Ⅱ	中国に仕事で滞在する際には、仕事の内容を把握して遂行する力はいまでもなく、生活上支障のない中国語運用力と、ビジネス文書(見積書、契約書など)を正しく理解でき、正しい日本語に翻訳する力が必要とされる。本授業はビジネス中国語講読Ⅰに続き、読解・翻訳によって一般的な契約書の読解に必要な語彙力、文法力の充実を図る。また、中国語のビジネス文章を正しい日本語に訳す基礎翻訳力も身につけさせる。テキスト音読の練習、日本語訳の練習を行い、教員が解説と指導をする。ビジネス中国語講読Ⅰと同様、対話、日本語訳、応用練習の三部からなり、主本文の翻訳を宿題として課す。以上の授業をとおして、後期のビジネス講読Ⅱ終了時には、中国に仕事で滞在する際に、中国語で書かれた文章を正しく理解でき、正しい日本語に翻訳することができるように導く。	
	ビジネス 中国語会話Ⅰ	ビジネス会話は結論がはっきりしていて、具体的かつ完結で、聞き手に分かりやすくなければならない。本科目ではビジネスシーンでの会話に役に立つリスニング力やスピーキング力、語彙力に焦点をあてて授業を展開する。学生参加型の授業である。2回目以降は授業で学んだ箇所の単語テストから始まり、その後、当日学ぶ部分の解説および補足説明を行う。「聞く」「話す」スキルを高めるために、通訳訓練法を用いた練習方法を紹介し、流暢に話せるよう訓練する。通訳訓練法を活用して会話力を磨く訓練を行う。また、できるだけたくさん声を出し、読む練習をすることで中国語の総合力を高める。以上の授業をとおして、ビジネスシーンで使用されるフレーズが一通り理解でき、聞き取れ、話せるようになることを目標とする。	
	ビジネス 中国語会話Ⅱ	商業取引の場面では単なる会話力だけでなく、ビジネスの現場に関連する情報やビジネス慣習、会社での仕事の流れなどに関連した知識が重要である。本科目はビジネス中国語会話Ⅰに引き続き、実社会で通用する中国語の会話力を磨く。受講生の積極的参加を前提とする授業形態である。積極的に授業に参加することで、ビジネス会話はもちろん、会話に必要な発音、アクセント、イントネーションをはじめ、日常会話、ビジネス用語、ビジネス概念も合わせて身につけられるように指導する。通訳訓練法を活用して訓練を行う。音読を頻繁に行い、朗読の練習をすることで中国語の総合的運用力を高める。以上の授業をとおして、商取引のやり取りが一通り理解でき、聞き取れ、また、説明や交渉、条件提示など様々な局面で基本的な中国語が話せるようになることを目標とする。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	観光中国語Ⅰ	ここ数年、日本に観光にくる中国人は増加の一途をたどっている。それに伴い、中国語での観光案内、通訳の需要も高まっている。この授業では①一緒に食事をする、②観光案内をする、③通訳ガイド、④買い物をする、⑤観光中国語の実践の大きく五つをテーマとして、東京観光を想定して、観光名所や観光に関する中国語での会話を身につけるようにする。具体的には、毎回のテーマに関する短文について、すらすら通訳、翻訳できるまでの能力を得るよう教授すると共に練習・発表を繰り返して行く。以上の授業をとおして、東京の観光名所を中国語で紹介できる中国語のレベルを身につけることを到達目標とする。	
	観光中国語Ⅱ	昨今、大都市圏、地方部ともに訪日外国人旅行者は増加し、特に中国人の増加が大きく、信頼できるプロの中国語の通訳案内士が求められている。この授業では、①交通機関を利用する、②旅館に泊まる、③日本の文化・生活に親しむ、④通訳ガイド、⑤観光中国語の実践発表の大きく五つをテーマとして短文を毎回15問づつ日文中訳すると共に教科書「中国語で案内する日本」(研究社)の本文の読みの練習と説明の後、グループで通訳の練習をする。最終的には文字情報を頼らずに会話ができるようにする。以上の授業を通して、中国語の通訳案内士に合格できる中国語のレベルを身につけることを到達目標とする。	
	時事中国語Ⅰ	この授業では、現代中国の時事問題を理解するために『時事中国語の教科書』を用いて、内政・外交・経済・生活等に関する文を読み進めていく。テキストの内容を録音したCDを活用しながら中国の時事的な事柄を学んでいくことを目的とする。授業の到達目標は、本授業で学んだ内容を理解することである。ここで言う理解することというのは、その内容の音声聞いて正しく中国語で書き、また正しくリポートして話し、目で見て正しく内容を読み取り日本語に適切に訳せるようになることである。	
	時事中国語Ⅱ	時事中国語Ⅰで学んだ内容を基礎に、現代中国の時事問題を更に理解するために新聞や雑誌などから題材をとったテキストを講読する。CDを活用して聴解の訓練も課す。また中国の近現代史を踏まえた時事的な内容理解の基礎知識の修得にも焦点を当てる。到達レベルの目安として、新聞記事の朗読やニュースの音声聞いて正しく中国語で書きたる訓練や、聴取した内容を受けて的確に発言する練習も行う。日本語に訳す技能も重要であることから、適宜記事の翻訳作業も盛り込む。	
	資格中国語Ⅰ	この授業では、今まで学んできた中国語の語彙、文法事項を基礎に中国語の検定試験に触れ、既習事項を再確認するとともに中国語力の向上を図ることを目的とする。この科目ではHSKという中国政府公認の検定試験の5級以上合格を目指す。そのために過去問題や練習問題を解き、間違えた問題は確実に理解し正答できるようにする。授業の進め方として、2回で1題各項目に分けて解き、解説を行う。なお、聞き取り・読解・作文の項目があるので、それぞれの項目ごとに授業を進める。	
	資格中国語Ⅱ	この授業では、中国語の語彙、文法事項を基礎に中国語の検定試験の問題に触れ、既習事項を再確認するとともに中国語能力の向上を図ることを目的とする。中国語検定協会が実施する中国語検定試験2級以上合格することを目標とする。そのために過去問題や練習問題を解き、間違えた問題は確実に理解し正答できるようにする。授業の進め方として、2回で1題各項目に分けて解き、解説を行う。なお、リスニングと筆記問題の項目に分けて授業を進める。	
	中国文学概論	中国社会を通史的に概観する。この授業では講義形式により、①時代区分と文学史、②殷周の思想と文学、③春秋戦国の思想と文学、④秦漢の文学、⑤魏晉南北朝の思想と文学、⑥隋唐の文学、⑦「宋」「明」「清」の思想と文学、⑧近代・現代・当代(現在)の文学、⑨漢語の特質と修辭、⑩科挙制度と文学、⑪中国文学と日本文学などをテーマに異なる時空を生きた中国文化の特質を考え、私たちの拠って立つ基盤を相対的に捉え直す。日本との関係も異文化理解として考察する。以上の授業をとおして、漢語が有す特徴を知って、幅広い教養を身に付け理解を深める。	
	西語文化講座Ⅰ	スペインの文化に関する様々なテーマを取り上げ、スペイン語圏に関する知識を深めながら、自分のもっとも関心のある分野を見つけ、自発的な研究に導く。様々なテーマに触れていくうちにスペインの文化に親しみを感じ、新しい発見をする機会を提供する。スペイン語圏の様々な文化に触れて、他文化を理解することの重要性を認識することをこの授業の到達目標とする。毎回異なったテーマを扱い、資料を読んだり、担当教員の授業を聞いたり、ビデオを見たりして、内容理解とノートテイキングの練習をする。各自関心のあるテーマについて調査・報告を課し、授業で発表をしたり、相互に意見を交換する機会も設ける。	
	西語文化講座Ⅱ	スペイン各地の民俗や歴史、地理、遺跡や史跡、芸術・音楽、文芸など様々な文化にじかに触れてスペイン文化の多様性を理解する。彼我の文化の違いに注目するだけでなく、その根底に存在する根本的な人間性、類似する文化的要素、社会風俗など多くの共通点があることに気づかせる。各回異なったテーマとアプローチの方法を取る。人文地理的視点からルポルタージュを見たり、担当教員による授業を聴いたり、映画を見たり、記事を読んだりしながら、感想を書いたり、討論をしたり、発表をしたりして、異文化に対する理解を促す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
スペイン語	スペイン語相互学習Ⅰ	この科目は担当教員の指導の下、学生同士でスペイン語文法について教えあい、学びあう、能動的な学習活動によって文法知識や語彙の理解を深め、記憶に定着させることを目的とするものである。スペイン語諸科目の基本である「初級文法」と「初級語彙」で扱うすべての文法項目と語彙表現の理解を深めることが目標である。担当教員により当日のペアが指定される。ペアで机の移動を終えたら担当教員の授業と一緒に聞かすが、その際にノートをとるように努める。その後指導上級生と一緒にドリルを行う。偏愛マップを使ってコミュニケーションの練習も実施する。	
	スペイン語相互学習Ⅱ	この科目は担当教員の指導の下、指導上級生の個別サポートを受けながら初級文法の理解を深めることを目的とする。偏愛マップを使って行うコミュニケーション力のスキルアップも開講目的の一つである。スペイン語運用力の向上を目指すとともに、指導上級生との対話によって高いコミュニケーションの力を身につける。担当教員の授業に続き、教科書の練習問題を指導上級生と一緒に解答する。わからない所は指導上級生の指示で調べたり、教えてもらったり、考えたりしながら練習を進める。	
	スペイン語ワークショップⅠ	スペイン語の4技能(聞く、話す、読む、書く)を均等に刺激しつつ、聞いて話す練習によって口頭での運用力を訓練する。簡単な語彙を用い、旅行や短期の留学などで使える最低限の会話ができることを到達目標とする。文法の基本的説明に続いて、文例に従い練習問題を解く。このときいくつかの質問を提示し、次の回に復習をかねて聞いて答えの練習をする。また、現実的状况を想定したビデオ教材を用いて日常会話のリズムと、会話独特の表現を学ぶ。各自のレベルに合わせたエクササイズを繰り返すことで実力のアップを図る。	
	スペイン語ワークショップⅡ	自然なテンポで会話を進行させることができるよう、映像資料をふんだんに用いて口頭表現の演習を行う。またスペイン語文法の基礎の復習やスペイン語圏文化のトピックを交えて、多面的に言語文化を学んでいく。やや複雑な内容の口頭表現ができ、相互に情報の授受ができることを到達目標とする。授業ではDVDでテーマに即した5分程度の映像を觀賞し、グループでテーマに関連するキーワードから会話文をつくりあげる。文章を推敲しつつ実際の会話が展開する体裁に整え、暗記して自分の文章として使えるように指導する。	
	映画スペイン語Ⅰ	スペイン映画(DVD)を教材に、そこで使用されている重要表現の練習をおこなう。日常会話等でよく使用される基本語彙表現を修得すること、映画を通じてスペインの社会や文化習慣を学ぶことを目的とする。到達目標は、一年生の初級語彙ではカバーしきれなかった中級レベルの必須基本語彙や表現を使いこなせるようにすることである。あわせて初級文法の応用力養成も目指す。授業では毎回、章ごとに鑑賞し、映画の文化的な背景も解説する。映画で使用されていた重要表現の口頭練習をおこない、語彙表現の着実な定着を図る。	
	映画スペイン語Ⅱ	映像を伴うスペイン語の音声を聴取し書き起こすことによって、実際の会話スピードで起こる音声の変化や、リズム・イントネーションの違いがわかる聴解の力を養う。また、場面による表現の練習や、シャドウイングによってより自然なスペイン語が話せるよう、また聞き取れるよう訓練を繰り返す。話し言葉でよく使う単語や表現を学ぶと同時に、音声聴取法の基礎となる聴解力を身につける。授業では教員が指定する箇所を繰り返し聞いて、音声聴取・書き取りの練習をし、続いて、音声の変化について、音声学的に検討する。	
	日西語対照研究Ⅰ	スペイン語と日本語を比較しながら、語彙、文法、慣用句、ことわざなどの違いを明らかにすることによって、言葉や文化の理解を深め、コミュニケーションに役立つ知識を修得させる。到達目標は自分のスペイン語の表現力を豊かにして、より自然に会話ができることである。日本語と似ているが意味が違う言い回しを区別できることを目指す。日本語とスペイン語の様々な文章や表現を読んで、訳したり、分析したりして、みんなで考えを発表しながら授業を進める。授業に出てきた新しい表現、慣用句やことわざを使って作った短い文を添削する。	
	日西語対照研究Ⅱ	この授業ではスペイン語と日本語の言語微標を対照しながら、音声、形態、統語、意味などの文法諸項目の類似点や相違点を明らかにすることによって、言葉や文化の理解を深めながら、言葉や文化を研究対象として扱う態度を涵養することを目的とする。到達目標は各自がスペイン語の表現力をブラッシュアップし、言語文化に関する豊富な話題を持って、内容のある会話ができることである。日本語とスペイン語の様々な文体の文章を読んで、翻訳の技法を考えたり、言語学的に分析したりして、グループで討論、発表をしながら授業を進める。	
	スペイン語文化概論Ⅰ	スペインの言語、社会、歴史、芸術、など、様々なテーマを取り上げ、様々なスペイン語文化圏のテーマをより詳しく知ることを目的とする。この授業はスペイン語文化圏に触れて、他文化を理解する重要性を認識することを目指す。各回に①ロマの生活やスペインの伝統などのビデオをみて感想を述べて書き残したりする、②スペインにおけるイスラム教の影響や伝統祭礼などについて担当教員の講義をきいて討論したり、感想を書いたりする、③スペイン語の資料を読んで討論する、のいずれかの授業展開とする。	
	スペイン語文化概論Ⅱ	スペイン語とスペイン文化に関する様々なテーマを取り上げ、受講生にスペインの言語文化を深く理解し、一年生のときから見てきた様々なスペイン語文化圏のテーマをより詳しく知ることを目的とする。様々なスペインの文化に触れ、自分の知識、体験として会話のテーマにできるようにすることがこの授業の到達目標である。毎回①映像を見て感想を述べて書き残したりする、②担当教員の講義をきいて意見を述べて書き残したりする、③スペイン語の資料を検討する、のいずれかの授業展開となる。	

# 学校法人拓殖大学 設置認可等に関わる組織の移行表

## 1. 拓殖大学

平成31年度

平成32年度

学部	学科	入学定員	編入学定員	収容定員
商学部	経営学科	380	-	1,520
	国際ビジネス学科	150	-	600
	会計学科	70	-	280
政経学部	法律政治学科	230	-	920
	経済学科	450	-	1,800
外国語学部	英米語学科	100	-	400
	中国語学科	50	-	200
	スペイン語学科	50	-	200
工学部	機械システム工学科	80	-	320
	電子システム工学科	80	-	320
	情報工学科	80	-	320
	デザイン学科	80	-	320
国際学部	国際学科	300	-	1,200
計		2,100	-	8,400

学部	学科	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
商学部	経営学科	380	-	1,520	
	国際ビジネス学科	150	-	600	
	会計学科	70	-	280	
政経学部	法律政治学科	230	-	920	
	経済学科	450	-	1,800	
外国語学部	英米語学科	<u>130</u>	-	<u>520</u>	定員変更(30)
	中国語学科	50	-	200	
	スペイン語学科	50	-	200	
	国際日本語学科	<u>50</u>		<u>200</u>	学科の設置(届出)
工学部	機械システム工学科	80	-	320	
	電子システム工学科	80	-	320	
	情報工学科	80	-	320	
	デザイン学科	80	-	320	
国際学部	国際学科	<u>350</u>	-	<u>1,400</u>	定員変更(50)
計		<u>2,230</u>	-	<u>8,920</u>	

## 2. 拓殖大学大学院

平成31年度

平成32年度

研究科	専攻	入学定員	編入学定員	収容定員
経済学研究科	国際経済専攻(M)	30	-	60
商学研究科	商学専攻(M)	30	-	60
工学研究科	機械・電子システム工学専攻(M)	18	-	36
	情報・デザイン工学専攻(M)	18	-	36
言語教育研究科	英語教育学専攻(M)	8	-	16
	日本語教育学専攻(M)	8	-	16

研究科	専攻	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
経済学研究科	国際経済専攻(M)	30	-	60	
商学研究科	商学専攻(M)	30	-	60	
工学研究科	機械・電子システム工学専攻(M)	18	-	36	
	情報・デザイン工学専攻(M)	18	-	36	
言語教育研究科	英語教育学専攻(M)	8	-	16	
	日本語教育学専攻(M)	8	-	16	

国際協力学 研究科	国際開発専攻(M)	20	-	40
	安全保障専攻(M)	15	-	30
地方政治行政 研究科	地方政治行政 専攻(M)	15	-	30
経済学 研究科	国際経済専攻(D)	5	-	15
商学 研究科	商学専攻(D)	5	-	15
工学 研究科	機械・電子システム工学 専攻(D)	6	-	18
	情報・デザイン工学 専攻(D)	6	-	18
言語教育 研究科	言語教育学専攻 (D)	5	-	15
国際協力学 研究科	国際開発専攻(D)	3	-	9
	安全保障専攻(D)	2	-	6
計		194	-	420

国際協力学 研究科	国際開発専攻(M)	20	-	40	
	安全保障専攻(M)	15	-	30	
地方政治行政 研究科	地方政治行政 専攻(M)	15	-	30	
経済学 研究科	国際経済専攻(D)	5	-	15	
商学 研究科	商学専攻(D)	5	-	15	
工学 研究科	機械・電子システム工学 専攻(D)	6	-	18	
	情報・デザイン工学 専攻(D)	6	-	18	
言語教育 研究科	言語教育学専攻 (D)	5	-	15	
国際協力学 研究科	国際開発専攻(D)	3	-	9	
	安全保障専攻(D)	2	-	6	
計		194	-	420	

### 3. 拓殖大学北海道短期大学

平成31年度

学 科	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
農学ビジネス学科	150	-	300
保育学科	80	-	160
計	230	-	460

平成32年度

学 科	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
農学ビジネス学科	150	-	300	
保育学科	80	-	160	
計	230	-	460	

拓殖大学の位置（東京都内における位置）

出典（Google マップ）

# 八王子国際キャンパスの位置図

東京都八王子市館町815番地1

(最寄り駅：JR中央線・京王線 高尾駅より八王子国際キャンパスまで京王バスにて5分, 1.78km)



# 八王子国際キャンパス校地校舎の配置図

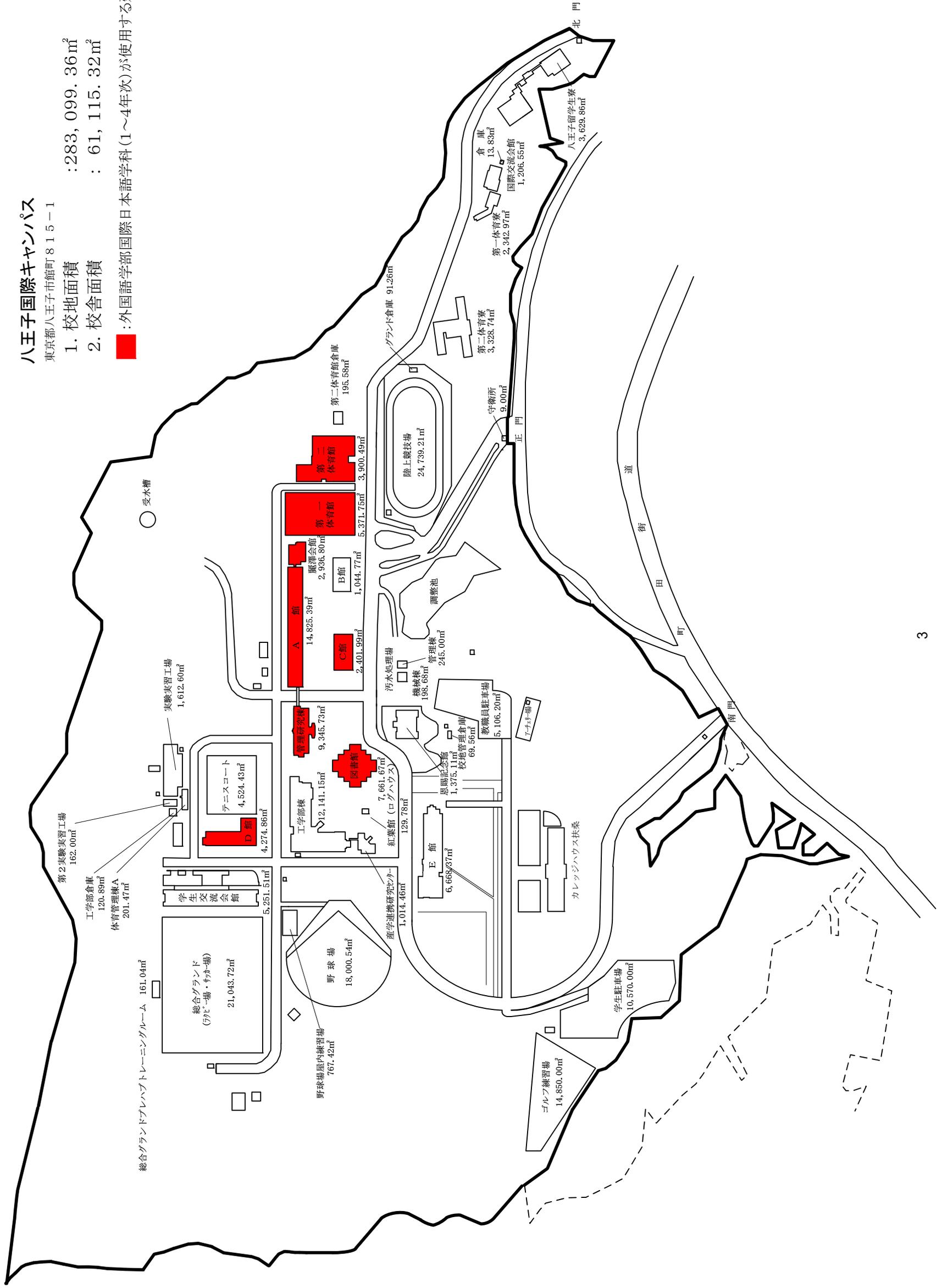
## 八王子国際キャンパス

東京都八王子市館町815-1

1. 校地面積 : 283,099.36㎡

2. 校舎面積 : 61,115.32㎡

■ : 外国語学部国際日本語学科(1~4年次)が使用する建物



目次

第 1 章	総則(第 1 条・第 2 条)
第 2 章	組織(第 3 条～第 9 条)
第 3 章	職員組織(第 10 条～第 15 条)
第 4 章	教授会(第 16 条・第 17 条)
第 5 章	学年・学期及び休業日(第 18 条～第 21 条)
第 6 章	修業年限及び在学年限(第 22 条・第 23 条)
第 7 章	入学(第 24 条～第 30 条)
第 8 章	教育課程及び履修方法(第 31 条～第 35 条)
第 9 章	試験・成績及び進級(第 36 条～第 40 条)
第 10 章	休学・転学・転部・転科・留学・退学及び除籍(第 41 条～第 49 条)
第 11 章	卒業及び学位(第 50 条・第 51 条)
第 12 章	賞罰(第 52 条・第 53 条)
第 13 章	科目等履修生・聴講生・委託生・受託留学生及び研究生(第 54 条～第 59 条)
第 14 章	学費等(第 60 条～第 62 条)
第 15 章	奨学生(第 63 条)
第 16 章	公開講座(第 64 条)
第 17 章	寄宿舍(第 65 条)
第 18 章	雑則(第 66 条)
	附則

**第 1 章 総則**

（目的）

**第 1 条** 本学は、教育基本法の精神に基づき、学校教育法第 83 条の規定により、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、人格を陶冶することを以て目的とする。

2 第 3 条に定める学部、学科ごとの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、別表第 1 に定める。

（使命）

**第 2 条** 本学は、国際友愛精神を指導理念として、日本及び世界の文化の進展に寄与する人材を養成することを使命とする。

**第 2 章 組織**

（学部及び学科の設置）

**第 3 条** 本学に、商学部、政経学部、外国語学部、工学部及び国際学部を置く。

(1) 商学部には、経営学科、国際ビジネス学科及び会計学科を置く。

(2) 政経学部には、法律政治学科及び経済学科を置く。

(3) 外国語学部には、英米語学科、中国語学科、スペイン語学科及び国際日本語学科を

置く。

(4) 工学部に、機械システム工学科、電子システム工学科、情報工学科及びデザイン学科を置く。

(5) 国際学部に、国際学科を置く。

(入学定員及び収容定員)

**第4条** 前条に規定する各学科の入学定員及び収容定員は、次の通りとする。

学 部	学 科	入 学 定 員	収 容 定 員
商学部	経営学科	380名	1,520名
	国際ビジネス学科	150名	600名
	会計学科	70名	280名
政経学部	法律政治学科	230名	920名
	経済学科	450名	1,800名
外国語学部	英米語学科	130名	520名
	中国語学科	50名	200名
	スペイン語学科	50名	200名
	国際日本語学科	50名	200名
工学部	機械システム工学科	80名	320名
	電子システム工学科	80名	320名
	情報工学科	80名	320名
	デザイン学科	80名	320名
国際学部	国際学科	350名	1,400名

(大学院)

**第5条** 本学に、大学院を置く。

2 大学院に関する規則は、別に定める。

(別科)

**第6条** 本学に、別科を置く。

2 別科に関する規則は、別に定める。

(附置研究所)

**第7条** 本学に、附置研究所として、経営経理研究所、政治経済研究所、言語文化研究所、理工学総合研究所、人文科学研究所、海外事情研究所、国際日本文化研究所、国際開発研究所、日本語教育研究所、イスラーム研究所、地方政治行政研究所、産学連携研究センター及び地域連携センター(以下「研究所」という。)を置く。

2 研究所に関する規則は、別に定める。

(図書館)

**第8条** 本学に、図書館を置く。

2 図書館に関する規則は、別に定める。

(事務組織等)

**第9条** 本学に、事務局、学生支援センター、入学支援センター、総合情報センター、就職キャリアセンター及び国際交流留学生センターを置く。

2 本学の事務組織、学生支援センター、入学支援センター、総合情報センター、就職キ

キャリアセンター及び国際交流留学生センターに関する規則は別に定める。

### 第3章 職員組織

(職員)

**第10条** 本学に、学長、副学長、教授、准教授、助教、講師、助手、学生主事、学生主事補、事務職員及びその他必要な職員を置く。

(学長)

**第11条** 学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。

(副学長)

**第12条** 副学長は、学長を補佐し、命を受けて、校務を統括する。

(学部長)

**第13条** 各学部に、学部長を置く。

2 学部長は、その学部の教授のうちからこれをあてる。

3 学部長は、学長を補佐し、当該学部の校務を統括する。

(研究所長等)

**第14条** 研究所に、研究所長又は研究センター長を置く。

(図書館長)

**第15条** 図書館に、図書館長を置く。

### 第4章 教授会

(学部教授会)

**第16条** 本学の各学部に、教授会を置く。

2 学部教授会は、当該学部の専任の教授及び准教授をもって構成する。ただし、その他の教育職員も出席させることができる。

3 学部教授会は、次に掲げる事項を審議する。

(1) 教授会の運営に関する事項

(2) 教育課程の編成、変更、実施及び講義担当に関する事項

(3) 学部長の選挙に関する事項

(4) 教員人事に関する事項

(5) 各種委員会に関する事項

(6) 名誉教授の推薦に関する事項

(7) 学則に関する事項

(8) 学生の入学、退学、休学、進級、復学、転部、転科、留学、除籍、卒業及び課程の修了、学位の授与に関する事項

(9) 学生の試験に関する事項

(10) 奨学生の選考に関する事項

(11) 学生の賞罰に関する事項

(12) 学生団体、学生活動、その他学生生活に関する事項

(13) 教授会規程の改廃に関する事項

(14) その他当該学部の運営上重要な事項

4 前項第4号の審議及び議決には、准教授は参加することができない。

5 前3項に掲げる審議事項のうち、学生の入学、卒業及び課程の修了、学位の授与につ

いては、学長が決定を行うにあたり、必ず意見を述べなければならない。

6 学部教授会において審議、議決された事項は、学部長から学長に報告し、学長が決定する。

7 学部教授会に関するその他必要な事項は、別に定める。

(連合教授会)

**第 17 条** 本学に、連合教授会を置く。

2 連合教授会は、各学部の専任の教授をもって構成する。ただし、その他の教育職員も出席させることができる。

3 連合教授会は、学長が次に掲げる事項を決定するにあたり意見を述べるものとする。

(1) 学部教授会から附託された事項

(2) その他各学部に共通する事項

4 連合教授会に関するその他必要な事項は、別に定める。

#### **第 5 章** 学年・学期及び休業日

(学年)

**第 18 条** 学年は、毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終る。

(学期)

**第 19 条** 学年は、次の 2 学期に分ける。

前学期 4 月 1 日から 9 月 30 日まで

後学期 10 月 1 日から 3 月 31 日まで

(授業期間)

**第 20 条** 1 年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35 週にわたることを原則とする。

(休業日)

**第 21 条** 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日及び国民の祝日に関する法律(昭和 23 年法律第 178 号)に規定する休日

(2) 本学の創立記念日(11 月 3 日)

(3) 春季休業日 3 月 24 日から 3 月 31 日まで

(4) 夏季休業日 7 月 11 日から 9 月 10 日まで

(5) 冬季休業日 12 月 25 日から翌年 1 月 7 日まで

2 学長は、教授会の議を経て前項に規定する休業日を変更することができる。

3 第 1 項に規定するもののほか、学長は、教授会の議を経て臨時の休業日を定めることができる。

#### **第 6 章** 修業年限及び在学年限

(修業年限)

**第 22 条** 学部の修業年限は、4 年とする。

(在学年限)

**第 23 条** 学生は、6 年をこえて在学することができない。ただし、教授会の議を経て学長が許可した場合は、8 年以内の期間、在学することができる。

2 第 29 条第 1 項の規定により入学した学生は、同条第 2 項により定められた在学年数の 1.5 倍の年数(端数が生じた場合は切上げた数)をこえて在学することができない。ただ

し、教授会の議を経て学長が許可した場合は、その2倍に相当する年数以内の期間、在学することができる。

## 第7章 入学

(入学の時期)

**第24条** 入学の時期は、学年の始めとする。

(入学資格)

**第25条** 本学に入学することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年1月31日文部科学省令第1号)により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度試験に合格した者
- (7) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達した者

(入学の出願)

**第26条** 本学へ入学を志願する者は、入学志願書に別表第2—1に定める入学検定料及び別に定める書類を添えて願い出なければならない。

2 入学検定料は、受験の如何にかかわらずこれを返還しない。

(入学者の選考)

**第27条** 前条の入学志願者については、別に定めるところにより選考を行う。

(入学手続及び入学許可)

**第28条** 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、誓約書及び身元保証書その他所定の書類を提出するとともに、別表第2—2に定める学費及び所定の諸会費(以下「学費等」という。)を納付しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

(編入学及び転入学)

**第29条** 次の各号の一に該当する者で、本学へ入学を志願するときは、学長は、欠員のある場合に限り、教授会の議を経て、相当学年に入学を許可することができる。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 短期大学、高等専門学校を卒業した者
- (3) 他の大学を退学した者
- (4) 学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)附則第7条に定める従前の規定による高等学校、専門学校又は教員養成諸学校の課程を修了し、又は卒業した者

(5) 大学入学資格を有し、専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者

(6) 大学入学資格を有し、高等学校等の専攻科のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者

2 前項及び第 30 条の規定により入学を許可された者のすでに履修した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、学長が教授会の議を経て決定する。

(再入学)

**第 30 条** 学長は、本学の退学者及び除籍者が再入学を願い出たときは、次の各号に該当する者を除き、欠員がある場合に限り、教授会の議を経て相当学年に入学を許可することができる。

(1) 第 53 条第 2 項により放校退学された者

(2) 第 53 条第 2 項による諭旨退学者で退学決定日より 1 年以上経過していないとき。

(3) 第 49 条第 2 号により除籍された者

## 第 8 章 教育課程及び履修方法

(授業科目)

**第 31 条** 授業科目は、教養教育科目、基礎科目、外国語科目、初期教育科目、専門科目、ゼミナール科目、自由科目、教職課程科目、社会教育主事講座科目及び日本語教員養成基礎講座科目等とする。

(履修方法)

**第 32 条** 授業科目の履修方法及び修得すべき単位数は、別表第 3 のとおりとする。

(単位の計算方法)

**第 33 条** 授業科目の単位計算方法は、1 単位の履修時間を教室内及び教室外をあわせて 45 時間を標準とし、次の基準により計算するものとする。

(1) 講義及び演習については、15 時間から 30 時間の授業をもって 1 単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30 時間から 45 時間の授業をもって 1 単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、ゼミナール論文、卒業論文、卒業研究等については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められた場合は、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

3 授業科目の単位数は、教授会の議を経て学長が定める。

(教育職員免許状の授与)

**第 34 条** 教育職員の資格を取得しようとする者は、教育職員免許法(昭和 24 年法律第 147 号)及び教育職員免許法施行規則(昭和 29 年文部省令第 26 号)に定める単位を修得しなければならない。

2 本学の学部及び学科において取得できる教育職員免許状の種類は、別表第 4 の通りである。

(社会教育主事の資格)

**第 35 条** 社会教育主事の資格を取得しようとする者は、社会教育法(昭和 24 年法律第 207 号)及び社会教育主事講習等規程(昭和 26 年文部省令第 12 号)に定める単位を修得しなければならない。

## 第9章 試験・成績及び進級

(履修届の提出)

**第36条** 学生は、毎年度所定の期日までに、履修すべき授業科目を記載した履修届を提出しなければならない。

(試験)

**第37条** 履修した授業科目については、学期末又は学年末に試験を行う。

2 学費等を納付していない者、停学中の者又は授業科目の受講が常でない者は、試験を受けることはできない。

(単位の授与)

**第38条** 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

(成績)

**第39条** 授業科目の試験の成績は、S、A、B、C及びFをもって表わし、S、A、B及びCを合格とする。

(進級)

**第40条** 第1学年から第3学年までの学生は、別に定める単位の授業科目を履修し、その単位を修得しなければ、上級の学年に進級することができない。

## 第10章 休学・転学・転部・転科・留学・退学及び除籍

(休学)

**第41条** 疾病その他の事由により3カ月以上修学することができない者は、学長の許可を受けて休学することができる。

2 学長は、疾病のため修学することが適当でない認められた者に対し休学を命ずることができる。

(休学期間)

**第42条** 休学期間は、1年以内とする。ただし、特別の事由がある場合は、さらに1年を限度として休学期間の延長を認めることができる。

2 休学期間は、通算して4年をこえることはできない。

3 休学期間は、第23条に定める在学期間に算入しない。

(復学)

**第43条** 休学期間中にその事由が消滅したときは、学長の許可を受けて復学することができる。

(転入学)

**第44条** 他の大学へ入学又は転入学を志願しようとする者は、学長に届け出なければならない。

(転部及び転科)

**第45条** 学長は、他の学部へ転部又は他の学科へ転科することを志願する者に対し、欠員がある場合に限り、教授会の議を経て、許可することができる。

(単位認定等)

**第46条** 学長は、本学が教育上有益と認めるときは、次の各号の一に該当する単位等は、教授会の議を経て、卒業の要件となる単位として認めることができる。

(1) 本学が定める他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した

## 単位

(2) 短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を本学における授業科目の履修とみなし与えることができる単位

(3) 学生が本学に入学する前に大学又は短期大学(いずれも外国の大学を含む。)において履修した授業科目について修得した単位を本学に入学した後の本学における授業科目の履修とみなし与えることができる単位

2 前項により認定することのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、60 単位を限度とする。

### (留学)

**第 47 条** 本学の学生で、外国の大学で学修することを志願する者は、学長の許可を受けて留学することができる。

2 前項の許可を受けて留学した期間は、第 23 条に定める在学期間に含めることができる。

3 前項の規定より履修し、修得した授業科目及び単位は、教授会の議を経て、商学部、政経学部、外国語学部、国際学部においては、30 単位を限度として、工学部においては、60 単位を限度として卒業の要件となる単位として認めることができる。

### (退学)

**第 48 条** 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

### (除籍)

**第 49 条** 学長は、次の各号の一に該当する者を、教授会の議を経て、除籍することができる。

(1) 学費等の納付を怠り、督促してもなお納付しない者

(2) 第 23 条に定める在学年限をこえた者

(3) 第 42 条第 2 項に定める休学期間をこえて修学できない者

(4) 履修届の提出等在籍に要する手続を履行しない者

## 第 11 章 卒業及び学位

### (卒業)

**第 50 条** 学長は、本学に 4 年(第 29 条第 1 項及び第 30 条の規定により入学した者については、第 29 条第 2 項により定められた在学すべき年数)以上在学し、別に定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の議を経て、卒業を認定する。

### (学位の授与)

**第 51 条** 卒業した者には、次の区分に従い、学位を授与する。

商学部	経営学科 国際ビジネス学科 会計学科	学士(商学)
政経学部	法律政治学科 経済学科	学士(法律政治学) 学士(経済学)
外国語学部	英米語学科 中国語学科 スペイン語学科 国際日本語学科	学士(英米語) 学士(中国語) 学士(スペイン語) 学士(日本語)

工学部	機械システム工学科 電子システム工学科 情報工学科 デザイン学科	学士(工学)
国際学部	国際学科	学士(国際開発)

2 学位の授与に関し、その他必要な事項は拓殖大学学位規程の定めるところによる。

## 第12章 賞罰

(表彰)

**第52条** 学長は、学生として表彰に値する行為があった者を教授会の議を経て表彰する。

(懲戒)

**第53条** 学長は、本学の規則に違反し、次の各号の一に該当する者に対し、教授会の議を経て、懲戒する。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 正当な理由がなく出席が常でない者
- (3) 本学の秩序を乱した者
- (4) 学生としての本分に反した者

2 前項の懲戒の種類は、放校退学、論旨退学、停学、謹慎、譴責及び訓戒とする。

## 第13章 科目等履修生・聴講生・委託生・受託留学生及び研究生

(科目等履修生)

**第54条** 学長は、本学において一又は複数の授業科目について履修を志願する者がいるときは、各学部の教育に支障のない場合に限り、教授会の議を経て、科目等履修生として入学を許可することができる。

- 2 科目等履修生は、学期ごとに入学を許可する。
- 3 科目等履修生は、履修した授業科目の試験を受けることができる。試験に合格した者には、所定の単位を認定する。
- 4 科目等履修生に関し、その他必要な事項については別に定める。

(聴講生)

**第55条** 学長は、本学において特定の授業科目を聴講することを志願する者がいるときは、各学部の教育に支障のない場合に限り、教授会の議を経て、聴講生として入学を許可することができる。

- 2 聴講生は、学期ごとに入学を許可する。
- 3 聴講生に関し、その他必要な事項については別に定める。

(委託生)

**第56条** 学長は、本学に対して官公庁、外国政府又は内外の企業・機関等から委託があったときは、各学部の教育に支障のない場合に限り、教授会の議を経て、委託生として入学を許可することができる。

- 2 委託生は、学期ごとに入学を許可する。
- 3 委託生に関し、その他必要な事項については別に定める。

(受託留学生)

**第57条** 学長は、外国の大学との協定に基づき、当該大学からの委託によって一定の期

間本学に留学する者は、教授会の議を経て、受託留学生として入学を許可する。

2 受託留学生に関し、その他必要な事項については別に定める。

(研究生)

**第 58 条** 学長は、指導教員の指導のもとに特定事項に関する研究をしようとする者があるときは、各学部の教育研究に支障のない場合に限り、教授会の議を経て、研究生として入学を許可することができる。

2 研究生は、学期ごとに入学を許可する。

3 研究生に関し、その他必要な事項については別に定める。

(学則の準用)

**第 59 条** 科目等履修生、聴講生、委託生、受託留学生及び研究生には、本章に規定するほか、本学則の各章の規定を準用する。

#### 第 14 章 学費等

(学費の額)

**第 60 条** 学費等の額は、別表第 2—2 及び別表第 2—3 に定めるとおりとする。

2 第 29 条第 1 項及び第 30 条の規定により入学を許可された者が納付すべき学費の額は、在学することとなる年次の学生に適用する学則に定める額とする。

3 卒業できない者及び上級の学年に進級できない者の学費は、別表第 2—2 に定める学費の額にかかわらず、滞留することとなる年次の学生に適用する学則に定める額とする。

4 学費の減免及び免除等の特例については、別に定める。

(学費等の納付)

**第 61 条** 学費及び所定の諸会費は、当該学年度分を別に定める期日までに納付しなければならない。

2 学年の全期間を休学する者に対しては、**入学金を除く学費の半額**を免除する。

3 留学中の学費等は、全額納付しなければならない。

(学費等の返還)

**第 62 条** 納付した学費等は、事由の如何にかかわらず返還しない。ただし、入学手続時において別に定めるところにより入学を辞退する場合は、この限りでない。

#### 第 15 章 奨学生

(奨学生)

**第 63 条** 学長は、学力優秀、品行方正な学生を、教授会の議を経て、奨学生とすることができる。

2 奨学生に関する規程は、別に定める。

#### 第 16 章 公開講座

(公開講座)

**第 64 条** 社会人の教養を高め、文化の向上に資するため、本学に公開講座を開設することができる。

2 公開講座に関する規程は別に定める。

#### 第 17 章 寄宿舍

(寄宿舍)

**第 65 条** 本学に寄宿舍を置く。

2 寄宿舎に関する規程は、別に定める。

## 第18章 雑則

(学則の変更)

**第66条** この学則は、教授会の議を経て、学長の提案に基づき、理事会の議決により変更することができる。

附 則

本学則は、昭和32年4月1日からこれを実施する。

附 則

本学則は、昭和46年9月28日改正し、昭和47年4月1日からこれを適用する。ただし、昭和46年度以前の入学者については第24条、第39条及び第40条の改正規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

本学則は、昭和51年4月1日から適用する。ただし、昭和50年度以前の入学者については、なお従前の学則による。

附 則

本学則は、昭和52年4月1日から適用する。ただし、昭和51年度以前の入学者については、なお従前の学則による。

附 則

本学則は、昭和53年4月1日から適用する。ただし、昭和52年度以前の入学者については、なお従前の学則による。

附 則

本学則は、昭和54年4月1日から適用する。ただし、昭和53年度以前の入学者については、なお従前の学則による。

附 則

本学則は、昭和55年4月1日から適用する。ただし、昭和54年度以前の入学者については、なお従前の学則による。

附 則

本学則は、昭和57年4月1日から施行する。ただし、昭和56年度以前の入学者については、なお従前の学則による。

附 則

本学則は、昭和58年4月1日から施行する。ただし、昭和57年度以前の入学者については、なお従前の学則による。

附 則

本学則は、昭和59年4月1日から施行する。ただし、昭和58年度以前の入学者については、なお従前の学則による。

附 則

本学則は、昭和60年4月1日から施行する。ただし、昭和59年度以前の入学者については、なお従前の学則による。

附 則

本学則は、昭和61年4月1日から施行する。ただし、昭和60年度以前の入学者につい

ては、なお従前の学則による。

附 則

本学則は、昭和 62 年 4 月 1 日から施行する。ただし、昭和 61 年度以前の入学者については、なお従前の学則による。

附 則

本学則は、昭和 63 年 4 月 1 日から施行する。ただし、昭和 62 年度以前の入学者については、なお従前の学則による。

附 則

本学則は、平成元年 4 月 1 日から施行する。ただし、昭和 63 年度以前の入学者については、なお従前の学則による。

附 則

本学則は、平成 2 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成元年度以前の入学者については、なお従前の学則による。

附 則

1 本学則は、平成 3 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 2 年度以前の入学者については、なお従前の学則による。

2 第 4 条の規定に拘らず、平成 3 年度から平成 7 年度までの入学定員を次のとおりとする。

学 部	学 科	入 学 定 員
商学部	経営学科	510 名
	貿易学科	170 名
政経学部	政治学科	260 名
	経済学科	500 名

附 則

本学則は、平成 4 年 3 月 1 日から施行する。

附 則

本学則は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成元年度以前の入学者については、第 29 条別表第 2 教職に関する科目の改正規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則

本学則は、平成 5 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 4 年度以前の入学者の学費については、第 54 条別表第 1—2 の改正規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則

本学則は、平成 6 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

本学則は、平成 7 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 6 年度以前の入学者については、なお従前の学則による。

附 則

1 この学則は、平成 8 年 4 月 1 日から施行する。

2 第 4 条の規定に拘わらず、平成 8 年度から平成 11 年度までの入学定員を次のとおりとする。

学 部	学 科	定 員
商学部	経営学科	510名
	貿易学科	170名
政経学部	政治学科	260名
	経済学科	500名

附 則

- この学則は、平成9年4月1日から施行する。ただし、平成8年度以前の入学者については、第30条別表第2の改正規定にかかわらず、なお従前の学則による。
- 第24条別表第1—1入学検定料の改正は、平成9年度入学志願者から適用する。

附 則

この学則は、平成10年4月1日から施行する。ただし、平成9年度以前の入学者については、第30条別表第2の改正規定にかかわらず、なお従前の学則による。

附 則

この学則は、平成11年4月1日から施行する。ただし、平成10年度以前の入学者については、第30条別表第2及び第57条別表第1—2の改正規定にかかわらず、なお従前の学則による。

附 則

改正 平成14年3月13日学則第1号

平成15年2月20日学則第2号

- この学則は、平成12年4月1日から施行する。ただし、平成11年度以前の入学者については、なお従前の学則による。
- 第4条の規定にかかわらず、平成12年度から平成16年度までの入学定員を次のとおりとする。

平成12年度

学 部	学 科	定 員
商学部	経営学科	474名
	貿易学科	158名
政経学部	政治学科	242名
	経済学科	470名

平成13年度

学 部	学 科	定 員
商学部	経営学科	468名
	貿易学科	156名
政経学部	政治学科	239名
	経済学科	465名

平成14年度

学 部	学 科	定 員
商学部	経営学科	462名
	国際ビジネス学科	154名

政経学部	政治学科	236名
	経済学科	460名

平成 15 年度

学 部	学 科	定 員
商学部	経営学科	456名
	国際ビジネス学科	152名
政経学部	法律政治学科	233名
	経済学科	455名

平成 16 年度

学 部	学 科	定 員
商学部	経営学科	450名
	国際ビジネス学科	150名
政経学部	法律政治学科	230名
	経済学科	450名

附 則

この学則は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 12 年度以前の入学者については、第 30 条別表第 2 の改正規定にかかわらず、なお従前の学則による。

附 則

- この学則は、平成 14 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 13 年度以前の入学者については、第 29 条の改正規定にかかわらず、なお従前の学則による。
- 商学部貿易学科及び工学部電子工学科は、第 3 条の改正規定にかかわらず平成 14 年 3 月 31 日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

- この学則は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。ただし平成 14 年度以前の入学者については、第 29 条の改正規定にかかわらず、なお従前の学則による。
- 政経学部政治学科は、第 3 条の改正規定にかかわらず平成 15 年 3 月 31 日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 学士(政治学)の学位は第 48 条の改正規定にかかわらず平成 15 年 3 月 31 日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この学則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 15 年度以前の入学者については、第 29 条及び第 38 条並びに別表第 2 の改正規定にかかわらず、なお従前の学則による。

附 則

- この学則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。ただし平成 16 年度以前の入学者については、第 30 条別表第 2 及び第 32 条別表第 3 並びに第 57 条別表第 1—2 の改正規定にかかわらず、なお従前の学則による。

附 則

この学則は、平成 17 年 5 月 18 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 17 年 9 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 17 年度以前の入学者については、第 30 条別表第 2 の改正規定にかかわらず、なお従前の学則による。
- 2 第 37 条は、入学年度にかかわらず、前項に掲げる日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 18 年度以前の入学者については、第 29 条、第 30 条別表第 2 及び第 32 条別表第 3 並びに第 57 条別表第 1—3 の改正規定にかかわらず、なお従前の学則による。
- 2 工学部情報エレクトロニクス学科は、第 3 条の改正規定にかかわらず平成 19 年 3 月 31 日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 国際開発学部開発協力学科、アジア太平洋学科は、第 3 条の改正規定にかかわらず平成 19 年 3 月 31 日に当該学部学科に在学する者が当該学部学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この学則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 19 年度以前の入学者については、なお従前の学則による。

附 則

この学則は、平成 21 年 1 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 20 年度以前の入学者については、なお従前の学則による。

附 則

- 1 この学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 21 年度以前の入学者については、なお従前の学則による。
- 2 工学部工業デザイン学科は、第 3 条の改正規定にかかわらず平成 22 年 3 月 31 日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 22 年度以前の入学者については、なお従前の学則による。

附 則

この学則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 23 年度以前の入学者については、なお従前の学則による。

附 則

この学則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 24 年度以前の入学者については、なお従前の学則による。

附 則

この学則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 25 年度以前の入学者については、なお従前の学則による。

附 則

この学則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 26 年度以前の入学者については、第 32 条の改正規定にかかわらず、なお従前の学則による。

附 則

この学則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 27 年度以前の入学者については、なお従前の学則による。

附 則

この学則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 28 年度以前の入学者については、第 1 条別表第 1、第 6 条及び 32 条別表第 3 の改正規定にかかわらず、なお従前の学則による。

附 則

この学則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 29 年度以前の入学者については、第 32 条別表第 3、及び第 60 条別表第 2—2 の改正規定にかかわらず、なお従前の学則による。

附 則

この学則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 30 年度以前の入学者については、なお従前の学則による。

附 則

1 この学則は、平成 32 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 31 年度以前の入学者については、なお従前の学則による。

2 第 61 条第 2 項の改正は、平成 31 年 4 月 1 日に在学する者に適用する。

## 別表第1 学部、学科ごとの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

### 1 商学部

会計・経営・情報・流通・国際ビジネス等の商学の諸分野における実学を身につけ、グローバル化の進むビジネス社会で活躍できる人材を育成する。

#### (1) 経営学科

企業、組織、流通及び市場の仕組みやその活動を理解する能力と、経営を実践する能力を修得し、ビジネスの世界で活躍できる人材を育成する。

#### (2) 国際ビジネス学科

貿易、サービス・ビジネス、コミュニケーション、ビジネス英語の各領域における実学を総合的に修得し、国際ビジネスの舞台で活躍できる人材を育成する。

#### (3) 会計学科

ビジネス世界における会計情報の役割及び企業法制度の仕組みを修得し、職業的会計人(会計のプロフェッショナル)として活躍できる人材を育成する。

### 2 政経学部

法律・政治・経済の3分野における基礎及び専門知識を身につけ、国際的視野に立ち公共と民間の多様な領域で社会に貢献できる人材を育成する。

#### (1) 法律政治学科

法律学・政治学分野における理論的・実践的知識を身につけ、グローバル化時代の実社会の諸問題を的確に指摘し、解決できる能力と意欲を持った人材を育成する。

#### (2) 経済学科

経済学分野における理論的・実践的知識を身につけ、グローバル化時代の実社会の諸問題を的確に指摘し、解決できる能力と意欲を持った人材を育成する。

### 3 外国語学部

言語の仕組みや働きについての専門的知識を持ち、単に読み・書き・話し・聞くことができるだけでなく、言語に関わる幅広い分野において、知的コミュニケーションができる当該言語運用能力を修得させ、優れた語学の力と国際感覚を持ち、自国の言語、文化、社会をしっかりと理解した上で、他国の文化を尊重し、相互理解に導く力を持った人を育てる。

#### (1) 英米語学科

世界で広く用いられている英語の高い運用力とコミュニケーション能力を修得し、豊かな教養と異文化理解をもって国の内外で活躍できる人材を育成する。

#### (2) 中国語学科

世界で広く用いられている中国語の高い運用力とコミュニケーション能力を修得し、豊かな教養と異文化理解をもって国の内外で活躍できる人材を育成する。

#### (3) スペイン語学科

世界で広く用いられているスペイン語の高い運用力とコミュニケーション能力を修得し、豊かな教養と異文化理解をもって国の内外で活躍できる人材を育成する。

#### (4) 国際日本語学科

日本語についての知見をもとにした言語を通しての相互理解と発信する力、日本文化への洞察をもとにした社会的人間関係を構築し、発展させる力、そして、問題を発

見し、思考するとともにコミュニケーションを通して解決する力を身につける。

日本の言語、文化、社会への深い理解のうえに、優れた発信型の語学力と異文化コミュニケーション能力を有し、また、グローバルな視野と教養、実践力を身につけた、国内外の幅広い分野で活躍できる人材を育てる。

#### 4 工学部

工学に関する基礎から応用に至る「ものづくり」を重視した知識と技術能力を修得し、日本と国際社会の発展に貢献できる人材を育成する。

##### (1) 機械システム工学科

国際感覚と教養を身につけるとともに、機械システム工学に関する均整のとれた知識を修得し、社会と工学の発展に貢献できる人材を育成する。

##### (2) 電子システム工学科

現代社会を支える多様化した電子システムを開発・運用するために必要な知識と技術能力を修得し、国内外の発展に貢献できる人材を育成する。

##### (3) 情報工学科

情報社会及び多彩な産業分野におけるコンピュータ活用技術を身につけ、情報システムの構築並びに情報サービスの発展に貢献できる人材を育成する。

##### (4) デザイン学科

工学における「ものづくり」を基盤に、デザイン提案に必要な知識と技術能力を身につけ、生活文化の発展に貢献できる人材を育成する。

#### 5 国際学部 国際学科

諸外国の言語、文化、民族、政治経済システムを理解し、国際協力、国際経済、国際政治、国際文化、国際観光、農業総合、国際スポーツの7つの分野におけるグローバル化した社会の諸課題に取り組み、その解決に貢献できる人材を育成する。

別表第2—1

項 目	金 額			
	商学部・ 政経学部	外国語学部	工学部	国際学部
入学検定料	35,000 円	35,000 円	35,000 円	35,000 円
転部・転科検定料	2,000 円	2,000 円	2,000 円	2,000 円
科目等履修生・聴講 生・委託生検定料	10,000 円	10,000 円	10,000 円	10,000 円
研究生検定料	30,000 円	30,000 円	30,000 円	30,000 円

別表第2—2

項 目	金 額			
	商学部・ 政経学部	外国語学部	工学部	国際学部
入学金	200,000 円	200,000 円	200,000 円	200,000 円
授業料	792,000 円	907,000 円	1,000,000 円	907,000 円
施設設備資金	290,000 円	230,000 円	430,000 円	230,000 円

※入学金は入学時のみ

別表第2—3

項 目	金 額				
	商学部 政経学部	外国語学部	工学部	国際学部	
教職課程登録料	10,000 円	10,000 円	10,000 円	10,000 円	
社会教育主事講座登録料	10,000 円	10,000 円		—	
科目等履修生	登録料	30,000 円	30,000 円	30,000 円	
	履修料	1 単位科目 15,000 円	1 単位科目 15,000 円	1 単位科目 15,000 円	1 単位科目 15,000 円
聴講生	登録料	20,000 円	20,000 円	20,000 円	
	聴講料	4 単位科目 30,000 円	4 単位科目 30,000 円	4 単位科目 30,000 円	4 単位科目 30,000 円
		2 単位科目 15,000 円	2 単位科目 15,000 円	2 単位科目 15,000 円	2 単位科目 15,000 円
研究生	登録料	50,000 円	50,000 円	50,000 円	
	研究指導料	1 年 400,000 円	1 年 400,000 円	1 年 400,000 円	1 年 400,000 円
		半年 200,000 円	半年 200,000 円	半年 200,000 円	半年 200,000 円

### 別表第3

(商学部、政経学部、工学部、国際学部 (略))

外国語学部

必修 数字白ヌキ  
 選択必修 数字( )印  
 外国人留学生 ☆印

教養教育科目(英米語学科・中国語学科・スペイン語学科共通)

A系列(人間について考える)	哲学A	2
	哲学B	2
	倫理学A	2
	倫理学B	2
	論理学A	2
	論理学B	2
	心理学A	2
	心理学B	2
	宗教学	2
	講座「言語と文化」	2
	日本文学A	2
	日本文学B	2
	外国文学A	2
	外国文学B	2
	美術	2
	音楽	2
	映像文化論	2
	人文地理学	2
	健康科学A	2
	健康科学B	2
	健康科学C	2
	武道論	2
	身体トレーニング理論	2
	スポーツの心理学	2
	スポーツの歴史と社会	2
	講座「スポーツと人間」	2
	生涯スポーツ基礎演習	1
	トレーニング基礎演習	1
	生涯スポーツ応用演習A	1
	生涯スポーツ応用演習B	1
B系列(社会について考える)	日本史A	2
	日本史B	2
	東洋史A	2
	東洋史B	2
	西洋史	2

	西洋文化史	2
	考古学	2
	文化人類学	2
	近代社会の思想史	2
	社会学	2
	法学A	2
	法学B	2
	政治学A	2
	政治学B	2
	現代の国際関係	2
	経済学	2
	流通論	2
	安全と危機管理	2
	情報化社会とマスメディア	2
	ジェンダー論	2
	家族とコミュニティ	2
	ボランティア論	2
C系列(自然と環境について考える)	自然界のしくみ	2
	自然認識の歴史	2
	数学	2
	生物学の基礎	2
	生態学	2
	自然地理学	2
	環境科学	2
	天文学A	2
	天文学B	2
	地球科学A	2
	地球科学B	2
	技術史・技術論	2
	統計学	2
	講座「科学・技術と人間」	2
D系列(コミュニケーション能力を高める)	文章表現の基礎	2
	口頭表現の技法	2
	ビジネス文の書き方	2
	レポートの書き方	2
	プレゼンテーションと交渉	2
E系列(学際)	講座「世界の中の日本」	2
	職業と人生	2
	歴史の中の拓殖大学	2
	防災と安全	2

教養教育科目(国際日本語学科)

A系列(人間について考える)	哲学A(哲学すること)	2
	哲学B(現代の哲学)	2
	心理学(認識と行動のメカニズム)	2
	宗教学(宗教と人生)	2
	講座「言語と文化」	2
	外国文学A(英語圏の文学)	2
	外国文学B(ヨーロッパの文学)	2
	美術	2
	映像文化論	2
	身体トレーニング理論	2
	スポーツの歴史と社会	2
	生涯スポーツ基礎演習	1
	トレーニング基礎演習	1
B系列(社会について考える)	日本史(近代日本の歴史)	2
	近代社会の思想史	2
	社会学(個人と社会)	2
	法学A(国家と憲法)	2
	法学B(生活の中の法)	2
	流通論(流通とマーケティング)	2
	情報化社会とマスメディア	2
C系列(自然と環境について考える)	自然界のしくみ	2
	自然認識の歴史	2
	生態学(環境と生態系)	2
	天文学A(太陽系のしくみ)	2
	天文学B(宇宙のしくみ)	2
	地球科学A(地球の構造と歴史)	2
	地球科学B(地球環境の変動)	2
D系列(コミュニケーション能力を高める)	文章表現の基礎	2
	口頭表現の技法	2
	ビジネス文の書き方	2
	レポートの書き方	2
	プレゼンテーションと交渉	2
E系列(学際)	職業と人生	2
	防災と安全	2

専門科目(英米語学科)

科目区分	授業科目群	授業科目	単位
必修科目	必修英語	Speak & Write I	③

		Speak & Write II	③
		Listen & Read I	②
		Listen & Read II	②
		英文法	②
		Speak & Write III	③
		Speak & Write IV	③
		Listen & Read III	②
		Listen & Read IV	②
		Reading Skills A	①
		Reading Skills B	①
		Writing Skills A	①
		Writing Skills B	①
		Speaking Skills	②
	ゼミナール	3年ゼミナール	④
		4年ゼミナール	④
選択科目 I	選択英語 A	英語ワークショップ A	4
		英語ワークショップ B	4
		英語ワークショップ C	4
		英語ワークショップ D	4
		英語ワークショップ E	4
		資格英語 A	2
		資格英語 B	2
		資格英語 C	2
		選択英語 B	英語ボキャブラリー I
	英語ボキャブラリー II		1
	英文法演習 I		1
	英文法演習 II		1
	マスメディア英語 I		2
	マスメディア英語 II		2
	ディスカッション I		2
	ディスカッション II		2
	映画英語 I		2
	映画英語 II		2
	インターネット英語 I	2	
インターネット英語 II	2		
プレゼンテーション I	2		
プレゼンテーション II	2		
ディベート I	2		
ディベート II	2		
選択科目 II	英語学・英語教	英語音声学	4

育	児童英語基礎演習	2
	英語学入門	2
	英語学研究 A	2
	英語学研究 B	2
	英語学研究 C	2
	英語学研究 D	2
	英語教育入門	2
	小学校英語教育入門	2
	英語教育研究 A	2
	英語教育研究 B	2
	英語教育研究 C	2
英語教育研究 D	2	
英語コミュニケーション	異文化間コミュニケーション入門	2
	コミュニケーション研究 A	2
	コミュニケーション研究 B	2
	コミュニケーション研究 C	2
	コミュニケーション研究 D	2
	ビジネス英語入門	4
	ビジネス英語研究 A	2
	ビジネス英語研究 B	2
	ビジネス英語研究 C	2
ビジネス英語研究 D	2	
通訳・翻訳・地域研究	イギリス研究入門	2
	アメリカ研究入門	2
	英語圏研究 A	2
	英語圏研究 B	2
	英語圏研究 C	2
	英語圏研究 D	2
	英語文学入門 A	2
	英語文学入門 B	2
	英米文学研究 A	2
	英米文学研究 B	2
	英米文学研究 C	2
	英米文学研究 D	2
	観光英語	2
	通訳英語 I	2
	通訳英語 II	2
	翻訳英語 I	2
翻訳英語 II	2	
海外語学研修等	海外語学研修	4

	卒業論文等	卒業論文	4
		卒業研究	2
選択必修科目	外国語	初級中国語① I	(1)
		初級中国語① II	(1)
		初級中国語② I	(1)
		初級中国語② II	(1)
		中級中国語① I	(1)
		中級中国語① II	(1)
		中級中国語② I	(1)
		中級中国語② II	(1)
		初級スペイン語① I	(1)
		初級スペイン語① II	(1)
		初級スペイン語② I	(1)
		初級スペイン語② II	(1)
		中級スペイン語① I	(1)
		中級スペイン語① II	(1)
		中級スペイン語② I	(1)
		中級スペイン語② II	(1)
		初級フランス語① I	(1)
		初級フランス語① II	(1)
		初級フランス語② I	(1)
		初級フランス語② II	(1)
		中級フランス語① I	(1)
		中級フランス語① II	(1)
		中級フランス語② I	(1)
		中級フランス語② II	(1)
		初級ドイツ語① I	(1)
		初級ドイツ語① II	(1)
		初級ドイツ語② I	(1)
		初級ドイツ語② II	(1)
		中級ドイツ語① I	(1)
		中級ドイツ語① II	(1)
		中級ドイツ語② I	(1)
		中級ドイツ語② II	(1)
		初級韓国語① I	(1)
		初級韓国語① II	(1)
		初級韓国語② I	(1)
		初級韓国語② II	(1)
		中級韓国語① I	(1)
		中級韓国語① II	(1)

		中級韓国語② I	(1)
		中級韓国語② II	(1)
		☆ 初級日本語① I	(1)
		☆ 初級日本語① II	(1)
		☆ 初級日本語② I	(1)
		☆ 初級日本語② II	(1)
		☆ 中級日本語① I	(1)
		☆ 中級日本語① II	(1)
		☆ 中級日本語② I	(1)
		☆ 中級日本語② II	(1)
自由科目	情報スキル	情報スキル I	②
		情報スキル II	②
	言語学	言語学概論 I	2
		言語学概論 II	2
		一般音声学 I	2
		一般音声学 II	2
	キャリア支援	キャリアガイダンス	2
		職業能力基礎(SPI) 言語	2
		職業能力基礎(SPI) 非言語	2
		ビジネス実務研修 I	2
ビジネス実務研修 II		2	
ビジネス	観光ビジネス論 I	2	
	観光ビジネス論 II	2	
	エアライン・ビジネス論	2	
その他	教養教育科目		
	専門科目		
	他学部・他学科の科目		
	教職課程科目		
	社会教育主事講座科目		
	日本語教員養成基礎講座科目		
単位互換協定に基づく単位互換科目			

専門科目(中国語学科)

中国語コミュニケーションコース

科目区分	業科目群	授業科目	単位
必修科目	中国語 A	総合中国語 A	⑧
		総合中国語 B	④
		総合中国語 C	④
		総合中国語 D	②
		総合中国語 E	②

		総合中国語 F	②
		総合中国語 G	④
		講読演習	②
		作文演習	②
		表現演習 A	②
		表現演習 B	②
	ゼミナール	3年ゼミナール	④
		4年ゼミナール	④
	コース科目	中国歴史入門	②
		中国語学概論	②
		コミュニケーション中国語講読 I	①
		コミュニケーション中国語講読 II	①
		コミュニケーション中国語会話 I	①
		コミュニケーション中国語会話 II	①
		コミュニケーション中国語作文 I	①
		コミュニケーション中国語作文 II	①
		コミュニケーション中国語講読 III	①
		コミュニケーション中国語会話 III	①
		コミュニケーション中国語作文 III	①
		コミュニケーション中国語作文 IV	①
選択科目 I	中国語 B	広東語 I	2
		広東語 II	2
		台湾語 I	2
		台湾語 II	2
		時事中国語 I	2
		時事中国語 II	2
		観光中国語 I	2
		観光中国語 II	2
		映画中国語	2
		中国語翻訳法 I	2
		中国語翻訳法 II	2
		中国語通訳法 I	2
		中国語通訳法 II	2
		資格中国語 I	2
		資格中国語 II	2
	ビジネス中国語	ビジネス中国語講読 I	1
		ビジネス中国語講読 II	1
		ビジネス中国語会話 I	1
		ビジネス中国語会話 II	1
		商業文書 I	1

		商業文書Ⅱ	1
		ビジネス中国語講読Ⅲ	1
		ビジネス中国語会話Ⅲ	1
		商業文書Ⅲ	1
		商業文書Ⅳ	1
選択科目Ⅱ	中国語学・文学	中国文学概論	2
		コミュニケーション入門Ⅰ	2
		コミュニケーション入門Ⅱ	2
		日中対照言語研究Ⅰ	2
		日中対照言語研究Ⅱ	2
		中国語学研究Ⅰ	2
		中国語学研究Ⅱ	2
		中国文学研究Ⅰ	2
		中国文学研究Ⅱ	2
		中国語スピーチ	2
	コミュニケーション研究	2	
	中国社会・経済	中国文化入門	2
		中国事情Ⅰ	2
		中国ビジネス概論	2
		中国事情Ⅱ	2
		日中異文化交流	2
		中国文化研究Ⅰ	2
		中国文化研究Ⅱ	2
		中国史Ⅰ	2
		中国史Ⅱ	2
中国経済論Ⅰ		2	
中国経済論Ⅱ	2		
ビジネス中国語講読演習	2		
ビジネス中国語会話演習	2		
海外語学研修等	海外語学研修	4	
	海外インターンシップ A	2	
	海外インターンシップ B	2	
卒業論文等	卒業論文	4	
	卒業研究	2	
選択必修科目	外国語	初級英語①Ⅰ	(1)
		初級英語①Ⅱ	(1)
		初級英語②Ⅰ	(1)
		初級英語②Ⅱ	(1)
		中級英語①Ⅰ	(1)
		中級英語①Ⅱ	(1)

中級英語② I	(1)
中級英語② II	(1)
初級スペイン語① I	(1)
初級スペイン語① II	(1)
初級スペイン語② I	(1)
初級スペイン語② II	(1)
中級スペイン語① I	(1)
中級スペイン語① II	(1)
中級スペイン語② I	(1)
中級スペイン語② II	(1)
初級フランス語① I	(1)
初級フランス語① II	(1)
初級フランス語② I	(1)
初級フランス語② II	(1)
中級フランス語① I	(1)
中級フランス語① II	(1)
中級フランス語② I	(1)
中級フランス語② II	(1)
初級ドイツ語① I	(1)
初級ドイツ語① II	(1)
初級ドイツ語② I	(1)
初級ドイツ語② II	(1)
中級ドイツ語① I	(1)
中級ドイツ語① II	(1)
中級ドイツ語② I	(1)
中級ドイツ語② II	(1)
初級韓国語① I	(1)
初級韓国語① II	(1)
初級韓国語② I	(1)
初級韓国語② II	(1)
中級韓国語① I	(1)
中級韓国語① II	(1)
中級韓国語② I	(1)
中級韓国語② II	(1)
☆ 初級日本語① I	(1)
☆ 初級日本語① II	(1)
☆ 初級日本語② I	(1)
☆ 初級日本語② II	(1)
☆ 中級日本語① I	(1)
☆ 中級日本語① II	(1)

		☆ 中級日本語② I	(1)
		☆ 中級日本語② II	(1)
自由科目	情報スキル	情報スキル I	②
		情報スキル II	②
	言語学	言語学概論 I	2
		言語学概論 II	2
		一般音声学 I	2
		一般音声学 II	2
	外国語会話	英語会話 I	1
英語会話 II		1	
英語会話 III		1	
英語会話 IV		1	
キャリア支援	キャリアガイダンス	2	
	職業能力基礎(SPI) 言語	2	
	職業能力基礎(SPI) 非言語	2	
	ビジネス実務研修 I	2	
	ビジネス実務研修 II	2	
ビジネス	観光ビジネス論 I	2	
	観光ビジネス論 II	2	
	エアライン・ビジネス論	2	
その他	教養教育科目		
	専門科目		
	他学部・他学科の科目		
	教職課程科目		
	社会教育主事講座科目		
	日本語教員養成基礎講座科目		
	単位互換協定に基づく単位互換科目		

専門科目(中国語学科)

中国語ビジネスコース

科目区分	授業科目群	授業科目	単位
必修科目	中国語 A	総合中国語 A	⑧
		総合中国語 B	④
		総合中国語 C	④
		総合中国語 D	②
		総合中国語 E	②
		総合中国語 F	②
		総合中国語 G	④
		講読演習	②
		作文演習	②

		表現演習 A	②
		表現演習 B	②
	ゼミナール	3年ゼミナール	④
		4年ゼミナール	④
	コース科目	中国歴史入門	②
		中国ビジネス概論	②
		ビジネス中国語講読Ⅰ	①
		ビジネス中国語講読Ⅱ	①
		ビジネス中国語会話Ⅰ	①
		ビジネス中国語会話Ⅱ	①
		商業文書Ⅰ	①
		商業文書Ⅱ	①
		ビジネス中国語講読Ⅲ	①
		ビジネス中国語会話Ⅲ	①
		商業文書Ⅲ	①
		商業文書Ⅳ	①
選択科目Ⅰ	中国語 B	広東語Ⅰ	2
		広東語Ⅱ	2
		台湾語Ⅰ	2
		台湾語Ⅱ	2
		時事中国語Ⅰ	2
		時事中国語Ⅱ	2
		観光中国語Ⅰ	2
		観光中国語Ⅱ	2
		映画中国語	2
		中国語翻訳法Ⅰ	2
		中国語翻訳法Ⅱ	2
		中国語通訳法Ⅰ	2
		中国語通訳法Ⅱ	2
		資格中国語Ⅰ	2
		資格中国語Ⅱ	2
	コミュニケーション中国語	コミュニケーション中国語講読Ⅰ	1
		コミュニケーション中国語講読Ⅱ	1
		コミュニケーション中国語会話Ⅰ	1
		コミュニケーション中国語会話Ⅱ	1
		コミュニケーション中国語作文Ⅰ	1
		コミュニケーション中国語作文Ⅱ	1
		コミュニケーション中国語講読Ⅲ	1
		コミュニケーション中国語会話Ⅲ	1
		コミュニケーション中国語作文Ⅲ	1

		コミュニケーション中国語作文Ⅳ	1	
選択科目Ⅱ	中国語学・文学	中国語学概論	2	
		中国文学概論	2	
		コミュニケーション入門Ⅰ	2	
		コミュニケーション入門Ⅱ	2	
		日中対照言語研究Ⅰ	2	
		日中対照言語研究Ⅱ	2	
		中国語学研究Ⅰ	2	
		中国語学研究Ⅱ	2	
		中国文学研究Ⅰ	2	
		中国文学研究Ⅱ	2	
		中国語スピーチ	2	
		コミュニケーション研究	2	
		中国社会・経済	中国文化入門	2
			中国事情Ⅰ	2
中国事情Ⅱ	2			
日中異文化交流	2			
中国文化研究Ⅰ	2			
中国文化研究Ⅱ	2			
中国史Ⅰ	2			
中国史Ⅱ	2			
中国経済論Ⅰ	2			
中国経済論Ⅱ	2			
ビジネス中国語講読演習	2			
ビジネス中国語会話演習	2			
海外語学研修等	海外語学研修	4		
	海外インターンシップ A	2		
	海外インターンシップ B	2		
卒業論文等	卒業論文	4		
	卒業研究	2		
選択必修科目	外国語	初級英語①Ⅰ	(1)	
		初級英語①Ⅱ	(1)	
		初級英語②Ⅰ	(1)	
		初級英語②Ⅱ	(1)	
		中級英語①Ⅰ	(1)	
		中級英語①Ⅱ	(1)	
		中級英語②Ⅰ	(1)	
		中級英語②Ⅱ	(1)	
		初級スペイン語①Ⅰ	(1)	
		初級スペイン語①Ⅱ	(1)	

		初級スペイン語② I	(1)
		初級スペイン語② II	(1)
		中級スペイン語① I	(1)
		中級スペイン語① II	(1)
		中級スペイン語② I	(1)
		中級スペイン語② II	(1)
		初級フランス語① I	(1)
		初級フランス語① II	(1)
		初級フランス語② I	(1)
		初級フランス語② II	(1)
		中級フランス語① I	(1)
		中級フランス語① II	(1)
		中級フランス語② I	(1)
		中級フランス語② II	(1)
		初級ドイツ語① I	(1)
		初級ドイツ語① II	(1)
		初級ドイツ語② I	(1)
		初級ドイツ語② II	(1)
		中級ドイツ語① I	(1)
		中級ドイツ語① II	(1)
		中級ドイツ語② I	(1)
		中級ドイツ語② II	(1)
		初級韓国語① I	(1)
		初級韓国語① II	(1)
		初級韓国語② I	(1)
		初級韓国語② II	(1)
		中級韓国語① I	(1)
		中級韓国語① II	(1)
		中級韓国語② I	(1)
		中級韓国語② II	(1)
		☆ 初級日本語① I	(1)
		☆ 初級日本語① II	(1)
		☆ 初級日本語② I	(1)
		☆ 初級日本語② II	(1)
		☆ 中級日本語① I	(1)
		☆ 中級日本語① II	(1)
		☆ 中級日本語② I	(1)
		☆ 中級日本語② II	(1)
自由科目	情報スキル	情報スキル I	②
		情報スキル II	②

言語学	言語学概論Ⅰ	2
	言語学概論Ⅱ	2
	一般音声学Ⅰ	2
	一般音声学Ⅱ	2
外国語会話	英語会話Ⅰ	1
	英語会話Ⅱ	1
	英語会話Ⅲ	1
	英語会話Ⅳ	1
キャリア支援	キャリアガイダンス	2
	職業能力基礎(SPI)言語	2
	職業能力基礎(SPI)非言語	2
	ビジネス実務研修Ⅰ	2
	ビジネス実務研修Ⅱ	2
ビジネス	観光ビジネス論Ⅰ	2
	観光ビジネス論Ⅱ	2
	エアライン・ビジネス論	2
その他	教養教育科目	
	専門科目	
	他学部・他学科の科目	
	教職課程科目	
	社会教育主事講座科目	
	日本語教員養成基礎講座科目	
	単位互換協定に基づく単位互換科目	

専門科目(スペイン語学科)

科目区分	授業科目群	授業科目	単位
必修科目	スペイン語 A	初級文法①Ⅰ	①
		初級文法①Ⅱ	①
		初級文法②Ⅰ	①
		初級文法②Ⅱ	①
		初級会話①Ⅰ	①
		初級会話①Ⅱ	①
		初級会話②Ⅰ	①
		初級会話②Ⅱ	①
		初級語彙①Ⅰ	①
		初級語彙①Ⅱ	①
		初級語彙②Ⅰ	①
		初級語彙②Ⅱ	①
		西語文化講座Ⅰ	①
		西語文化講座Ⅱ	①

		中級文法 I	①
		中級文法 II	①
		中級作文 I	①
		中級作文 II	①
		中級講読① I	①
		中級講読① II	①
		中級講読② I	①
		中級講読② II	①
		中級会話① I	①
		中級会話① II	①
		中級会話② I	①
		中級会話② II	①
		中級会話③ I	①
		中級会話③ II	①
		上級総合演習 I	①
		上級総合演習 II	①
		上級作文演習 I	①
		上級作文演習 II	①
		上級講読演習 I	①
		上級講読演習 II	①
		上級表現演習① I	①
		上級表現演習① II	①
		上級表現演習② I	①
		上級表現演習② II	①
		上級表現演習③ I	①
		上級表現演習③ II	①
		総合表現演習① I	①
		総合表現演習① II	①
		総合表現演習② I	①
		総合表現演習② II	①
	ゼミナール	3年ゼミナール	④
		4年ゼミナール	④
選択科目 I	スペイン語 B	初級ワークショップ I	2
		初級ワークショップ II	2
		スペイン語相互学習 I	2
		スペイン語相互学習 II	2
		日本紹介スペイン語 I	2
		日本紹介スペイン語 II	2
		中級ワークショップ I	2
		中級ワークショップ II	2

		報道スペイン語Ⅰ	2
		報道スペイン語Ⅱ	2
		商業スペイン語Ⅰ	2
		商業スペイン語Ⅱ	2
		上級ワークショップⅠ	2
		上級ワークショップⅡ	2
		スペイン語通訳法Ⅰ	2
		スペイン語通訳法Ⅱ	2
		映画スペイン語Ⅰ	2
		映画スペイン語Ⅱ	2
		スペイン語相互学習Ⅲ	2
		スペイン語相互学習Ⅳ	2
		スペイン語相互学習Ⅴ	2
		スペイン語相互学習Ⅵ	2
		資格スペイン語Ⅰ	2
		資格スペイン語Ⅱ	2
選択科目Ⅱ	スペイン語学・ スペイン語コミ ュニケーション	スペイン語学概論Ⅰ	2
		スペイン語学概論Ⅱ	2
		スペイン語音声学・音韻論Ⅰ	2
		スペイン語音声学・音韻論Ⅱ	2
		スペイン語史概論Ⅰ	2
		スペイン語史概論Ⅱ	2
		日西語対照研究Ⅰ	2
		日西語対照研究Ⅱ	2
		ラテン語入門	2
		アメリカスペイン語研究Ⅰ	2
		アメリカスペイン語研究Ⅱ	2
		スペイン語学特殊研究Ⅰ	2
		スペイン語学特殊研究Ⅱ	2
		スペイン語学特殊研究Ⅲ	2
		スペイン語学特殊研究Ⅳ	2
	スペイン語圏文 学・スペイン語 圏研究	スペイン文学概論Ⅰ	2
		スペイン文学概論Ⅱ	2
		スペイン文学特殊研究Ⅰ	2
		スペイン文学特殊研究Ⅱ	2
		イSPANOAメリカ文学概論Ⅰ	2
		イSPANOAメリカ文学概論Ⅱ	2
		イSPANOAメリカ文学特殊研究Ⅰ	2
		イSPANOAメリカ文学特殊研究Ⅱ	2
		スペイン史Ⅰ	2

		スペイン史Ⅱ	2
		現代スペイン事情Ⅰ	2
		現代スペイン事情Ⅱ	2
		イSPANアメリカ史Ⅰ	2
		イSPANアメリカ史Ⅱ	2
		現代ラテンアメリカ事情Ⅰ	2
		現代ラテンアメリカ事情Ⅱ	2
		スペイン語文化特殊研究Ⅰ	2
		スペイン語文化特殊研究Ⅱ	2
		スペイン語文化特殊研究Ⅲ	2
		スペイン語文化特殊研究Ⅳ	2
		スペイン語文化概論Ⅰ	2
		スペイン語文化概論Ⅱ	2
	海外語学研修等	海外語学研修	4
	卒業論文等	卒業論文	4
		卒業研究	2
選択必修科目	外国語	初級英語①Ⅰ	(1)
		初級英語①Ⅱ	(1)
		初級英語②Ⅰ	(1)
		初級英語②Ⅱ	(1)
		中級英語①Ⅰ	(1)
		中級英語①Ⅱ	(1)
		中級英語②Ⅰ	(1)
		中級英語②Ⅱ	(1)
		初級中国語①Ⅰ	(1)
		初級中国語①Ⅱ	(1)
		初級中国語②Ⅰ	(1)
		初級中国語②Ⅱ	(1)
		中級中国語①Ⅰ	(1)
		中級中国語①Ⅱ	(1)
		中級中国語②Ⅰ	(1)
		中級中国語②Ⅱ	(1)
		初級フランス語①Ⅰ	(1)
		初級フランス語①Ⅱ	(1)
		初級フランス語②Ⅰ	(1)
		初級フランス語②Ⅱ	(1)
		中級フランス語①Ⅰ	(1)
		中級フランス語①Ⅱ	(1)
		中級フランス語②Ⅰ	(1)
		中級フランス語②Ⅱ	(1)

		初級ドイツ語① I	(1)
		初級ドイツ語① II	(1)
		初級ドイツ語② I	(1)
		初級ドイツ語② II	(1)
		中級ドイツ語① I	(1)
		中級ドイツ語① II	(1)
		中級ドイツ語② I	(1)
		中級ドイツ語② II	(1)
		初級韓国語① I	(1)
		初級韓国語① II	(1)
		初級韓国語② I	(1)
		初級韓国語② II	(1)
		中級韓国語① I	(1)
		中級韓国語① II	(1)
		中級韓国語② I	(1)
		中級韓国語② II	(1)
		☆ 初級日本語① I	(1)
		☆ 初級日本語① II	(1)
		☆ 初級日本語② I	(1)
		☆ 初級日本語② II	(1)
		☆ 中級日本語① I	(1)
		☆ 中級日本語① II	(1)
		☆ 中級日本語② I	(1)
		☆ 中級日本語② II	(1)
自由科目	情報スキル	情報スキル I	②
		情報スキル II	②
	言語学	言語学概論 I	2
		言語学概論 II	2
		一般音声学 I	2
		一般音声学 II	2
	外国語会話	英語会話 I	1
		英語会話 II	1
		英語会話 III	1
		英語会話 IV	1
	キャリア支援	キャリアガイダンス	2
		職業能力基礎(SPI) 言語	2
		職業能力基礎(SPI) 非言語	2
ビジネス実務研修 I		2	
ビジネス実務研修 II		2	
ビジネス	観光ビジネス論 I	2	

		観光ビジネス論Ⅱ	2
		エアライン・ビジネス論	2
	その他	教養教育科目 専門科目 他学部・他学科の科目 教職課程科目 社会教育主事講座科目 日本語教員養成基礎講座科目 単位互換協定に基づく単位互換科目	

専門科目(国際日本語学科)

必修科目	専門基礎	日本語学概論	②
		日本語教育概論	②
		国際日本語論	②
		日本語史	②
	ゼミナール等	初年次教育ゼミナール	②
		日本語相互学習Ⅰ	②
		日本語相互学習Ⅱ	②
		3年ゼミナール	④
		4年ゼミナール	④
	卒業論文	卒業論文	④
選択科目Ⅰ	選択日本語Ⅰ (留学生)	☆ アカデミック日本語Ⅰ(留学生)	1
		☆ アカデミック日本語Ⅱ(留学生)	1
		☆ 日本語リテラシーⅠA(留学生)	1
		☆ 日本語リテラシーⅠB(留学生)	1
		☆ 日本語リテラシーⅡA(留学生)	1
		☆ 日本語リテラシーⅡB(留学生)	1
		☆ 日本語リテラシーⅢA(留学生)	1
		☆ 日本語リテラシーⅢB(留学生)	1
		☆ 日本語リテラシーⅣA(留学生)	1
		☆ 日本語リテラシーⅣB(留学生)	1
		☆ 日本語コミュニケーションⅠA(留学生)	1
		☆ 日本語コミュニケーションⅠB(留学生)	1
		☆ 日本語コミュニケーションⅡA(留学生)	1
		☆ 日本語コミュニケーションⅡB(留学生)	1
		☆ 日本語コミュニケーションⅢA(留学生)	1
		☆ 日本語コミュニケーションⅢB(留学生)	1
		☆ 日本語コミュニケーションⅣA(留学生)	1
		☆ 日本語コミュニケーションⅣB(留学生)	1
		☆ 日本語ファンデーションⅠ(留学生)	1

		☆ 日本語フロンティアⅡ (留学生)	1
		☆ 専門日本語[観光] (留学生)	2
		☆ 専門日本語[メディア] (留学生)	2
	選択日本語Ⅰ (共通)	日本語文法研究Ⅰ	2
		日本語文法研究Ⅱ	2
		日本語文法研究Ⅲ	2
		日本語文法研究Ⅳ	2
		日本語文章表現Ⅰ	2
		日本語文章表現Ⅱ	2
	選択日本語Ⅱ (共通)	日本語表現基礎	2
		日本語表現演習	2
		日本語文化基礎	2
		日本語文化演習	2
		日本語プレゼンテーション基礎	2
		日本語プレゼンテーション演習	2
	選択日本語Ⅲ (共通)	教育日本語総合Ⅰ	2
		教育日本語総合Ⅱ	2
		教育日本語総合Ⅲ	2
		ビジネス日本語総合Ⅰ	2
		ビジネス日本語総合Ⅱ	2
選択科目Ⅱ	日本語教育	日本語教授法Ⅰ	2
		日本語教授法Ⅱ	2
		日本語音声学	2
		日本語表記論	2
		日本語教育教材論	2
		日本語語彙論	2
		日本語教育評価法	2
		日本語研究史	2
		世界の日本語教育事情	2
		日本語意味論	2
		日本事情教育	2
		日本語教育実習	1
		日本語の談話	2
		言語習得論	2
		日本語特殊研究	2
	日本語・日本文化	日本語・日本人論	2
		日本の民俗と思想	2
		日本の生活と芸能	2
		社会の中の日本語	2
		現代日本語事情	2

		クールジャパン論	2
		ポップカルチャー論	2
		異文化間理解	2
		日本近代文学	2
		日本文学概論	2
		日本古典文学Ⅰ	2
		日本古典文学Ⅱ	2
		日本古典文法Ⅰ	2
		日本古典文法Ⅱ	2
		漢文学概論Ⅰ	2
		漢文学概論Ⅱ	2
		翻訳・通訳概論（日英）	2
		翻訳・通訳概論（日中）	2
		書道	2
	国際関係	異文化間コミュニケーション入門	2
		中国事情	2
		現代ラテンアメリカ事情Ⅰ	2
		現代ラテンアメリカ事情Ⅱ	2
		国際コミュニケーション論	2
		国際ビジネス交渉論	2
		国際社会学	2
		東南アジア	2
		南アジア	2
選択科目Ⅲ	外国語	初級英語①Ⅰ	1
		初級英語①Ⅱ	1
		初級英語②Ⅰ	1
		初級英語②Ⅱ	1
		中級英語①Ⅰ	1
		中級英語①Ⅱ	1
		中級英語②Ⅰ	1
		中級英語②Ⅱ	1
		初級中国語①Ⅰ	1
		初級中国語①Ⅱ	1
		初級中国語②Ⅰ	1
		初級中国語②Ⅱ	1
		中級中国語①Ⅰ	1
		中級中国語①Ⅱ	1
		中級中国語②Ⅰ	1
		中級中国語②Ⅱ	1
		初級スペイン語①Ⅰ	1

	初級スペイン語①Ⅱ	1
	初級スペイン語②Ⅰ	1
	初級スペイン語②Ⅱ	1
	中級スペイン語①Ⅰ	1
	中級スペイン語①Ⅱ	1
	中級スペイン語②Ⅰ	1
	中級スペイン語②Ⅱ	1
	初級フランス語①Ⅰ	1
	初級フランス語①Ⅱ	1
	初級フランス語②Ⅰ	1
	初級フランス語②Ⅱ	1
	中級フランス語①Ⅰ	1
	中級フランス語①Ⅱ	1
	中級フランス語②Ⅰ	1
	中級フランス語②Ⅱ	1
	初級ドイツ語①Ⅰ	1
	初級ドイツ語①Ⅱ	1
	初級ドイツ語②Ⅰ	1
	初級ドイツ語②Ⅱ	1
	中級ドイツ語①Ⅰ	1
	中級ドイツ語①Ⅱ	1
	中級ドイツ語②Ⅰ	1
	中級ドイツ語②Ⅱ	1
	初級韓国語①Ⅰ	1
	初級韓国語①Ⅱ	1
	初級韓国語②Ⅰ	1
	初級韓国語②Ⅱ	1
	中級韓国語①Ⅰ	1
	中級韓国語①Ⅱ	1
	中級韓国語②Ⅰ	1
	中級韓国語②Ⅱ	1

自由科目（国際日本語学科）

情報スキル	情報スキルⅠ	2
	情報スキルⅡ	2
言語学	言語学概論Ⅰ	2
	言語学概論Ⅱ	2
キャリア支援	キャリアガイダンス	2
	職業能力基礎（SPI）言語	2
	職業能力基礎（SPI）非言語	2

ビジネス	観光ビジネス論 I 観光ビジネス論 II	2 2
その他	教養教育科目 専門科目 他学部・他学科の科目	

副専攻科目(英米語学科・中国語学科・スペイン語学科共通)

科目区分	授業科目群	授業科目	単位		
副専攻科目	英語	英語会話 I	1		
		英語会話 II	1		
		資格英語 A	2		
		資格英語 B	2		
		資格英語 C	2		
		英語会話 III	1		
		英語会話 IV	1		
		英語ボキャブラリー I	1		
		英語ボキャブラリー II	1		
		マスメディア英語 I	2		
		マスメディア英語 II	2		
		映画英語 I	2		
		映画英語 II	2		
		インターネット英語 I	2		
		インターネット英語 II	2		
		英文法演習 I	1		
		英文法演習 II	1		
		海外語学研修(英語圏)	4		
		英米語学科専門科目・自由科目の選択 科目 I・II			
		中国語	中国語	中国語会話 I	1
				中国語会話 II	1
				コミュニケーション中国語講読 I	1
				コミュニケーション中国語講読 II	1
				コミュニケーション中国語会話 I	1
				コミュニケーション中国語会話 II	1
				コミュニケーション中国語作文 I	1
				コミュニケーション中国語作文 II	1
ビジネス中国語講読 I	1				
ビジネス中国語講読 II	1				
ビジネス中国語会話 I	1				
ビジネス中国語会話 II	1				

		観光中国語Ⅰ	2
		観光中国語Ⅱ	2
		総合中国語Ⅰ	2
		総合中国語Ⅱ	2
		時事中国語Ⅰ	2
		時事中国語Ⅱ	2
		資格中国語Ⅰ	2
		資格中国語Ⅱ	2
		映画中国語	2
		コミュニケーション入門Ⅰ	2
		コミュニケーション入門Ⅱ	2
		海外語学研修(中国語圏)	4
		中国語学科専門科目・自由科目の選択 科目Ⅰ・Ⅱ	
	スペイン語	西語文化講座Ⅰ	1
		西語文化講座Ⅱ	1
		初級ワークショップⅠ	2
		初級ワークショップⅡ	2
		スペイン語相互学習Ⅰ	2
		スペイン語相互学習Ⅱ	2
		中級ワークショップⅠ	2
		中級ワークショップⅡ	2
		映画スペイン語Ⅰ	2
		映画スペイン語Ⅱ	2
		日西語対照研究Ⅰ	2
		日西語対照研究Ⅱ	2
		現代スペイン事情Ⅰ	2
		現代スペイン事情Ⅱ	2
		スペイン語文化概論Ⅰ	2
		スペイン語文化概論Ⅱ	2
		海外語学研修(スペイン語圏)	4
		スペイン語学科専門科目・自由科目の必修 科目・選択科目Ⅰ・Ⅱ	

副専攻科目(国際日本語学科)

科目区分	授業科目群	授業科目	単位
副専攻科目	英語	英語会話Ⅰ	1
		英語会話Ⅱ	1
		資格英語A	2
		資格英語B	2

		資格英語C	2
		英語会話Ⅲ	1
		英語会話Ⅳ	1
		英語ボキャブラリーⅠ	1
		英語ボキャブラリーⅡ	1
		マスメディア英語Ⅰ	2
		マスメディア英語Ⅱ	2
		映画英語Ⅰ	2
		映画英語Ⅱ	2
		インターネット英語Ⅰ	2
		インターネット英語Ⅱ	2
	中国語	コミュニケーション中国語講読Ⅰ	1
		コミュニケーション中国語講読Ⅱ	1
		コミュニケーション中国語作文Ⅰ	1
		コミュニケーション中国語作文Ⅱ	1
		ビジネス中国語講読Ⅰ	1
		ビジネス中国語講読Ⅱ	1
		ビジネス中国語会話Ⅰ	1
		ビジネス中国語会話Ⅱ	1
		観光中国語Ⅰ	2
		観光中国語Ⅱ	2
		時事中国語Ⅰ	2
		時事中国語Ⅱ	2
		資格中国語Ⅰ	2
		資格中国語Ⅱ	2
		中国文学概論	2
	スペイン語	西語文化講座Ⅰ	1
		西語文化講座Ⅱ	1
		スペイン語相互学習Ⅰ	2
		スペイン語相互学習Ⅱ	2
		スペイン語ワークショップⅠ	2
		スペイン語ワークショップⅡ	2
		映画スペイン語Ⅰ	2
		映画スペイン語Ⅱ	2
		日西語対照研究Ⅰ	2
		日西語対照研究Ⅱ	2
		スペイン語文化概論Ⅰ	2
		スペイン語文化概論Ⅱ	2

## 教職課程科目

### 1. 教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項）

科目名及び単位数	免許状の種類	開設学部
職業指導 4	高校 商	商 学 部
情報と職業 2	高校 情	

※ 上記科目の他、その他の教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項）は、各学科の配当科目と共通

### 2. 教科及び教科の指導法に関する科目（各教科の指導法）

科目名及び単位数	免許状の種類	開設学部
社会科・地理歴史科教育法 4	中学 社 高校 地 理 歴 史	商 ・ 政 経 ・ 国 際 学 部
社会科・公民科教育法 4	中学 社 高校 公 民	
商業科教育法 4	高校 商	商 学 部
情報科教育法 4	高校 情	商 ・ 工 学 部
英語科教育法Ⅰ 4	中学 英	外 国 語 学 部
英語科教育法Ⅱ 4	高校 英	
中国語科教育法Ⅰ 4	中学 中 国	
中国語科教育法Ⅱ 4	高校 中 国	
イスパニア語科教育法Ⅰ 4	中学 イスパニア語	
イスパニア語科教育法Ⅱ 4	高校 イスパニア語	
工業科教育法 4	高校 工	工 学 部
技術科教育法Ⅰ 2	中学 技 術	
技術科教育法Ⅱ 2		
技術科教育法Ⅲ 2		
技術科教育法Ⅳ 2		

### 3. 大学が独自に設定する科目

科目名及び単位数	免許状の種類	開設学部
介護等体験 2	中学 教 高校 教	全 学 部

### 4. 教育の基礎的理解に関する科目等

科目区分	科目名及び単位数	最低修得単位数	開設学部
教育の基礎的理解に関する科目	教 育 原 理 2	1 2 単位以上	全学部
	教 育 史 2		
	教 職 論 2		

	教育社会学	2	
	生涯学習概論	4	
	教育・発達心理学	2	
	特別支援教育論	2	
	教育課程論	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育指導論	2	中学校教諭一種免許状取得希望者15単位
	総合的な学習の時間指導論	1	
	特別活動論	2	高等学校教諭一種免許状取得希望者13単位以上
	教育方法Ⅰ	2	
	教育方法Ⅱ	2	
	生徒指導論	2	
	教育相談(カウンセリングを含む)	2	
	進路指導論	2	
教育実践に関する科目	教育実習(事前・事後指導)	1	中学校教諭一種免許状取得希望者7単位
	教育実習Ⅰ	2	高等学校教諭一種免許状取得希望者5単位以上
	教育実習Ⅱ	2	
	教職実践演習(中・高)	2	

### 1 社会教育主事講座科目

社会教育に関する科目〔商・政経・外国語学部共通（ただし、外国語学部国際日本語学科を除く）〕

社会教育主事講習等規程による科目	科目名及び単位数	最低修得単位数
生涯学習概論	※生涯学習概論	4 4単位
社会教育計画	社会教育計画	4 4単位
社会教育演習	社会教育演習	4 4単位
社会教育特講(Ⅰ) (現代社会と社会教育)	※教育社会学 成人・青少年指導論	2 4単位
社会教育特講(Ⅱ) (社会教育活動・事業・施設)	社会教育研究	4 4単位
社会教育特講(Ⅲ) (その他必要な科目)	体育及びレクリエーション指導 ※教育原理 ※教育課程論 ※教育・発達心理学	2 4単位以上 2 2 2

	※教育史	2	
	※道德教育指導論	2	
最低修得単位数			24 単位以上

※印は、教職課程の教育の基礎的理解に関する科目等と共通科目。

日本語教員養成基礎講座科目〔商・政経・外国語学部・国際学部共通（ただし、外国語学部国際日本語学科を除く）〕

授業科目及び単位数	備考
日本語教育学概論 2	
日本語学概論 2	
日本語学各論 A 2	
日本語学各論 B 2	
日本語学各論 C 2	
日本語学各論 D 2	
日本語学各論 E 2	
日本語教授法 A 2	
日本語教授法 B 2	
日本語教育教材論 2	
日本語評価法 2	
日本語実習 2	

1 日本語教授法及び日本語実習は、卒業単位数に算入しない。（副専攻・自由科目）

卒業に必要な最低単位数

外国語学部 主専攻 英米語・中国語・スペイン語学科

(1) 教養教育科目		A 系列から 2 単位以上 B 系列から 2 単位以上 C 系列から 2 単位以上 D 系列から 2 単位以上 A ~ E 系列から任意科目 8 単位以上 ..... 16 単位
(2) 専門科目	必修科目	英米語学科 ..... 36 単位 中国語学科 ..... 56 単位 スペイン語学科 ..... 52 単位
	選択科目 I	英米語学科 ..... 28 単位 中国語学科 中国語コミュニケーションコース (12 単位) 中国語 B ..... 8 単位 ビジネス中国語 上記授業科目群から ..... 4 単位 中国語ビジネスコース (12 単位) 中国語 B ..... 8 単位 コミュニケーション中国語 上記授業科目群から ..... 4 単位
	選択科目 II	英米語学科 英語学・英語教育コース (24 単位) 英語学・英語教育 ..... 12 単位 英語コミュニケーション ..... 4 単位 通訳・翻訳・地域研究 ..... 4 単位 海外語学研修 卒業論文等 上記の授業科目群から ..... 4 単位 英語コミュニケーションコース (24 単位) 英語学・英語教育 ..... 4 単位 英語コミュニケーション ..... 12 単位 通訳・翻訳・地域研究 ..... 4 単位 海外語学研修 卒業論文等 上記の授業科目群から ..... 4 単位 通訳・翻訳・地域研究コース (24 単位) 英語学・英語教育 ..... 4 単位 英語コミュニケーション ..... 4 単位

	<p>通訳・翻訳・地域研究…………… 12 単位</p> <p>海外語学研修</p> <p>卒業論文等</p> <p>上記の授業科目群から …………… 4 単位</p>
	<p>中国語学科</p> <p>中国語コミュニケーションコース・中国語ビジネスコース (20 単位)</p> <p>中国語学・文学…………… 8 単位</p> <p>中国社会・経済…………… 8 単位</p> <p>海外語学研修</p> <p>卒業論文等…………… 2 単位</p> <p>上記の授業科目群から …………… 2 単位</p>
選択科目 I 及び 選択科目 II	<p>スペイン語学科</p> <p>スペイン語コミュニケーションコース(36 単位)</p> <p>スペイン語 B …………… 8 単位</p> <p>スペイン語学・スペイン語コミュニケーション …………… 12 単位</p> <p>スペイン語圏文学・スペイン語圏研究 … 4 単位</p> <p>海外語学研修</p> <p>卒業論文等</p> <p>上記の授業科目群から…………… 12 単位</p> <p>スペイン語圏文化コース(36 単位)</p> <p>スペイン語 B …………… 8 単位</p> <p>スペイン語学・スペイン語コミュニケーション …………… 4 単位</p> <p>スペイン語圏文学・スペイン語圏研究… 12 単位</p> <p>海外語学研修</p> <p>卒業論文等</p> <p>上記の授業科目群から …………… 12 単位</p>
選択必修科目	<p>外国語…………… 8 単位</p>
(3) 自由科目	<p>情報スキル…………… 4 単位</p> <p>言語学</p> <p>外国語会話(中国語学科・スペイン語学科)</p> <p>キャリア支援</p> <p>ビジネス</p> <p>その他</p> <p>情報スキルを除く上記の授業科目群から… 10 単位</p> <p>…………… 14 単位</p>
(4) 卒業に必要な最低の合計単位数	<p>英米語学科 …………… 126 単位</p> <p>中国語学科 …………… 126 単位</p> <p>スペイン語学科 …………… 126 単位</p>

外国語学部 副専攻 英米語・中国語・スペイン語学科

(1) 教養教育科目		A 系列から 2 単位以上 B 系列から 2 単位以上 C 系列から 2 単位以上 D 系列から 2 単位以上 A ～ E 系列から任意科目 2 単位以上 ..... 10 単位
(2) 専門科目	必修科目	英米語学科..... 36 単位 中国語学科..... 56 単位 スペイン語学科..... 52 単位
	選択科目 I	英米語学科..... 24 単位
	選択科目 II	英米語学科 英語学・英語教育コース(22 単位) 英語学・英語教育..... 12 単位 英語コミュニケーション ..... 4 単位 通訳・翻訳・地域研究 ..... 4 単位 海外語学研修 卒業論文等 上記の授業科目群から ..... 2 単位 英語コミュニケーションコース(22 単位) 英語学・英語教育 ..... 4 単位 英語コミュニケーション..... 12 単位 通訳・翻訳・地域研究 ..... 4 単位 海外語学研修 卒業論文等 上記の授業科目群から ..... 2 単位 通訳・翻訳・地域研究コース(22 単位) 英語学・英語教育 ..... 4 単位 英語コミュニケーション ..... 4 単位 通訳・翻訳・地域研究 ..... 12 単位 海外語学研修 卒業論文等 上記の授業科目群から..... 2 単位
	選択科目 I 及び 選択科目 II	中国語学科 中国語コミュニケーション(26 単位) 中国語 B ..... 8 単位 ビジネス中国語 中国語学・文学..... 8 単位 中国社会・経済..... 8 単位 海外語学研修

	卒業論文等…………… 2 単位 中国語ビジネスコース(26 単位) 中国語 B …………… 8 単位 コミュニケーション中国語 中国語学・文学…………… 8 単位 中国社会・経済…………… 8 単位 海外語学研修 卒業論文等…………… 2 単位
	スペイン語学科 スペイン語コミュニケーションコース(30 単位) スペイン語 B …………… 8 単位 スペイン語学・スペイン語コミュニケー ション…………… 12 単位 スペイン語圏文学・スペイン語圏研究… 4 単位 海外語学研修 卒業論文等 上記の授業科目群から…………… 6 単位 スペイン語圏文化コース(30 単位) スペイン語 B …………… 8 単位 スペイン語学・スペイン語コミュニケー ション …………… 4 単位 スペイン語圏文学・スペイン語圏研究… 12 単位 海外語学研修 卒業論文等 上記の授業科目群から…………… 6 単位
	選択必修科目 外国語 …………… 8 単位
	副専攻科目 英米語学科…………… 12 単位 中国語学科…………… 12 単位 スペイン語学科…………… 12 単位
(3) 自由科目	情報スキル …………… 4 単位 言語学 外国語会話(中国語学科・スペイン語学科) キャリア支援 ビジネス その他 情報スキルを除く上記の授業科目群から… 10 単位 …………… 14 単位
(4) 卒業に必要な最低の合計単位数	英米語学科…………… 126 単位 中国語学科…………… 126 単位 スペイン語学科…………… 126 単位

外国語学部 国際日本語学科

科目区分		主専攻	副専攻
(1)教養教育科目		14 単位	14 単位
(2)専門科目	必修科目	26 単位	26 単位
	選択科目Ⅰ	20 単位	20 単位
	選択科目Ⅱ	44 単位	32 単位
	選択科目Ⅲ	8 単位	8 単位
(3)自由科目		14 単位	14 単位
(4)副専攻科目		—	12 単位
(5)卒業に必要な最低の合計単位数		126 単位	126 単位

別表第4

学部	学科	免許状の種類
商学部	経営学科	高等学校教諭一種免許状(商業) 高等学校教諭一種免許状(情報)
	国際ビジネス学科	中学校教諭一種免許状(社会) 高等学校教諭一種免許状(地理歴史) 高等学校教諭一種免許状(公民) 高等学校教諭一種免許状(商業)
	会計学科	高等学校教諭一種免許状(商業)
政経学部	法律政治学科	中学校教諭一種免許状(社会) 高等学校教諭一種免許状(地理歴史) 高等学校教諭一種免許状(公民)
	経済学科	中学校教諭一種免許状(社会) 高等学校教諭一種免許状(地理歴史) 高等学校教諭一種免許状(公民)
外国語学部	英米語学科	中学校教諭一種免許状(英語) 高等学校教諭一種免許状(英語)
	中国語学科	中学校教諭一種免許状(中国語) 高等学校教諭一種免許状(中国語)
	スペイン語学科	中学校教諭一種免許状(スペイン語) 高等学校教諭一種免許状(スペイン語)
工学部	機械システム工学科	中学校教諭一種免許状(技術) 高等学校教諭一種免許状(工業)
	電子システム工学科	高等学校教諭一種免許状(工業)
	情報工学科	高等学校教諭一種免許状(工業) 高等学校教諭一種免許状(情報)
	デザイン学科	高等学校教諭一種免許状(工業)
国際学部	国際学科	中学校教諭一種免許状(社会) 高等学校教諭一種免許状(地理歴史) 高等学校教諭一種免許状(公民)

## ○拓殖大学教授会規程

昭和 62 年 4 月 1 日  
制定

### 第 1 章 総則

(趣旨)

第 1 条 拓殖大学(以下「本学」という。)における教授会については、この規程の定めるところによる。

(教授会の種類、理事の出席等)

第 2 条 教授会は、学部教授会と連合教授会に分ける。

2 本学の理事は、随時教授会に出席して意見を述べることができる。

### 第 2 章 学部教授会

(構成員)

第 3 条 学部教授会(以下この章において「教授会」という。)は、当該学部の専任の教授及び准教授をもって構成する。ただし、その他の教育職員も出席させることができる。

(招集、議長、定足数、議決)

第 4 条 教授会は、学長の合意を得て学部長がこれを招集し、その議長となる。

2 学部長に事故があるときは、学長が指名する教授がこれに代わる。

3 教授会は、原則として毎月 1 回定例教授会を開催し、また、必要に応じて臨時に教授会を開催することができる。

4 教授会は、構成員の過半数をもって成立する。

5 教授会の議決は、別に定める場合を除き、出席した構成員の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは議長の決するところによる。

(審議事項)

第 5 条 教授会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) 教授会の運営に関する事項

(2) 教育課程の編成、変更、実施及び講義担当に関する事項

(3) 学部長の選挙に関する事項

(4) 教員人事に関する事項

(5) 各種委員会に関する事項

(6) 名誉教授の推薦に関する事項

(7) 学則に関する事項

(8) 学生の入学、退学、休学、進級、復学、転部、転科、留学、除籍、卒業及び課程の修了、学位の授与に関する事項

(9) 学生の試験に関する事項

(10) 奨学生の選考に関する事項

(11) 学生の賞罰に関する事項

(12) 学生団体、学生活動その他学生生活に関する事項

(13) この規程の改廃に関する事項

(14) その他当該学部の運営上重要な事項

2 前項に掲げる審議事項のうち、学生の入学、卒業及び課程の修了、学位の授与については、学長が決定を行うにあたり、必ず意見を述べなければならない。

3 前項に掲げる審議事項のうち、学部間の調整の必要がある場合は、その審議を連合教授会に附託する。

(学長への報告及び決定)

第6条 教授会において審議、議決された事項は、学部長から学長に報告し、学長が決定を行う。

(議事録)

第7条 教授会の議事録は、学部長の責任において記録保存するものとする。

### 第3章 連合教授会

(構成)

第8条 連合教授会は、各学部の専任の教授をもって構成する。ただし、その他の教育職員も出席させることができる。

(招集、議長)

第9条 連合教授会は学長が必要と認めたとき、又は各学部長の要請があったとき学長が招集して議長となる。

2 学長に事故があるときは、副学長、学部長協議のうえ議長を定める。

(審議事項)

第10条 連合教授会は、学長が次に掲げる事項を決定するにあたり意見を述べるものとする。

(1) 学部教授会から附託された事項

(2) その他各学部に共通する事項

(総長、理事長への報告及び議事録)

第11条 連合教授会において審議、議決された事項は、学長から総長、理事長に報告しなければならない。

2 連合教授会の議事録は、学長の責任において記録保存するものとする。

(改廃)

第12条 この規程の改廃は、学部教授会の議を経て、学長の提案に基づき、理事会が決定する。

附 則

この規程は、昭和62年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

拓殖大学 外国語学部 国際日本語学科  
設置の趣旨等を記載した書類

平成 31 (2019) 年 4 月 22 日

学校法人 拓 殖 大 学

## 目 次

1. 設置の趣旨及び必要性	1
(1) 拓殖大学の沿革及び日本語教育の実績	1
(2) 社会的要請を踏まえた学科設置の必要性	4
(3) 教育研究上の目的	10
(4) 組織として研究対象とする中心的な学問分野	11
(5) 目標とする資格等	12
2. 学科の特色	13
(1) 外国語学部における本学科の位置づけ	13
(2) 本学科が担う教育的機能	13
(3) 本学科の教育についての発信	14
3. 学科の名称及び学位の名称	15
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	16
(1) 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）	16
(2) 科目区分及び科目構成	17
5. 教員組織の編成の考え方及び特色	23
(1) 教員・教員組織編成の方針	23
(2) 教員組織の編成方法	23
(3) 専任教員の年齢構成	24
(4) 専任教員の定年	24
6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	24
(1) 教育方法	24
(2) 履修指導方法	28
(3) 履修モデル	29
(4) 単位制度の実質化	29
(5) 他大学における授業科目の単位認定	30
(6) 卒業要件	31
(7) 卒業論文	31
7. 施設、設備の整備計画	32
(1) 教育・研究等環境整備の方針	32
(2) 校地、運動場の整備計画	32
(3) 校舎等施設の整備計画	33
(4) 図書等の資料及び図書館の整備計画	35
8. 入学者選抜概要	36
(1) 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）	36
(2) 選抜方法	37
(3) 選抜体制	40
(4) 科目等履修生	40

9. 管理運営	40
10. 自己点検・評価	40
11. 情報の公表	42
(1) 公開の方針等	42
(2) 公開内容	42
12. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	43
(1) FD ワークショップの開催	43
(2) 厳格な成績評価	44
(3) 授業改善のための学生アンケート	44
(4) FD 活動の実施体制	44
(5) SD の取組	45
13. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	46
(1) 教育課程内の取組	46
(2) 教育課程外の取組	46
(3) 適切な体制の整備	46

## 1. 設置の趣旨及び必要性

### (1) 拓殖大学の沿革及び日本語教育の実績

#### ①拓殖大学の沿革

拓殖大学（以下「本学」という。）の前身である台湾協会学校は、台湾の経営を側面から支援する民間団体・台湾協会（会頭：桂太郎）により、明治 33（1900）年、台湾の開発に貢献しうる人材の育成を目的として創立された。明治 37（1904）年に専門学校令による専門学校となり、その後何度かの校名変更を経て、大正 7（1918）年に拓殖大学と改称した。大正 11（1922）年には大学令による大学に昇格。当時は商学部のみ単科大学であった。昭和 24（1949）年、新たに政経学部を設置して新制大学となり、その後、学部・学科及び研究科の設置・改組を経て、現在では、商学部、政経学部、外国語学部、工学部、国際学部の 5 学部、経済学研究科、商学研究科、工学研究科、言語教育研究科、国際協力学研究科、地方政治行政研究科の 6 研究科を擁する総合大学に発展した。

本学は、「積極進取の気概とあらゆる民族から敬慕されるに値する教養と品格を具えた有為な人材の育成」という建学の精神のもと、「国際友愛精神を指導理念として、日本及び世界の文化の進展に寄与する人材を養成することを使命とする」（学則第 2 条）大学として今日までに 13 万人を数える卒業生を送り出してきたが、その中には海外で活躍中のものも多い。また現在は、22 カ国・地域の 51 大学・機関におよぶ海外提携校を有し、毎年多くの日本人学生を送り出している。一方、海外からはおよそ 1,000 人の外国人留学生を受け入れており、キャンパス自体が国際理解・国際交流の場となっている。

創立 100 周年となる平成 12（2000）年から進めてきた「拓殖大学ルネサンス事業」は、平成 27（2015）年 4 月に全て完了したが、今回、学科設置・定員変更の対象となる学部が設置されている八王子国際キャンパスでは、スポーツ練習場や研究施設を強化、さらに日本人学生・外国人留学生の混成寮を建設、これにより、既設の外国人留学生専用寮も活用して、本学に居ながらにして国際交流ができる機会を拡充した。また、この整備事業の結果として、商学部及び政経学部は文京キャンパスで、外国語学部、工学部及び国際学部は八王子国際キャンパスで、学生が 4 年間を同一のキャンパスで学ぶ一貫教育体制が実現するという大きなメリットを得ることができた。

しかし今、大学を取り巻く環境は必ずしも楽観できる状況にない。即ち、少子化やグローバル化に早急に対応する必要があり、産業界からは実践的な能力を持つ人材の要望が高まっている。そのため本学では、平成 27（2015）年、教育の質を保証し、さらに向上させることを目標として「拓殖大学教育ルネサンス 2020 グランドデザイン」【資料 1】を策定した。5 年後の創立 120 周年となる平成 32（2020）年に本学が向かうべき大学教育の全体目標を「学生一人ひとりが国際的視野を持ち、国内外の人々と協働して積極的に課題の発見と解決にチャレンジしていくタフな人間力を身につけたグローバル人材を育成する」とことと定め、21 世紀の地球社会に貢献する本学の姿を建学の原点に立ち返って再構築した。

#### ②日本語教育に関わる実績

本学における日本語教育は、本学の設置経営母体であった台湾協会が、明治 31 年の発足時から、「彼我言語練磨上の便を図ること」を協会事業の一つとして掲げていたこともあり、アジア諸言語を学び、外国事情の知識を身につけ、かつ海外の現地人脈を築き上げた本学卒業生を中心とした現地からの個別の日本語教育・指導の要請に応える形で始められた。本学は当初、それを側面から支援し、のちに大学本体の事業として本格的に取り組むことになる。

現在に続く本学の戦後の日本語教育の歩みは、昭和 36（1961）年 2 月に設置された「日本語研修所」において開始された。同研修所は当初、インドネシア共和国政府派遣賠償留学生受け入れを目的として開設されたもので、戦前から続く本学のマレー語教育の実績とイスラームの習慣を熟知した本学人材の活躍に負うところが大きであった。その後、昭和 38 年には「語学研修所」に改称して在日外国人を対象とした日本語講座が新設された。

次いで昭和 45（1970）年には、本学の日本人学生及び一般社会人を対象に「日本語教師養成講座」を開始し、さらに昭和 47（1972）年には、語学研修所の日本語講座に加えて、本学の建学の精神を基にした国際的視野に立つ有為な人材を育成することを目的として、日本の大学又は大学院等に進学を希望する留学生等に、日本語、日本事情、日本文化等を教授する日本語教育機関である留学生別科（現「別科日本語教育課程」）を設置し、今日まで多くの優秀な外国人留学生を本学をはじめとする日本全国の高等教育機関へ進学させてきている。

加えて、八王子国際キャンパスに外国語学部が開設された翌年の昭和 53（1978）年には、このような本学の日本語教育の伝統を踏まえ、将来の外国語学部での日本語学科開設を視野に入れた「日本語教員資格認定講座」（現「日本語教員養成基礎講座」）が開設され、現在に至っている。

昭和 55（1980）年には、文京キャンパスに「拓殖大学研究所附属日本語研修センター」が設置された。昭和 57（1982）年には同センターにおいて、中国帰国者に対する日本語教育が開始された。また、平成 12（2000）年には同センター内に私立大学として初の認可となる準備教育課程を新設した。さらに平成 15（2003）年にセンターの発展的改組を行い、「拓殖大学日本語学校」を開校した。そして、平成 19（2007）年 3 月の同校閉校に伴い、学内の日本語教育の調査・研究を目的として「拓殖大学日本語教育研究所」が設立された。同研究所では現在、在日外国人を対象とした日本語教育講座を開講すると同時に、以下に示すような海外提携プログラムを実施している。

海外提携大学からの日本語研修団の受け入れは、前身の日本語研修センター時代の昭和 57（1982）年から台湾・東呉大学、韓国・大邱大学校などに対して行われていたが、日本語教育研究所として、従来の受け入れ大学に加えて、台湾・長榮大学、明道大学、韓国・慶熙大学校、東亜大学校、中国・上海商学院、露・国立高等経済学院、モスクワ市立教育大学などからの短期日本語研修団の受け入れを行ってきた。また、提携大学からの長期日本語研修生受け入れプログラムを平成 20（2008）年度に開始した。現在までに、台湾・東呉大学、樹人医護管理専科学校、タイ・カセサート大学、ラーチャモンコン大学、ナレスワン大学などから学生を受け入れている。

中国国家外国専門家局からは、昭和 61（1986）年の協力協定締結以来、30 年以上にわた

って毎年、研究生を受け入れてきたが、平成 25 (2013) 年度からは、専門家局によって選抜された現地の教育機関に所属する日本語教員に特化して研究生として受け入れ、中国における日本語教授法及び日本語教師の教育能力向上に貢献できるよう取り組みを進めている。また、帰国した研究生からの要請を受けて、本学教員が研究生の所属大学を訪問し日本語セミナーを開催するなど側面的な教育支援も行っている(平成 29 (2017) 年度、江西農業大学・福建師範大学にて実施)。

海外での日本語教育の展開にも取り組んできた。平成 5 (1993) 年から開始された、マレーシア政府が実施する留学生派遣事業「Higher Education Loan Fund Project (略称 HELP : 高等教育借款基金事業)」では、日本の教育機関として初めて現地における日本語教育を担当することとなった。同事業は、平成 11 (1999) 年からは、第 2 フェーズ (HELP2) に移行したが、これをきっかけとして日本の私立 13 大学による教育コンソーシアムが結成され、「ツイニングによる国際化への積極的取組」が推進された。この取組は、文部科学省の平成 15 (2003) 年度「特色ある大学教育支援プログラム」に採択されている。さらに平成 18 (2006) 年には、第 3 フェーズ (HELP3) に合わせて国際教育支援機関としての「日本国際教育大学連合 (JUCTe)」が発足したが、本学は幹事大学として現地教育及び運営等に携わってきた。また、平成 23 (2011) 年には、円借款終了後のマレーシア政府資金による後継プログラムである MJHEP (Malaysia Japan Higher Education Program : マレーシア日本高等教育プログラム) においても引き続き日本語教育を担当して現在に至っている。

本学ではこれ以外にも、理工系日本語教育のためのダルマ・プルサダ大学 (インドネシア) への教員派遣や、中国、ベトナム、タイ、ミャンマー等の提携機関を対象とした現地日本語教員向け講習会を実施している。

本学では他に先駆けて、早くから海外との交流を推進し、海外大学・機関との協力関係を構築して国際交流に取り組んできた。現在では学術交流協定、覚書等により提携する大学・機関は、22 カ国・地域 51 大学・機関に上っている。インドネシア提携校のダルマ・プルサダ大学と台湾提携校の東呉大学では、現地の大学生や高校生に日本語学習への意欲と日本文化への関心を持たせる機会を提供するとともに各提携校と本学との日本語教育連携を図ることを目的に、大学生と高校生を対象とした日本語によるスピーチコンテストや弁論大会を開催しており、本学はそれぞれに共催、後援して現地の日本語の普及発展と交流に努めている。それぞれの大会優勝者は、本学が主催する「全国高校生・留学生作文コンクール (後藤新平・新渡戸稲造記念)」の表彰式における優勝スピーチ披露を兼ねた日本研修旅行に招待している。以上のように、本学は、長年にわたって、海外における日本語教育の普及と推進に努めてきている。

建学の精神を持ち出すまでもなく、本学は、伝統的に多くの外国人留学生を受け入れてきた。現在では全学生の約 1 割を占めているが、この約 1,000 人という外国人留学生数は、全国の大学の中でも上位にランクされている。さらに、日本語学校の教職員が選ぶ留学生に薦めたい進学先に贈られる「日本留学アワーズ」では、東日本地区大学 (文科系) 部門を 3 年連続で受賞 (平成 28・29・30 年、一般財団法人「日本語教育振興協会」主催)【資料 2「日本留学アワーズ 東日本地区大学 (文科系) 部門表彰状」】した。本学が受賞す

るにいたった全国の日本語学校からの推薦理由（平成 30（2018）年 8 月）は、「学習面の留学生サポート」「入試システム」「生活面の留学生サポート」などの充実があげられている【資料 3「日本留学 AWARDS2018 入賞校推薦理由」】。

一方、本学大学院では、平成 9（1997）年に言語教育研究科博士前期課程日本語教育学専攻を増設した。それまで日本語教育学専攻の基礎となる学部学科はないままではあったが、前述のように「本学は、従来から日本語教育に関係する各種講座や教育施設を設け、日本語教育に関する教育研究に対応した環境づくり及び教員組織の整備の充実を努めてきた」（「同研究科設置認可申請書」記載）ところから、本学の建学の精神に沿った国際化社会への貢献ができるという理由で大学院設置が認められた経緯がある。またその後平成 11（1999）年には博士後期課程言語教育学専攻を開設し現在に至っている。

以上のように、本学は、海外からの外国人留学生を積極的に受け入れ、将来大きく雄飛させるために日本語教育に特に力を入れるとともに、日本語教師の育成にあたってきており、その過程で、専門的な日本語と日本文化を学ぶ機会を提供する経験と能力を蓄積してきたと自負している。

## **(2) 社会的要請を踏まえた学科設置の必要性**

昨今、諸外国における日本への関心は、以前からの伝統文化と産業・科学技術分野を中心とするところから、アニメ、マンガ、ゲーム、J-pop、ファッションなど、日本のいわゆるポップカルチャーや、和食などの食文化へと急速に拡大している。このように日本を見、知り、理解したいという海外の若者の需要は高く、ゆえに彼らを受け入れ、あるいは彼らに向けて日本について発信する必要性が高まっている。

また、グローバル化により異文化との接触が増えているだけでなく、価値観の多様化に伴い、日本人同士であっても意思疎通が十分できない状況も生じている。社会とそこで活動する人々の多様性が増す中では、日本語の特質を知り、効果的に使いこなす能力がこれまで以上に求められている。そこで以下に、本学科設置の必要性を、①日本語教育の需要、②日本理解者育成への需要、③日本語コミュニケーターへの需要、④地域における多文化共生推進人材の需要、の 4 点から示す。

### **①日本語教育の需要**

#### **ア. 海外での需要**

近年の海外での日本語学習の広がり下表「海外日本語学習者数の推移」のとおり顕著で、学習者は、平成 15（2003）年の 235 万人から、平成 27（2015）年には 365 万人と、130 万人も増えている。

なお、平成 24（2012）年の 398 万人に比べると平成 27（2015）年は、33 万人あまりの減少となっているが、これは上位の韓国、インドネシア、中国の三ヶ国において教育制度改革などにより日本語教育の機会が減少したことによる影響である。しかし、中長期的には「学習者数が増えている国・地域の方が多い」【資料 4「2015 年度海外日本語教育機関調査」】ことが見て取れる。

○海外日本語学習者数の推移

区 分	平成 15 年 2003 年	平成 18 年 2006 年	平成 21 年 2009 年	平成 24 年 2012 年	平成 27 年 2015 年
学習者数	235 万人	297 万人	365 万人	398 万人	365 万人

※「2015 年度海外日本語教育機関調査(2017 年 7 月 13 日独立行政法人国際交流基金)」より作成

また、日本語能力試験の海外受験者数は、下表「日本語能力試験 海外受験者数の推移」のとおり、着実に伸び、日本語能力を資格として示せるようにしたいという学習意欲の高い学習者は増え続けている。

○日本能力試験 海外受験者数の推移

区 分	平成 25 年 2013 年	平成 26 年 2014 年	平成 27 年 2015 年	平成 28 年 2016 年	平成 29 年 2017 年
海外受験者数	441,244 人	449,464 人	468,450 人	509,664 人	580,704 人

※「日本語能力試験結果の概要 December 2017」より作成

この他、我が国の企業が実施中の海外事業における現地法人の経常利益は、下表「現地法人の経常利益及び常時従業者の推移」のとおり年々上昇傾向で平成 28 (2016) 年では 12 兆円と過去 5 年の調査で最高額となっている。現地法人の従業者数も過去 5 年の調査で 500 万人台を維持しており、こうした現地法人への就業機会の維持拡大の傾向が続くことも日本語学習の動機づけとして働くことが考えられる。

○現地法人の経常利益及び常時従業者の推移

区 分	平成 24 年 2012 年	平成 25 年 2013 年	平成 26 年 2014 年	平成 27 年 2015 年	平成 28 年 2016 年
経常利益	7 兆円	9 兆円	10 兆円	9 兆円	12 兆円
常時従業者	558 万人	551 万人	574 万人	557 万人	559 万人

※「第 47 回海外事業活動基本調査結果概要 (2016 年度実績) (平成 30 年 4 月 5 日 経済産業省)」より作成

イ. 国内での需要

日本国内の多文化化が徐々に進んでいる。「平成 29 (2017) 年末現在における中長期在留者数は 223 万 2,026 人、特別永住者数は 32 万 9,822 人で、これらをあわせた在留外国人数は 256 万 1,848 人となり、前年末に比べ、17 万 9,026 人 (7.5 %) 増加し、過去最高となった」【資料 5「平成 29 年末現在における在留外国人数について (確定値)」】。

この伸びにあわせるように、日本国内の日本語学習者数は、下表「国内の日本語学習者の推移」のとおり、過去 5 年の調査で最高となっている。今後も在留外国人数自体の増加にあわせ、日本語学習者はさらに増えると見込まれる。

○国内の日本語学習者の推移

区 分	平成 25 年 2013 年	平成 26 年 2014 年	平成 27 年 2015 年	平成 28 年 2016 年	平成 29 年 2017 年
学習者数	156,843 人	174,359 人	191,735 人	217,881 人	239,597 人

※「平成 29 年度国内の日本語教育の概要（平成 29 年 11 月 1 日現在 文化庁文化語国語課）」より作成

さらに、平成 30（2018）年 7 月 24 日に外国人の受け入れ環境の整備に関する企画及び立案並びに総合調整を行うことを目的とした「外国人の受け入れ環境の整備に関する業務の基本方針について」【資料 6】が閣議決定された。また、外務省、外国人材の受け入れ・共生のための総合的対応策検討会は、平成 30（2018）年 12 月 25 日に「外国人材の受け入れ・共生のための総合的対応策」【資料 7】を策定した。この中で、「外国人に対する日本語教育の取組を大幅に拡充し、外国人と円滑にコミュニケーションできる環境整備」に関する具体的な施策が提言されている。これらの基本方針等は、国内需要は当然ながら海外での日本語教育専門家の需要増にもつながってくる。

ウ. 日本語教師養成に対する需要

以上のとおり、日本語学習者数は国内外ともに増加傾向にあるが、これに対応して、学習の指導・支援にあたる人材の需要も高まりつつある。

(ア) 国内における日本語教師の需要

国内の日本語教師数及び日本語教育実施機関・施設等数の推移は下表のとおり、過去 5 年の調査で微増となっているが、日本語教師の数は年々増加しており、平成 29（2017）年では 39,588 人と過去 5 年の調査で最高となっている。

○国内の日本語教師数及び日本語教育実施機関・施設等数の推移

区 分	平成 25 年 2013 年	平成 26 年 2014 年	平成 27 年 2015 年	平成 28 年 2016 年	平成 29 年 2017 年
日本語教師数	31,174 人	32,949 人	36,168 人	37,962 人	39,588 人
日本語教育実施機関・ 施設等数	1,961 機関	1,893 機関	2,012 機関	2,111 機関	2,109 機関

※「平成 29 年度国内の日本語教育の概要（平成 29 年 11 月 1 日現在 文化庁文化語国語課）」より作成

これと、先掲の「国内の日本語学習者の推移」の表とを併せて考察すれば、この 5 年間における日本語教師一人あたりの学習者数は、平成 25（2013）年の 5.03 人から平成 29（2017）年の 6.05 人へと大幅な増となっており、優秀な日本語教師の早急かつ大幅な養成・確保の必要性は以前にも増して高まっていると判断できる。

○国内の日本語教師一人あたりの学習者数の推移

区 分	平成 25 年 2013 年	平成 26 年 2014 年	平成 27 年 2015 年	平成 28 年 2016 年	平成 29 年 2017 年
①学習者数	156,843 人	174,359 人	191,735 人	217,881 人	239,597 人
②日本語教師数	31,174 人	32,949 人	36,168 人	37,962 人	39,588 人
①／②	5.03 人	5.29 人	5.30 人	5.74 人	6.05 人

(イ) 海外における日本語教師の需要

また、海外においても日本語教師数は、下表「海外日本語教師数の推移」のとおり、増えてきただけでなく、日本語学習者数が減少した平成 27 (2015) 年においても 64,108 人と依然増え続けている。前述の日本語能力試験の海外受験者数増からうかがえる、学習意欲の強い学習者の要望に応えるには、日本語教師がさらに必要とされている。

○海外日本語教師数の推移

区 分	平成 15 年 2003 年	平成 18 年 2006 年	平成 21 年 2009 年	平成 24 年 2012 年	平成 27 年 2015 年
教師数	33,124 人	44,321 人	49,803 人	63,780 人	64,108 人

※「2015 年度海外日本語教育機関調査(2017 年 7 月 13 日独立行政法人国際交流基金)」より作成

なお、本学科は、質の高い日本語教師の養成のみならず、本学大学院言語教育研究科と連携することにより、より高度な日本語学の教育研究の需要にも応えることを予定しており、この分野における世界の拠点として各種の需要に応え、国や社会に広く貢献していくことを目指すものである。

②日本理解者育成への需要

上記日本語学習者の増加など、様々なデータは、海外における日本・日本文化への関心の高まりを示しており、この状況に対しては、日本国政府もまた「クールジャパン戦略」【資料 8「クールジャパン戦略について」】により応えようとしている。

また、教育再生実行会議による第三次提言「これからの大学教育等の在り方について」【資料 9】は、グローバル化に対応するために、「日本人としてのアイデンティティを高め、日本文化を世界に発信するという意識をもってグローバル化に対応するため、初等中等教育及び高等教育を通じて、国語教育や我が国の伝統・文化についての理解を深める取組を充実する。国は、海外の大学に戦略的に働きかけるなどして、海外における日本語学習や日本文化理解の積極的な促進を図る。また、日本文化について指導・紹介できる人材の育成や指導プログラムの開発等の取組を推進する」と提言した。即ち日本語ならびに日本について深く理解し、その普及への意欲とそれを可能ならしめる能力を有する人材育成が大学に求められている。

さらに、平成 25 (2013) 年 11 月には、日本の魅力ある商品・サービスの海外需要開拓

を支援するため『日本の魅力』の拡大につなげる『メディア・コンテンツ』『食・サービス』『ファッション・ライフスタイル』などの分野でリスクマネーの供給を行う官民ファンドも立ち上げた【資料 10 「(株) 海外需要開拓支援機構 (クールジャパン機構)」】。

このような展開を成功させるためには、展開先の現地において日本側の取組を積極的に受け止められる人材、すなわち高度な日本語能力とともに、日本と日本文化についてよく知り、共感できる能力をもつ外国人材が求められる。これもまた、日本の大学の留学生教育が目指すべきところである。

国内に主たる事業所をかまえる企業にも、自社内にそのような外国人材を取り込もうとする動きがある。「外国人留学生／高度外国人材の採用に関する企業調査」【資料 11】によると、「大卒以上の高度外国人材の雇用経験をもつ（または雇用予定のある）企業は 63.2 %に達しており、そのうち平成 29（2017）年度に外国人留学生を『採用した』企業は、予定を含め全体の 35.4 %。また、平成 30（2018）年度の採用を見込んでいる企業は 57.8 %に上る」とされ、高度外国人材の採用意欲は相当高い結果となっている。なお、文系留学生の採用目的としては、「優秀な人材を確保するため」（71 %）が最も多く、以下、「外国人としての感性・国際感覚等の強みを発揮してもらうため」（39.6 %）、「海外の取引先に関する業務を行うため」（39.1 %）「語学力が必要な業務を行うため」（38.5 %）「自社（またはグループ）の海外法人に関する業務を行うため（29.0 %）」といった対海外の業務能力への期待が大きい。一方で高度な日本語運用能力も求めている。同調査によれば、「内定時にビジネス上級レベル以上を求める企業は、55.1 %（文系）だったが、入社後には 85.8 %（文系）と大きく増える。」また、多様性に期待するとはいえ、求める資質の上位には同時に、協調性、異文化対応力といった日本の文化・慣習への理解に関わる項目も並ぶ。本学科は外国人留学生に対し、そのような企業の要請に応えるのに十分な日本語ならびに日本文化を学修する機会を提供し、外国人材を必要とする企業での外国人留学生の就業を後押しする。

### ③日本語コミュニケーターへの需要

日本、日本文化、日本語について専門的に学んだ人材は、グローバル化との関わりの中でのみ必要とされるものではなく、より広い場面で有用な人材となる。

教育再生実行会議による第七次提言「これからの時代に求められる資質・能力と、それを培う教育、教師の在り方について」【資料 12】は、「課題解決に当たっては、他者と協力して対応しなければならない場合もあり、リーダーシップや責任感、さらには、相手に説明し、納得してもらう論理性や、人の心を動かすプレゼンテーション能力を養うことも不可欠」として、社会における様々な構成要素間の協働におけるリーダーシップをこれからの時代を生きる人たちに必要とされる資質・能力にあげている。

一般社団法人、日本経済団体連合会「2015 年度 新卒採用に関するアンケート調査結果の概要」【資料 13】によると、「企業が新卒社員の選考に当たって重視した点は『コミュニケーション能力』が 12 年連続して第 1 位となっている。」

また、公益社団法人、経済同友会「これからの企業・社会が求める人材像と大学への期待～個人の資質能力を高め、組織を活かした競争力の向上～」【資料 14】は、「企業が求

める人材に必要な資質能力として、①変化の激しい社会で、課題を見出し、チームで協力して解決する力（課題設定力・解決力）、②困難から逃げずにそれに向き合い、乗り越える力（耐力・胆力）、③多様性を尊重し、異文化を受け入れながら組織力を高める力、④価値観の異なる相手とも双方向で真摯に学び合う対話力（コミュニケーション能力）」の四つをあげている。ここから想定される、企業・社会が求めるコミュニケーション能力とは、単なる情報伝達や意思疎通にとどまるものではなく、周囲からより多くの意見を引き出し交じり合わせ、結果として組織の活性化につなげていけるファシリテーション能力をも含むものである。そのようなファシリテーション能力を志向した日本語コミュニケーション能力の育成もまた本学科の目指すところに合致する。

#### ④地域における多文化共生推進人材の需要

日本語教育の需要の項で示したとおり、国内における外国人在留者の増加は著しい。さらに前述のように、新たな外国人材の受け入れ方針も示されており、日本国内にあってもこれまで以上に、様々な地域に外国人が居住することが予想され、異文化共生社会の到来に備える必要がある。しかし、在留外国人の増加には、前述の日本語教育の問題にとどまらず、日本人居住者と外国人居住者との間に起こる異文化間摩擦という課題も伴う。外務省、神奈川県、国際移住機関（IOM）主催「外国人の受入れと社会統合のための国際ワークショップ」による「外国人を受け入れる地域社会の意識啓発に関する提言」【資料 15】では、「外国人に対する心の壁を越え、地域社会の人材としての活用を考える」とする相互理解の促進に関する提言がされた。また、外務省、外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策検討会による「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」【資料 7】では、「政府としては、条約難民や第三国定住難民を含め、在留資格を有する全ての外国人を孤立させることなく、社会を構成する一員として受け入れていくという視点に立ち、外国人が日本人と同様に公共サービスを享受し安心して生活することができる環境を全力で整備していく。その環境整備に当たっては、受け入れる側の日本人が、共生社会の実現について理解し協力するよう努めていくだけでなく、受け入れられる側の外国人もまた、共生の理念を理解し、日本の風土・文化を理解するよう努めていくことが重要であることも銘記されなければならない」と述べられている。今後は各所で、生活者としての外国人の支援に携わる人材・団体の育成とネットワークの構築の中核となる人材が必要とされる。

本学科が拠点とする八王子国際キャンパスのある八王子市もまた「近年のグローバル化の進展の中で、外国籍市民が増加しており、12,219 人（平成 29 年（2017 年）12 月末）が暮らしている。高尾山には多くの外国人観光客が訪れるなど、外国人を見かけることは日常の光景となり、海外に行かなくとも外国人と触れあう機会が増えている。」そのため、同市は、「外国人市民も安心して暮らせるまちの実現」「国際感覚豊かな市民を育むまちの実現」という二つの目標のもと、平成 30（2018）年度から平成 34（2022）年度までの 5 年を実施期間とする「八王子市多文化共生推進プラン（改定版）」【資料 16】を策定し、多文化共生社会の実現に向けて動いている。同様に、すでに多くの自治体が多文化共生社会の実現に向けて取組をはじめている。

しかしながら、このような取組は行政側のプラン立案だけで成立するものではない。実際に地域共同体の中で取組にあたることのできる人材がなければ成り立たない。そのため、

全国市町村国際文化研修所（JIAM）による「平成 28 年度多文化共生マネージャー養成コース」【資料 17】、かながわ国際交流財団による「多文化ソーシャルワーク講座」【資料 18】など、行政側も積極的に異文化間交流コーディネーターの養成に取り組みは始めている。同時に、このような取組に積極的に応えることのできる、異文化への理解と共感能力の高い人材育成は、大学による社会貢献の重要な柱の一つでもある。従って日本人学生と外国人留学生がともに学び日常の中に異文化間交流がある本学科の学修環境は、そのような多文化共生社会推進の意欲と能力を有する人材育成に適した環境となる。

以上、本学科設置の必要性を四つの視点から述べた。本学科の教育研究上の目的と養成する人材は、社会的・地域的な人材需要の動向を踏まえたものであり、増加する社会的要請に応えるべく、学科を設置するものである。

### **(3) 教育研究上の目的**

#### **①教育研究上の目的**

世界で先端性を競う産業や科学技術をはじめ、日本は様々な分野で諸外国から高い注目を集めている。近年はマンガやゲームといったポップカルチャーが海外でブームになり、和食がユネスコ無形文化遺産に登録されるなど、日本を発信源とする文化へのニーズもますます高まっている。本学外国語学部では、高い言語運用能力とコミュニケーション能力を武器に世界で活躍する人材の育成に取り組んでいる。本学科は、そのノウハウを活かし、海外へ向けて情報発信する力や国際感覚を養うとともに、海外の人が抱く日本への知的欲求に十分に答えられるだけの「高い発信能力」と「深い日本文化への理解」を養成する。

従って、本学科の教育研究上の目的は、「日本語についての知見をもとにした言語を通しての相互理解と発信する力、日本文化への洞察をもとにした社会的人間関係を構築し、発展させる力、そして、問題を発見し、思考するとともにコミュニケーションを通して解決する力を身につける。日本の言語、文化、社会への深い理解のうえに、優れた発信型の語学力と異文化コミュニケーション能力を有し、また、グローバルな視野と教養、実践力を身につけた、国内外の幅広い分野で活躍できる人材を育てる」とした。

日本語と日本文化についての専門性を強みとして発揮し、グローバル社会におけるビジネスや教育といった様々なフィールドで活躍できる人材の輩出を目指す。

#### **②卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）**

上記に沿った人材を育てるために、次のとおり、学位を授与するにあたり学生が修得しておくべき能力などを記した「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」を定めて、これに基づき、卒業認定し、学位を授与する。

**外国語学部 国際日本語学科**  
**卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）**

国際日本語学科は、優れた言語運用の力と国際感覚とを持ち、自国の言語、文化、社会をしっかりと理解したうえで、他の文化を尊重し、相互理解に導く力を持った人となるよう、十分な教育・研究指導を行い、以下のような到達目標に達した者に対して学士（日本語）の学位を授与する。

1. 日本語の仕組みや働きについての専門的知識を修得し、その知識を活かして優れた日本語コミュニケーションを行う、あるいは、その知識を日本語教育などの活動に活かす能力を身につける。
2. 日本語及び選択した日本語以外の言語について、言語的に正しく使用できるというだけでなく、幅広い分野において知的コミュニケーションができる言語運用能力と知識・教養を修得する。
3. 自身の言語文化をよく理解したうえで、異文化にも親しみ、尊重する柔軟な姿勢をもって、国際社会で活躍できる能力を身につける。
4. 修得した言語運用能力と知識を活かして、世界の人々と協働する態度と創造的、自律的に学ぶ力を基に、自己成長を続けていく能力を身につける。

国際日本語学科の教育課程を修め、上記の到達目標に十分達したと認められた学位取得者は、言語・文化の研究者、またその教育者として、あるいは、言語を運用し相互理解や便宜供与に係る公私にわたる様々な職業や活動の分野で、優れた能力を発揮することができる。そして、国際社会における日本語ならびに日本文化のさらなる地位向上に寄与することにより、わが国の世界に対する貢献の度合いを一層高める。

### ③卒業後の進路

本学科の教育課程を修め、上記の到達目標に十分達したと認められた学位取得者は、言語・文化の研究者、またその教育者として、あるいは、言語を運用し相互理解やサービスに係る様々な職業や活動の分野で、優れた能力を発揮することができる。このような能力を活かせる進路先とは、

- ①外国人の日本語の円滑な学習を支える日本語教師
- ②国際的視野を備えた日本語研究者
- ③日本語の豊かな表現力を活かす通訳・翻訳者
- ④日本の観光資源に強い観光関連企業
- ⑤日本の商品・サービスを手がける海外展開企業
- ⑥国内外の最新情報を発信するマスコミ業界
- ⑦読者に魅力的なコンテンツを提供する編集者

などである。学生の希望に応じた多種多様な進路の可能性を提供するとともに、就職支援体制の充実強化を図る。

#### (4) 組織として研究対象とする中心的な学問分野

広く世界に日本語・日本文化を普及する人材を育成する、また優れた日本語コミュニケーションを社会に送り出すという目的から、本学科における教育・研究の主要な学問対象は、

日本語学、日本語教育学、日本文化研究をはじめとする日本の言語文化に関わる学問分野となる。

本学科での学びの基本は日本語学である。これにより日本語の言語的構造についての基本的知識や日本語の運用についての応用知識を学ぶ。これらの知識は、内容、場面、目的に応じた表現手法を身につけた日本語コミュニケーターにとって不可欠なものである。

本学科の一つの目的は、広く国内外で日本語の普及にあたる日本語教師の育成にあり、そのために、日本語教育の方法、日本語学習上の課題などについて学ぶ日本語教育学は欠かせない。

また、世界に向けて日本を発信するうえで欠かせないのが、日本についての理解を深める日本文化研究である。日本文化研究は幅広い内容を含むが、本学科では特に、日本人の言語行動の背後にある思考方法、価値観について学ぶと同時に、その結果として現れる文学、ポップカルチャーなどの様々な活動成果について学べるようにする。

### (5) 目標とする資格等

本学における学修成果については、学期試験による「成績評価」とその集大成である「GPA」「卒業論文」ならびに本学実施の「学修行動調査」「卒業・修了時実態調査」を評価指標として用い、本学科の「卒業認定・学位授与の方針」に沿った学修成果がどの程度上がっているかを測定・検証する。

これに加え、4年次終了時までには、本学科の教育課程を履修することで取得可能な資格ではないが、「日本語教育能力検定試験」「日本語検定」「ビジネス文書検定」等の各分野での就業に有利と考えられる日本語関係の資格取得を推奨し、それらを到達目標として設定することにより学修意欲の向上に結びつける。また、日本での就業を希望する外国人留学生には、「BJTビジネス日本語検定」「J. TEST (実用日本語検定)」の受験を強く推奨し、継続的な日本語能力向上の努力を求める。

これらの受験結果もまた、優れた日本語コミュニケーターに必要とする日本語の知識と表現及び日本語運用能力の到達度を測定する材料として活用する。

#### ○資格試験別「合格に必要なとする知識・能力等」

資格試験	合格に必要なとする知識・能力等
日本語教育能力検定試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語教育の実践につながる基礎的な知識</li> <li>・熟練した日本語教員の有する現場対応能力</li> <li>・以上で求められる基礎的な問題解決能力</li> </ul>
日本語検定 1 級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語の総合的な能力（漢字、表記、敬語、言葉の意味、語彙、文法の六つの領域と読解問題なども扱う）</li> </ul>
ビジネス文書検定 1 級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実務に役立つ文書作成技能について、知識と技能を十分に身につけているとともに、必要に応じて適切に指導できる</li> </ul>
BJT ビジネス日本語検定 J1+	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのようなビジネス場面でも日本語による十分なコミュニケーション能力がある</li> </ul>

J.TEST (実用日本語検定) A 級	・様々な分野、場面において、専門的な話題も理解でき、十分なコミュニケーション能力がある
----------------------	---

※ BJT ビジネス日本語検定及び J.TEST (実用日本語検定) は、外国人対象の試験

※ 「合格に必要とする知識・能力等」は当該資格試験の HP から引用

## 2. 学科の特色

### (1) 外国語学部における本学科の位置づけ

外国語学部は、全ての学生に、「卒業認定・学位授与」の方針に示した到達目標「言語についてその仕組みや機能を明快に説明できる専門的能力を修得させ、単に読み・書き・話し・聞くことができるだけでなく、言語学・文学・歴史・芸術などの専門分野において、知的コミュニケーションができる当該言語運用能力を修得させる」ことを目指し、専門言語別に、英米語学科、中国語学科、スペイン語学科を設置している。新設となる本学科も、この外国語学部の基本的な到達目標を共有するものであり、加えて以下を特色として持たせる。

### (2) 本学科が担う教育的機能

本学科は、中央教育審議会答申「我が国の高等教育機関の将来像」に示された七つの大学機能のうち、特に「幅広い職業人養成」「社会貢献機能」「総合的な教養教育」の3点を重視した教育を行う。

#### ①幅広い職業人養成

本学科では、組織・集団の中で有効に機能する日本語コミュニケーターの育成を目指す。「職業人」に求められる能力要素は様々であるが、いずれの組織・集団においても、課題を発見し、協働の中で課題解決を探ることを率先して行える姿勢・能力は基本となる。そのためには日本語でしっかりと意思疎通を図るとともに、所属組織の構成員の考えを引き出し、交わり合わせていくファシリテーターとしての能力も必要となる。本学科の育成する、正確な日本語知識と場面に応じた効果的な表現能力、さらにはファシリテーション能力を身につけた日本語コミュニケーターは、社会において求められている「職業人」の一つの形である。

また、グローバル化の進む今日において職業人は、日本国内ばかりでなくいついかなるときに国境を超えた活動を求められるやもしれず、また、日本国内においてさえ外国人と協働する場が増えている。そのような場では、言語運用能力とは別に、誤解を解消しながら相互理解を目指す異文化間コミュニケーション能力も必要とされる。これについても、本学科の講義・演習科目の中で修得できることとなる。また、日本人学生と外国人留学生が混在する日常の学修環境そのものが有効となる。

#### ②社会貢献機能

日本語教育を通じた国際交流、地域交流に寄与できる人材の育成を目指す。現在世界の日本語学習者は約 365 万人とされるが、世界において日本の文化面への関心が高まる中、日本語、日本文化の国際的な普及にあたる人材の需要は今後もあり続ける。本学科の教育

課程は、日本語教育の現場に立つために必要とする十分な日本語教育について学ぶ、あるいは異文化と対比しながら日本文化の特質について学ぶ機会を提供することが可能である。

また、国内に目を転ざると、平成 29 (2017) 年末には日本国内に、中長期在留者数、特別永住者数を合わせ、256 万を超える在留外国人がいる。前述のとおり、国内の日本語学習者は 24 万人近くいるが、それ以外にも日本語学習についての支援が必要な外国人が相当数いると見込まれる。また、学校教育（公立校）の中でも、日本語の指導を必要とする外国籍・日本国籍の児童・生徒数、ならびに、その在籍学校数の増加が認められる【資料 19「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査(平成 28 年度)の結果について】。特に「日本語指導が必要な外国籍の児童生徒数は 34,335 人で平成 26 (2014) 年度の調査より 5,137 人増加した。また、日本語指導が必要な日本国籍の児童生徒は 9,612 人で平成 26 (2014) 年度の調査より 1,715 人増加」している。

このように日本語学習の支援を必要とする「生活者としての外国人」あるいは児童生徒が増加し続けている現状を考えると、さまざまな教育機関や団体の指導者として、あるいは各地域で活動するボランティアとして、これらの人々の日本語学習支援に従事することができる。日本語教育についての専門知識を有する人材は、今後ますます必要とされる。本学科は、世界を活躍の場として日本語の普及にあたる日本語教師の育成のみならず、日本の地域社会において必要とされる日本語学習支援に関わる意欲と能力を有する人材の育成も視野に入れ、学生にはキャンパスの所在地である八王子市における日本語支援ボランティアなど、多様な社会貢献活動への積極的な参加を促す。

### ③総合的な教養教育

本学科が育成する日本語コミュニケーターは、組織を活性化するファシリテーター的側面を持つとともに、知的なコミュニケーションを可能とする幅広い教養を身につけているべきである。従って、総合的な教養教育もまた本学科の教育の柱である。日本語学、日本語教育学という専門性の高い科目とともに、国際社会に出た際に、求められれば日本、そして日本文化について様々な側面から語れるよう、日本についての理解を深めるための科目も専門科目として用意する。同時に、外国語学部の一学科として、広範な分野にわたる多彩な教養教育科目群から知性と教養を高めるための科目が履修可能となっている。

本学科は、以上の幅広い職業人養成、社会貢献機能、総合的な教養教育の 3 点を重視した教育を行うことにより、社会に出た際に国境に隔てられることなく、いかなる場においても人々の協働の中心に位置し、敬愛される人材を育成する。

### (3) 本学科の教育についての発信

前述の三つの教育上の機能は、次の五つの教育の特色を高校生などに向けて示していく。

#### ①優れた日本語コミュニケーターを目指す

一般的に「コミュニケーター」は「伝達者」と訳され、言語集団間の意思疎通にあたる

通訳などを指すことが多い。また、「科学コミュニケーター」のように専門的知識を持つ科学者・技術者と一般市民とをつなぐ役割を担う人を指すこともある。そういう点では、同じ言語集団内にあっても、様々な意図や目的を持ち、また異なる背景を有する人々がいる以上、彼らをつないでいくコミュニケーターが求められる。本学科では、日本語の言語構造、表現方法、さらには言語文化に配慮した言語運用についての考え方などを専門的に学び、同時に多くの演習を通じ実践的な日本語運用能力も高める。これにより、日本語を使用する社会集団においてコミュニケーターとしての役割を担える能力を身につけられる。

#### ②日本語・日本文化のよき発信者を目指す

日本語コミュニケーターに必要な日本の言語と文化についての理解は、同時に、国際人として世界の人々と協働していく際に必要となる。彼我の文化の異同を理解し、適切に対応する能力の基本でもある。また、本学科は国外での教授活動経験も豊富な教授陣を擁し、その経験、知見をもとに日本語・日本文化について多様な視点を学生に示すことができる。これらにより、国際人として日本の魅力を発信していく意欲と能力を育てる。

#### ③課題の発見と解決を主導するリーダーシップを身につける

異なる目的、背景を有する人々をつなぐ日本語コミュニケーターは、異なる意見を引き出し、交じり合わせるファシリテーターでもある。本学科では、教師と学生、学生同士が相互に働きかける中で課題を発見し、率先、協働してその解決を目指すアクティブ・ラーニング型の授業を豊富に展開する。これらの学修を通じてファシリテーター型のリーダーシップを学ぶ。

#### ④異文化間コミュニケーション能力を身につける

本学科では、日本人学生と外国人留学生の学生数をおおよそ半々としており、日常のクラスがそのまま異文化間交流の場となる。また、世界各地における日本語教育の豊富な経験を有する教授陣をそろえており、そのような環境の中、日本人学生、外国人留学生ともに彼我の文化の異同や言語文化の違いを相互に意識し、刺激を受けながら、本学科ならでの日本語教育方法や異文化コミュニケーション能力などの国際感覚を自然に身につけることができる。

#### ⑤外国語（英語、中国語、スペイン語）の力も身につく

世界に向けての日本語、日本文化の普及のためには、やはり日本語だけでなく外国語でも発信できる必要がある。本学科では、外国語学部の教育課程に沿うことにより、副専攻として英語、中国語または、スペイン語を学ぶことができる。

### 3. 学科の名称及び学位の名称

本学科の教育・研究対象である日本語は、たしかに日本国という一地域で使用されている言語である。しかしながら、前述したように世界で365万人を越えようという日本語学

習者がおり、さらに、日本語を学習するまでにはいたらないまでも、アニメ、マンガ、ゲーム、食文化などを通じて日本語に親しみを感じる人々も世界に多数存在する。その意味で、今日の日本語はかつてないほどに国際性を増しているといえる。そこで、日本語・日本文化を、日本という地理的な制約を離れ、広く国際社会の中で認知される言語・文化と位置づけることを明確にするために、今回、本学外国語学部の新設する本学科の名称は、教育・研究対象としての日本語に由来する「日本語学科」ではなく、あえて「国際日本語学科」(英訳名称: The Department of Global Japanese Language) とする。また、国際日本語という視点を持つことにより、本学外国語学部既存の3学科がそれぞれ、英語、中国語、スペイン語をもって国際社会で活躍できる人材の育成を目指すのと同様に、本学科もまた、国際日本語をもって国際社会で活躍できる人材の育成を目指すことを示すものである。

一方、本学科の主たる教育・研究の学問分野は日本語学である。専門科目の選択科目Ⅰにおいて日本語の運用能力を高めるとともに、専門科目の必修科目、ならびに専門科目の選択科目Ⅱに配置された日本語の言語構造と日本語の現状についての知見を深める科目を履修する。これにより、専門性の高い日本語学を学修することが可能となる。このため国際日本語学科が授与する学位名は「学士(日本語)」(英訳名称: Bachelor of Arts in Japanese Language) とする。これはまた、外国語学部の既設3学科がそれぞれ対象とする言語名を学位名に使用していることにも合致する。

#### 4. 教育課程の編成の考え方及び特色

##### (1) 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

本学科では「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)」を次のとおり、定めて、これに基づき、教育課程を編成し、実施する。

外国語学部 国際日本語学科  
教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

国際日本語学科は、以下のような考えに基づき教育課程を編成し、実施する。

##### 1. 教育課程の編成にあたっての重点目標と科目の位置づけについて

教育課程の編成にあたっては「卒業認定・学位授与の方針」に謳う人材育成のために、以下の4点を重視する。科目の配置においては、基礎から応用に向かう順次性、科目の目標・方法の系統性にも配慮する。

##### (1) 自律的学修能力の育成

1年次前期の「初年次教育ゼミナール」において、大学生らしい主体的・能動的な学修スタイルを理解し、実践できるように指導する。また、選択日本語Ⅱの科目群や「3年・4年ゼミナール」には、自ら課題を設定し、解決を模索する能動的学修の機会が多く、これらを通じて自律的学修能力を高める。「卒業論文」は自律的学修の集大成となる。

##### (2) グローバル思考の育成

1・2年次のうちに日本語・日本文化科目群の各科目により日本の文化・社会についての知見を深めると同時に1年次から3年次にかけて国際関係科目群を履修することで、日本および外国籍の学生にあっては学習者の母国・地域等と他の国々とを対比しつつ国際社会及び異文化について学修する。

また、日本人学生と外国人留学生がともに学ぶ学修環境の中で相互に異文化経験を積み、異文化への共感性を高められるようにする。そのうえで、自身の国際交流・異文化体験と学科科目の学修を関連づけて考えられるようにするために、海外研修・留学プログラムへの積極的な参加を促す。

### (3) 有用かつ知的なコミュニケーション能力の育成

選択日本語Ⅰ・Ⅱの科目群の各科目で、日本語文法、文章表現法の理解を深めながら、さらに日本語の表現能力向上を目指す。同時に、国際関係科目群の科目で、国際社会におけるコミュニケーションの重要性について理解を深める。問題解決につながる有用なコミュニケーション能力の育成は、「3年・4年ゼミナール」などの能動的学修の大きな目標となる。

また、教養に裏打ちされた知的かつ文化的な豊かさを包含するコミュニケーションが展開できるよう、「日本語史」「国際日本語論」等の学修により日本語についての歴史的・社会的・文化的知識を深めるとともに、選択日本語Ⅱの科目群（「日本語表現演習」「日本語文化演習」等）では、文化的、社会的な話題を扱う実践練習を多く取り入れる。

### (4) 豊かな人生の基盤づくり（キャリア形成を見据えた専門性と人間性の育成）

1・2年次に必修科目で専門的学修の基礎を学ぶとともに、選択科目Ⅱの日本語教育科目群と日本語・日本文化科目群の2つの科目群において、進路の選択にあった専門性を身につける。前者科目群においては、日本語教師として国内外の現場で活躍できるだけの知識と能力が身につくよう、教育方法についての理論と実践の科目を開講する。また、広く日本語・日本文化に関わる進路を目指す学生には、後者科目群の日本語・日本文化に関する科目を開講する。

加えて、人間、社会、自然と環境、コミュニケーション及び学際的5系列からなる教養教育科目群により豊かな教養の基礎を築くとともに、キャリア支援科目や情報リテラシー科目により社会人としての汎用的技能の向上も目指す。

最後に、ゼミナールでの教員や他のゼミナール生との交流の中で人間関係を築き、これを維持・発展させる経験を積む中で、他者から信頼され、ときにリーダーシップを発揮しながら協働していける人格の形成を目指す。

## 2. 学修成果の評価について

学修成果の評価については、予め、学生に各授業科目の到達目標、授業計画、予習・復習及び成績評価の方法等を明示したうえで、「卒業認定・学位授与の方針」に沿った学修過程を重視しつつ、成績評価基準に基づき厳格に行う。さらにGPAを利用し評価、指導する。

## (2) 科目区分及び科目構成

本学科の教育課程は、前述の「教育課程編成・実施の方針」に基づき、①自律的学修能力、②グローバル思考、③有用かつ知的なコミュニケーション能力の育成、④豊かな人生の基盤づくり（キャリア形成を見据えた専門性と人間性の育成）を養成するため、下表の科目区分及び授業科目群により構成する。

なお、教育研究上の到達目標を達成するためには、順次性のある体系的な教育課程を編成・実施することが重要であること、到達目標が明確であると学生の学修への動機付けが高まることなどを目的に「国際日本語学科カリキュラム・マップ」【資料 20】を作成する。このマップは、学生が将来の進路を考慮して、学修計画、履修計画を立てるときに役立てられるもので、履修要項に記載するとともに、履修指導の際にも活用する。

○外国語学部 国際日本語学科 科目区分

科目区分		授業科目群	備考
教養教育科目		A～E 系列	
専門科目	必修科目	専門基礎	
		ゼミナール等	
		卒業論文	
	選択科目Ⅰ	選択日本語Ⅰ（留学生）	
		選択日本語Ⅰ（共通）	
		選択日本語Ⅱ（共通）	
		選択日本語Ⅲ（共通）	
	選択科目Ⅱ	日本語教育	
		日本語・日本文化	
		国際関係	
選択科目Ⅲ	外国語		
自由科目			
副専攻科目	英語		
	中国語		
	スペイン語		

なお、科目区分の科目構成とその理由は、次のとおりである。

①教養教育科目

教養教育科目は、学生の豊かな教養の礎を築くとともに、日本語のコミュニケーション能力を高める科目やキャリア支援の科目などによって、社会人として必要な技能を修得させることを目的に開講する。全体の科目構成の枠組みは、A 系列「人間について考える」、B 系列「社会について考える」、C 系列「自然と環境について考える」、D 系列「コミュニケーション能力を高める」及び E 系列「学際」の 5 系列とし、開設科目数を 34 とする。

A 系列：人間について考える

A 系列は人文科学、人間科学などの学問分野の科目によって構成する。学生はこれらの

科目を学修することで、人間の思考、文化、身体などについての幅広い教養を身につけたり、人間という存在について“考える力”を養ったりすることができる。

A 系列の科目構成は、次のとおりである。

「哲学 A (哲学すること)」「哲学 B (現代の哲学)」「心理学 (認識と行動のメカニズム)」「宗教学 (宗教と人生)」「講座 言語と文化」「外国文学 A (英語圏の文学)」「外国文学 B (ヨーロッパの文学)」「美術」「映像文化論」「身体トレーニング理論」「スポーツの歴史と社会」「生涯スポーツ基礎演習」「トレーニング基礎演習」

B 系列：社会について考える

B 系列は社会科学の学問分野の科目によって構成する。学生はこれらの科目を学修することで、社会の変容やしぐみについて考察すること、日本や諸外国の歴史や民族、文化を学ぶことができる。

B 系列の科目構成は、次のとおりである。

「日本史 (近代日本の歴史)」「近代社会の思想史」「社会学 (個人と社会)」「法学 A (国家と憲法)」「法学 B (生活の中の法)」「流通論 (流通とマーケティング)」「情報化社会とマスメディア」

C 系列：自然と環境について考える

C 系列は自然科学の学問分野の科目によって構成する。学生はこれらの科目を学修することで、自然界のしくみや歴史、さらに地球の環境問題などについて学ぶことができる。

C 系列の科目構成は、次のとおりである。

「自然界のしくみ」「自然認識の歴史」「生態学 (環境と生態系)」「天文学 A (太陽系のしくみ)」「天文学 B (宇宙のしくみ)」「地球科学 A (地球の構造と歴史)」「地球科学 B (地球環境の変動)」

D 系列：コミュニケーション能力を高める

D 系列は日本語のコミュニケーション能力を高める科目によって構成する。学生はこれらの科目を学修することで、日本語を読む力、書く力、話す力、聞く力を高めることができる。

D 系列の科目構成は、次のとおりである。

「文章表現の基礎」「口頭表現の技法」「ビジネス文の書き方」「レポートの書き方」「プレゼンテーションと交渉」

E 系列の科目には、学生が自らのキャリアをデザインする「職業と人生」と、防災・減災・知災・備災などの基礎知識を学ぶ「防災と安全」の2科目を配置する。

## ②専門科目

### ア. 必修科目「専門基礎科目」

専門基礎科目は、キャリア形成を見据えた専門性と人間性の育成を目的に、専門的学修

の基礎を修得する科目群として、「日本語学概論」「日本語教育概論」「国際日本語論」「日本語史」の4科目を配置する。日本語の言語構造についての基本を学ぶ「日本語学概論」と、現在にいたる日本語の変遷のあり方を学ぶ「日本語史」、また外国語として日本語を教授、学習する際の課題を考察する「日本語教育概論」、さらに、世界における日本語の普及と現状を確認する「国際日本語論」、これら専門基礎科目4科目を学ぶことを通して日本語の言語的特質を把握する。

#### イ. 必修科目「ゼミナール等」及び「卒業論文」

ゼミナール等は、自律的学修能力の育成ならびにコミュニケーションを通じた問題解決能力の育成を目的に、「初年次教育ゼミナール」「日本語相互学習Ⅰ・Ⅱ」「3年ゼミナール」「4年ゼミナール」の計5科目を配置する。

1年次前期に担当された「初年次教育ゼミナール」では、キャンパスでの過ごし方、科目履修など大学生活に早く馴染めるように指導するとともに、様々な課題を与えることで、大学で求められる、予習・復習を踏まえた主体的な学修スタイルを理解し、実践できるように指導する。

2年次に担当される「日本語相互学習Ⅰ・Ⅱ」では、日本人学生と外国人留学生からなるグループ単位で異文化間コミュニケーション、相互理解を題材としたプロブレム及びプロジェクト・ベースド・ラーニングを行う。これにより、異文化間コミュニケーションの要点を知るとともに、課題の発見、解決の手法を身につけることを目指す。

一方、「3年ゼミナール」「4年ゼミナール」では、各学生が自発的に課題を発見し、解決に向けて検討を行う自律的学修を重視するとともに、その過程では、討論、発表などのコミュニケーション活動を通して協働しながら問題解決をする経験を積ませるよう指導する。また同時に、思慮深くかつ柔和な対応のできる人格の陶冶を目指す。

各学生がゼミナールで検討したテーマは最終的に「卒業論文」へとつながる。本学科の目標は日本語のエキスパートを育てるところにある。大学4年間にわたり積み上げてきた日本語による思考と表現能力向上の集大成としての「卒業論文」は必修科目となる。

#### ウ. 選択科目Ⅰ「選択日本語Ⅰ（留学生）」

選択日本語Ⅰ（留学生）は、日本語を外国語として学ぶ外国人留学生を対象とし、専門科目の学修と将来の就業に必要な総合的日本語運用能力を身につけるための科目群である。

専門科目の学修に必要な日本語を学ぶ「アカデミック日本語Ⅰ・Ⅱ」、文字を介した日本語の運用能力向上を図る「日本語リテラシーⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（各A・B）」、音声を介した日本語運用能力の向上を図る「日本語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（各A・B）」、日本語の言語構造の特徴を学ぶ「日本語ファウンデーションⅠ・Ⅱ」、将来の進路にあわせてより専門的な日本語について学ぶ「専門日本語〔観光〕」「専門日本語〔メディア〕」の計22科目を配置する。

#### エ. 選択科目Ⅰ「選択日本語Ⅰ（共通）」

選択日本語Ⅰ（共通）は、日本語の言語構造の特徴を修得し、正確な日本語生成能力を身につけることを目的とする科目群である。

日本語の文構成の根幹となる文法構造の考え方を学ぶ「日本語文法研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」と、日本語の文章構成の特徴を学ぶ「日本語文章表現Ⅰ・Ⅱ」、計6科目を配置する。

#### オ. 選択科目Ⅰ「選択日本語Ⅱ（共通）」

選択日本語Ⅱ（共通）は、コミュニケーションを通じた問題解決能力の育成を目的に、演習形式で課題に取り組むことで、日本語表現能力と実践的な課題解決手法を修得する科目群である。

読者や聴衆にわかりやすく、また共感を得られる日本語表現を学ぶ「日本語表現基礎・演習」、視覚情報も効果的に使いながら話者の意図を表現する手法を学ぶ「日本語プレゼンテーション基礎・演習」、人間関係に配慮した言語運用を学ぶ「日本語文化基礎・演習」、以上の計6科目を配置する。

#### カ. 選択科目Ⅰ「選択日本語Ⅲ（共通）」

選択日本語Ⅲ（共通）は、キャリア形成を見据えた専門性と人間性の育成を目的に、学外の様々な日本語に関わる認証・認定基準にも対応できる知識、能力を修得するための科目群である。

日本語教育を目指す学生を対象とする「教育日本語総合Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、日本企業での就業を目指す学生のための「ビジネス日本語総合Ⅰ・Ⅱ」の計5科目を配置する。

#### キ. 選択科目Ⅱ「日本語教育科目」

日本語教育科目は、キャリア形成を見据えた専門性と人間性の育成を目的に、日本語教師として国内外の現場で活躍できるだけの知識と能力を修得するための科目群である。

外国語教育としての日本語教育の枠組みと具体的な手法を学ぶ「日本語教授法Ⅰ・Ⅱ」「日本語教育教材論」「日本語教育評価法」「言語習得論」「日本事情教育」「世界の日本語教育事情」、外国語としての日本語の特徴を学ぶ「日本語音声学」「日本語表記論」「日本語語彙論」「日本語意味論」「日本語の談話」「日本語特殊研究」「日本語研究史」、そして仕上げとしての「日本語教育実習」、以上計15科目を配置する。

#### ク. 選択科目Ⅱ「日本語・日本文化科目」

日本語・日本文化科目は、グローバル思考及びキャリア形成を見据えた専門性と人間性の育成を目的に、日本語・日本文化を理解し、また広く世界に紹介するうえで基盤となる知識と洞察力を修得する科目群である。

現代の日本語、日本文化の位置づけについて学ぶ「日本語・日本人論」「社会の中の日本語」「現代日本語事情」「クールジャパン論」「ポップカルチャー論」、伝統文化も含めた日本人の思考、行動様式、美意識などについて学ぶ「日本の民俗と思想」「日本の生活と芸能」「日本近代文学」「日本文学概論」「日本古典文学Ⅰ・Ⅱ」「日本古典文法Ⅰ・Ⅱ」「漢文学概論Ⅰ・Ⅱ」「書道」、異文化との異同について学ぶ「異文化間理解」「翻訳・通訳概論（日

英)」「翻訳・通訳概論(日中)」,以上の計19科目を配置する。

#### ケ. 選択科目Ⅱ「国際関係科目」

国際関係科目は、グローバル思考の育成及び国際社会におけるコミュニケーションについての理解を深めることを目的に、外国事情についての知識や実際の異文化交流で起こりうる課題に対処するための手法や能力を修得する科目群である。

「異文化間コミュニケーション入門」「中国事情」「国際コミュニケーション論」「国際ビジネス交渉論」「現代ラテンアメリカ事情Ⅰ・Ⅱ」「国際社会学」「東南アジア」「南アジア」の計9科目を配置する。

#### コ. 選択科目Ⅲ「外国語科目」

外国語科目は、専攻言語と言語文化的に対照するための基礎とすることを目的とし、専攻言語以外の言語の文法や、関連する文化の概略を学び、合わせて簡単なコミュニケーションのための運用の力を修得する科目群である。英語、中国語、スペイン語、フランス語、ドイツ語、韓国語の6カ国語の中から一言語を選択する。言語別に「初級①Ⅰ・Ⅱ」「初級②Ⅰ・Ⅱ」「中級①Ⅰ・Ⅱ」「中級②Ⅰ・Ⅱ」の計8科目を配置する。

#### ③自由科目

自由科目は、広範な知見と、社会活動に向けた基本的知識をもって学科専攻科目を補完することを目的とし、言語・情報に関する一般的、総合的な知識を修得する科目群である。

「情報スキルⅠ・Ⅱ」「言語学概論Ⅰ・Ⅱ」「キャリアガイダンス」「職業能力基礎(SPI)言語」「職業能力基礎(SPI)非言語」「観光ビジネス論Ⅰ・Ⅱ」の計9科目を配置する。

#### ④副専攻科目

選択科目Ⅲ「外国語科目」のうち、英語、中国語、スペイン語の3カ国語のいずれかを選んだ者で、当該言語をより深く学修したいと考える学生の知的欲求に応えるための科目群である。なお、言語ごとの科目編成は、次のとおりである。

○副専攻科目配当表

言語	配当科目	科目数
英語	「英語会話Ⅰ～Ⅳ」「資格英語 A・B・C」「英語ボキャブラリーⅠ・Ⅱ」「マスメディア英語Ⅰ・Ⅱ」「映画英語Ⅰ・Ⅱ」「インターネット英語Ⅰ・Ⅱ」	15科目
中国語	「コミュニケーション中国語講読Ⅰ・Ⅱ」「コミュニケーション中国語作文Ⅰ・Ⅱ」「ビジネス中国語講読Ⅰ・Ⅱ」「ビジネス中国語会話Ⅰ・Ⅱ」「観光中国語Ⅰ・Ⅱ」「時事中国語Ⅰ・Ⅱ」「資格中国語Ⅰ・Ⅱ」「中国文学概論」	15科目
スペイン語	「西語文化講座Ⅰ・Ⅱ」「スペイン語相互学習Ⅰ・Ⅱ」「スペイン語ワークショップⅠ・Ⅱ」「映画スペイン語Ⅰ・Ⅱ」「日西語対照」	12科目

## 5. 教員組織の編制の考え方及び特色

### (1) 教員・教員組織編制の方針

教員に求められる能力・資質及び教員構成等を記した外国語学部の「教員・教員組織編制の方針」を次のとおり定めている。

#### 外国語学部 教員・教員組織編制の方針

本学部の教員組織は、「言語の仕組みや働きについての専門的知識を持ち、単に読み・書き・話し・聞くことができるだけでなく、言語に関わる幅広い分野において、知的コミュニケーションができる当該言語運用能力を修得させ、優れた語学の力と国際感覚を持ち、自国の言語、文化、社会をしっかりと理解したうえで、他国の文化を尊重し、相互理解に導く力を持った人を育てる。」という学部の目的に則して、教育・研究を展開していくための組織であり、本学部の教育・研究の分野及び学生数等の規模を基本として編制する。

本学部における専任教員の配置については、「教育課程編成・実施の方針」に基づき、言語運用能力とコミュニケーション能力に加えて文化や社会に関する幅広い知識と教養を修得させるために、教員組織に偏りが生じないように、適切な教員の人事配置を行う。

従って、本学部教員については、本学部の目的に基づく、教育・研究指導や人材育成を実現するため、研究者として高い資質を備え、教育者としての意欲と熱意を有する人材を確保する。

### (2) 教員組織の編制方法

本学科は、前述の方針に基づき、言語運用能力とコミュニケーション能力に加えて文化や社会に関する幅広い知識と教養を修得させるために、学科の学生数に応じた専任教員を配置するとともに、日本語学、日本語教育学、日本文化研究をはじめとする日本の言語文化に関わる専門性に重点をおきながら、学部全体として教養教育分野等のバランスにも配慮した適切な教員組織を編制する。

本学科の専任教員数は、大学設置基準によって定められた必要教員数を充足しており、本学科の主要な授業科目（必修科目）は、下表のとおり当該授業科目の分野に関わる修士以上の学位（文学、教育学、言語学、学術）、及び十分な教育研究業績（教育上の能力、著書、学術論文等）を有する教授又は准教授の専任教員を配置する。

○必修科目及び科目担当者（完成年度）

科目区分	必修科目	科目担当者及び身分
専門基礎	日本語学概論	近藤真宣教授、阿久津智教授
	日本語教育概論	中村かおり准教授
	国際日本語論	小井亜津子准教授

	日本語史	阿久津智教授
ゼミナール等	初年次教育ゼミナール	近藤真宣教授、山口隆正教授、中村かおり准教授
	日本語相互学習Ⅰ	近藤真宣教授、山口隆正教授
	日本語相互学習Ⅱ	近藤真宣教授、山口隆正教授
	3年ゼミナール	近藤真宣教授、平山紫帆准教授、小井亜津子准教授 佐野正俊教授、山口隆正教授、中村かおり准教授
	4年ゼミナール	近藤真宣教授、平山紫帆准教授、小井亜津子准教授 佐野正俊教授、山口隆正教授、中村かおり准教授
卒業論文	卒業論文	近藤真宣教授、平山紫帆准教授、小井亜津子准教授 佐野正俊教授、山口隆正教授、中村かおり准教授

### (3) 専任教員の年齢構成

完成年度となる平成 36 (2024) 年 3 月 31 日の専任教員の年齢構成の状況は、下表のとおりである。

#### ○外国語学部 国際日本語学科 専任教員 年齢構成

学 科/年 齢	65 以上	64 ～ 61	60 ～ 56	55 ～ 51	50 ～ 46	45 以下	合計人数
国際日本語学科	14.3 %	42.8 %	0 %	14.3 %	14.3 %	14.3 %	7 人
	1 人	3 人	0 人	1 人	1 人	1 人	

※年齢は、平成 36 (2024) 年 3 月 31 日現在

このとおり、年齢構成は、概ねバランスが取れているといえる。年齢構成の適切性にあたっては、完成年度以降も定年退職者を視野に入れ、年次計画により適宜優れた研究業績を有する若手教員を確保するなど、年齢構成のバランスに配慮していく。

### (4) 専任教員の定年

本学の専任教員の定年齢は、「満 65 歳をもって定年とする。ただし、平成 15 (2003) 年度以前に採用された教育職員(主として体育の実技を教授する教員、学生主事等、助手並びに高等学校の教員を除く)は、満 67 歳をもって定年とする」【資料 21 「定年規程」】と規定している。本学科の完成年度である平成 35 (2023) 年度までに、同規程に規定する定年齢を超える専任教員は 2 人存在するが、平成 28 (2016) 年 7 月 21 日開催の第 5 回理事会において、「定年規程」及び「教育職員の再雇用制度に関する内規」【資料 22】に基づき、当該教員に対して再雇用の適用を決定している。ただし、当該教員 2 人は平成 33 (2021) 年度末をもって再雇用終了となることから、後任者には、前任者の内容と比較し、同等以上の水準を確保するうえで、優れた教育研究業績を有する人材を任用することとし、平成 30 (2018) 年 4 月 19 日開催の平成 30 (2018) 年度第 1 回理事会において、その後任者 2 人の任用を決定している。

## 6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

### (1) 教育方法

「教育課程編成・実施の方針」に基づき、本学科は、その教育目標を実現するために各科目を、基礎から応用へと順次性に配慮しながら配置する。

本学科の専門科目の授業形態は、日本語コミュニケーターとしての言語運用能力を修得する授業などを中心に「演習形態」を、日本語教育方法や日本語・日本文化に関する授業、さらに豊かな教養の基礎を築く授業などを中心に「講義形態」を採用する。演習形態の科目では、最大でも30人程度までの規模とし、少人数かつ双方向型の能動的学修を展開する。

また、各科目の教育内容に応じて、クラス規模や教育方法を最適化する。クラス規模は、10人から30人程度の小規模クラスと、それ以上70人程度までの中規模クラスとし、それぞれに適したサイズの教室を用意する。運用能力など技能向上を目的とする語学学習系クラスや知識創発を目指すゼミナールなど、学生の積極的な参加を前提とする科目は当然小規模クラスで行われる。また、講義型科目であっても、能動的学修の機会を持つことが知識の修得、定着に有効であり、学修意欲を向上させると考えられているところから、クラス規模を問わず能動的学修の手法が取りやすいように教室環境にも配慮する。以下に、科目区分ごとに詳細を示す。

### ①教養教育科目

教養教育科目は、学生の豊かな教養の礎を築くとともに、日本語のコミュニケーション能力を高める科目やキャリア支援の科目などによって、社会人として必要な技能を修得させることを目的に開講する。講義はその形態により1クラス70人程度の規模で授業を展開する。さらに、同科目は、1年次から4年次に配当し、「A系列：人間について考える」「B系列：社会について考える」「C系列：自然と環境について考える」「D系列：コミュニケーション能力を高める」及び「E系列：学際」の5系列で構成する。学生には、これら5系列をバランスよく履修することを求める。

### ②専門科目

#### ア. 必修科目「専門基礎科目」

専門基礎科目は、本学科の専門的学修の基礎となるものであり、全ての科目を必修としている。基本となる「日本語学概論」にはじまり、その知識を踏まえて次の「日本語教育概論」に進むというように、基礎から応用へと段階的に配当する。

なお、これらの科目は本学科所属学生が全員履修する必修科目であるため、1クラスが学科定員50人の中規模クラスでの実施となるが、アクティブ・ラーニング型の授業形態を取り入れることにより、積極的かつ自律的学修態度の養成に務める。

#### イ. 必修科目「ゼミナール等」

ゼミナール等は、自律的学修能力の育成ならびにコミュニケーションを通じた問題解決能力の育成目的にもっとも適した場であり、必修科目とする。年次の特性に合わせ、3タイプのゼミナール科目を用意した。

まず、1年次前期の「初年次教育ゼミナール」では、キャンパスでの過ごし方、科目履修

など大学生活に早く馴染めるように指導するとともに、様々な課題を与えることで、大学で求められる、予習・復習を踏まえた主体的な学修スタイルを理解し、実践できるように指導する。その過程で自ら問題を発見する経験を積む。また、学生が個別に直面する学修上の問題にも担当指導教員が積極的に関与する。これらを効果的に行うにはアクティブ・ラーニング型授業形態と個別指導を組み合わせられる少人数クラスがふさわしく、そのため1学年を3クラスに分け、1クラス16人程度のクラス編成とする。

2年次配当科目「日本語相互学習Ⅰ・Ⅱ」は、異文化間コミュニケーションを題材とするプロブレム及びプロジェクト・ベースド・ラーニングを通して課題発見・解決の手法を身につけることを目指す。1学年を2クラスに分けた25人程度の小規模クラスで行うと同時に、2クラスの授業を同一時間帯に配置することで、クラス間討論などの相互交流も行えるようにする。こうした工夫により、能動的学修をより活性化させる。

コミュニケーションを通じた課題発見と解決模索の訓練は、「3年ゼミナール」「4年ゼミナール」の主要な目的でもある。ゼミナールは、本学科教員のうち6人が担当し、各ゼミナール10人弱で編成される。各ゼミナールは、担当教員の専門分野を中核としながらも、より広がりのある研究テーマを設定し、学生が各自の関心のあるテーマに応じて履修できるようにする。このような配慮により活発な発表、討論活動が展開されることが期待できる。この少人数体制は、「卒業論文」のための研究指導、さらには思慮深くかつ柔軟な対応のできる人格の陶冶を目指した個別指導にも不可欠である。

#### ウ. 選択科目Ⅰ「選択日本語Ⅰ（留学生）」

本学科は、入学定員半数程度の外国人留学生を受け入れることとしている。基本的には、日本人と外国人留学生が同一教室で学ぶことにより、日本人学生、外国人留学生が日常の大学生活の中で相互に異文化経験を積み、無理なく異文化への共感力を高められるようにする。ただし、選択日本語Ⅰ（留学生）科目は、日本語運用能力の向上を目的とする外国人留学生専用の科目となる。

日本語運用能力の向上が専門科目の学修に役立つよう、選択日本語Ⅰ（留学生）の「日本語リテラシーⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（各A・B）」では読み・書きを中心に、「日本語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（各A・B）」ではコミュニケーションを中心に、1・2年次に集中的に履修する。各科目末尾のローマ数字の順に学修は段階的に進む。また、各ローマ数字につくA・Bの符号は、それぞれ受容的能力の向上、生産（発信）的能力の向上と異なる目標を示す。授業は、日本語の習熟度別に2クラスに編成した少人数クラスで行い、効率的かつ、きめ細かい効果的な学修指導を目指す。なお、3年次に配置された「専門日本語」は、進路の関心にあわせて履修ができる。

#### エ. 選択科目Ⅰ「選択日本語Ⅰ（共通）」及び「選択日本語Ⅱ（共通）」

異文化の理解、また、課題発見から問題解決にいたる過程では、他者とのコミュニケーションが不可欠である。本学科の教育は、日本語についての専門的知識だけでなく、日本語をもちいた実践的なコミュニケーション能力の向上を図ることも重視する。有効かつ有用なコミュニケーションは、言語の正しい使用と理解なくしては行えない。1・2年次に配

当した選択日本語Ⅰ（共通）科目群の「日本語文法研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「日本語文章表現Ⅰ・Ⅱ」で日本語の文法、表現の規則を理解、修得する。その上で、2年次から3年次にかけて選択日本語Ⅱ（共通）科目群の「日本語表現基礎・演習」「日本語プレゼンテーション基礎・演習」などで、日本語を通じた表現能力の向上を目指す。この選択日本語Ⅱの科目群はいずれもアクティブ・ラーニング志向の科目といえるが、まず各科目の「基礎」で事例研究などを通じて基本となる様式を身につけ、「演習」で学生各自が問題意識に基づき調査、検討し、表現や発表へとつなげていく。

このようなアクティブ・ラーニング型の授業を効率的、効果的に進めるために、1クラス20人から30人程度の小規模クラスで授業が展開できるように時間割上の配置を工夫する。

なお、同科目群の授業形態は、日本語文法研究、日本語表現基礎及び日本語文化基礎を講義に、それ以外の科目を演習とする。また、各科目末尾のローマ数字の順に学修が進むよう履修を指導する。

#### オ. 選択科目Ⅰ「選択日本語Ⅲ（共通）」

選択日本語Ⅲ（共通）は、日本語教育あるいはビジネスなど特定の目的に沿った日本語運用能力の修得を目的とするものであるため、1クラス当たりの履修者は20人から30人程度の小規模クラスを想定し、演習型の授業を展開する。なお、各科目末尾のローマ数字の順に履修することで、基礎から応用へと段階的に学べるようにする。

#### カ. 選択科目Ⅱ「日本語教育科目」

日本語教育科目は、日本語教師として国内外の現場で活躍できる知識と能力が身につくよう、1・2年次から、日本語学について「日本語音声学」「日本語表記論」「日本語語彙論」を、日本語教育学については「日本語教授法Ⅰ・Ⅱ」「日本語教育教材論」などをおき、早くから専門領域への興味、関心が高められるようにする。そのうえで、3年次に日本語教育の専門性をさらに高める「世界の日本語教育事情」「言語習得論」「日本事情教育」などを用意する。

日本語教師としての実践を学ぶための「日本語教育実習」は3年次に担当しているが、その履修のためには日本語教育科目群のうち一定以上の単位修得を条件とし、適切、かつ、効果的な実習が行えるようにする。

日本語教育科目の各科目は、本学科所属学生のうち日本語教師を志望する学生を中心に、1クラス20人から30人程度の履修が見込まれる。

なお、専門科目・選択科目Ⅱに配当される日本語教育科目、日本語・日本文化科目、国際関係科目は、学内実習活動を含む上記「日本語教育実習」や「書道」以外は、いずれの科目も講義形態であるが、自律的な学修姿勢、主体的な思考能力を育成するため、アクティブ・ラーニング志向の授業形態を適宜取り入れる。

#### キ. 選択科目Ⅱ「日本語・日本文化科目」

国際社会において能動的に行動するため、あるいは日本語を国際的に普及していくためには、グローバルな視点からの総合的判断力が求められる。本学科の教育は、日本の言語

・文化のみならず異文化についても深く理解するとともに、共感する姿勢を育成することを重視する。日本語・日本文化については、現代の事情を知るための「現代日本語事情」「日本語・日本人論」「クールジャパン論」などを1・2年次配当科目として、3・4年次にその背景にある古典的文化を「日本古典文学Ⅰ・Ⅱ」「漢文学概論Ⅰ・Ⅱ」「書道」などで学べるようにする。なお、古典を理解するためには、1年次配当科目「日本古典文法Ⅰ・Ⅱ」を先に学修することが望ましい。また、異文化との異同を考察する分野では、1・2年次に「異文化間理解」を配し、より専門的な応用となる「翻訳・通訳概論（日英）」「翻訳・通訳概論（日中）」などを3・4年次に配当する。講義形態の科目が多くなるが、「書道」は実技指導も含まれる。広く日本語・日本文化に関心のある学生の履修が見込まれるため、1クラス50人程度の履修者を見込む。

#### ク．選択科目Ⅱ「国際関係科目」

国際関係科目では、日本と世界を対比しつつ、国際社会及び異文化への理解を深めることを目指す。グローバル化した世界における社会の課題を1年次配当の「国際社会学」で学修し、個別地域の事情については「中国事情」「現代ラテンアメリカ事情Ⅰ・Ⅱ」「東南アジア」「南アジア」で学修する。

また、国際社会におけるコミュニケーションについては、2年次配当科目「異文化間コミュニケーション入門」で基本を学修したうえで、3年次配当科目の「国際コミュニケーション論」「国際ビジネス交渉論」で国際社会で活かせるコミュニケーション手法を学修する。なお、同科目群は、講義形態とし1クラス70人程度の履修者を見込む。

#### ケ．選択科目Ⅲ「外国語科目」

外国語科目の授業は、1クラス30人程度のクラスを編成し、演習形態で展開する。なお、基礎から応用へと段階的に学べるよう、1年次に「初級①Ⅰ・Ⅱ」「初級②Ⅰ・Ⅱ」を、2年次に「中級①Ⅰ・Ⅱ」「中級②Ⅰ・Ⅱ」を履修するよう配当年次を定める。「英語」においては既修外国語として位置づけ、復習による知識定着の確認と、コミュニケーションツールとしての訓練に重点をおく。その他の言語においては初修外国語と位置づけ、基礎から丁寧に言語の四技能と文法を学ぶ。

#### ③自由科目

自由科目は、授業形態に応じたクラスの規模とする。「情報スキルⅠ・Ⅱ」は、1クラス25人前後、その他の科目は、50から60人程度で展開とする。また、各科目末尾のローマ数字の順に学修が進むよう履修を指導する。

#### ④副専攻科目

副専攻科目は、専攻外国語の必修ならびに選択科目に準ずるクラス規模とする。また、各科目末尾のローマ数字の順に学修が進むよう履修を指導する。

### (2) 履修指導方法

新入生に対しては、入学後にオリエンテーションを実施し、履修ガイダンス資料及び履修要項に基づき、4年間の履修手続の流れや学修計画の立て方などについて、きめ細かな履修指導を行うとともに、年間を通して個別の履修相談体制を整える。また、2年次以降においても新年度開始時に履修ガイダンスを行う。この際に、学生が科目履修選択時に参考にできるよう、学生の進路を想定した履修モデルを用意し、年次ごとに学生の希望する進路に見合った履修をしやすいとする。また、学生が気軽に教員の研究室を訪れ、履修方法をはじめ、学業などの質問や相談ができるよう、全ての専任教員が「オフィスアワー」を設定し、個別の対応を可能とする。さらに、各学年のゼミナール担当教員は、GPA等を活用しゼミナール所属学生の学修状況に留意し、計画的な履修の指導にあたるなど、修学指導体制を整える。

### (3) 履修モデル

本学科が想定する「卒業後の進路」(前述、1.(3)③参照)を学生が実現できるよう、以下の四つの履修モデルを学生に提示する。

①-1国内外で日本語に関わる教育・研究において求められる能力を修得するための履修モデル「日本人学生の場合」(「卒業後の進路」①②に相当)【資料23】

①-2国内外で日本語に関わる教育・研究において求められる能力を修得するための履修モデル「外国人留学生の場合」(「卒業後の進路」①②に相当)【資料24】

②言語運用能力とともに異文化への感応力を高め、通訳・翻訳などに求められる能力を修得するための履修モデル「日本人学生の場合」(「卒業後の進路」③に相当)【資料25】

③-1国際社会と異文化への造詣を深め、観光をはじめ、国際的な対応に必要なサービス業において求められる能力を修得するための履修モデル「日本人学生の場合」(「卒業後の進路」④⑤に相当)【資料26】

③-2国際社会と異文化への造詣を深め、観光をはじめ、国際的な対応に必要なサービス業において求められる能力を修得するための履修モデル「外国人留学生の場合」(「卒業後の進路」④⑤に相当)【資料27】

④表現手法から文学にいたる日本語文化に親しみ、ことばを扱う専門職(マスコミ関係、編集など)に求められる能力を修得するための履修モデル「日本人学生の場合」(「卒業後の進路」⑥⑦に相当)【資料28】

### (4) 単位制度の実質化

単位制度の趣旨に基づく単位認定については、「単位の計算方法」(本学学則第33条)を次のとおり定めている。

#### ○単位の計算方法(本学学則抜粋)

第33条 授業科目の単位計算方法は、1単位の履修時間を教室内及び教室外をあわせて45時間を標準とし、次の基準により計算するものとする。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。

この単位制度の実質化を図るため、次のとおり、①講義要項（シラバス）の作成、②学期ごとの履修登録の上限設定、及び③「学修行動調査」を実施する。

①講義要項（シラバス）は、本学ホームページに掲載し予め学生に周知する。全学統一の様式により、記載項目を「科目名」「英文科目名」「担当教員名」「開講キャンパス」「科目ナンバリング」「卒業認定・学位授与の方針と当該科目との対応関係」「授業の目的」「授業の到達目標」「授業計画（15回）」「授業の方法」「予習・復習」「成績評価の方法」「教科書・参考書」「関連する科目」の構成とする。

単位制度の本来の趣旨を踏まえ、学生の主体的な学修を促す仕組みとして予習・復習に必要な時間・内容や課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを講義要項に明記する。また、学生が自らの課程を通じた学修成果を把握させるために、「卒業認定・学位授与の方針」と当該科目との対応関係や科目ナンバリングも併記する。さらに、個々の授業科目の内容・深度、教授内容が十分な内容となっているか、科目間の有機的連携が確保されているかなどを組織的に検討を行うため、第三者が精査する講義要項（シラバス）のチェック体制を整える。

②一定期間内に可能な学修量には自ら限界がある。従って、個々の授業科目の学修量を実質的に確保するためには、履修登録できる授業科目数に一定の制限を設ける必要がある。このことから、履修登録の制度に関する基準を定め、全学年において年間 44 単位以下、各学期 25 単位を超えないこととする履修科目登録の上限を設ける。

③教育の質保証や学修成果の可視化への取組に向け、現状の教育課程の内容が、学生の主体的な学修を促す教育課程となっているか、卒業時まで教育目標に沿った成果が上がっているかなど、学生の学修時間や学修経験を問う「学修行動調査」を実施し、その結果を改善方策につなげていく。

#### (5) 他大学における授業科目の単位認定

本学が定める他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位は、本学学則第 46 条（単位認定等）において、次のとおり定めている。

##### ○単位認定等（本学学則抜粋）

第 46 条 学長は、本学が教育上有益と認めるときは、次の各号の一に該当する単位等は、教授会の議を経て、卒業の要件となる単位として認めることができる。

(1) 本学が定める他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位

(2) 短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を本学における授業科目の履修とみなし与えることができる単位

(3) 学生が本学に入学する前に大学又は短期大学(いずれも外国の大学を含む。)において履修した授業科目について修得した単位を本学に入学した後の本学における授業科目の履修とみなし与えることができる単位

2 前項により認定することのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、60 単位

を限度とする。

## (6) 卒業要件

「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」で定める到達目標を達成するために必要とする卒業所要単位は、下表のとおり科目区分ごとの必要単位を修得したうえで、合計 126 単位以上を修得するものとする。

### ○外国語学部 国際日本語学科 卒業所要単位

科目区分		授業科目群	卒業所要単位数	
			主 専 攻	副 専 攻
教養教育科目		A～E系列	14	14
専 門 科 目	必修科目	専門基礎	26	26
		ゼミナール等		
		卒業論文		
	選択科目Ⅰ	選択日本語Ⅰ（留学生）	20	20
		選択日本語Ⅰ（共通）		
		選択日本語Ⅱ（共通）		
		選択日本語Ⅲ（共通）		
	選択科目Ⅱ	日本語教育	44	32
		日本語・日本文化		
		国際関係		
選択科目Ⅲ	外国語	8	8	
自由科目			14	14
副 専 攻 科 目	英語	—	12	
	中国語			
	スペイン語			
合 計			126	126

## (7) 卒業論文

卒業論文は、3年ゼミナール、4年ゼミナールで各自が行ってきた個人研究を論文の形式で表す。本学科の学生にとっては、専門領域の学修の中で深めてきた日本語教育、あるいは日本語・日本文化についての知識、考察を示すと同時に、日本語表現のエキスパートとして磨いてきた明瞭かつ豊かな表現を示す集大成である。

卒業論文を執筆し提出完成にいたるまでは、テーマの設定にはじまり、年次執筆計画の作成、資料等の調査、収集の計画などについて指導教員と適宜相談しながら方針を定めるとともに、それに沿って学生が主体的かつ能動的に調査研究を進めることとする。と同時に、4年ゼミナールでの発表、討論を通して考察を深め、最終的に論旨に一貫性のある卒業論文（学士論文）を完成させる。

このような過程を経て完成した卒業論文について、指導教員がその過程と完成した内容

が単位を授与するに妥当であると認めた場合には、論文作成に必要な学修時間を考慮して、4 単位を認定する。

## 7. 施設、設備の整備計画

### (1) 教育・研究等環境整備の方針

本学では、「教育・研究等環境整備の方針」を次のとおり定め、これに基づき、校地、運動場及び校舎等施設の整備計画を策定し実施している。

#### 拓殖大学 教育・研究等環境整備の方針

本学の教育目標の実現に向けて、学生の学修の質向上を促進すること、教育・研究活動及び社会貢献の充実を図ること、さらに学生生活、課外活動を支援することを目的に、次のとおり「教育・研究等環境整備の方針」を定め、推進する。

- ①教育・研究活動・社会貢献の進展に伴う環境整備の充実
- ②学生の大学生生活満足度（学生本位の視点）を踏まえた環境整備の充実
- ③地球温暖化対策に十分配慮した環境整備の充実

この方針に基づき、平成 12（2000）年の創立 100 周年を機に「拓殖大学ルネサンス事業」の具現化の一環として、本学建学の精神を受けた学統の発展継承である、文京キャンパス整備事業を推進してきた。14 年の歳月を経て平成 26（2014）年度末を持って完了し、新しい教室棟（C 館）をはじめ、図書館・教室棟（E 館）、研究室・学生ホール棟（B 館）を新設するとともに既設建物についても拡充または改修を図った。また、平成 27（2015）年度から商学部・政経学部の 1・2 年生が文京キャンパスに移転したことにより、広大な敷地にある八王子国際キャンパスの充実した施設・設備などに、これまで以上のゆとりができた。

### (2) 校地、運動場の整備計画

本学科の教育は八王子国際キャンパスで展開する。本学の校地面積は八王子国際キャンパスと文京キャンパスを合わせると 371,283.77 m<sup>2</sup>（内訳：校舎敷地 288,125.87 m<sup>2</sup>、運動場用地 83,157.90 m<sup>2</sup>）を有しており、平成 32（2020）年度の定員変更後における大学設置基準上の必要校地面積 89,200 m<sup>2</sup>を十分に満たしている。

八王子国際キャンパスは、外国語学部（英米語学科、中国語学科、スペイン語学科）、工学部（機械システム工学科、電子システム工学科、情報工学科、デザイン学科）、国際学部（国際学科）及び大学院（工学研究科）を設置しており、96 教室を含む各種施設については、既設学部等と共用している。同キャンパスには、体育館（第 1、第 2）及び運動場（野球場、サッカー場、ラグビー場、ゴルフ練習場、アーチェリー場、テニスコート）など、充実した運動施設・設備を有し、学生のスポーツに係わる授業や課外活動等に利用

している。

学生の休息や学生・教職員の交流などに活用される施設としては、学生ホール（控室）を A 館 1 階に 2 ヶ所、屋上テラスを B 館に 1 ヶ所、カフェテラスを A 館 1 階に 1 ヶ所、麗澤会館 1 階にオープンスペースのサロンを 1 ヶ所設けている。室外においても広大な敷地を利用し、緑豊かな木々と芝生が広がるスペースを確保しており、そこには数十ヶ所にベンチを設けている。また、学生食堂は A 館に 3 ヶ所、学生寮であるカレッジハウス扶桑にも 1 ヶ所設けている。

### (3) 校舎等施設の整備計画

本学科の教育研究上の目的を実現するための教育課程の編成及び実施に必要とする教育研究環境を次のとおり整備する。

#### ①校舎面積

本学の校舎面積は、次のとおり、大学設置基準上に定めている基準面積の 2.26 倍と十分な面積を有している。

○校舎面積

区 分	①	②	充足状況
校舎面積	本学の校舎面積	大学設置基準上 必要校舎面積	(①÷②= 2.26)
	105,999.94 m <sup>2</sup>	46,938.20 m <sup>2</sup>	2.26 倍

※ 大学設置基準上の面積：定員変更後の平成 32（2020）年 4 月時点で算出

#### ②必要施設の整備

大学設置基準上の校舎面積に含まれる必要施設は、①研究室、②教室（講義室、演習室、実験・実習室等）、③図書館（書庫、閲覧室、事務室）、④管理関係施設（学長室、会議室、事務室等）、⑤医務室、学生自習室、学生控室等、⑥情報処理学習施設、語学学習施設を整備している。また、大学設置基準上の校舎面積に含まれない、体育館、スポーツ施設、講堂、課外活動施設、厚生補導施設についても整備している。その詳細は、「校地校舎等の図面」のとおりである。

#### ③教室（講義室、演習室）の整備

本学科の専門科目の授業形態は、日本語コミュニケーターとしての言語運用能力を修得する授業などに「演習形態」を、日本語教育方法や日本語・日本文化に関する授業、さらに豊かな教養の基礎を築く授業などに「講義形態」を採用する。演習形態の科目では、最大でも 30 人程度までの規模とし、少人数かつ双方向型の能動的学修の展開が可能な教室が必要となる。また、ゼミナール用の教室が必要となる。そのために必要とする専用教室を下表のとおり整備する。いずれも、策定した時間割と照らして余裕のある配置である。なお、教養教育をはじめとする日本語教育、日本語・日本文化などの授業を行う講義室は、他学部他学科と共有とするが、本学科専用として 100 人を収容できる講義室を 1 室整備す

る。

○専用教室の整備

キャンパス	専用教室	共有教室(参考)
八王子国際 キャンパス	・100人教室：1教室（A421教室） ・50人教室：2教室（A402a教室、A402b教室） ・30人教室：2教室（A400教室、A401教室） ・ゼミ教室：3教室（A511教室、A512教室、A513教室）	A・C・D館 麗澤会館

※ A400 教室（30 人教室）、A401 教室（30 人教室）は、アクティブ・ラーニング教室

④自習室の整備

学生の自主的・自発的な学習活動が行えるよう自習室を図書館の他に、下表のとおり整備している。

○自習室の整備

キャンパス	自習室	場所
八王子国際 キャンパス	・PC 自習室（3室：16席、24席、24席 計64席） ・CALL 自習室（1室7席） ・自習室（A300教室1室80席）	A館

⑤専任教員の「研究室」の整備

本学科の専任教員に対しては、八王子国際キャンパス管理研究棟に個室の研究室を備える。

○研究室配置教員

キャンパス	研究室配置教員	場所
八王子国際 キャンパス	阿久津 智 教授 遠藤 裕子 教授（後任：平山紫帆准教授） 小林 孝郎 教授（後任：小井亜津子准教授） 近藤 真宣 教授 佐野 正俊 教授 山口 隆正 教授 中村 かおり 准教授	管理研究棟

⑥教室の利用状況

教室の利用状況は、「国際日本語学科 時間割」【資料 29】のとおりである。授業科目の授業形態、クラス規模に応じて教室を配置するとともに、極力同一配当年次科目が重複しないよう時間割を編成する。教室の稼働率は、下表のとおり、平成 30（2018）年度時点で、八王子国際キャンパスは約 50 %であり、大学全体・学部全体の共通科目を除く、本学科専門科目の授業を追加しても十分に余裕のある教室数を有している。

○八王子国際キャンパス 学期別 教室稼働率（平成 30（2018）年度）

学 期	延べ教室数	使用室数	稼働率（%）	備 考
前 期	2,600	1,308	50.3	
後 期	2,600	1,278	49.2	

※延べ教室数：月・火・水・木・金曜日の八王子国際キャンパス 1～5 時限の延べ教室数。

※使用室数・稼働率は、月・火・水・木・金曜日の八王子国際キャンパス 1～5 時限の条件で平均値を算出。

※対象施設は、他学部専用棟・教室を除き、八王子国際キャンパス A・C・D 館及び麗澤会館としている。

この度の本学科の設置に伴い、八王子国際キャンパスにおける「専用教室」を整備する。今後も、大学の教育研究上の目的を達成するため、必要な経費を確保することにより、教育研究にふさわしい環境の整備に努める。

#### (4) 図書等の資料及び図書館の整備計画

図書等の資料及び図書館の整備にあたっては、各学部及び大学院等の教育目標に基づき、学修・教育及び研究を支援するための環境整備、デジタル化への対応、知的創造力の成長と情報発信の中心的な場と位置づけ、学修・教育、研究支援の機能を高めることを目標としている。具体的な図書等の資料整備、図書館の整備等の詳細は、次のとおりである。

##### ①図書等の資料整備

八王子国際キャンパスには、外国語学部、工学部、国際学部、工学研究科を設置している。八王子図書館では社会科学、技術、芸術、言語系を中心に図書等の資料を所蔵している。本学図書館で所蔵している図書等の資料は平成 31（2019）年 3 月現在で 650,063 冊（和書 474,382 冊、洋書 175,681 冊）である。

本学では以前より外国人留学生に対する日本語・日本事情等の教育に力を入れており、大学院言語教育研究科においても日本語教育学専攻を展開していることから、本学科における図書等の資料は十分に備えている。今後も本学科の教育課程及び研究分野に即した図書等の資料を計画的に購入し、整備していく。

本学科関連の学術雑誌は、「国際日本語学科 学術雑誌一覧」【資料 30】のとおり、和雑誌と洋雑誌を合わせて、327 タイトルを備えている。

なお、デジタルデータベース、電子ジャーナルについては、図書と同様にバランスのとれた構成を目指しており、さらに充実させていく。

また、学術情報の電子化に合わせたアプローチが可能になるよう利用環境を整備し、図書館ポータルシステムを経由して、学外からでも一部電子資料の利用を可能にするなどの拡充を図っている。

##### ②図書館の整備

平成 31（2019）年 3 月現在の座席数は、八王子図書館は 518 席となり、学生に対して

十分な座席数を確保している。個人単位での図書館利用はもとより、グループでの協働学修に適したスペース（アクティブ・ラーニングエリア）、及び20人程度まで利用できる個室型のグループ学習室を設置し、学修スタイルの多様な変化に応じた学修支援を展開している。また、館内固定PCに加えてノートPCの館内貸し出しを行い、図書館内での長時間滞在型利用者を意識した環境を整備している。

授業期間中、八王子図書館は、平日9時から20時まで、土曜は9時から17時まで開館し、定期試験前の時期は、1時間延長開館するなどの対応をとって学生への利便を図っている。

### ③他大学との協力

八王子図書館では、国立情報学研究所 NACSIS - ILL による相互協力に参加している他、東京西地区大学図書館協議会に加盟し、加盟図書館間での情報交換、講演会等に参加し、積極的な連携を図っている。

## 8. 入学者選抜概要

### (1) 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本学科では、養成する人材像や教育課程との関連を踏まえ、次のとおり「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」を定めて、これに基づき、入学者を選抜する。

#### 外国語学部 国際日本語学科

#### 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

国際日本語学科は、国際社会という枠組みの中で日本語と日本文化とを学問の対象としてとらえ、分析研究することにより、日本の言語・文化・社会に対する正確な理解と深い教養を身につけた学生を育て、国内外の様々な分野で活躍する有為の青年を送り出すことを目的とする。

このため、国際日本語学科に入学を志望する場合、国籍を問わず、まず日本語をはじめとする諸言語と言語文化、言語を使用する社会と人々への高い関心を有することが必要であり、さらに以下のいずれかの要件に該当することとする。

1. 広く世界に活躍の場を求め、日本語や日本文化に関わる仕事を目指している者
2. 国内外での異文化体験をきっかけとして、言語や文化について強い関心を有する者
3. 言語の構造、用法に関心を持ち、人々の言語活動を論理的に分析、理解してみたい者
4. 言語・文化の差異を理解したうえで、異文化間交流に積極的に参加、関与したい者

国際日本語学科での学修には、上記の関心、意欲、目標に加え、学修の基礎となる学力、つまり、大学入学までの12年間の教育課程において学修すべき内容を十分に理解し、修得していることが求められる。

なお、外国人にあつては、大学での学修に必要な基本的日本語運用能力のあることも求められる。

選抜試験は、人物ならびに目的意識とそれを実現しうる学修意欲と能力を審査するための

面接・口頭試問に重きをおく AO 入試・推薦試験と、学力の審査に重点をおく一般試験との二つのタイプを用意する。前者においては、それまでに学校の内外で得た知識や体験、資格も審査の対象とする。このような選抜試験を用意することで多様な背景、能力を有する学生を選抜できるようにする。また、選抜試験は日本人向け、留学生向けをそれぞれ別に設け、実施する。

## (2) 選抜方法

### ①入学者受入れの方針を踏まえた高校段階で修得しておくべき内容・水準

大学入学までの 12 年間の教育課程において学修すべき内容を十分に理解し、修得しておくこと、加えて、日本語以外の言語を母語とする者においては本学での学修に必要な基本的日本語運用能力があることを求める。

### ②入学者受入れの方針及び養成する人材像を踏まえた AO 入試ならびに推薦試験による選抜方法

入学試験要項で、「入学者受入れの方針」を広報し、以下に示す要領で AO 入試ならびに推薦試験による選抜を、一般学生、外国人留学生のそれぞれを対象として実施する。

#### ア. 一般学生

本学の建学の精神や教育目標に適合した学生を選抜する試験と位置づける AO 入試は、受験生の適性、学修意欲、目的意識などを重視し、①書類審査、②プレゼンテーション・面接の結果を総合的に判断して合否の判定を行う。

本学の附属高校、系列高校を対象とする、学校長推薦試験（拓殖大学第一高等学校、拓殖大学紅陵高等学校、志学館高等部）はそれぞれの学校長の推薦に基づき、書類審査後、受け入れを決定する。

上記以外の推薦依頼指定高校を対象とする、学校長推薦試験（指定校）は、①書類審査、②面接の結果を総合的に判断して行う。

#### イ. 外国人留学生

外国人留学生 AO 入試は、本学の建学の精神や教育目標に適合した学生を選抜する試験と位置づけ、受験生の適性、学修意欲、目的意識などを重視し、①書類審査と②口頭試問の結果を総合的に判断して合否の判定を行う。

外国人留学生推薦試験（指定校）は、推薦を依頼した日本語学校の学校長の推薦に基づき、①書類審査、②面接及び③事前検査（英語）の結果により受け入れを決定する。

拓殖大学別科日本語教育課程推薦試験は別科長の推薦に基づき、①書類審査と②事前検査（日本語）の結果により受け入れを決定する。

### ③一般入試の選抜方法

入学試験要項で「入学者受入れの方針」を広報し、以下に示す要領で、一般学生、外国

人留学生のそれぞれを対象として、選抜を実施する。

#### ア. 一般学生

一般入試（全国試験・統一試験、2月後期試験・統一試験、3月試験）は、国語と英語の学力を測定しその結果によって合否の判定を行う。

一般入試（2月試験 A・B・C 日程）は選択科目（「世界史 B」「日本史 B」「政治・経済」「数学（数学 I・数学 A）」の中から1科目選択）、国語、英語の学力を測定しその結果によって合否の判定を行う。

また、この他に、大学入試センター利用試験も行う。

#### イ. 外国人留学生

外国人留学生試験は、本学の建学の精神や教育目標に適合した学生を選抜する試験と位置づけ、受験生の適性、学修意欲、目的意識などを重視し、①書類審査、②日本語、③基礎英語、④面接の結果を総合的に判断して合否の判定を行う。

#### ④推薦入試の募集定員の割合

推薦入試のうち、学校長推薦は、①指定校、②本学の附属校・系列校からの推薦の二つの試験を行う。また外国人留学生においては、①日本語学校、②拓殖大学別科日本語教育課程からの推薦試験を行う。設置初年度の推薦入試の募集定員は、認可から募集までの期間を考慮し、若干名としている。次年度以降の推薦入試の募集定員においても、入学定員の五割を超えない範囲で設定する。

#### ⑤外国人留学生の受け入れ計画

入学定員の半数程度の外国人留学生を受け入れる。

外国人留学生専用の「選択日本語 I（留学生）」の授業科目群以外の科目はすべて、日本語母語話者と外国人留学生の混成クラスであることに加え、能動的学修を多く取り入れることで、日本語を母語とする学生と、日本語を母語としない学生、互いの背景にある異文化に共感しながら、啓発しあう機会を多く与え、それにより相互理解と学修した知識の定着を図る点が本学科の特色である。

このため、外国人留学生のための入試もいろいろな形式を用意し、個々の事情に適合するよう配慮する。

本学には、進学予備教育を目途とする「別科日本語教育課程」が設置されており、春秋季入学者定員総数 130 名の外国人留学生が本学及び他の教育機関への進学を希望して日本語学習に取り組んでいる。同課程から相当数の進学者が見込まれる。また、本学既存学部では外国人留学生推薦試験の指定校として協力を得ている日本語学校（平成 30（2018）年度現在：35 校）があり、同校との連携も引き続き模索していく予定である。さらに、本学では早くから海外との交流を推進し、海外大学・機関（現在、海外提携大学・機関は 22 ヶ国・地域の 51 大学・機関）との協力関係を構築して国際交流に取り組んできた。アジ

ア諸国（台湾、韓国、タイ、ベトナム、インドネシア）を中心に現地スタッフ等を配置し、本学の教育方針を広報しており、これにより多くの外国人留学生を受入れている。このように長年培ってきた豊富な経験と実績を活かし、入学定員の半数程度の外国人留学生を受け入れることとしている。

## ⑥入学試験制度

入学者受入れの方針及び前述の選抜方法を踏まえ、次のとおり本学科の「入学試験」を実施する。

### ○ 国際日本語学科 入学試験制度

#### ア. 一般学生

試験区分	試験時期	試験科目
AO入試	12月	・書類審査、プレゼンテーション・面接
学校長推薦試験（指定校）		・書類審査、面接
学校長推薦試験（附属校・系列校）		・書類審査
全国試験・統一試験	2月	・国語、英語
2月試験（A・B・C日程）		・選択科目 「世界史B」「日本史B」「政治・経済」「数学I・数学A」の中から1科目選択 ・国語、英語
2月後期試験・統一試験		・国語、英語
大学入試センター試験利用試験I期（3教科型）		・国語 ・外国語（英語又は中国語） ・地理歴史・公民・数学 「世界史B」「日本史B」「地理B」 「現代社会」「倫理」「政治・経済」 「倫理、政治・経済」「数学I・数学A」の中から1科目選択
3月試験	3月	・国語、英語

#### イ. 外国人留学生

試験区分	試験時期	試験科目
外国人留学生AO入試	2月	・書類審査、口頭試問
拓殖大学 別科 日本語教育課程推薦試験	12月	・書類審査、事前検査（日本語）
外国人留学生推薦試験（指定校）	10月、2月	・書類審査、面接、 事前検査（英語）
外国人留学生試験	10月、2月	・書類審査、日本語、基礎英語、 面接

### (3) 選抜体制

本学科の入学者選抜は、外国語学部に入試委員会を設置し「拓殖大学入試委員会規程」に基づき実施する。同委員会では合否判定の原案を作成し、この原案に基づき大学の重要な教学に関する事項を審議する大学教学会議及び外国語学部教授会の議を経て、学長が決定を行う。

### (4) 科目等履修生

本学の科目等履修生は、「拓殖大学科目等履修生規程」に基づき、社会人等に対し学修の機会を拡充し、その学修の成果に対して評価を与える制度で、自己啓発、業務上の知識修得、学位取得、資格取得等の目的を持つ社会人等を、「学部の教育に支障が生じない範囲」（同規程第5条）で若干名を受け入れる。

## 9. 管理運営

本学の理念・目的に即して各学部の自主性を尊重しつつ、学長を中心とした教学運営体制のもとで教学の方針が決定され、実行されている。学長は教学事項に関する全学的審議機関である「大学教学会議」に諮りつつ、またその前段階として各学部教授会の意見を集約のうえ、教学運営及び大学改革等に取り組む体制をとっている。その組織については、「拓殖大学教学組織規程」において学長以下教学の職制（第3条）について明示し、また同規程第4条において学長以下の職務内容（権限）について規定し、その内容を明確にしている。

また、同規程に基づき設置されている大学教学会議は、「大学教学会議規程」において教学に関する審議、調整事項を規定している。

各学部の固有の教育研究に関する事項については、毎月開催されるそれぞれの学部の教授会において審議している。教授会の審議事項については、「拓殖大学学則」第16条及び「拓殖大学教授会規程」第5条において詳しく定めている。教授会において審議、議決された事項は、学部長から学長に報告し、学長が決定を行う（第6条）こととしている。

各学部教授会は、当該学部の専任の教授及び准教授を持って構成し、その他の教育職員も出席させることができる（第3条）。審議事項のうち、教員の人事に関する事項、すなわち教員の任用、昇任等の審議については、専任の教授で構成する専任教授会により行うこととしている。

なお、学長は、「拓殖大学教学組織規程」において、「校務をつかさどり、所属教員を統督する」とあり、副学長は、「学長を補佐し、命を受けて、校務を統括する」としている。また、学部長は、「学長を補佐し、当該学部の校務を統括する」とし、研究科委員長は、「大学院長を補佐し、当該研究科の事務を統括する」としている。

学長はその「職制」により「理事」となり、副学長のうち1人が「教職員のうちから理事会で選任」された「理事」となっている。

## 10. 自己点検・評価

本学における自己点検・評価を含む「内部質保証の方針及び手続」は、次のとおり定め

ており、これに基づき実施する。

## ○拓殖大学内部質保証の方針及び手続

### 1. 方針

本学の理念・目的、教育目標及び各種方針の実現に向け、教育研究、社会貢献をはじめとする大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を踏まえて、改革改善に結びつけることで、恒常的に本学の質の保証及び向上を推進するとともに、適切な水準にあることを社会に公表する。

### 2. 組織体制及び権限と役割

#### (1) 内部質保証委員会

大学全体として内部質保証の責任を負う組織は、「内部質保証委員会」（以下「本委員会」という。）である。本委員会は、学部・研究科、その他の部局（以下「各部局」という。）における教育活動の一連のプロセスが適切に展開、運営されるように、教育研究等の活動を定期的に検証し、改善できるようにする。

そのため、本委員会は学長を中心とした全学的な教学マネジメントのもと、次の7つの職務を担い、①から⑦の順番で内部質保証の PDCA サイクルを機能させ、恒常的に本学の質の保証及び向上に努める。

さらに、本委員会は、このサイクルの進行過程で、各部局における自己点検・評価の活動や改革改善の取組状況に対して支援や助言を行う役割をも担う。

なお、改革改善の取組に当たっては、大学教学会議及び大学院委員会と連携し推進していく。

#### ○内部質保証委員会の職務

- ①教育課程の編成に関する全学的な方針をはじめとする大学評価の基本方針の策定
- ②自己点検・評価の実実施計画
- ③各部局の自己点検・評価結果の検証
- ④③を受けて全学的な自己点検・評価の実実施
- ⑤外部評価結果の検証
- ⑥自己点検・評価結果及び外部評価結果を踏まえた改革改善取組計画の策定
- ⑦改革改善取組計画の推進

#### (2) 各部局

各部局は、自己点検・評価の実実施計画に基づき、担当項目に対する自己点検・評価を実施し、その結果を本委員会に報告する。

さらに、各部局は、本委員会からの支援、助言を受けて、担当事項の改革改善取組計画に基づき、改革改善に取り組み、その進捗状況や結果を本委員会に報告する。

### (3) 外部評価委員会

自己点検・評価の客観性及び妥当性を高めるため、外部評価委員会を設置する。同委員会は、全学的な自己点検・評価結果を検証し、その結果を本委員会に報告する。

なお、本学の自己点検・評価項目は、公益財団法人大学基準協会の第3期認証評価における大学評価等を用い①理念・目的、②内部質保証、③教育研究組織、④教育課程・学習成果、⑤学生の受け入れ、⑥教員・教員組織、⑦学生支援、⑧教育研究等環境、⑨社会連携・社会貢献、⑩大学運営・財務、⑪国際交流の11の項目について点検・評価を行うこととする。

## 11. 情報の公表

### (1) 公開の方針等

本学における情報の公開は、「学校法人拓殖大学情報公開規程」に基づき、大学の公共性や社会的責任を明確にすることを目的としている。情報の管理責任者を定めて、情報公開における関係法令等の遵守を義務づけるとともに、情報公開全体の統括事務を総務部、ホームページ等については総合企画部広報室が行う体制を整えている。

### (2) 公開内容

学校教育法施行規則（第172条の2第1項）に規定される「全ての大学で公表すべき事項」を次のとおり、本学ホームページに記載し広く社会一般に公表する。さらに、「公表に努めるべき事項（同条第2項）」として「教育課程を通じて修得が期待される知識・能力体系（どのような教育課程に基づき、どのような知識能力を身につけるか）」についても、これを意識した広報（各種パンフレット、本学ホームページ等）となるように努めている。さらに、本学の教育改革の取組状況を積極的に公表している。

なお、これらの取組は、本学科設置後も恒常的に実施していくものである。

### 拓殖大学「情報公開」

○ホームページ・アドレス（該当のURL等）

- ・以下の寄附行為・学則、1～9及び財務状況の内容

<http://www.takushoku-u.ac.jp/summary/disclosure/>

（トップ>大学案内>大学概要>情報公開）

- ・以下の認証評価結果及び自己点検・評価報告書の内容

<http://www.takushoku-u.ac.jp/summary/evaluation.html>

（トップ>大学案内>大学概要>大学評価）

- ・寄附行為・学則

1.大学の教育研究上の目的に関すること

（大学設置基準（教育研究上の目的の公表等）第2条の2関連）

2.教育研究上の基本組織に関すること

- 3.教育組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
  - 4.入学者に関する受入れの方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業または修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
  - 5.授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること  
(大学設置基準(成績評価基準等の明示等)第25条の2関連)
  - 6.学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること  
(大学設置基準(成績評価基準等の明示等)第25条の2関連)
  - 7.校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
  - 8.授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
  - 9.大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
    - ・「三つのポリシー」(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)
    - ・財政状況
    - ・認証評価結果及び自己点検・評価報告書(学校教育法第109条関連)
- 拓殖大学 教育ルネサンス 改革改善への取組  
<https://nop.takushoku-u.ac.jp/report/>

## 12. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

### (1) FD ワークショップの開催

本学では、平成13(2001)年からFDワークショップを全学的に開催している。当初、各学部におけるFD取組状況を踏まえて、学部間の情報交換を行っていることからはじまったが、その後、大学として組織的に対応すべき具体的な問題点を主要なテーマとして、「学士力向上と学習時間について考える」「大学の退学者問題を考える」「アクティブ・ラーニングの方法と課題を考える」などを設定し、全学的な検討を行う場となっている。ここでテーマとなった問題点・課題については、次年度以降に改善へと実行に移されている。

平成30(2018)年度から、新たに「大学院FDワークショップ」を設け、全ての教員の教育能力・資質の改善向上を図ること、授業の内容及び方法の改善を図ること、教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図ることなどを目的として、学部、大学院別にFDワークショップを恒常的に開催している。こうした取組には、学部・大学院・研究所・別科の専任教員だけでなく兼任教員の講師や職員も参加している。また、私立大学連盟主催の「FD推進ワークショップ」にも教員が積極的に参加している。これらの取組は、本学科設置後も恒常的に実施していくものである。

#### ○FDワークショップのテーマ(過去5年間)

年 度	テ ー マ
平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・[第1回]拓殖大学における退学者問題の現状と対策 学内における特徴的な取組</li> <li>・[第2回]多人数講義におけるアクティブ・ラーニングの方法と課題</li> </ul>

	公的研究費の管理及び研究倫理に関する取組
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ [第 1 回] 拓殖大学教育ルネサンス 2020 と求められる教育力 AL 事例：ファシリテーションを活用した授業展開</li> <li>・ [第 2 回] 障がい者支援 –アクティブ・ラーニングと合理的配慮–</li> </ul>
平成 28 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ [第 1 回] 高校の現場を知る</li> <li>・ [第 2 回] 初年次教育の成果と課題</li> </ul>
平成 29 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会の変化と大学の課題</li> </ul>
平成 30 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ [大学院] 留学生の論文指導について考える</li> <li>・ [学 部] 大学教育の内部質保証について考える</li> </ul>

## (2) 厳格な成績評価

成績評価を客観的かつ厳格に行うことを目的として、GPA の基準を用いて成績不振学生に対して、修学指導の面接（退学勧告を含む）を行うこと、「学科目別の成績評価分布」の状況を把握し公表したうえで、教員間又は授業科目間の平準化を目指した「成績評価基準」（成績評価分布の目安）を定めること、さらに、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー（以下「三つのポリシー」という。）に基づく教育について、その成果を評価するための質的水準や具体的な実施方法を定めた「アセスメント・ポリシー」を策定することなどの取組を行っている。これらの取組は、本学科設置後も恒常的に実施していくものである。

## (3) 授業改善のための学生アンケート

「授業改善のための学生アンケート」は、教員の授業の改善に役立てること、ならびに本学の教育の質向上を図ることを目的に毎年実施し、兼任教員を含め全員参加としている。

実施結果は、報告書としてまとめ、科目別集計と全体集計の二部構成としている。科目別集計は学内イントラネットを通じ公開し、全体集計は本学ホームページに掲載し公表している。なお、同アンケート結果に基づき、評価が低い教員に対しては、次年度における授業改善を促す制度を設ける。これらの取組は、本学科設置後も恒常的に実施していくものである。

## (4) FD 活動の実施体制

教育成果を検証する責任主体は、学部横断的な FD 委員会（委員長：副学長、学務部長、各学部教員等で構成）等が有している。

実施内容等については、FD 委員会等において企画立案の作業、全学的な調整を図ったうえで、各学部の教務委員会、教授会等を通じて教員間の共通理解を深めながら実施する体制となっている。平成 29（2017）年度以降では、三つのポリシーに基づき、学生に身につけさせる知識・能力と授業科目との間の対応関係を可視化し、体系的な履修を促す「カリキュラム・マップ」「科目ナンバリング」及び「カリキュラム・ツリー」を作成している。また、単位制度の実質化に向けた履修要項、講義要項（シラバス）の記載内容の改善や講義要項（シラバス）のチェック体制を確立している。さらに、「学修行動調査」などを実施に移してきた。

本学においては、こうした取組を推進することによって、各学部における教育内容・方法の改善、及び教員意識の向上を図っている。「授業改善のための学生アンケート」を軸に教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつける仕組みを確立し有効に機能している。これらの取組は、本学科設置後も恒常的に実施していくものである。

### (5) SD の取組

本学では、SD を効果的かつ効率的に実施する観点から、次のとおり「SD 実施方針」を定めているとともに「SD 取組計画」を全学的に策定している。

拓殖大学 SD 実施方針	
<p>本学における建学の精神ならびに設置の目的及び使命を理解し、職員が一体となって教育研究活動の適切かつ効果的な運営を実現するため、大学執行部を含む全ての教職員に業務上必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修の機会を設けること、その他必要な取組を行うこととする。</p>	

### ○拓殖大学 SD 取組計画の概要

区 分	主な目的	対 象 者	所管部署	頻 度
1. 所属部署別研修	業務改善	所属教職員	当該部署	随時実施
2. SD 研修会				
(1) 教職協働ワークショップ	資質向上	教 職 員	学 務 部	年1回以上
(2) 管理職研修	資質向上	職員（管理職）	人 事 課	年1回以上
(3) 一般職研修	資質向上	職員（一般職）	人 事 課	年1回以上
3. 目的別研修				
(1) 新任職員研修	基礎知識	新任職員	人 事 課	年1回以上
(2) 外部関係団体等研修	能力開発	職 員	当該部署	随時実施
(3) 自己啓発研修	能力開発	職 員	人 事 課	随時実施
(4) オレンジプロジェクト (企画力研修)	資質向上	学生、職員	広 報 室	随時実施

本学の SD は、①各部署における業務改善などを目的とする「所属部署別研修」、②教職員等の能力及び資質向上を目的とした「SD 研修会」、③基礎知識、能力開発などを目的とした「目的別研修」の大きく三つの研修で構成しており、組織・個々人の事情に応じた多種多様な制度を設ける。

SD 研修会は、さらに教職協働ワークショップ、管理職研修、一般職研修に分類している。教職協働ワークショップでは、学長等の大学執行部を含む全ての教職員を対象に、教職員における相互理解や大学の目標・方針の共有化を図ることで、教職協働により大学全体としての総合力を発揮し、教育研究活動の適切かつ効果的な運用を推進することを目的

として実施している。管理職研修は、管理職の役割であるマネジメント能力の向上を目的として実施している。一般職研修については、18歳人口減少に伴う志願者減を念頭に置いた、現状分析能力、課題発見解決能力及び職員各個人に求められる能力等、職員のスキルアップを目的として行っている。また、本学では、外部の関係団体等が実施する研修にも積極的に参加している。これらの取組は、本学科設置後も恒常的に実施していくものである。

### 13. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

#### (1) 教育課程内の取組

教養教育科目のE系列(学際)の区分科目に「職業と人生」(2単位)を配置して、初年次の学生に自分の人生について考えさせたり、また大学卒業後の将来像を考えさせたりしている。この科目は、変化する社会情勢について正しい知識を身につけ、その中でどのように社会に関わっていくかを考えることを通して、学生に社会的・職業的自立を促すことを目的としている。

さらに、自由科目に「キャリア支援」の科目群をおき、1年次を対象とした「キャリアガイダンス」(2単位)を配当し、キャリアデザインの基礎を学ばせている。同科目は、大学で「学ぶ」として社会で「働く」としての意義と関係性を理解すること、個人の学修とグループワークを通して、社会で必要な力を身につけることの2点を授業の目標としている。その他の「キャリア支援」の科目として、就職活動時の筆記試験の問題演習や就職試験に関する最新の傾向を知ること为目标とした「職業能力基礎(SPI)言語」(2単位)と「職業能力基礎(SPI)非言語」(2単位)がある。

その他、自由科目の中に「ビジネス」の科目群において、観光関連事業に関わる職業に従事するうえで必要な基本知識を学ぶ「観光ビジネス論Ⅰ」(2単位)、観光関連事業におけるビジネスプランを学ぶ「観光ビジネス論Ⅱ」(2単位)の2科目を開講する。

#### (2) 教育課程外の取組

進路支援に関しては、在学生の約8割を占める民間企業・公務員等への就職希望者に対して、1年次から各学年を対象とした就職ガイダンス、資格取得講座、実践的な「就職支援プログラム」【資料31「平成30年度 就職支援プログラム一覧」】など年間を通じて約70項目のプログラムを実施し、体系化した就職支援活動を推進している。

本学では、24ヵ国、約1,000人の外国人留学生が学んでおり、平成30(2018)年3月には213人の学生が卒業し、そのうちの92人が日本の企業に就職している。外国人留学生を対象とした就職支援プログラムは、3年次の5月に外国人留学生が日本で就職をするために必要な情報を伝える「留学生対象就職ガイダンス」を、10月に日本企業の研究方法や就職に必要なマナーを学ぶ「留学生キャリアアカデミー」を実施している。さらに、4年次では、本学外国人留学生を積極的に採用したい優良企業による「留学生対象!学内企業説明会」を開催している。このように、外国人留学生に対する就職支援についても強化充実を図っている。これらの取組は、本学科設置後も恒常的に実施していくものである。

#### (3) 適切な体制の整備

進路支援については、本学の学生の就職活動及びキャリア形成に関する指導・支援について、総合的な計画を立案し推進することを目的として「就職キャリアセンター」【資料 32 「拓殖大学就職キャリアセンター規程」】を設置している。さらに、キャリア教育及び就職支援活動を組織的に推進するため、教職員の協働による総合的な支援体制を構築し、学生により高い就業力を身につけさせることを目的として、「就職キャリアセンター会議」を設置している。センター会議の関連機関として「各学部就職委員会」「インターンシップ実行委員会」「社会人基礎力育成会議」を設置し、初年次からのキャリア教育を推進するための体制を構築している。特に各学部就職委員会を中心に学部ごとのキャリア支援体制の整備を推進し、特徴あるプログラムの実施に向け力を注いでいる。このように、組織的に進路支援を進め、学生個人に対して教職員が情報を共有し相互連携することによって進路支援活動を結実している。

就職キャリアセンターの就職部就職課及び八王子就職課には、就職アドバイザー資格を有した職員や企業の人事・採用経験者等を含めた就職担当スタッフ（事務局職員）を配置している。これらの取組は、本学科設置後も恒常的に実施していくものである。

## 設置の趣旨等を記載した書類 添付資料

- 資料 1 拓殖大学教育ルネサンス 2020 グランドデザイン  
(出典：拓殖大学 TACT2015 3 ページ)
- 資料 2 日本留学アワーズ 東日本地区大学 (文科系) 部門 表彰状
- 資料 3 日本留学 AWARDS2018 入賞校推薦理由
- 資料 4 2015 年度海外日本語教育機関調査 (2017 年 3 月 独立行政法人国際交流基金)
- 資料 5 平成 29 年末現在における在留外国人数について (確定値) (平成 30 年 3 月 27 日  
法務省入国管理局)
- 資料 6 外国人の受入れ環境の整備に関する業務の基本方針について (平成 30 年 7 月 24  
日閣議決定)  
(出典：内閣官房内閣広報室)
- 資料 7 外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策 (平成 30 年 12 月 25 日 外国人材  
の受入れ・共生に関する関係閣僚会議)  
(出典：内閣官房内閣広報室)
- 資料 8 クールジャパン戦略について (平成 30 年 10 月 5 日 内閣府知的財産戦略推進事  
務局)
- 資料 9 これからの大学教育等の在り方について (第三次提言) (平成 25 年 5 月 28 日教  
育再生実行会議)
- 資料 10 (株) 海外需要開拓支援機構 (クールジャパン機構)
- 資料 11 外国人留学生 / 高度外国人材の採用に関する企業調査 (2017 年 12 月調査 株式  
会社 ディスコ キャリタスリサーチ)
- 資料 12 これからの時代に求められる資質・能力と、それを培う教育、教師の在り方につ  
いて (第七次提言) (平成 27 年 5 月 14 日教育再生実行会議)
- 資料 13 2015 年度 新卒採用に関するアンケート調査結果の概要 (2016 年 2 月 16 日一般社  
団法人日本経済団体連合会)
- 資料 14 これからの企業・社会が求める人材像と大学への期待～個人の資質能力を高め、  
組織を活かした競争力の向上～ (2015 年 4 月 2 日 公益社団法人経済同友会)
- 資料 15 外国人を受け入れる地域社会の意識啓発に関する提言 (2010 年 2 月 20 日 外務  
省、神奈川県、国際移住機関 (IOM) 主催「外国人の受け入れと社会統合のための  
国際ワークショップ」テーマ 1 分科会)
- 資料 16 八王子市多文化共生推進プラン (改定版) (平成 30 年 3 月八王子市)
- 資料 17 平成 28 年度多文化共生マネージャー養成コース (全国市町村国際文化研修所  
(JIAM) 教務部)
- 資料 18 多文化ソーシャルワーク講座 (公益財団法人かながわ国際交流財団)
- 資料 19 日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査 (平成 28 年度) の結果に  
ついて (文部科学省)
- 資料 20 国際日本語学科カリキュラム・マップ

- 資料 21 定年規程  
(出典：学校法人拓殖大学規程集)
- 資料 22 教育職員の再雇用制度に関する内規  
(出典：学校法人拓殖大学規程集)
- 資料 23 ①－1国内外で日本語に関わる教育・研究において求められる能力を修得するための履修モデル「日本人学生の場合」
- 資料 24 ①－2国内外で日本語に関わる教育・研究において求められる能力を修得するための履修モデル「外国人留学生の場合」
- 資料 25 ②言語運用能力とともに異文化への感応力を高め、通訳、翻訳などに求められる能力を修得するための履修モデル「日本人学生の場合」
- 資料 26 ③－1 国際社会と異文化への造詣を深め、観光をはじめ、国際的な対応に必要なサービス業において求められる能力を修得するための履修モデル「日本人学生の場合」
- 資料 27 ③－2 国際社会と異文化への造詣を深め、観光をはじめ、国際的な対応に必要なサービス業において求められる能力を修得するための履修モデル「外国人留学生の場合」
- 資料 28 ④表現手法から文学にいたる日本語文化に親しみ、ことばを扱う専門職（マスコミ関係、編集など）に求められる能力を修得するための履修モデル「日本人学生の場合」
- 資料 29 国際日本語学科 時間割
- 資料 30 国際日本語学科 学術雑誌一覧
- 資料 31 平成 30 年度就職支援プログラム一覧
- 資料 32 拓殖大学就職キャリアセンター規程  
(出典：学校法人拓殖大学規程集)

# 学生の確保の見通し等を記載した書類

平成 31 (2019) 年 4 月 22 日

学校法人 拓 殖 大 学

## 目 次

I	学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	1
1.	学生の確保の見通し	1
(1)	定員充足の見込み	1
(2)	定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	2
①	18歳人口の推移予測	2
②	首都圏の大学等進学状況	2
③	首都圏における高等学校（全日制）及び中学校の在籍者数	2
④	日本語系統他大学の志願及び定員充足状況	3
⑤	本学の入学志願者実績	4
⑥	高校生等へのアンケート調査	5
(3)	学生納付金の設定の考え方	6
2.	学生確保に向けた具体的な取組状況	6
(1)	具体的な取組	7
(2)	認可前の具体的な取組（予定も含む）	10
(3)	認可後の具体的な取組（予定も含む）	10
3.	定員超過率が0.7倍未満の学科における定員未充足の原因分析、定員設定の合理性及び学生確保に向けた具体的な取組状況	10
(1)	定員未充足の原因分析及び設定の合理性について	10
(2)	学生確保に向けた取組状況	11
II	人材需要の動向等社会の要請	13
1.	人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	13
(1)	教育研究上の目的	13
①	外国語学部	13
②	国際日本語学科	13
(2)	卒業後の進路	13
①	国際日本語学科	13
2.	上記1が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	13
(1)	社会及び地域における人材需要の需給見通し及び関係団体等からの要望等	13
(2)	本学の就職等実績	19
①	過去5年間の求人企業数の状況	19
②	過去5年間の就職者数の状況	20
③	企業等に対する採用意向調査	20

## I 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

### 1. 学生の確保の見通し

#### (1) 定員充足の見込み

外国語学部国際日本語学科の入学定員については、グローバルな知識基盤の中に求められる社会的、地域的な需要を踏まえ、本学の建学の精神に基づいた個性豊かな教育研究活動を拡充・展開していく必要があるとの考えのもとに設定した。入学定員の設定にあたっては、本学の教育研究活動を継続的・安定的に支える財政基盤を確立することはもとより、教育研究活動のさらなる向上を目指すことを前提としている。

その規模については、次の①から⑤に記した客観性が担保される公的機関、企業（第三者調査）等による学校基本調査、志願動向調査、類似する学部・学科を設置する他大学の状況（全国的な状況、近隣の状況）などの各種統計調査の結果を重層的に分析・検討した。なお、その際、本学八王子国際キャンパスにおける学生の出身都道府県別構成の6割以上【資料1「拓殖大学 八王子国際キャンパス 首都圏出身学生数」】が埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県（以下、「首都圏」という。）であることから、この地域における学生数の動向等を本件の調査対象とした。

- ① 18歳人口の推移予測
- ② 首都圏の大学等進学状況
- ③ 首都圏における高等学校（全日制）及び中学校の在籍者数
- ④ 日本語系統他大学の志願及び定員充足状況
- ⑤ 本学の入学志願者実績

さらに、以上の調査・データ収集の他に、次の二つの調査を独自に実施した（外部委託）。

- ⑥ 入学者を確実に確保できることを確認するための「高校生等へのアンケート調査」
- ⑦ 社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであることを確認するための「企業等に対する採用意向調査」

これからの各種データや調査から導き出された結論はそれぞれ以下のとおりである。

- ① 平成42（2030）年度における18歳人口の推移予測によると首都圏と全国で比較した場合、首都圏での減少は緩やかなものとなっている
- ② 首都圏の大学等進学状況は過去10年間安定的な進学率を維持している
- ③ 首都圏における高等学校（全日制）及び中学校の生徒数は平成32（2020）年度から平成35（2023）年度まで27万人以上を維持し減少しない
- ④ 日本語系統他大学の志願者数は上昇傾向にあり、入学定員を大きく上回っていることがうかがえる
- ⑤ 本学における入学志願者の実績は比較的高位で安定した数字を確保しており、その数は入学定員を大きく上回る水準を維持している
- ⑥ 高校生等へのアンケート調査では予定している入学定員数を上回る入学意向者を十分確保できるものと見込まれる
- ⑦ 企業等に対する採用意向調査では国際日本語学科で学んだ人材への需要は高いといえる

本学においては、以上のようなデータや調査の結果、さらには、関連する学科等の教員の配置計画や授業規模、施設・設備の使用状況等を総合的に勘案したうえで、長期的かつ安定的に入学定員を充足するとともに学科等の運営を健全に維持できると判断し、国際日本語学科 50 人の入学定員を設定した。

なお、この調査分析結果の詳細は、以下のとおりである。

## (2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

### ① 18 歳人口の推移予測

文部科学省の「学校基本調査 18 歳人口の推移予測」は、平成 30 (2018) 年度の 18 歳人口を 100 とした指数を用いた場合【資料 2「首都圏 18 歳人口の指数推移」】、平成 42 (2030) 年度の全国の 18 歳人口指数 89 となる。これに対して、首都圏の 18 歳人口指数は、東京都 97、神奈川県 94、千葉県 92、埼玉県 91 となり、その減少は全国と比較して緩やかなものである。従って、本学八王子国際キャンパスの入学者の主な出身都道府県からは、長期的に入学定員を確保できるものと見込まれる。

### ② 首都圏の大学等進学状況

平成 20 (2008) 年度から平成 29 (2017) 年度の 10 年間の首都圏における高等学校等卒業者の大学等進学状況は、下表のとおり 60 % から 61 % と安定的な進学率を維持している。

従って、首都圏の大学等進学状況等に鑑みれば中長期的に受験者数及び入学定員の確保ができるものと見込まれる。

#### ○ 首都圏の高等学校等卒業者の大学等進学状況

区 分	卒業生数	進学者数	進 学 率
1 平成 20 年度	254,312 人	153,985 人	60.5 %
2 平成 21 年度	259,184 人	157,967 人	60.9 %
3 平成 22 年度	257,874 人	156,522 人	60.7 %
4 平成 23 年度	261,571 人	158,754 人	60.7 %
5 平成 24 年度	273,135 人	164,212 人	60.1 %
6 平成 25 年度	264,295 人	160,471 人	60.7 %
7 平成 26 年度	271,383 人	166,961 人	61.5 %
8 平成 27 年度	271,827 人	166,899 人	61.4 %
9 平成 28 年度	275,318 人	168,613 人	61.2 %
10 平成 29 年度	274,140 人	166,222 人	60.6 %

※文部科学省「学校基本調査」より作成

※大学等には、短期大学を含む

※高等学校等卒業者には、中等教育学校後期課程及び過年度の卒業者を含む

### ③ 首都圏における高等学校（全日制）及び中学校の在籍者数

文部科学省「平成 30 年度学校基本調査」によれば、平成 32 (2020) 年度から平成 35 (2023) 年度までの首都圏における高等学校（全日制）及び中学校の生徒数は、下表のとおり、27

万人以上を維持し減少しないとされている。

従って、学科定員増の完成年度までの4年間を通じて、首都圏の大学受験対象者は、短中期的に入学定員の確保の見通しがあるものと見込まれる。

○受験対象者となる首都圏の高等学校・中学校の生徒数

受験対象者	学校種類・学年	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	合計
平成32年度	高等学校 2年生	57,263人	49,213人	100,252人	66,396人	273,124人
平成33年度	〃 1年生	57,344人	49,965人	101,993人	67,373人	276,675人
平成34年度	中学校 3年生	63,492人	53,770人	102,071人	77,075人	296,408人
平成35年度	〃 2年生	62,415人	53,149人	100,208人	75,248人	291,020人

※文部科学省「平成30年度学校基本調査」より作成

※高等学校の生徒数には、定時制高等学校及び中等教育学校の生徒数を含まない

④日本語系統他大学の志願及び定員充足状況

全国及び首都圏の日本語系統の学科を設置する私立大学における過去3年間の募集定員は、全国及び首都圏ともに経年で増加した。志願者については経年での増加がさらに顕著で平成30(2018)年度の志願者数の対前年指数は、全国で113、首都圏で112となった【資料3「語学／日本語 学問系統別受験・志願状況(全国・首都圏)」】。

また、日本私立学校振興・共済事業団調査による各入試年度「私立大学・短期大学等入学志願動向」の外国語学部(英語、日本語、その他の地域言語の学科等を含む)の過去5年間の志願者数は、下表のとおり、年々増加し、平成30(2018)年度に9万人に達している。平成26(2014)年度の志願者数と比較すると約1万2千人以上の増加となる。入学定員充足率も100%を上回っており、経年で安定している。

○私立大学 外国語学部の志願者動向

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
学部数	28学部	28学部	28学部	28学部	28学部
入学定員数	9,886人	9,866人	9,906人	9,991人	9,838人
志願者数	78,682人	83,488人	82,533人	82,802人	91,261人
入学者数	10,615人	10,552人	10,611人	10,808人	10,511人
定員充足率	107.4%	107.0%	107.1%	108.2%	106.8%

※日本私立学校振興・共済事業団調査 各入試年度「私立大学・短期大学等入学志願者動向」より作成

同系統学科を設置する近隣私立大学における過去5年間の志願者数(一般入試)は、下表のとおり上昇傾向にあり入学定員を大きく上回っている。定員充足率は、平成30(2018)年度を除き100%を超えている。なお、平成30(2018)年度に定員未充足となった三つの大学については、いずれも入学定員を大きく上回る志願者数(文教大学の志願者倍率:7.55倍、武蔵野大学:6.61倍、明治大学の志願者倍率:16.41倍)を得ており、定員を十

分に埋めることができる潜在的な能力があるといえる。

なお、当該の他大学を比較対象としてあげた理由は、本学の近隣である（首都圏）に所在していること、同系統の学科を設置していること、教育課程及び養成する人材像が類似することを条件としている。

○日本語系統学科を設置する近隣私立大学の過去5年間志願（一般入試）・定員充足状況

※出典：株式会社進研アド

### ⑤本学の入学志願者実績

国際日本語学科の基礎となる既設の外国語学部（英米語学科、中国語学科及びスペイン語学科）全体の志願者数は、下表のとおり、過去5年間1,200人から1,500人程度で推移し比較的高位で安定した数字を確保しており、その数は入学定員を大きく上回る水準にある。外国語学部では、言語運用能力とコミュニケーション能力を活かして世界で活躍する人材の育成に取り組んでいる。新設予定の国際日本語学科では、そのノウハウを活かし、海外へ向けて情報発信する力や国際感覚を養うとともに、海外の人々がもつ日本への知的欲求に十分に答えられるだけの「高い日本語能力」と「日本文化への深い理解」を養成するという充実したカリキュラムを用意しており、その実績は継承できるものと考えている。

○外国語学部 志願状況等

区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
入学定員数	200人	200人	200人	200人	200人
志願者数	1,405人	1,313人	1,231人	1,499人	1,558人
志願者倍率	7.0倍	6.6倍	6.2倍	7.5倍	7.8倍
受験者数	1,335人	1,245人	1,198人	1,460人	1,506人
合格者数	589人	569人	559人	397人	432人
入学者数	221人	213人	235人	211人	208人
定員充足率	110.5%	106.5%	117.5%	105.5%	104.0%

※平成31（2019）年度の数値は、平成31（2019）年4月20日現在

### ⑥高校生等へのアンケート調査

国際日本語学科の設置計画の策定にあたっては、前述のとおり、①18歳人口の推移予測、②首都圏の大学等進学状況、③首都圏における高等学校（全日制）及び中学校の在籍者数、④日本語系統他大学の志願及び定員充足状況、⑤本学の入学志願者実績などを踏まえて計画していることから十分に定員を充足する見込みであるが、この判断をさらに確実なものとするため、本学への進学実績がある高等学校、日本語学校及び本学別科日本語教育課程の生徒（平成32（2020）年度受験対象者）を対象に、「定員を変更する学科の受験対象者に対するニーズ調査」を学外の調査機関である株式会社進研アドに委託して実施した。なお、調査方法は、同調査機関から、高等学校等に本学科の概要をまとめたリーフレット及び調査票を配付し、高等学校等で生徒等に直接回答を得る方法で実施した。回答の調査票も高等学校等から同調査機関に直送し回収している。

その結果は、次のとおりとなっている。

有効回答者 2,139 人中（高校生 1,813 人、日本語学校生 274 人、本学別科日本語教育課程生 52 人）、本学科の学びの特色である「すぐれた日本語の使い手（コミュニケーター）を目指す」に対して「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した者の合計（以下、本段落内では『魅力を感じる』と回答した者という。）が 66.4 %（高校生 1,139 人 62.8 %、日本語学校生 233 人 85.0 %、本学別科日本語教育課程生 49 人 94.2 %）、「異文化間コミュニケーション能力を身につける」に対して「魅力を感じる」と回答した者が 69.5 %（高校生 1,202 人 66.3 %、日本語学校生 240 人 87.6 %、本学別科日本語教育課程生 44 人 84.6 %）、「外国語（英語、中国語、スペイン語）の力も身につく」に対して「魅力を感じる」と回答した者が 71.2 %（高校生 1,256 人 69.3 %、日本語学校生 233 人 85.0 %、本学別科日本語教育課程生 33 人 63.5 %）との結果となり、本学科における教育等に興味と関心を示す者が多い。

さらに、本学科を「受験したいと思う」と回答した 372 人中、89.0 %にあたる 331 人（高校生 224 人 88.5 %、日本語学校生 92 人 92.0 %、本学別科日本語教育課程生 15 人 78.9 %）の者が本学科に「入学したいと思う」と回答している。これは、入学定員 50 人を大きく超えている。従って、予定している入学定員数を上回る入学意向者を十分確保できるものと見込まれる【資料 4「拓殖大学『外国語学部国際日本語学科』（仮称）設置に関するアンケート調査（高校生・日本語学校生・別科生対象調査）結果報告書」及び新学科設置告知用リーフレット】。

### (3) 学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、国際日本語学科の教育研究目的を達成するために必要な人件費や教育研究及び管理運営に係る経費等を維持しつつ、収支バランスや類似する学部・学科を設置する他大学との競争力等を考慮し設定する。また、下表のとおり近隣（首都圏）に所在する他大学の同系列学部学科 6 大学を対象に、初年度納付金を基に比較検証した結果、それと同等の納付金額となっていることから、競争性を有しており適切な範囲のものと考えている。

なお、当該の他大学を比較対象としてあげた理由は、本学の近隣（首都圏）に所在していること、同系統の学科を設置していること、教育課程及び養成する人材像が類似することを条件としている。

#### ○日本語系統大学の初年度納付金

大学名	学部	学科等	初年度納付金
明治大学	国際日本学部	国際日本学科	出典:明治大学 HP
文教大学	文学部	日本語日本文学科	出典:文教大学 HP
麗澤大学	外国語学部	外国語学科（日本語・国際コミュニケーション専攻等）	出典:麗澤大学 HP
拓殖大学	外国語学部	国際日本語学科	1,365,900
専修大学	文学部	日本語学科	出典:専修大学 HP
大東文化大学	外国語学部	日本語学科	出典:大東文化大学 HP

## 2. 学生確保に向けた具体的な取組状況

国際日本語学科の設置を含め、本学の学生確保に向けた具体的な取組状況としては、「大学案内」「学部案内」を作成し、広く受験生、保護者や全国の高等学校に配付する。また本学ホームページや各種メディアを通して情報発信するとともに、過去に入学者の受入れ実績のある高等学校を中心とする訪問活動などによる積極的な情報の提供を行う。

さらに、オープンキャンパスの開催、業者主催の進学相談会等への参加をはじめとして、本学独自の入試説明会など多様な機会を利用し広報活動を展開し、各学部学科における「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」及び「入学受入れの方針」をはじめとする様々な教育情報について、首都圏を中心とする高校生や保護者、高等学校教諭に対して広く周知を図る。

具体的には、大学全体の年間学生募集の広報計画を策定するとともに学部に応じた学生募集活動を次のとおり推進し、学生確保に努める。

### (1) 具体的な取組

#### ① 広報媒体

区分	内容	広報時期・方法等	対象学部等
紙媒体	大学案内	平成 31 (2019) 年 5 月より平成 32 (2020) 年度入学受入れ向け大学案内を配付	大学全体
	学部パンフレット	希望者に随時配付	各学部
	進学情報誌	平成 31 (2019) 年 1 月から 3 月に発行される平成 32 (2020) 年度入学受入れ向けの各業者作成の進学情報誌に大学基本情報、新学科新設や定員増について掲載	大学全体
	国際日本語学科紹介リーフレット	平成 31 (2019) 年 7 月に平成 32 (2020) 年度入学希望者、本学への入学実績がある高等学校、日本語学校に郵送又は配付	国際日本語学科
	オープンキャンパス・チラシ	資料請求者や高等学校へ訪問し配付	大学全体
電子媒体	ホームページ	新学科設置・定員変更の専用サイトを開設し、随時最新情報を更新	国際日本語学科 英米語学科 国際学科
	外部進学情報サイト	リクナビ進学、マナビジョン、マイナビ進学等の進学情報サイトへ情報を掲載	大学全体

#### ② オープンキャンパス

オープンキャンパスは、キャンパスごとに開催する（平成 28 (2016) 年度までは、両キャンパス同時開催）。内容は、大学説明、体験授業、入試相談等のイベントを行い、本学を理解しても

らえるよう努める。なお、国際日本語学科の教育目標、教育内容及び教育課程等について、きめ細かな相談対応ができるよう、本学科専用の相談ブース（窓口）を設ける。6月開催のオープンキャンパスでは学科設置申請中であることを明確にする。

○オープンキャンパス開催日程

日 程	キャンパス	内 容	対象学部
平成31年6月16日（日）	八王子国際	大学説明、体験授業、 入試相談・キャンパスツアー	大学全体
平成31年8月3日（土）	文 京	大学説明、体験授業、 入試相談・キャンパスツアー	大学全体
平成31年8月4日（日）	文 京	大学説明、体験授業、 入試相談・キャンパスツアー	大学全体
平成31年8月24日（土）	八王子国際	大学説明、体験授業、 入試相談・キャンパスツアー	大学全体
平成31年8月25日（日）	八王子国際	大学説明、体験授業、 入試相談・キャンパスツアー	大学全体
平成32年3月21日（土）	文 京	大学説明、体験授業、 入試相談・キャンパスツアー	大学全体

なお、過去5年間の来場者数は下表のとおり、平成29（2017）年度から両キャンパス同時開催を取り止め、一方のキャンパスで開催する形式に変更したため、人数は減少したものの、平成30（2018）年度に7,644人と増加している。

○オープンキャンパス来場者数

キャンパス	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
文 京	4,394人	5,225人	5,082人	3,762人	3,913人
八王子国際	3,374人	3,597人	3,148人	2,581人	3,731人
計	7,768人	8,822人	8,230人	6,343人	7,644人

このオープンキャンパス来場者に対するアンケート調査では、下表のとおり、「今日のオープンキャンパスでは、いかがでしたか？」の問いに対して、「期待以上だった」「参考になった」と回答した者をあわせると、過去5年間、92.2%以上と高い評価を得ている。

○オープンキャンパス来場者アンケート結果（満足度調査）

設問／年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
①期待以上だった	459人	587人	254人	270人	260人
	40.7%	45.4%	42.3%	42.3%	37.8%
②参考になった	614人	639人	322人	340人	374人
	54.4%	49.4%	53.7%	53.3%	54.4%
③少し参考にな	33人	35人	12人	15人	33人

った	2.9 %	2.7 %	2.0 %	2.4 %	4.8 %
④参考にならな かった	1 人 0.1 %	3 人 0.2 %	0 人 0.0 %	0 人 0.0 %	5 人 0.7 %
⑤無回答	21 人 1.9 %	29 人 2.2 %	12 人 2.0 %	13 人 2.0 %	15 人 2.2 %
回 答 者 数	1,128 人	1,293 人	600 人	638 人	687 人

※上段：回答者数、下段：回答比率

※①+②の比率 平成 26 年度：95.1 %、平成 27 年度：94.8 %、平成 28 年度：96.0 %、  
平成 29 年度：95.6 %、平成 30 年度：92.2 %

### ③高校及び日本語学校訪問

平成 31（2019）年 4 月より首都圏及び近郊の高等学校や日本語学校を対象に、学内外の進学アドバイザーや入学課員が訪問を開始する。訪問時において平成 31（2019）年度入試結果、本学の教育目標、教育課程、卒業後の主な進路及び平成 32（2020）年度入試制度等について説明を行い、学生確保に努める。

### ④入試説明会

入試説明会は、高校教員を対象として毎年 5 月に開催している。平成 31（2019）年度は、下表のとおり本学文京キャンパスの他に、都心や八王子市中心部で交通の便が良い外部会場を使用し開催する。いずれの会場も、本学の教育目標と入試に関する説明を行うとともに、個別相談の時間を設け、よりきめ細かな対応ができるような体制を整える。また、5 月 10 日には本学文京キャンパスにおいて日本語教育機関対象の説明会を実施する。例年 40 校から 50 校の教員の参加があり、入試・教育について説明を行い外国人留学生の確保に努める。

#### ○入試説明会開催日程

日 程	場 所	対 象	対象学部
平成 31 年 5 月 14 日（火）	文京キャンパス	高 校 教 員	大学全体
平成 31 年 5 月 16 日（木）	京王プラザホテル八王子	高 校 教 員	大学全体
平成 31 年 5 月 21 日（火）	東京国際フォーラム	高 校 教 員	大学全体
平成 31 年 5 月 10 日（金）	文京キャンパス	日本語教育機関	大学全体

なお、入試説明会の参加者数は下表のとおり、例年 200 から 300 人程度の参加者数を維持している。

#### ○入試説明会参加者数

対 象	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
高 校 教 員	289 人	286 人	122 人	171 人	213 人
日本語学校教員	32 人	40 人	53 人	51 人	76 人
計	321 人	326 人	175 人	222 人	289 人

### ⑤業者主催進学相談会

全国で開催される業者主催の進学相談会に参加し、多くの高校生に本学における教育の特色や魅力について理解を得ることで、学生確保に努める。

例年、北海道から沖縄まで日本各地で開催される進学相談会に 100 ヶ所以上の会場に足を運んでおり、延べ 1,500 人以上の相談を受けている。

### ⑥校内ガイダンス

業者主催（または高校主催）による高校内で実施される校内ガイダンスへ参加し、大学の説明を行う。例年、150 校を超える高校で実施している。

以上の活動の成果として、本学の既設学部は、過去 5 年にわたって入学志願者の実績は比較的高位で安定した数字を確保しており、その数は入学定員を大きく上回る水準を維持している。これまでの取組が国際日本語学科の学生確保につながるものと考えている。

#### (2) 認可前の具体的な取組（予定も含む）

前述の年間計画の学生募集広報を組み込んで実施するが、認可申請中で変更があり得ること、申請書類及び届出書類との整合性が保たれていることに十分留意しながら、入学対象者に誤解を与えぬよう配慮したうえで、①各種媒体による広報活動、②オープンキャンパスの開催、③高校及び日本語学校訪問等の実施、④入試説明会の開催、⑤進学相談会・校内ガイダンスへの参加などの取組を行う。

特に、新たに設置する「国際日本語学科」の教育内容は、専門的な説明を要する部分もあるため、申請中の案件について十分な広報活動を行うことが必要と考えている。このことから①オープンキャンパス、②高校及び日本語学校訪問、③入試説明会、④進学相談会・校内ガイダンスなどの個別相談・説明の機会を通じて、きめ細かな広報活動を展開していく。

#### (3) 認可後の具体的な取組（予定も含む）

認可後は、前項に掲げた取組に加え、学生募集に関する告知を速やかに行う。入試内容をはじめとする募集要項を、ホームページや各種サイト、各媒体等で広く告知する。また、潜在志願者（オープンキャンパス参加者及び資料請求者）に対して募集要項等を送付するとともに、高校進路指導教員等へ周知を行う。さらに、国際日本語学科設置記念シンポジウムの開催や新聞広告等を活用し、社会一般にも積極的に広報する。

なお、入試については、学校長推薦試験、AO 入試、一般入試等を実施する予定としており、教職員が一丸となって順次準備を進めていく。

### 3. 定員超過率が 0.7 倍未満の学科における定員未充足の原因分析、定員設定の合理性及び学生確保に向けた具体的な取組状況

#### (1) 定員未充足の原因分析及び設定の合理性について

拓殖大学北海道短期大学保育学科の入学定員は、平成 26（2014）年度にそれまでの 2

コース（造形表現コース及び身体表現コース）に幼児音楽教育コースを加えて 3 コース制としたことを契機に 80 人に設定した。平成 26（2014）年度から平成 30（2018）年度までの定員超過率は、下表のとおりである。

○拓殖大学北海道短期大学保育学科の入学者動向

区 分	平成 26 年度 2014 年度	平成 27 年度 2015 年度	平成 28 年度 2016 年度	平成 29 年度 2017 年度	平成 30 年度 2018 年度
入学者数	72 人	65 人	61 人	55 人	68 人
定員超過率	0.90 倍	0.81 倍	0.76 倍	0.69 倍	0.85 倍

保育学科は定員を 1 名も超えることが許されない保育士養成課程でもあることに配慮しつつ、社会のニーズに応えるべく 80 人の定員を維持して学生募集活動を積極的に実施してきた。その結果、平成 26（2014）年度から平成 30（2018）年度まで 5 年間の平均入学定員超過率は 80.2 %であった。幼稚園教諭（保育士）を養成してほしいというニーズは強まっており、本学保育学科への保育系求人件数は下表のとおり、年々上昇傾向で平成 29（2017）年度より 450 件を超えている。

○拓殖大学北海道短期大学保育学科 求人件数の推移

区 分	平成 26 年度 2014 年度	平成 27 年度 2015 年度	平成 28 年度 2016 年度	平成 29 年度 2017 年度	平成 30 年度 2018 年度
就職希望者	59 人	63 人	60 人	58 人	53 人
求 人 数	271 件	327 件	383 件	465 件	455 件

※平成 30（2018）年度の数値は、平成 31（2019）年 3 月 26 日現在

本学保育学科の定員は、このような地域社会の要請に応えようと設定したものである。平成 31（2019）年度の入試状況を鑑みると、平成 30（2018）年度と平成 31（2019）年度の 2 年間における平均入学定員超過率は 0.7 倍を僅かに下回る可能性があるが、今後従来の学生募集活動をより効果的に展開することによって、平成 32（2020）年度以降に定員超過率を向上させることは十分可能であると考えている。

なお、未充足の原因は、学科の教育内容や人材養成の目的等が十分に高校生に周知できなかったことが主な要因である。

**(2) 学生確保に向けた取組状況**

保育学科では、入学者確保のために以下の取組を実施してきたが、さらに強力に進めていく。

- ①高等学校訪問などの学生募集活動を全国展開しているが、近年は道外入学者が減少しているので、より効果的な全国向け募集活動を進めていく。
- ②他大学ではほとんど例のない総合芸術活動（ミュージカル公演）をカリキュラムに組み

込み、特色ある全人教育を展開している。この教育課程が評価され、これまで NHK 地上波、BS によるドキュメント番組が 2 度全国放送されている。さらに、この活動が全国の高校生に周知されるように努める。

③日本で初めて保育学科においてリトミックを専門に学べる科目を配置し、日本ダルクローズ協会が認定しているエレメンタリー免許を取得した学生を輩出している。今後は、この類例を見ない保育学科の特色をしっかりと認識してもらうように努める。

④新聞記事等において本学の活動が地方版にしか掲載されない。隣接する北海道第 2 の都市旭川市を含む北海道内の地域に保育学科の魅力をアピールするため、新聞記事等を定期的に地域外の高校生に送付し、大学案内だけでは伝えられない本学の取組などをこまめに発信し周知させる。

⑤北海道内最大の人口を擁する札幌圏における広報活動を強化し、精力的に募集活動を展開する。

⑥現在も出前授業等で高大連携を図っているが、これに加えて今後は多様な学習会等を催し、高校の教職員との信頼関係を一層深くし、生徒にも保育学科の魅力度をアピールする。

⑦高校生にとって保育学科が身近な存在となるように、社会で活躍している卒業生を通して出身高校と保育学科とを結ぶ 3 者による情報ネットワークを構築し、常時高校の教員・生徒と保育学科との情報交換を維持できるようにする。本学に在籍している学生を通じて同様な情報ネットワークも構築する。

⑧従来から拓殖大学主催のオープンキャンパス（文京キャンパス会場及び八王子国際キャンパス会場）に本学のブースを置いているが、今後は特に保育学科のブースを特設し、参加者に本学科の魅力を分かりやすく説明し、志願者確保に努める。

⑨毎年開催されている拓殖大学主催 OB・OG 教員会には全国から高等学校・中学校の教員が参集するが、同教員会において本学保育学科の特色を説明し、学生確保につなげていく。

この他、深刻な幼稚園教諭（保育士）不足に直面している状況にもかかわらず、依然として賃金体系等の雇用環境が劣っていることに鑑み、北海道における幼稚園教諭養成協会、保育士養成協議会、社会福祉協議会、地方自治体などにその改善を強く求めていく。雇用環境の改善を通じて、保育学科の志願者が増えるようにさらなる努力を続けていく。

## II 人材需要の動向等社会の要請

### 1. 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

#### (1) 教育研究上の目的

##### ①外国語学部

言語の仕組みや働きについての専門的知識を持ち、単に読み・書き・話し・聞くことができるだけでなく、言語に関わる幅広い分野において、知的コミュニケーションができる当該言語運用能力を修得させ、優れた語学の力と国際感覚を持ち、自国の言語、文化、社会をしっかりと理解した上で、他国の文化を尊重し、相互理解に導く力を持った人を育てる。

##### ②国際日本語学科

日本語についての知見をもとにした言語を通しての相互理解と発信する力、日本文化への洞察をもとにした社会的人間関係を構築し、発展させる力、そして、問題を発見し、思考するとともにコミュニケーションを通して解決する力を身につける。

日本の言語、文化、社会への深い理解のうえに、優れた発信型の語学力と異文化コミュニケーション能力を有し、また、グローバルな視野と教養、実践力を身につけた、国内外の幅広い分野で活躍できる人材を育てる。

#### (2) 卒業後の進路

##### ①国際日本語学科

日本語教師、通訳・翻訳者、マスコミ・出版、旅行関連業など、異文化の接点に位置する様々な職種、また、グローバルな展開をする企業や国際的な機関・団体など異文化を内包する組織での就業を目指す。

### 2. 上記1が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

#### (1) 社会及び地域における人材需要の需給見通し及び関係団体等からの要望等

昨今、諸外国における日本への関心は、以前からの伝統文化と産業・科学技術分野を中心とするところから、アニメ、マンガ、ゲーム、J-pop、ファッションなど、日本のいわゆるポップカルチャーや、和食などの食文化へと急速に拡大している。このように日本を見、知り、理解したいという海外の若者の需要は高く、ゆえに彼らを受け入れ、あるいは彼らに向けて日本について発信する必要性が高まっている。

また、グローバル化により異文化との接触が増えているだけでなく、価値観の多様化に伴い、日本人同士であっても意思疎通が十分できない状況も生じている。社会とそこで活動する人々の多様性が増す中では、日本語の特質を知り、効果的に使いこなす能力がこれまで以上に求められている。そこで以下に、本学科設置の必要性を、①日本語教育の需要、②日本理解者育成への需要、③日本語コミュニケーターへの需要、④地域における多文化共生推進人材の需要、の4点から示す。

##### ①日本語教育の需要

## ア. 海外での需要

近年の海外での日本語学習の広がり下表「海外日本語学習者数の推移」のとおり顕著で、学習者は、平成 15 (2003) 年の 235 万人から、平成 27 (2015) 年には 365 万人と、130 万人も増えている。

なお、平成 24 (2012) 年の 398 万人に比べると平成 27 (2015) 年は、33 万人あまりの減少となっているが、これは上位の韓国、インドネシア、中国の三ヵ国において教育制度改革などにより日本語教育の機会が減少したことによる影響である。しかし、中長期的には「学習者数が増えている国・地域の方が多い」【資料 5 「2015 年度海外日本語教育機関調査」】ことが見て取れる。

### ○海外日本語学習者数の推移

区 分	平成 15 年 2003 年	平成 18 年 2006 年	平成 21 年 2009 年	平成 24 年 2012 年	平成 27 年 2015 年
学習者数	235 万人	297 万人	365 万人	398 万人	365 万人

※「2015 年度海外日本語教育機関調査(2017 年 7 月 13 日独立行政法人国際交流基金)」より作成

また、日本語能力試験の海外受験者数は、下表「日本語能力試験 海外受験者数の推移」のとおり、着実に伸び、日本語能力を資格として示せるようにしたいという学習意欲の高い学習者は増え続けている。

### ○日本語能力試験 海外受験者数の推移

区 分	平成 25 年 2013 年	平成 26 年 2014 年	平成 27 年 2015 年	平成 28 年 2016 年	平成 29 年 2017 年
海外受験者数	441,244 人	449,464 人	468,450 人	509,664 人	580,704 人

※「日本語能力試験結果の概要 December 2017」より作成

この他、我が国の企業が実施中の海外事業における現地法人の経常利益は、下表「現地法人の経常利益及び常時従業者の推移」のとおり年々上昇傾向で平成 28 (2016) 年では 12 兆円と過去 5 年の調査で最高額となっている。現地法人の従業者数も過去 5 年の調査で 500 万人台を維持しており、こうした現地法人への就業機会の維持拡大の傾向が続くことも日本語学習の動機づけとして働くことが考えられる。

### ○現地法人の経常利益及び常時従業者の推移

区 分	平成 24 年 2012 年	平成 25 年 2013 年	平成 26 年 2014 年	平成 27 年 2015 年	平成 28 年 2016 年
経常利益	7 兆円	9 兆円	10 兆円	9 兆円	12 兆円
常時従業者	558 万人	551 万人	574 万人	557 万人	559 万人

※「第 47 回海外事業活動基本調査結果概要 (2016 年度実績) (平成 30 年 4 月 5 日 経済産業省)」より作成

## イ. 国内での需要

日本国内の多文化化が徐々に進んでいる。「平成 29 (2017) 年末現在における中長期在留者数は 223 万 2,026 人、特別永住者数は 32 万 9,822 人で、これらをあわせた在留外国人数は 256 万 1,848 人となり、前年末に比べ、17 万 9,026 人 (7.5 %) 増加し、過去最高となった」【資料 6「平成 29 年末現在における在留外国人数について (確定値)」】。

この伸びにあわせるように、日本国内の日本語学習者数は、下表「国内の日本語学習者の推移」のとおり、過去 5 年の調査で最高となっている。今後も在留外国人数自体の増加にあわせ、日本語学習者はさらに増えると見込まれる。

### ○国内の日本語学習者の推移

区 分	平成 25 年 2013 年	平成 26 年 2014 年	平成 27 年 2015 年	平成 28 年 2016 年	平成 29 年 2017 年
学習者数	156,843 人	174,359 人	191,735 人	217,881 人	239,597 人

※「平成 29 年度国内の日本語教育の概要 (平成 29 年 11 月 1 日現在 文化庁文化語部国語課)」より作成

さらに、平成 30 (2018) 年 7 月 24 日に外国人の受け入れ環境の整備に関する企画及び立案並びに総合調整を行うことを目的とした「外国人の受入れ環境の整備に関する業務の基本方針について」【資料 7】が閣議決定された。また、外務省、外国人材の受け入れ・共生のための総合的対応策検討会は、平成 30 (2018) 年 12 月 25 日に「外国人材の受け入れ・共生のための総合的対応策」【資料 8】を策定した。この中で、「外国人に対する日本語教育の取組を大幅に拡充し、外国人と円滑にコミュニケーションできる環境整備」に関する具体的な施策が提言されている。これらの基本方針等は、国内需要は当然ながら海外での日本語教育専門家の需要増にもつながってくる。

## ウ. 日本語教師養成に対する需要

以上のとおり、日本語学習者数は国内外ともに増加傾向にあるが、これに対応して、学習の指導・支援にあたる人材の需要も高まりつつある。

### (ア) 国内における日本語教師の需要

国内の日本語教師数及び日本語教育実施機関・施設等数の推移は下表のとおり、過去 5 年の調査で微増となっているが、日本語教師の数は年々増加しており、平成 29 (2017) 年では 39,588 人と過去 5 年の調査で最高となっている。

### ○国内の日本語教師数及び日本語教育実施機関・施設等数の推移

区 分	平成 25 年 2013 年	平成 26 年 2014 年	平成 27 年 2015 年	平成 28 年 2016 年	平成 29 年 2017 年
日本語教師数	31,174 人	32,949 人	36,168 人	37,962 人	39,588 人
日本語教育実施機関・ 施設等数	1,961 機関	1,893 機関	2,012 機関	2,111 機関	2,109 機関

※「平成 29 年度国内の日本語教育の概要（平成 29 年 11 月 1 日現在 文化庁文化語部国語課）」より作成

これと、先掲の「国内の日本語学習者の推移」の表とを併せて考察すれば、この 5 年間に於ける日本語教師一人あたりの学習者数は、平成 25（2013）年の 5.03 人から平成 29（2017）年の 6.05 人へと大幅な増となっており、優秀な日本語教師の早急かつ大幅な養成・確保の必要性は以前にも増して高まっていると判断できる。

○国内の日本語教師一人あたりの学習者数の推移

区 分	平成 25 年 2013 年	平成 26 年 2014 年	平成 27 年 2015 年	平成 28 年 2016 年	平成 29 年 2017 年
①学習者数	156,843 人	174,359 人	191,735 人	217,881 人	239,597 人
②日本語教師数	31,174 人	32,949 人	36,168 人	37,962 人	39,588 人
①／②	5.03 人	5.29 人	5.30 人	5.74 人	6.05 人

(イ) 海外における日本語教師の需要

また、海外においても日本語教師数は、下表「海外日本語教師数の推移」のとおり、増えてきただけでなく、日本語学習者数が減少した平成 27（2015）年においても 64,108 人と依然増え続けている。前述の日本語能力試験の海外受験者数増からうかがえる、学習意欲の強い学習者の要望に応えるには、日本語教師がさらに必要とされている。

○海外日本語教師数の推移

区 分	平成 15 年 2003 年	平成 18 年 2006 年	平成 21 年 2009 年	平成 24 年 2012 年	平成 27 年 2015 年
教師数	33,124 人	44,321 人	49,803 人	63,780 人	64,108 人

※「2015 年度海外日本語教育機関調査(2017 年 7 月 13 日独立行政法人国際交流基金)」より作成

なお、本学科は、質の高い日本語教師の養成のみならず、本学大学院言語教育研究科と連携することにより、より高度な日本語学の教育研究の需要にも応えることを予定しており、この分野における世界の拠点として各種の需要に応え、国や社会に広く貢献していくことを目指すものである。

②日本理解者育成への需要

上記日本語学習者の増加など、様々なデータは、海外における日本・日本文化への関心の高まりを示しており、この状況に対しては、日本国政府もまた「クールジャパン戦略」【資料 9「クールジャパン戦略について」】により応えようとしている。

また、教育再生実行会議による第三次提言「これからの大学教育等の在り方について」【資料 10】は、グローバル化に対応するために、「日本人としてのアイデンティティを高め、日本文化を世界に発信するという意識をもってグローバル化に対応するため、初等中

等教育及び高等教育を通じて、国語教育や我が国の伝統・文化についての理解を深める取組を充実する。国は、海外の大学に戦略的に働きかけるなどして、海外における日本語学習や日本文化理解の積極的な促進を図る。また、日本文化について指導・紹介できる人材の育成や指導プログラムの開発等の取組を推進する」と提言した。即ち日本語ならびに日本について深く理解し、その普及への意欲とそれを可能ならしめる能力を有する人材育成が大学に求められている。

さらに、平成 25 (2013) 年 11 月には、日本の魅力ある商品・サービスの海外需要開拓を支援するため『日本の魅力』の拡大につなげる『メディア・コンテンツ』『食・サービス』『ファッション・ライフスタイル』などの分野でリスクマネーの供給を行う官民ファンドも立ち上げた【資料 11 「(株) 海外需要開拓支援機構 (クールジャパン機構)」】。

このような展開を成功させるためには、展開先の現地において日本側の取組を積極的に受け止められる人材、すなわち高度な日本語能力とともに、日本と日本文化についてよく知り、共感できる能力をもつ外国人材が求められる。これもまた、日本の大学の留学生教育が目指すべきところである。

国内に主たる事業所をかまえる企業にも、自社内にそのような外国人材を取り込もうとする動きがある。「外国人留学生／高度外国人材の採用に関する企業調査」【資料 12】によると、「大卒以上の高度外国人材の雇用経験をもつ（または雇用予定のある）企業は 63.2 %に達しており、そのうち平成 29 (2017) 年度に外国人留学生を『採用した』企業は、予定を含め全体の 35.4 %。また、平成 30 (2018) 年度の採用を見込んでいる企業は 57.8 %に上る」とされ、高度外国人材の採用意欲は相当高い結果となっている。なお、文系留学生の採用目的としては、「優秀な人材を確保するため」(71 %)が最も多く、以下、「外国人としての感性・国際感覚等の強みを発揮してもらうため」(39.6 %)、「海外の取引先に関する業務を行うため」(39.1 %)「語学力が必要な業務を行うため」(38.5 %)「自社（またはグループ）の海外法人に関する業務を行うため(29.0 %）」といった対海外の業務能力への期待が大きい。一方で高度な日本語運用能力も求めている。同調査によれば、「内定時にビジネス上級レベル以上を求める企業は、55.1 % (文系) だったが、入社後には 85.8 % (文系) と大きく増える。」また、多様性に期待するとはいえ、求める資質の上位には同時に、協調性、異文化対応力といった日本の文化・慣習への理解に関わる項目も並ぶ。本学科は外国人留学生に対し、そのような企業の要請に応えるのに十分な日本語ならびに日本文化を学修する機会を提供し、外国人材を必要とする企業での外国人留学生の就業を後押しする。

### ③日本語コミュニケーターへの需要

日本、日本文化、日本語について専門的に学んだ人材は、グローバル化との関わりの中でのみ必要とされるものではなく、より広い場面で有用な人材となる。

教育再生実行会議による第七次提言「これからの時代に求められる資質・能力と、それを培う教育、教師の在り方について」【資料 13】は、「課題解決に当たっては、他者と協力して対応しなければならない場合もあり、リーダーシップや責任感、さらには、相手に

説明し、納得してもらおう論理性や、人の心を動かすプレゼンテーション能力を養うことも不可欠」として、社会における様々な構成要素間の協働におけるリーダーシップをこれからの時代を生きる人たちに必要とされる資質・能力にあげている。

一般社団法人、日本経済団体連合会「2015 年度 新卒採用に関するアンケート調査結果の概要」【資料 14】によると、「企業が新卒社員の選考に当たって重視した点は『コミュニケーション能力』が 12 年連続して第 1 位となっている。」

また、公益社団法人、経済同友会「これからの企業・社会が求める人材像と大学への期待～個人の資質能力を高め、組織を活かした競争力の向上～」【資料 15】は、「企業が求める人材に必要な資質能力として、①変化の激しい社会で、課題を見出し、チームで協力して解決する力（課題設定力・解決力）、②困難から逃げずにそれに向き合い、乗り越える力（耐力・胆力）、③多様性を尊重し、異文化を受け入れながら組織力を高める力、④価値観の異なる相手とも双方向で真摯に学び合う対話力（コミュニケーション能力）」の四つをあげている。ここから想定される、企業・社会が求めるコミュニケーション能力とは、単なる情報伝達や意思疎通にとどまるものではなく、周囲からより多くの意見を引き出し交じり合わせ、結果として組織の活性化につなげていけるファシリテーション能力をも含むものである。そのようなファシリテーション能力を志向した日本語コミュニケーション能力の育成もまた本学科の目指すところに合致する。

#### ④地域における多文化共生推進人材の需要

日本語教育の需要の項で示したとおり、国内における外国人在留者の増加は著しい。さらに前述のように、新たな外国人材の受け入れ方針も示されており、日本国内にあってこれまで以上に、様々な地域に外国人が居住することが予想され、異文化共生社会の到来に備える必要がある。しかし、在留外国人の増加には、前述の日本語教育の問題にとどまらず、日本人居住者と外国人居住者との間に起こる異文化間摩擦という課題も伴う。外務省、神奈川県、国際移住機関（IOM）主催「外国人の受入れと社会統合のための国際ワークショップ」による「外国人を受け入れる地域社会の意識啓発に関する提言」【資料 16】では、「外国人に対する心の壁を越え、地域社会の人材としての活用を考える」とする相互理解の促進に関する提言がされた。また、外務省、外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策検討会による「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」【資料 8】では、「政府としては、条約難民や第三国定住難民を含め、在留資格を有する全ての外国人を孤立させることなく、社会を構成する一員として受け入れていくという視点に立ち、外国人が日本人と同様に公共サービスを享受し安心して生活することができる環境を全力で整備していく。その環境整備に当たっては、受け入れる側の日本人が、共生社会の実現について理解し協力するよう努めていくだけでなく、受け入れられる側の外国人もまた、共生の理念を理解し、日本の風土・文化を理解するよう努めていくことが重要であることも銘記されなければならない」と述べられている。今後は各所で、生活者としての外国人の支援に携わる人材・団体の育成とネットワークの構築の中核となる人材が必要とされる。

本学科が拠点とする八王子国際キャンパスのある八王子市もまた「近年のグローバル化の進展の中で、外国籍市民が増加しており、12,219 人（平成 29 年（2017 年）12 月末）が暮らしている。高尾山には多くの外国人観光客が訪れるなど、外国人を見かけることは

日常の光景となり、海外に行かなくとも外国人と触れあう機会が増えている。」そのため、同市は、「外国人市民も安心して暮らせるまちの実現」「国際感覚豊かな市民を育むまちの実現」という二つの目標のもと、平成 30（2018）年度から平成 34（2022）年度までの 5 年を実施期間とする「八王子市多文化共生推進プラン（改定版）」【資料 17】を策定し、多文化共生社会の実現に向けて動いている。同様に、すでに多くの自治体が多文化共生社会の実現に向けて取組をはじめている。

しかしながら、このような取組は行政側のプラン立案だけで成立するものではない。実際に地域共同体の中で取組にあたることのできる人材がなければ成り立たない。そのため、全国市町村国際文化研修所（JIAM）による「平成 28 年度多文化共生マネージャー養成コース」【資料 18】、かながわ国際交流財団による「多文化ソーシャルワーク講座」【資料 19】など、行政側も積極的に異文化間交流コーディネーターの養成に取り組みは始めている。同時に、このような取組に積極的に応えることのできる、異文化への理解と共感能力の高い人材育成は、大学による社会貢献の重要な柱の一つでもある。従って日本人学生と外国人留学生がともに学び日常の中に異文化間交流がある本学科の学修環境は、そのような多文化共生社会推進の意欲と能力を有する人材育成に適した環境となる。

以上、本学科設置の必要性を四つの視点から述べた。本学科の教育研究上の目的と養成する人材は、社会的・地域的な人材需要の動向を踏まえたものであり、増加する社会的要請に応えるべく、学科を設置するものである。

## （2）本学の就職等実績

### ①過去 5 年間の求人企業数の状況

本学全体における過去 5 年間の求人企業数は、下表のとおり、平成 26（2014）年度から平成 29（2017）年度まで約 2,900 社から 3,500 社の間で安定的に推移している。平成 30（2018）年度より、企業からの求人受付を全国 164 大学（平成 31（2019）年 3 月現在）の共通プラットフォーム（大学共同参加求人受付 NAVI）に変更した。これにより本学を求人先として登録する企業数は、過去 4 年間平均（3,308.8 社）の約 4.8 倍の 16,028 社に上り、過去 5 年間で最高となっている。

なお、実質的には、通常は企業 1 社につき、複数の求人となる場合が多いのであるが、これを仮に、過去 5 年間で求人企業数をもっとも少ない平成 29（2017）年度の数値を用い、1 社につき 1 人の求人数で就職希望者に対する求人倍率を算出しても、1.7 倍となり、本学が養成する人材数を大幅に上回る。この状況は、本学の全学的な人材養成や教育研究上の目的が、社会的、地域的における人材需要の動向と合致していることの証であると考えられ、従って、国際日本語学科の設置を行った場合でも、就職先の確保については十分に見込めるものである。

### ○拓殖大学 求人企業数の推移

区 分	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
就 職 希 望 者	1,675 人	1,736 人	1,634 人	1,764 人	1,885 人
求 人 企 業 数	3,465 社	3,514 社	3,303 社	2,953 社	16,028 社

※求人企業数には団体数を含む。

※平成 30（2018）年度の数值は、平成 31（2019）年 3 月 26 日現在

## ②過去 5 年間の就職者数の状況

国際日本語学科の基礎となる既設の外国語学部（英米語学科、中国語学科及びスペイン語学科）全体における過去 5 年の就職希望者に対する就職率は、下表のとおり 94.5 %以上となっている。この状況は、外国語学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が、社会的及び地域的における人材需要の動向を踏まえたものであるものといえる。

従って、国際日本語学科を新設した場合でも、就職先の確保については十分に見込めるものである。

### ○外国語学部 就職率の推移

区 分	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
就 職 希 望 者	128 人	175 人	156 人	159 人	149 人
就 職 者 数	121 人	169 人	152 人	158 人	147 人
就 職 率	94.5 %	96.6 %	97.4 %	99.4 %	98.7 %

※平成 30（2018）年度の数值は、平成 31（2019）年 4 月 18 日現在

平成 29（2017）年 3 月外国語学部卒業生の主な就職先は、ホテル・旅行・ブライダルなどのサービス業 26.6 %、商社などの卸・小売業 24.1 %が半数を占め、これに、航空や鉄道などの運輸郵便業 11.4 %などが続いており、言語運用能力を活かせる就職先が目立っている。

## ③企業等に対する採用意向調査

国際日本語学科の設置は、以上のとおり社会的、地域的な人材需要の動向等及び本学の就職等実績などを踏まえたうえで計画していることから、就職先の確保については十分に見込めるものであるが、本学の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が、社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであること、さらに就職先を確実に確保できることを確認するため、新たに設置する国際日本語学科について、本学に求人依頼があった企業等を対象に「採用意向を含むニーズ調査」を学外の調査機関である株式会社進研アドに委託して実施した。なお、調査方法は、同調査機関から、企業等に本学科の概要をまとめたリーフレット及び調査票を配付し、直接回答を得る方法で実施した。回答の調査票も企業等から同調査機関に直送し回収している。

その結果は、次のとおりとなっている。

有効回答 138 社中、本学科の学びの特色である「すぐれた日本語の使い手（コミュニケーター）をめざす」に対して「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業の合計（以下、本段落内では『魅力を感じる』と回答した企業」という。）が 89.9 %（124 社）、「外国語（英語、中国語、スペイン語）の力も身につく」に対して「魅力を感じる」と回答した企業が 88.4 %（122 社）、「課題発見を主導するリーダーシップを身に

つける」に対して「魅力を感じる」と回答した企業が 97.8 % (135 社) との結果となった。さらに、「本学科は、これからの社会にとって必要だと思いますか」という社会的必要性に関する問いに対して、「必要だと思う」と回答した企業は、97.8 % (135 社) に上った。

本学科を卒業した者に対する採用意向については、有効回答 138 社のうち 85.5 % にあたる 118 社が採用の意向を示しており、採用意向人数は 182 人 (1 社平均 1.54 人) に上る。なお、その内訳としては、1 人 90 社 76.3 % (採用意向人数を未定としている 59 社の採用意向人数は 1 人としてカウント)、2 人 17 社 14.4 %、3 人 6 社 5.1 %、4 人以上 5 社 4.2 % であった。従って、本学科で学んだ人材への需要は高いといえる。【資料 20「拓殖大学『外国語学部国際日本語学科』(仮称) 設置に関するアンケート調査(企業対象調査) 結果報告書及び新学科設置告知用リーフレット】

以上のとおり、国際日本語学科の設置は、社会的、地域的な人材需要の動向、本学の就職等実績及び本調査からも増加する定員分の就職先の確保は十分見込まれるものといえる。

以 上

## 学生の確保の見通し等を記載した書類 添付資料

- 資料 1 拓殖大学 八王子国際キャンパス 首都圏出身学生数 (拓殖大学)
- 資料 2 首都圏 18 歳人口の指数推移 (株式会社進研アド)
- 資料 3 語学/日本語 学問系統別受験・志願状況 (全国・首都圏) (株式会社進研アド)
- 資料 4 拓殖大学『外国語学部国際日本語学科』(仮称) 設置に関するアンケート調査 (高校生・日本語学校生・別科生対象調査) 結果報告書及び新学科設置告知用リーフレット (株式会社進研アド)
- 資料 5 2015 年度海外日本語教育機関調査 (2017 年 3 月 独立行政法人国際交流基金)
- 資料 6 平成 29 年末現在における在留外国人数について (確定値) (平成 30 年 3 月 27 日 法務省入国管理局)
- 資料 7 外国人の受入れ環境の整備に関する業務の基本方針について (平成 30 年 7 月 24 日閣議決定)  
(出典: 内閣官房内閣広報室)
- 資料 8 外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策 (平成 30 年 12 月 25 日 外国人材の受入れ・共生に関する関係閣僚会議)  
(出典: 内閣官房内閣広報室)
- 資料 9 クールジャパン戦略について (平成 30 年 10 月 5 日 内閣府知的財産戦略推進事務局)
- 資料 10 これからの大学教育等の在り方について (第三次提言) (平成 25 年 5 月 28 日教育再生実行会議)
- 資料 11 (株) 海外需要開拓支援機構 (クールジャパン機構)
- 資料 12 外国人留学生/高度外国人材の採用に関する企業調査 (2017 年 12 月調査 株式会社ディスコ キャリタスリサーチ)
- 資料 13 これからの時代に求められる資質・能力と、それを培う教育、教師の在り方について (第七次提言) (平成 27 年 5 月 14 日教育再生実行会議)
- 資料 14 2015 年度 新卒採用に関するアンケート調査結果の概要 (2016 年 2 月 16 日一般社団法人日本経済団体連合会)
- 資料 15 これからの企業・社会が求める人材像と大学への期待 ~個人の資質能力を高め、組織を活かした競争力の向上~ (2015 年 4 月 2 日 公益社団法人経済同友会)
- 資料 16 外国人を受け入れる地域社会の意識啓発に関する提言 (2010 年 2 月 20 日 外務省、神奈川県、国際移住機関(IOM)主催「外国人の受入れと社会統合のための国際ワークショップ」テーマ 1 分科会)
- 資料 17 八王子市多文化共生推進プラン (改定版) (平成 30 年 3 月八王子市)
- 資料 18 平成 28 年度多文化共生マネージャー養成コース (全国市町村国際文化研修所 (JIAM) 教務部)
- 資料 19 多文化ソーシャルワーク講座 (公益財団法人かながわ国際交流財団)
- 資料 20 拓殖大学『外国語学部国際日本語学科』(仮称) 設置に関するアンケート調査 (企業対象調査) 結果報告書及び新学科設置告知用リーフレット (株式会社進研ア

ك)

## 教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
-	学長	カワナ アキオ 川名 明夫 <平成27年4月>		工学博士		拓殖大学 学長 (平成27.4~33.3)



調書 番号	専任 等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の 職務に従 事する 通年たり 平均日数
6	専	教授	ヤマグチ タカオサ 山口 隆正 <平成32年4月>		文学修士		日本語リテラシー I A(留学生) 日本語リテラシー II A(留学生) 初年次教育ゼミナール 日本語表現基礎 日本語表現演習 日本語相互学習 I 日本語相互学習 II 世界の日本語教育事情 3年ゼミナール 4年ゼミナール 卒業論文	1前 1後 1前 2前 2後 2前 2後 2前 3前 3通 4通 4通	1 1 2 2 2 2 2 2 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	拓殖大学 商学部 教授 (平元.10)	5日
7	専	准教授	ナカムラ 中村 かおり <平成32年4月>		修士 (学術)		アカデミック日本語 II (留学生) 初年次年教育ゼミナール 日本語教育概論 日本語教授法 I 日本語教授法 II 3年ゼミナール 4年ゼミナール 卒業論文	1後 1前 1後・2前 1・2前 1・2後 3通 4通 4通	1 2 4 2 2 4 4 4	1 1 2 1 1 1 1 1	拓殖大学 外国語学部 准教授 (平29.4)	5日
8	兼任	教授	アサヒ スミタニ 浅井 澄民 <平成33年4月>		修士 (文学)		コミュニケーション中国語講読 I コミュニケーション中国語講読 II	2前 2後	1 1	1 1	拓殖大学 外国語学部 教授 (平20.4)	-
9	兼任	教授	アラタメ ナツミ 新田目 夏実 <平成32年9月>		Ph.D.(Sociology) (米国)		国際社会学	1後	2	1	拓殖大学 国際学部 教授 (平14.4)	-
10	兼任	教授	オオモリ ヌウジ 大森 裕二 <平成32年4月>		M.A. in English (カナダ) 修士 (文学)※		外国語文学A(英語圏の文学)	1・2・3・4前	2	1	拓殖大学 工学部 准教授 (平17.4)	-
11	兼任	教授	サカイウ ヨシオ 齋藤 純男 <平成32年4月>		文学修士		日本語音声学 日本語学論 言語学概論 I 言語学概論 II	1・2前 1・2前 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	拓殖大学 外国語学部 教授 (平30.4)	-
12	兼任	教授 (学部長)	シオザキ サトシ 塩崎 智 <平成32年4月>		文学修士		講座「言語と文化」※	1・2・3・4前	0.6	1	拓殖大学 外国語学部 教授 (平18.4)	-
13	兼任	教授	セキ ヨシキ 関 良基 <平成32年9月>		博士 (農学)		生態学(環境と生態系)	1・2・3・4後	2	1	拓殖大学 政経学部 教授 (平19.4)	-
14	兼任	教授	ヒキグチヨコタ ミユキ 関口(横田) 美幸 <平成33年4月>		修士 (文学) (中国)		ビジネス中国語講読 I ビジネス中国語講読 II 観光中国語 I 観光中国語 II	2前 2後 2前 2後	1 1 2 2	1 1 1 1	拓殖大学 外国語学部 准教授 (平21.4)	-
15	兼任	教授	タマイ アキラ 玉井 朗 <平成32年4月>		体育学修士		スポーツの歴史と社会 生涯スポーツ基礎演習 トレーニング基礎演習	1・2・3・4後 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	2 2 2	1 2 2	拓殖大学 政経学部 教授 (昭61.4)	-
16	兼任	教授	ヒラヤマ クニヒロ 平山 邦彦 <平成33年4月>		修士 (言語学)		中級中国語② I 中級中国語② II	2前 2後	1 1	1 1	拓殖大学 外国語学部 教授 (平16.4)	-
17	兼任	教授	ヒロサワ アキヒロ 廣澤 明彦 <平成32年4月>		修士 (言語学)		スペイン語相互学習 I スペイン語相互学習 II	1前 1後	2 2	1 1	拓殖大学 外国語学部 教授 (平20.4)	-
18	兼任	教授	フクダ ケイコ 福田 恵子 <平成32年9月>		修士 (言語学)		日本の民俗と思想	1・2後	2	1	拓殖大学 国際学部 教授 (平14.4)	-
19	兼任	教授	フジモト アツシ 藤本 淳史 <平成33年4月>		修士 (文学), Master of Arts, Master of Education (米国)		異文化間コミュニケーション入門	2前	2	1	拓殖大学 外国語学部 准教授 (平16.4)	-
20	兼任	教授	マルヤマ ヒロアキ 丸山 浩明 <平成33年4月>		博士 (文学)		中国文学概論	2前	2	1	拓殖大学 外国語学部 教授 (平30.4)	-

調書 番号	専任 等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の 職務に従 事する 通年たり 平均日数
21	兼任	教授	ヤスヒミ ユウヘイ 安富 雄平 ＜平成32年4月＞		文学修士※		講座「言語と文化」※ 言語習得論 スペイン語相互学習Ⅰ スペイン語相互学習Ⅱ 映画スペイン語Ⅰ 映画スペイン語Ⅱ キャリアガイダンス※	1・2・3・4前 3後 1前 1後 2前 2後 2後 1後	0.8 2 2 2 2 2 2 0.8	1 1 1 1 1 1 1 1	拓殖大学 外国語学部 教授 (昭63.4)	—
22	兼任	准教授	イイダ トオル 飯田 透 ＜平成32年4月＞		教育学士		日本語コミュニケーションⅠB(留学生)	1前	1	1	拓殖大学 日本語教育 研究所 准教授 (平12.4)	—
	兼任	講師	イイダ トオル 飯田 透 ＜平成35年4月＞		教育学士		日本語コミュニケーションⅠB(留学生)	1前	1	1		
23	兼任	准教授	オオノ エイキ 大野 英樹 ＜平成32年4月＞		修士 (人文科学)		講座「言語と文化」※	1・2・3・4前	0.6	1	拓殖大学 外国語学部 准教授 (平25.4)	—
24	兼任	准教授	シノベ コウヘイ 椎野 幸平 ＜平成32年4月＞		修士 (国際経済学)		東南アジア 南アジア	1前 1後	2 2	1 1	拓殖大学 国際学部 准教授 (平29.4)	—
25	兼任	准教授	ナガエ ミワケイチ タカコ 永江(三分一) 貴子 ＜平成32年9月＞		博士 (人文科学)		時事中国語Ⅰ 時事中国語Ⅱ 資格中国語Ⅰ 資格中国語Ⅱ	2前 2後 1後 2前	2 2 2 2	1 1 1 1	拓殖大学 外国語学部 准教授 (平25.4)	—
26	兼任	准教授	ハットリ エイイチ 服部 英一 ＜平成32年9月＞		体育学修士		身体トレーニング理論	1・2・3・4後	2	1	拓殖大学 商学部 准教授 (昭61.4)	—
27	兼任	准教授	ヒビ テツヤ 日比 哲也 ＜平成32年4月＞		工学修士		情報スキルⅠ 情報スキルⅡ	1前 1後	2 2	1 1	拓殖大学 外国語学部 准教授 (昭63.4)	—
28	兼任	准教授	ヨネシゲ シュウイチ 米重 修一 ＜平成32年4月＞		経済学士		生涯スポーツ基礎演習 トレーニング基礎演習	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	2 2	2 2	拓殖大学 工学部 准教授 (平13.4)	—
29	兼任	助教	ワカタベ トシヒロ 渡邊 俊彦 ＜平成34年9月＞		修士 (文学) (台湾)		翻訳・通訳概論(日中)	3・4後	2	1	拓殖大学 政経学部 助教 (平30.4)	—
30	兼任	講師	アノキ ヒロシ 青木 宏 ＜平成32年4月＞		修士 (英文学)		初級英語①Ⅰ 初級英語①Ⅱ 中級英語①Ⅰ 中級英語①Ⅱ	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	拓殖大学 外国語学部 講師(非常勤) (平21.9)	—
31	兼任	講師	アノシマ ヤスミ 青嶋 康文 ＜平成33年4月＞		文学修士		日本語文章表現Ⅰ 日本語文章表現Ⅱ	2前 2後	2 2	1 1	東京都立南多摩 中等教育学校 主幹教諭 (平22.4)	—
32	兼任	講師	アサイ ナオコ 浅井 尚子 ＜平成32年4月＞		修士 (言語教育学)		日本語コミュニケーションⅠA(留学生) 日本語コミュニケーションⅡA(留学生) 日本語コミュニケーションⅡB(留学生) 日本語コミュニケーションⅢB(留学生) クールジャパン論 ポップカルチャー論	1前 1後 1後 2前 1・2前 1・2後	1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	拓殖大学 別科 特別非常勤講師 (平27.4)	—
33	兼任	講師	アサヒロ ケンジロウ 朝広 謙次郎 ＜平成32年4月＞		哲学修士※		哲学A(哲学すること) 哲学B(現代の哲学)	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	拓殖大学 政経学部 講師(非常勤) (平13.4)	—
34	兼任	講師	アライ イッコウ 新井 一光 ＜平成32年9月＞		博士 (仏教学)		宗教学(宗教と人生)	1・2・3・4後	2	1	曹洞宗 昌福寺(福島県)住職 (平15.4)	—
35	兼任	講師	イケダ セツコ 池田 節子 ＜平成34年4月＞		博士 (文学)		日本古典文学Ⅰ 日本古典文学Ⅱ	3・4前 3・4後	2 2	1 1	駒沢女子大学 人文学部日本文化学科 教授 (平18.4)	—
36	兼任	講師	イケダ トモヒロ 池田 朋洋 ＜平成32年4月＞		修士 (学術)		初級スペイン語②Ⅰ 初級スペイン語②Ⅱ 中級スペイン語②Ⅰ 中級スペイン語②Ⅱ	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	拓殖大学 外国語学部 講師(非常勤) (平30.4)	—
37	兼任	講師	イノド ダイスケ 井戸 大輔 ＜平成32年9月＞		修士 (商学)※		流通論(流通とマーケティング)	1・2・3・4後	2	1	拓殖大学 商学部 講師(非常勤) (平20.9)	—
38	兼任	講師	イトウ コズメ 伊藤 江美 ＜平成34年4月＞		修士 (文学)		日本事情教育 日本語プレゼンテーション基礎 日本語プレゼンテーション演習	3前 3前 3後	2 2 2	1 1 1	拓殖大学 別科 講師(非常勤) (平27.9)	—
39	兼任	講師	イトウ サトシ 伊藤 哲 ＜平成32年9月＞		博士 (経済学)		近代社会の思想史	1・2・3・4後	2	1	拓殖大学 政経学部 講師(非常勤) (平30.4)	—

調書 番号	専任 等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の 職務に従 事する 週当たり平 均日数
40	兼任	講師	イナガキ ヒデアキ 稲垣 秀人 ＜平成32年4月＞		修士 (行政学)		プレゼンテーションと交渉 国際コミュニケーション論 国際ビジネス交渉論	1・2・3・4前 3前 3後	2 2 2	1 1 1	拓殖大学 商学部 講師(非常勤) (平26.4)	—
41	兼任	講師	イナミ マコト 井波 真弓 ＜平成32年4月＞		文学修士, 博士 (工学)		文章表現の基礎 レポートの書き方	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	2 2	1 1	拓殖大学 商学部 講師(非常勤) (平27.4)	—
42	兼任	講師	ウエキ マサノリ 植木 正則 ＜平成33年4月＞		法学士		職業能力基礎(SPI)非言語 職業能力基礎(SPI)言語	2前 2後	2 2	1 1	株式会社クイック 教育システムズ 専任講師 (平9.11)	—
43	兼任	講師	ウメツ セイコ 梅津 聖子 ＜平成32年4月＞		修士 (言語教育学)		日本語コミュニケーションIB(留学生) 日本語コミュニケーションIIB(留学生) 日本語コミュニケーションIIIA(留学生) 日本語コミュニケーションIIIA(留学生) 日本語リテラシーIIIA(留学生) 日本語リテラシーIIIA(留学生)	1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	拓殖大学 別科 講師(非常勤) (平20.4)	—
44	兼任	講師	オオシノ タカコ 大越 貴子 ＜平成32年9月＞		修士 (比較文学)		教育日本語総合I 教育日本語総合II ビジネス日本語総合I ビジネス日本語総合II 異文化間理解	2前 2後 2後 3前 1・2後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	拓殖大学 別科 特別非常勤講師 (平29.4)	—
45	兼任	講師	オオバ リン 大羽 りん ＜平成33年4月＞		修士 (文学)		ビジネス中国語会話I ビジネス中国語会話II	2前 2後	1 1	1 1	株式会社 シー・コミュニケーションズ 代表取締役 (平17.2)	—
46	兼任	講師	オカダ ヨシヒコ 岡田 幸彦 ＜平成32年4月＞		博士 (学術)		アカデミック日本語I(留学生) 日本語コミュニケーションIVB(留学生) 日本語フウンデーションI(留学生) 日本語フウンデーションII(留学生) 日本語文法研究III 日本語文法研究IV	1前 2後 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	拓殖大学 別科 講師(非常勤) (平27.9)	—
47	兼任	講師	オカモト ヨシコ 岡本 佳子 ＜平成32年4月＞		博士 (学術)		美術	1・2・3・4前・後	4	2	拓殖大学 外国語学部 講師(非常勤) (平28.4)	—
48	兼任	講師	オガワ アキヒコ 小川 亮彦 ＜平成32年4月＞		文学修士※		初級フランス語①I 初級フランス語①II 中級フランス語①I 中級フランス語①II	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	拓殖大学 商学部 講師(非常勤) (平8.4)	—
49	兼任	講師	オキワラ コウヘイ 萩原 耕平 ＜平成33年4月＞		修士 (文学)※		中級ドイツ語①I 中級ドイツ語①II	2前 2後	1 1	1 1	拓殖大学 政経学部 講師(非常勤) (平22.4)	—
50	兼任	講師	オスカル・メンドサ ＜平成33年4月＞		Bachelor of Theology (スペイン)		スペイン語ワークショップI スペイン語ワークショップII	2前 2後	2 2	1 1	拓殖大学 外国語学部 特別非常勤講師 (平7.4)	—
51	兼任	講師	オダ シモジウ タカコ 小田(下条) 貴子 ＜平成32年4月＞		文学士		口頭表現の技法	1・2・3・4前・後	4	2	拓殖大学 商学部 講師(非常勤) (平27.4)	—
52	兼任	講師	オク ダイイ 楽 大維 ＜平成32年4月＞		修士 (文学)※ (台湾)		初級中国語①I 初級中国語①II	1前 1後	1 1	1 1	拓殖大学 外国語学部 講師(非常勤) (平23.4)	—
53	兼任	講師	カタオカ リヤス 片岡 慎泰 ＜平成32年4月＞		文学修士		初級ドイツ語①I 初級ドイツ語①II 初級ドイツ語②I 初級ドイツ語②II 中級ドイツ語①I 中級ドイツ語②II	1前 1後 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	拓殖大学 政経学部 講師(非常勤) (平27.4)	—
54	兼任	講師	カワウチ テツオ 河内 哲郎 ＜平成32年4月＞		文学修士		社会学(個人と社会)	1・2・3・4前	2	1	拓殖大学 商学部 講師(非常勤) (平4.4)	—
55	兼任	講師	キヤマ ミカ 木山 三佳 ＜平成34年4月＞		博士 (人文科学)		日本語特殊研究 社会の中の日本語	3後 3・4前	2 2	1 1	明海大学 外国語学部 教授 (平28.4)	—
56	兼任	講師	クニハラ モウリ ミサコ 國原(毛利) 美佐子 ＜平成32年9月＞		修士 (文学)		日本史(近代日本の歴史)	1・2・3・4後	2	1	拓殖大学 商学部 講師(非常勤) (平24.4)	—
57	兼任	講師	クロカワ マナブ 黒川 学 ＜平成32年4月＞		文学修士※		初級フランス語①I 初級フランス語①II 中級フランス語①I 中級フランス語②II	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	拓殖大学 政経学部 講師(非常勤) (平7.4)	—
58	兼任	講師	コカワ タカヒロ 小川 貴宏 ＜平成32年4月＞		文学修士		マスメディア英語I マスメディア英語II 資格英語A 資格英語B 資格英語C	2前 2後 1前 1後 1前・後	2 2 2 2 4	1 1 1 1 2	成蹊大学 理工学部 教授 (平21.4)	—

調書 番号	専任 等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単 位 数	年間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の 職務に従 事する 道当たり平 均日数
59	兼任	講師	コバヤシ アド 小林 彩 ＜平成32年4月＞		修士 (スポーツ科学)		生涯スポーツ基礎演習 トレーニング基礎演習	1・2・3・4前・後 1・2・3・4前・後	2 2	2 2	拓殖大学 工学部 講師(非常勤) (平28.4)	-
60	兼任	講師	コンセプション C. ルイズ・ティノコ ＜平成32年4月＞		修士 (教育学)		西語文化講座 I 西語文化講座 II 日西語対照研究 I 日西語対照研究 II スペイン語文化概論 I スペイン語文化概論 II	1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	拓殖大学 外国語学部 特別非常勤講師 (平7.4)	-
61	兼任	講師	コンドウ カズト 近藤 和都 ＜平成32年4月＞		博士 (学際情報学)		映像文化論	1・2・3・4前	2	1	拓殖大学 外国語学部 講師(非常勤) (平29.4)	-
62	兼任	講師	サトウ モトノリ 佐藤 元則 ＜平成33年4月＞		法務博士 (専門職)		職業能力基礎(SPI)非言語 職業能力基礎(SPI)言語	2前 2後	2 2	1 1	株式会社クイック 教育システムズ 専任講師 (平25.2)	-
63	兼任	講師	シバ カオル 芝 薫 ＜平成32年4月＞		修士 (学術)		日本語リテラシー I A(留学生) 日本語リテラシー II A(留学生) 日本語リテラシー III A(留学生) 日本語リテラシー IV A(留学生) 専門日本語[観光](留学生) 専門日本語[メディア](留学生)	1前 1後 2前 2後 3前 3後	1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	拓殖大学 政経学部 講師(非常勤) (平27.4)	-
64	兼任	講師	シバヤ カズオ 渋谷 一夫 ＜平成32年4月＞		文学士		自然界のしくみ 自然認識の歴史	1・2・3・4後 1・2・3・4前	2 2	1 1	拓殖大学 外国語学部 講師(非常勤) (平21.4)	-
65	兼任	講師	シモジマ ヨシカタ 下島 義容 ＜平成32年4月＞		修士 (言語教育学)		初級英語② I 初級英語② II 中級英語① I 中級英語① II 中級英語② I 中級英語② II	1前 1後 2前 2後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	拓殖大学 外国語学部 講師(非常勤) (平17.4)	-
66	兼任	講師	ジリアン ベルトン サイドウ 齋藤 ＜平成32年4月＞		M.A. English (TESOL) (米国)		初級英語① I 初級英語① II 中級英語① I 中級英語① II 中級英語② I 中級英語② II 英語ポキャプラー I 英語ポキャプラー II	1前 1後 2前 2後 2前 2後 3・4前 3・4後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	拓殖大学 外国語学部 特別非常勤講師 (平27.4)	-
67	兼任	講師	スギハラ トオル 杉原 亨 ＜平成32年4月＞		修士 (政策・メディア)		職業と人生	1・2・3・4前	2	1	関東学院大学 高等教育研究・開発センター 専任講師 (平27.4)	-
68	兼任	講師	セオ ミヅル 瀬尾 満 ＜平成34年9月＞		文学修士※		日本語研究史 日本の生活と芸能	3・4後 3・4後	2 2	1 1	拓殖大学 別科 講師(非常勤) (昭63.4)	-
69	兼任	講師	ソク ウンキョン 石 恩京 ＜平成32年9月＞		博士 (文学)		日本語意味論 現代日本語事情	3前 1・2後	2 2	1 1	立教大学 日本学研究所 特別研究員 (平22.10)	-
70	兼任	講師	タカノ モトハル 高野 元春 ＜平成32年4月＞		理学博士		天文学A(太陽系のしくみ) 天文学B(宇宙のしくみ)	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	拓殖大学 工学部 講師(非常勤) (平元.4)	-
71	兼任	講師	タクモト ヒロユキ 竹本 弘幸 ＜平成32年4月＞		博士 (理学)		地球科学A(地球の構造と歴史) 地球科学B(地球環境の変動)	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	拓殖大学 商学部 講師(非常勤) (平14.4)	-
72	兼任	講師	チ ソンリン 池 成林 ＜平成32年4月＞		修士 (言語学)		初級韓国語② I 初級韓国語② II 中級韓国語② I 中級韓国語② II	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	拓殖大学 商学部 講師(非常勤) (平23.4)	-
73	兼任	講師	チャールズ・オルソン ＜平成32年4月＞		Master of Arts in Teaching (米国)		初級英語① I 初級英語① II 初級英語② II	1前 1後 1後	1 1 1	1 1 1	拓殖大学 外国語学部 特別非常勤講師 (平19.4)	-
74	兼任	講師	チョウ セイカ 張 世霞 ＜平成32年4月＞		博士 (教育学)		初級英語① I 初級英語① II 中級英語① I インターネット英語 I インターネット英語 II	1前 1後 2前 2前 2後	1 1 2 2 2	1 1 1 1 1	拓殖大学 外国語学部 講師(非常勤) (平27.4)	-

調書 番号	専任 等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の 職務に従 事する 週当たり平 均日数
75	兼任	講師	ツカボシ ケンジ 塚越 健司 ＜平成32年4月＞		修士 (社会学)※		情報化社会とマスメディア	1・2・3・4前	2	1	拓殖大学 工学部 講師(非常勤) (平29.4)	—
76	兼任	講師	デムラ アキヒロ 出村 明弘 ＜平成33年4月＞		農学士		観光ビジネス論Ⅰ 観光ビジネス論Ⅱ	2前 2後	2 2	1 1	株式会社プライムマ ネジメントコンサルティング 代表取締役 (平19.7)	—
77	兼任	講師	トヨダ カナリ 豊田 香 ＜平成34年4月＞		M.A. English (TESOL) (米国), 博士 (教育学)		翻訳・通訳概論(日英)	3・4前	2	1	拓殖大学 別科 特別非常勤講師 (平30.4)	—
78	兼任	講師	ナカムラ タクヤ 中村 拓也 ＜平成34年4月＞		修士 (書道学)		書道	3・4前・後	4	2	大東文化大学 文学部書道学科 助教 (平28.4)	—
79	兼任	講師	ニシダ トリウミ ヨシユキ 西田(鳥海) 善行 ＜平成32年4月＞		修士 (社会学)※		情報スキルⅠ 情報スキルⅡ	1前 1後	2 2	1 1	拓殖大学 商学部 講師(非常勤) (平23.4)	—
80	兼任	講師	ニーナ レベッカ シンガー ＜平成32年4月＞		Master of Education (オーストラリア)		中級英語①Ⅱ 英語会話Ⅰ 英語会話Ⅱ	2後 1前 1後	1 1 1	1 1 1	拓殖大学 外国語学部 特別非常勤講師 (平24.4)	—
81	兼任	講師	ハマグチ カズヒサ 濱口 和久 ＜平成32年9月＞		学士 (工学)		防災と安全	1・2・3・4後	2	1	拓殖大学 大学院地方政治行政研究科 特別非常勤講師 (平27.4)	—
82	兼任	講師	ハヤシ キョウコ 林 教子 ＜平成34年4月＞		博士 (教育学)		漢文学概論Ⅰ 漢文学概論Ⅱ	3・4前 3・4後	2 2	1 1	文部科学省 教科書調査官 (平21.4)	—
83	兼任	講師	ヘンニヤ ヨウコ 盤若 洋子 ＜平成32年4月＞		博士 (言語教育学)		日本語リテラシーⅠB(留学生) 日本語リテラシーⅡB(留学生) 日本語リテラシーⅢB(留学生) 日本語リテラシーⅣB(留学生) 日本語コミュニケーションⅢA(留学生) 日本語コミュニケーションⅣA(留学生) 日本語文法研究Ⅰ 日本語文法研究Ⅱ 日本語教育実習	1前 1後 2前 2後 2前 2後 1前 1後 3後	1 1 1 1 1 1 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	拓殖大学 国際学部 講師(非常勤) (平27.4)	—
84	兼任	講師	フランク・グラジアニ ＜平成32年4月＞		M.A. English (TESOL) (米国)		初級英語②Ⅰ 映画英語Ⅰ 映画英語Ⅱ	1前 2前 2後	1 2 2	1 1 1	拓殖大学 外国語学部 特別非常勤講師 (平21.4)	—
85	兼任	講師	ベグ ヘジュン 白 惠俊 ＜平成32年4月＞		修士 (学術)※		初級韓国語①Ⅰ 初級韓国語①Ⅱ 中級韓国語①Ⅰ 中級韓国語①Ⅱ	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	拓殖大学 商学部 講師(非常勤) (平22.4)	—
86	兼任	講師	ホリエ マサキ 堀江 正樹 ＜平成33年4月＞		文学士, 修士(歴史学) (中国)		中国事情 中級中国語①Ⅰ 中級中国語①Ⅱ	2前 2前 2後	2 1 1	1 1 1	拓殖大学 外国語学部 講師(非常勤) (平23.4)	—
87	兼任	講師	マーク・ アルバーディング ＜平成33年4月＞		M.A. English (TESOL) (米国)		英語会話Ⅲ 英語会話Ⅳ	2前 2後	1 1	1 1	拓殖大学 外国語学部 特別非常勤講師 (平23.4)	—
88	兼任	講師	マスキマイナガワ タミ 増山(稲川) 久美 ＜平成32年4月＞		修士 (地域研究)※		初級スペイン語①Ⅰ 初級スペイン語①Ⅱ 中級スペイン語①Ⅰ 中級スペイン語①Ⅱ	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	拓殖大学 外国語学部 講師(非常勤) (平15.4)	—
89	兼任	講師	マ タイグ 馬 大愚 ＜平成33年4月＞		博士 (言語教育学)		コミュニケーション中国語作文Ⅰ コミュニケーション中国語作文Ⅱ	2前 2後	1 1	1 1	拓殖大学 外国語学部 講師(非常勤) (平19.4)	—
90	兼任	講師	マツムラ ヒナコ 松村 比奈子 ＜平成32年4月＞		博士 (法学)		法学A(国家と憲法) 法学B(生活の中の法)	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	拓殖大学 政経学部 講師(非常勤) (平16.4)	—
91	兼任	講師	ミズノ タツロウ 水野 達朗 ＜平成32年4月＞		博士 (学術)		外国文学B(ヨーロッパの文学) 文章表現の基礎 ビジネス文の書き方	1・2・3・4前 1・2・3・4前・後 1・2・3・4前	2 2 2	1 1 1	拓殖大学 政経学部 講師(非常勤) (平22.4)	—

調書 番号	専任 等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の 職務に従 事する 道場たり 平均日数
92	兼任	講師	ムツキ ナカガワ 睦月(中川) 規子 ＜平成33年4月＞		学術修士, Dra. en Historia (アルゼンチン)		現代ラテンアメリカ事情 I 現代ラテンアメリカ事情 II	2前 2後	2 2	1 1	拓殖大学 外国語学部 講師(非常勤) (平15.4)	—
93	兼任	講師	ムラセ アキオ 村瀬 暁生 ＜平成32年4月＞		修士 (文学)※		初級英語② I 初級英語② II 中級英語② I 中級英語② II	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	拓殖大学 外国語学部 講師(非常勤) (平13.4)	—
94	兼任	講師	ムラタ カヨコ 村田 佳代子 ＜平成32年9月＞		博士 (心理学)		心理学(認識と行動のメカニズム)	1・2・3・4後	2	1	拓殖大学 商学部 講師(非常勤) (平28.4)	—
95	兼任	講師	リュウ コウグン 劉 向軍 ＜平成32年4月＞		言語学士 (中国)		初級中国語② I 初級中国語② II	1前 1後	1 1	1 1	拓殖大学 外国語学部 特別非常勤講師 (平6.4)	—

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29 歳 以下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	人	1人	人	人	1人	
	修 士	人	人	人	人	2人	1人	人	3人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	修 士	人	人	1人	1人	人	人	人	2人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	1人	人	1人	人	人	2人	
	修 士	人	人	1人	1人	2人	1人	人	5人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	